



22nd  
**RYLA**  
SEMINAR

『つくすこと、いやすこと』

第22回 RYLAセミナー報告

2000.3.23~3.26

神戸YMCA余島野外活動センター

# 目次

RYLAライラセミナーとは	1
プログラムのねらいと内容	1
セミナースケジュール	1

## 1日目

### 開講式

あいさつ	2680地区ガバナー 米谷 収	2
	2670地区ガバナー 原 勝	4
「RYLAの皆様へ」	RYLA委員会	6
「ロータリーとは・RYLAとは」	顧問 深川純一	7
オープニングパーティー		23
オリエンテーション (キャビンタイム)		24

## 2日目

### 講義

「これからの心と体のいやし」		
	徳島大学医学部第一内科 板東 浩氏	25
レクリエーションタイム		53
キャンプファイヤー		54

## 3日目

### 講義

「相手を理解すること・コミュニケーションとは何か」		
	新潟国際情報大学教授 高瀬昭治氏	55

### フォーラム

バズセッションの発表		65
------------	--	----

# 目次

4日目		
総括講義		
「世界の未来に私達は、そして皆さんは…。」		
元 R I 理事 P G	今井鎮雄氏	105
閉講式		
「感 評」		
P G	森 滋郎	131
参加者感想文		
A 班		133
B 班		141
C 班		148
D 班		156
参加者名簿		163
第22回 R Y L A セミナー運営委員会		168

## RYLAセミナーとは

ロータリー青少年指導者養成プログラム（Rotary Youth Leadership Awards… RYLA）は、若い人々のためのプログラムであり、国際ロータリーが1971年に公式に採用したプログラムです。

ロータリーが青少年を尊重し、かつ、青少年に関心を抱いていることを一層明らかにし、選考した青少年指導者およびその素質ある人に実地訓練を体験させ、責任ある、効果的な自発性に富む指導方法を身に付けるよう激励、援助することを主な目的としています。

## プログラムのねらいと内容

RYLAセミナープログラムのねらいは、受講生に五つの特色を味わってもらうことにあります。

- 1) 高レベルの講義と討論
- 2) キャビンタイム（親睦の熟成）
- 3) 自由と規律
- 4) 余島の自然
- 5) カウンセラーシステム

恵まれた自然に囲まれたなかで「つくすこと、いやすこと」のテーマを、講義・キャビンタイム・思索の時間・バズセッション・フォーラムなどを通して徹底的に学び、語り合い、考えていただきたいと思います。



## セミナースケジュール

3月23日				開講式 オリエンテーション (15:00)	バ オ ー テ ー ブ イ ン グ	キャビンタイム											
3月24日	朝食 (7:30)	板東 浩氏 (9:30)	昼食	レクリエーション・ヨット テニス・ソフトボール アーチェリー他	夕食	キャンプファイヤー 親睦の夕べ キャビンタイム											
3月25日	朝食 (7:30)	高瀬 昭治氏 (9:30)	昼食	思索の時間 バズセッション	夕食	フォーラム キャビンタイム											
3月26日	朝食 (7:30)	今井 鎮雄氏 (9:30)	閉講式(11:30) 昼食 離島														
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

## あいさつ

国際ロータリー第2680地区

ガバナー 米 谷 収



いつもより、ちょっと声が悪いものですが、聞きにくいことがあるかも知れませんが、ライラのセミナーに、ようお起しいたきまして、ありがとうございます。

先ほどから、ディーンなり司会の方から、ご紹介をいただいておりますけれども私が本年度の2680地区・兵庫県のガバナーをさせていただいております。

このライラというのは、私も去年、ガバナーエレクトの時に初めて参加させていただきました、その時は全期間、参加をして、皆さんと一緒に勉強させていただきました。非常に感銘深い、良いセミナーであるということが分かりました。

そういうことで、きょう、ここに皆さん参加された方、各ロータリーの推薦を受けて来られておるわけでございますけれども、本当に選ばれて来て、初めは、どんなところや分からんなどいうことで、来られた方もいらっしゃるかも知れませんが、私の挨拶に書いてありますように、折角来たんだから、自分を叱咤激励して、そして帰りがけには、本当に来て良かったなどという形で帰られるように。そして今、ディーンの方から言われたように、どれだけたくさんの人と友達になれるかということ而努力していただきたいと思っております。

21世紀を目前にして、われわれロータリアンは、皆さんに次の次代、21世紀を任さないかんといいところで、非常に焦っております。しかし皆さんに任せて、あと世界が本当に平和になるように願っております。

幸いにしてこの余島というのは、今は雨が降っておりますけれども、本当に自然に恵まれた場所でございます。人間というの、やはり動物、生物でございますので、自然なくしては生きられないわけでございますし、特に人間というものは食べ物だけで生きておるわけではございません。本当に自然の恵み、特に見えない何ものかに対する畏敬の念というようなものが非常に大切であるわけですが、皆さん出身地が都会の人ばかりではないでしょうけれども、特に都会で生活している人は、夜、空をみても星が見えないという人がたくさんおるわけですが、きょうは駄目ですが、あしたキャンプファイアをする前に、空を見ていただいたら、星が見える。そういうことについても本当に、非常に大事なことでございます。

そういうことで、自然の中で生活できるということ、それから一緒に食事をするのができる楽しみ、それからちょっとだけお酒を飲める楽しみ、ということもあると思っております。それからまた、

ロータリーのいろんな諸先輩の話が聞けると思います。

われわれロータリアンは、特に今、自然環境の保全ということについて、非常に関心を持っておりと同時に、新世代をどのようにして育成するか、生意気なことですけれども育成と言っておられますけれども、皆さんに本当にどのように育っていただいて、その次の世代の人をリードしていただけるかということを考えております。

きょう、ここにおられる方は、大半が大学生ではないかと、メンバー見てましたらそうですけれども、仕事で職場から来ておられる方も見受けれます。その地域、地域で、これから新世代、青少年、特にこのごろはだんだんと幼児化しておりますけれども、若年の人たちが本当に人間らしく育つために、どうしていけばいいのかということ、真剣に皆さんも考えていただきたいし、われわれもこのようにして考えておるわけでございます。

21世紀は個性の時代だと言われておりますけれども、本当に一人ひとりが今、学んでいるやり方が良いのかどうかということ、常に反省をしていただいて、頑張っていたきたいなと思います。

余り長くなると、深川先生の時間がなりますのでアレですけれども、これから21世紀の皆さんに期待するキーワード、これは何かということ、でございますけれども、寛容という言葉、それから柔和という言葉、それを付け加えておきたいなと思います。

寛容というのは、皆さんご存知のように、ハッキリ言えば辛抱せえということなんですけれども、他人の失敗にいちいち咎めだてをすることなく、前向きに良い面を認め合うということでもあります。

また柔和な精神、心を持つことによって、お互いにギクシャクした争いがなくなるということ、でございます。

そして最後にみなさんをお願いしたいことは、友達になれと言いましたけれども、友達というのは、皆が同じような生活をせえと、また仲良しで、皆が、この人がこういうことをやったら、私もこういうふうにやらないかんと、いうふうに思うのではなく、それぞれの友達が、相手が自分と違うものを持つてると、いうことを、お互いに認めあって、それを尊重しあうこと。そうすることによって、友達というのは意味があるということだと思えます。

それは大きく言えば、異文明、世界のいろんな民族、宗教、文化、そういうものが、それぞれ違っておるにもかかわらず、それを認めあうと。その価値をお互いに認めあうと。

全部が一緒になるというために、今、宗教戦争とか、民族戦争をやっておるわけですが、そうではなく、いろんな文明、文化、民族のことを、それぞれの良いところを認めあって、それで世界平和を達成しようと、こういうこと、でございます。

そういう大きな目的をロータリーは持つておるわけ、でございます、そういうことについて皆さんにも勉強していただきたいし、皆さんも、その次の若い人に、そういう違いを尊重しあうということをやってほしいなと。そのためには寛容の精神が必要であり、柔和な心が必要だということだと思えます。

そういうことで、皆さんもあと3泊4日、非常に貴重な体験をされると思えますけれども、来て良かったと、帰りがけには本当に感動して帰っていただきたいな、ということ、を期待しております。

最後になりましたけれども、このセミナーを企画、実行していただいておられますライラの両地区の委員の方々、またカウンセラーをしていただく方々について特に御礼を申し上げ、一つ精一杯、頑張っていたきたいなと思います。

私の挨拶を終わります。(拍手)

# あいさつ



国際ロータリー第2670地区

ガバナー 原 勝

ただ今ご紹介いただきました第2670地区、四国地区でございます。愛媛、高松、香川、徳島と4県が1つになって2670でございます。そのガバナー、といいまいいまして、お世話役というか、小間使い役でございます。

一言ここで挨拶を申し上げますが、実は2670地区が本年度は一応、主催になっております。しかし、このライラセミナーに関しては、ほとんどが兵庫県、米谷ガバナーのほうにお世話になって、おんぶに抱っこといいますか、そういう形で、ただ名前ばかりで、もちろん現場の人たちは、一生懸命やっておりますけれども、そういう意味でずっと数えること22回のライラセミナーでございますけれども、お世話になっております。

このライラセミナーのご提唱者である今井先生ですけれども、この先生が提唱されて、本年度で22回目を迎えております。先ほど米谷さんがおっしゃったように非常に風光明媚、波静か、縁あり、そして皆さんの心を引きつけるような余島でございます。折から雨が降っております。冷気を誘うようでございますけれども、この部屋はだんだん熱気を帯びてきているように思っております。

幸いにも、こういう時期にライラセミナーが開かれることを非常に喜んでおりますし、また両地区、2つにわたる地区の合同のライラセミナーというのも、非常にこれは世界ロータリーにとっても珍しい、特異な存在でございますし、意義あるものと思っております。

## RYLAの歴史へ

## RYLAの歴史へ

過去22回のうちには、数千人の受講生が輩出しております。そして社会人として、またリーダーとして、高く評価されております。これ、私も公式訪問等で、各ロータリークラブからそういう評判を聞きまして、ライラセミナーにも、是非とも参加したいという声が随分ございました。そしてまた意義ある立派なセミナーだから、どんどん参加してくださいと、そういうことでございました。

幸い皆さんは、この特異というか、そういうセミナーに、伝統あるこのセミナーでございますけれども、各ロータリークラブから、優秀な皆さん方を推薦していただきました。非常に素晴らしいリーダーが誕生することを、私も、非常に喜んでおります。地区ガバナーとしては喜びであるし、また共に皆さんに期待するものが大きいものがございます。

どうか皆さん方もこのセミナーを機会に、ますます大きくなっていただきたい。そしてまた社会ではリーダーとなり、良き指導者となっていただくことを願っております。

ライラは、ご挨拶にありますとおり、若い人々の指導者、及び善良な市民としての資質を伸ばすことを目的としております。まさに皆さんは資質のある非常に立派な人たちで、優秀な選ばれた人たちばかりなんです。わずか2泊3日ですか、短期のセミナーの中からは自分を磨き、そして自らを開き、さらに人生観、論理観、道徳観等、認識を深め、時代の主役として大きくはばたいいただくことを、私は期待しております。

最後になりましたけれども、このセミナーを開くに当たりまして、関係の皆さん方の献身的なご協力と、情熱あふれるご指導に対し、深く感謝申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

海を越え、山を越えて、皆さん方お互いに友情を交わし、友好し、そしてまた共に大きくはばたいてください。どうもありがとうございました。(拍手)

# R Y L A の皆様へ



## R Y L A 運営委員会

第22回 R Y L A セミナーに皆様と一緒に過ごすことができるのをうれしく思います。

この R Y L A のもつ意義を最高のものにするために、次のことを大切にしてほしいと思います。

### 1. 出合いを大切に

全然未知の皆さんが R Y L A の心を求めてこの余島に来られたのです。良き友と出合い、良き先輩のカウンセラーやロータリアンと出会ったよろこびをかみしめ、また最高の恩師である講師に出会いリーダーとしての心構え、リーダーとしてより高い境地へ飛躍する心の向上は出合いから始まります。心をひらいて仲良くしてください。

### 2. 自由を大切に

皆さんはリーダーばかりですのでスケジュールは完全な自主管理を前提として組んであります。時間的規制も最小限にし、十分な自由意志によって自律してください。

### 3. 時間を大切に

時間は全員の共有財産であります。例えば講義の時間、討論の時間、キャンプファイヤーの時間など皆で何かをする時は他人への思いやりの心をもって時間は必ず守ってください。それ以外の時間は皆さんの自由です。自律におまかせします。

### 4. 自然を大切に

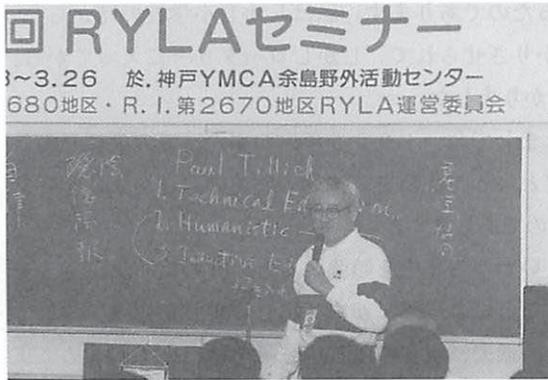
素晴らしいこの余島は決して一日でなったものではありません。1950年今井 P G が発見した島で、R Y L A のために借り切っております。R Y L A のため、道を作り家を建て年々改善されて現在のようになったのです。孤島でもありますので火事、盗難、災害は十分注意し、また一木一草も傷つけないようにしてください。

## ロータリーとは・RYLAとは

顧 問

深 川 純 一

(伊丹RC)



2680地区の深川でございます。

このライラ、先ほど原ガバナーのほうからご紹介がございましたが、今から22年前、あしたお見えになりますが、YMCAの顧問をなさっている今井先生、あの方が兵庫の青少年保護司委員会に、ライラをやらないかと持ってこられて、ちょうど私がその時の青少年の奉仕委員長をやっておりました。それがご縁で、今井先生と一緒にやり始めたことであります。

今、22年前と申し上げました。したがって1978年なんでありますが、実際はライラというのは、もう4年ほど早いのであります。正確には1958年、さらにさかのぼるのでありますが、どういうことで起こったかということだけ、ちょっと申し上げておきますね。

オーストラリアに、クイーンズランド州という州があるんです。その州が、創設100周年を迎えた時に、イギリスの王女と同じ年代の青年男女を集めまして、オーストラリアのプリズベンロータリークラブというのが、社会奉仕のプログラムを組んだ。これがそもそものライラの始めだと言われております。

しかしそれはオーストラリアだけでね、たまたまそんなプログラムを組んだだけで、そのあと余り行われておらなかったのでありますが、1974年でありまして、アメリカのワシントン州のタコマというところでね、ライラがやられて、それがこの契機になりまして、それ以後、まさに草原の野火の如くね、全世界に広がっていったのであります。そのライラがね、いま行われているライラの原型なんでありまして。

私どもは、そのライラをさらに日本的にアレンジをいたしました。これは今井先生の構想に基づいてアレンジしちゃったのでありますが、これ、またあとで申し上げますが、そんなことで、かなり時間がたっております。

その時、5人の委員でこのライラ委員会というのをやったのでありますが、未だに、しぶとく生き永らえているのは、今井先生と私だけになりまして、あとは皆、この世を去られたのであります。このライラは、そういう意味ではかなり伝統のあるライラであります。

篠原さんからね、21世紀に向けてロータリーがライラに期待するもの、確か、そんなテーマだ

ったと思いますが、いただきました。21世紀というのは、皆さんご存知のように、心の時代だとか、福祉の時代だとか、共生の時代だとか言われております。

しかし21世紀のことを考えるよりも、むしろこの20世紀が人類、文化史の中でどういう意味を持っておったのか、われわれ反省すべき材料が山ほどあると思うのであります。昔のことをね、やはり謙虚に学んでおかないと、現在のことは分からないのであります。

過去に無知なるものは現在に対して盲目である、目が見えない。そういう格言もありますし、昔の学者は、やはり歴史を一生懸命勉強しろと言ったのであります。私はしかし小学校の時からね、歴史なんて嫌いだったのであります、暗記ばかりさせられて。しかしロータリーに入ってから、歴史というのは大変大事な学問だということが分かりました。

イギリスにね、19世紀、1850年に生まれましてね、1906年、わずか、56歳にしてこの世を去ってしまったウィリアム・メイトランドという、法制史、法律の歴史の勉強をする学問でありますが、その法制史学会の大教授がおられたのであります。

このメイトランド教授はね、われわれが過去、いわゆる歴史を勉強するというのは、単に過去を追憶するだけではないんですよ。過去を勉強することによって、初めて正しく現在を認識することができる。正しく現在を生きていくことができる。過去、現在の正しい認識を踏まえて、初めて正しく未来を展望することができると言い切っているのであります。したがって、歴史を勉強しないものはね、現在及び未来を語る資格がないと断言しておるわけでありまして。

そういう意味でね、いろんなことを考えるについても、まず昔の人たちが何を考え、どういう理想を掲げて物事をやってきたかということ、やはり勉強する必要があるだろうと思うのであります。

もちろんライラセミナー、それも22年前に21世紀のことを考えて、見据えて計画されております。

細かいことは、あとで時間があつたら触れますがロータリーがいろんな委員会をもっておりますが、それらはすべて21世紀を見据えて、いろんなプログラムを立ててきたのであります。

したがって、その21世紀を見つめて、いろんなことをやっておる、そのロータリーが企画したこのライラセミナーでありますからね、まず皆さん方にロータリーのことを、ちょっと分かっておいていただきたいと思うのであります。

ロータリー、皆さん余りご存知ないかも知れない。またロータリーは余り宣伝しませんからね、どういう団体かということも分かりません。

きょう、ここへ来る途中で、安平先生から、芙蓉書房から「米山梅吉」という、これは日本に最初にロータリークラブをつくった人、大正9年の10月20日でありましたがね、東京の丸ノ内の銀行倶楽部という古色蒼然たるビルです、実力百万石の実業家が集まりましてね、23名が集まって、呱呱の声を上げた。これが日本におけるロータリークラブの第1号の誕生の物語なのであります。

その米山先生のことを芙蓉書房が、トサキハジメという人だったと思いますが、明治大学の助教授を今やっておる人、その人がそういう本を出されました。きょう船の中でサラサラと読んだので

ありますが、もし機会があったらお読みとりください。その中に大体ロータリーのことも書いておられますし、良い本でありますね。一言で言うとね、人のお世話をする、おせっかいやきの集まり、分かりやすく言えば、そんなことだろうと思います。

皆さん方、二宮尊徳という人、知っていますか。知っている人、手を挙げて。私どもは小学校、今から60何年か前に、小学校で必ず習った人なのでありますが、今、余りご存知ない。だけでもこの人がね、お風呂に入っておってね、お弟子さんと一緒に。そしてお弟子さんにね、世の中の仕組みを教えたんであります。

風呂の湯をね、こっちへ掻いてごらん、手前のほうへ。いったん自分のほうへ来る湯はね、いったんは来るけど、ずっと皆な回って向こうへいくだらう。向こうへ押しやってごらん。いったん向こうへいった湯はね、必ずこっちへ戻ってくるだらう。世の中というのは、こういうふうにできているんですよ。

自分のことばかり考えて、自分だけ儲けようと思って、とにかく何でもかんでも自分のことばかり考えている。やがてそれは全部、自分から離れていく。目先の泡銭は入るかも知れない。しかしそれは本当の泡銭であって、結局は身につかない。それより、人のお世話ばかりしてごらん、その当座は損してるように見える。自分の身銭を切って人のお世話をしている。しかしそれは、すべて全部こちらへ戻ってくる。

だから犬とか猫の手を見てごらん。こちらへ掻くようにはなっているけれども、向こうへ押すようになってないでしょう。だから自分のことばかり考えて、人のお世話とか、地域社会のお世話、国際社会のお世話、人のことは一切、お世話をしないという人はね、顔は人間の顔をしておるけれども、心は犬畜生と同じだよ。そういう教えをしたんであります。これが二宮尊徳のね、湯水の教えというんです。ロータリーでは、そういう説き方でね、ロータリーの心をね、新しくロータリアンに入った人に教えておるのであります。

もうちょっと、くだいて言いますね。ロータリーはボランティア団体と思っておられる人もいます。それから、いろんなところへ寄付をする寄付団体だと思っている人もいます。それから、いろんな慈善行為をする、例えば老人ホームを建てたりね、それから母子ホームにいろんな物を持って行ったり、そういう慈善団体だというふう考えている人もいます。

ロータリアンはね、ボランティアもやります。それから慈善行為もやります。寄付もします。いろんなことをします。しかし、それはロータリーの奉仕の本願ではないんであります。ロータリーは、ロータリアン自身にね、世のため、人のために働く奉仕の心を授ける、そのことだけなんであります。

そして、奉仕の心を授けられたロータリアンが、一歩クラブの外へ出ますとね、あらゆる社会状況のもとでね、自分の周りから、世のため、人のために個人で動いていく。これが一つの本願であります。

したがって、ロータリークラブは何ですかといたら、世の中に倫理を提唱していく、倫理運動をやっておる、そういう団体なんであります。この辺のところ、ちょっと誤解があるので、申し上げておきます。

具体的に分かりやすい例を言いますとね、街角にタバコの吸い殻が落ちているでしょう。それをロータリアンが通りかかると、街を美しくするために、それを拾います。ロータリアンは、タバコの吸い殻が落ちていたら、それを避けて通るわけにはいきません。必ず拾って街をきれいにするだろうと思う。

しかし、避けて通れないにもかかわらず、タバコの吸い殻を拾う、そこにロータリーの奉仕の本願はありませんよと、ロータリーは言うんであります。

そしたら、ロータリーの本願はいったいどこにあるのかということね、そもそもタバコの吸い殻を捨てない人を育てるところに、ロータリーの本願がある。要するに倫理を提唱しながら、道徳的な人間をつくっていく。そのことによって世のため、人のため、世の中を浄化していく。それから業界、職業、社会を浄化していく。そういう倫理運動をやるところ。

ところが、今まで日本のロータリーはね、力がなかったばかりに、業界を浄化することができませんでした。ロッキード事件を始め、今の政界、財界の腐敗ぶりを見てごらん下さい。倫理が完全に退廃しちゃった。われわれはそれに責任を感じるし、これからも倫理運動というものをやっていたいかなければならない。

だからロータリーは一言でいえばね、ロータリー運動というのは、ボランティアの団体でもございません。寄付団体でもございません。それから慈善団体でもございません。倫理運動、倫理を提唱していく団体だと申し上げてよろしかろうと思います。

したがってロータリーの第一義は何か。心の開発であります。お互いに心を磨きあっていく。そしてそういうロータリーが計画したこのライラでありますから、このライラも心を磨きあうところ。ロータリアンと皆さん方が、心を磨きあう。

だから先ほどカウンセラーの紹介がございましたね。あれはプロのカウンセラーじゃないんです。カウンセリングの体験は全くない人。ただロータリアンであるということが第一条件です。それからロータリアンの奥様であること。

なぜか。ロータリアンの人格的な触れ合い。これから3泊4日、皆さん方と寝食を共にしていきます。ロータリアンと一緒に寝たり、一緒にご飯を食べたり、一緒に語り合いながら、ロータリアンの人格に触れていただきたい。そしてロータリーというものが、いったいどういうものかということを感じとっていただきたい。

だからこのライラはね、皆さん方は青歩年の指導者でありますね。その指導者をさらに養成するというのはね、技術的なことは一切眼中にありません。キャンプに行つて、テントはどう張るのかとか、三角布はどのようにするのかとか、血止めはどうするのか、そういう技術的なことは皆さん方、YMCAとか、ボーイスカウトとか、学校とか、いろんなところで技術的なことは全部習得されておる。

そのことを前提にしてね、さらにそれよりも一つ上に、精神的にも一つ高いところへ登っていただく、そういう意味のライラを計画したのであります。だから、ボーイスカウトでも、YMCAでも、それぞれの青少年団体の指導者の養成プログラムを持っております。しかしそれと同じようなレベルのね、指導者養成計画をやったって、全くこれは意味のないことで

す。

ロータリーがやる以上はね、倫理運動としてのロータリーがやるんでありますから、どこの団体にもできない、ロータリーでなければできないライラをやるんじゃないかというのが、一番当初、今から22年前に、今井先生が構想された、このライラプログラムの考え方なんであります。だから大変レベルの高いライラを構想しました。

先ほどディーンが、最低20歳以上と言いましたよね。確かにお酒を飲むこともあります。これも本当は飲まないことになっているんです。なっているんだけど、勝手に飲みだしてね。本当は、今井先生と僕らが言うと思ったのはね、いろんな議論をします。昔は徹夜で議論をしたのであります。そうすると心身が興奮しましてね、寝にくくなったら、あしたのまた授業もあるから、やっぱり少しでもアルコールがあったほうが熟睡できるだろうと。だから一切、そういうことは規律しないことにしよう。

しかも一人前の皆さん方リーダーだ。20歳以上で自己責任のとれるリーダーが集まっているのだから、一切の規律は課さないことにしよう。だから先ほどディーンもちょっと触れておりましたが、朝ご飯も欲しくなければ食べなくていいです。しかし皆で何かをしようという時、例えば9時半からね、講義が始まります。1人でも遅れたら、皆に迷惑をかけるのであります。時間というのはね、すべての人の万人の共有物なんであります。1人が自分だけ遅れて、皆の共有物、決まった時間に始められないということは、皆に迷惑をかけますね。そういう、お互いに思いやりの心がなければ、この世の中、生きていけない。

21世紀は心の時代だとか、共生の時代、福祉の時代というのであれば、まず、思いやりの心がなければ、福祉社会は実現できないだろうと思うのであります。だから時間を守るということは、万人の共有物である時間だということを心にとめておいていただきたい。だから皆で何かをする時だけは、その時間は絶対に守っていただきたい。

昔、海軍は、5分前と言っていました。きょう、先ほど遅れて仙台から来られました奥山さん、昔、海軍兵学校におられたのであります。5分前というのは、5分前に来るんじゃないのであります。5分前というのは、もうその15分前ぐらいから来ておられるんですね。そして5分前には準備完了してないと駄目なんです。そして10時から、定刻からきっちりやりだす。そういうのを5分前といいます。だから皆で何かをする時だけは、それだけは守っていただきたい。

あとは完全な自律。自律というのは、自分を律すると書きます。自ら立つんじゃないのであります。だからアルコールの問題は、飲みたければ飲んでもよろしい。しかし先ほどディーンがおっしゃったように、飲みすぎてベロベロになって翌日の講義が聞けないなんて、それじゃ困るのであります。

どんな状況になっても、リーダーとして子供たちをね、最良の状態にリードできる、これがリーダーでありますから、まず自分のコンディションは、いつも整えておく。しゃんとして出てきます、目は血走ってても。だから、とにかく時間は守ってくださいね。それは申し上げておきます。皆さん方は一人前のリーダーでありますから。

そういうことで本来のライラはね、18歳から24歳までの年齢の人たちを集めた、アメリカで

始まったのは。しかし日本の地域社会の現状を見ますと、18歳というのは、まだ青少年のリーダーとして、とてもとても物足りない。最低20歳。

20歳というのは、酒の問題もごさいますけれども、もう一つ深い意味がある。それはこのライラはね、どこの青少年団体でもできないようなハイレベルなライラをやる。あしたの講義でもね、一流の大学から専門の先生に来ていただいてね、2時間たっぷり講義を聞きます。その講義が消化できないようじゃ困る。消化できる最低限は何か。20歳というのは、大学で教養課程を修めた人なんであります。そうすると、そのあとは専門的な吸収能力がある。そういう意味で、まず20歳。

それから、私たちロータリーはね、こういう、いろんなプログラムをやります。青少年、特に子供たちを両親からお預かりするということはね、幾らお金を出しても、あがないきれないほど、金には換えられないほど尊いものをお預かりするわけでありまして。ご両親から未成年の、20歳以下のお子たちを集めて、もし、ここへ来る船で、途中で海に落っこちて亡くなったらどうしますか。

保険をかけておけばいいじゃないかと。もちろん保険はかけてますよ。かけてるけど保険金が幾ら入ったってその失われた命というのは、何億円出してもあがないきれないのであります。保険をかけるというのは次善の策でありましてね、そんなことでは、とてもとても、あがないきれものではありません。だから、青少年をお預かりするということは、お金に換えられないものを預かるということなんであります。したがって未成年者はお預かりできない。責任が重すぎる。で、自己責任、自分の行動について、絶対的な責任の取れる青年者、20歳以上の人にして。

じゃあ、その上限は24歳でいいのか。とんでもない。24歳じゃ、まだ青少年のリーダーとしての確ではございませぬ。日本では、もっと30歳以上にならないと、本当のリーダーシップを発揮できないだろうと思います。だから、上は制限なし。今までのライラで、一応、最高年齢者は57歳という人が来ました。ちょっとサバよんでいるから、実際は60越えていたかも知れませぬがね。

だからとにかく非常に年齢の幅が広うございます。それがまた一つの特徴でね、50歳以上の人の考え方と、それから20歳そこそこの人の考え方とは全く違う、価値観がね。それが一緒にキャビンの中で話し合うということが、また意味があるわけでありまして。

若いことは良いことでありますね。22年前にこのライラを始めました。この中には、その時はまだ生まれていない人もおったはずであります。その人たちと、私たちみたいな、もう70歳になっているのとね、考え方が全く違います。違うからいいのであります。

私たちは、皆さん方の若い考え方に学ぶことができるし、皆さん方は私たちの年代、皆さん方が絶対に分からない世界があります。そういう話が聞けるはずであります。そのことが、お互いに学び合うことであります。

だから、ロータリーはよく親睦というんです。それは、お酒を飲んだり、ゴルフをしたり、旅行をしたり、そんなことを言っているんじゃないんです。己れの足らざるところをね、他人から謙虚に学び取る、そういう場がロータリーの親睦の場であります。

だから、お酒を飲んでも結構であります。ゴルフをしてもいい。何をしてもいいけど、いつも忘れてはならないのは、何か他の人から、自分の足らないところを学び取ろう、そういうことを心に

思いながらね、お酒を飲み、ゴルフをする。そういうことが大事であります。

だから、このライラの親睦、これから皆さん方、仲良くなると思う。いろんな、お互いの共通の悩みをね、リーダーとしての悩みを打ち明けながらね、キャビンタイムでいろんな話が出てくると思うんです。そしてお酒もどんどん飲んでもよろしいです。しかしその時に、いつも自分の足りないところをね、他人から学び取るという謙虚な気持ちを忘れないでいただきたいと思うのであります。

ちょっと話が、思いつくままにしゃべってますから、一応メモ持っているんですが、私、メモのとおりしゃべったことないんです。さっき篠原さんに、こんなテーマだと、これだけ書いておいた。書いておったのに、全然違うところへ行っているんです。

ロータリーのことを、ちょっと誤解されないように、今ふっと気が付いたのであります。倫理運動だと言いました。じゃあ倫理の提唱ばかりしておってね、ボランティアやってないのか、弱者救済やってないのか。全部やっているんです。やっているだけけれども、先ほども言うようにね、タバコの吸い殻を拾ったり、それから母子ホームへ100万円寄付したりね、大震災の時にボランティアで走り回ったり、みんなやります。当然の義務としてやるので、ロータリーは本願ではないから、それはやらないというのではないのであります。

ロータリアンはいろんなことをやります。やるけれども、言わない、自分のことでありますから。安っぽいことをして、俺はこれこれした、これこれしたと言うから、人に馬鹿にされるわけで、何にも言わない。

先ほど紹介しました米山梅吉先生の伝記を読んでいただいたら分かります。あの方はね、三井銀行の常務取締役でね、戦前ですよ、大正から昭和にかけて、半期のボーナスが1万円。その当時の大学卒の初任給が60円ぐらいの時に、半期のボーナス、だから、年2万円。今、ジャーナリストに計算してもらったら、その当時の1万円というのは、今の10億円ぐらいになるらしい。だから、年20億円のボーナスを取った。

昔の役員というのは、すごかったんです。社長なんかは。その会社の全社員の給料よりも、まだたくさん取った。だから、私の友達の親父なんかの話を聞いていると、200人ぐらいおる会社で、200人の給料よりもたくさん取った。そういうのは200人扶持というのであります。300人おれば300人扶持というのであります。

今、駄目ですよ。今は完全な社会主義で、全部税金に持っていかれますからね。今そんなに取ってる人いません。松下幸之助さんだって、そんなに取ってない。せいぜい50人扶持も取ってないですね。それよりも共産主義のほうが、たくさん取ってる。毛沢東が大体30人扶持と聞いておりました。ですから今は逆転しちゃったんでありますが、しかし昔はそれほど取っておった。

だから、いろんなこともなされたんであります。だって普通の人には先ほどの湯水の教えみたいに、全部、自分のほうへやっちゃうんだけど、米山先生は、全部外へやっちゃった。

年間20億円のボーナスを、本給は別ですよ。20億円のボーナスを毎年もらっておったら、ずいぶん金持ちになるだろうなと思うのでありますけれども、それを全部、人のために使っちゃった。

戦後、昭和22年の4月17日にこの世を去られた。その直前には破産に瀕したんであります。

側近がね、先生そこまでやったら駄目だと必死になって止めてね、破産は免れた。

しかもそれが貴族院議員だった。だから今の参議院の前身ですね。そういう人もいますのであります。みんな人のために、人のためにやった。だけど、その人の徳はね、今に残っております。

今、人に言わないと言いました。米山先生は言わなかったのであります。ちょっと分かりやすい例を出しておきます。

ある人が、東京大学に入学しましてね、とたんにお父さんが亡くなっちゃった。学資が続かないのであります。そのことをある人から伝え聞きましてね、米山先生が、いったい幾ら要るんですか。30円ぐらい要るでしょうな。初任給が60円ですからね、その半額ぐらい。そしたら米山先生がね、そりゃ最低でしょう。じゃあ私はその60円、倍出しましょう。で毎月、東大に入った学生にね、貢がれたんであります。しかしその時に、一つ条件がある。私が出しているということ。金を金輪際言ってもらったら困る。ある篤志家から出してくれている、それだけを言ってください。

で、その人がやがて後年ね、名古屋大学の教授になられて、昭和22年4月17日に米山先生が亡くなられた。間にたった人が、もう先生亡くなられたんだから、言ってもいいだろう、というのでね、その名古屋大学の教授に、あなたが東京大学で勉強している時に、その学資を買い取ってくださったのは、今度亡くなられた貴族院議員の米山梅吉先生ですよ。せめてお葬式ぐらいには行かれましたかと言われて、その先生は取るものもとりあえず、とんで行った。ところが行ってみたら、そんな話は、その先生だけじゃなかった。一杯いるんです。だから最後は、破産に瀕するんですね。

そういうふうな、人のためばかり考えてきた、それが日本のロータリーの創始者なんであります。だから、倫理運動はもちろん、米山先生はね、その職業を通じて地域社会、国際社会に対しても奉仕をなさいました。

しかし、困った人を助ける、これはロータリアンでなくたって、ライオンズのメンバーでも、そんな奉仕クラブのメンバーでなくても、一般の地域社会の人たちでも、みんなやっているのです。だから、弱者に涙する心というのは、どんなに偉くなっても、どのような団体に所属しても、それは忘れてはならない、人間の根幹にかかわる問題であります。

だから、ロータリーは倫理運動、倫理運動、ああロータリーは、だから倫理運動だけやって、何もやってないんだと思われる人があるかも知れませんが、ロータリーは個人でやっておりますからね、そのことが一切、表に出てきません。

そして、自分のやったことは、みな言わない。こういうのを陰徳陽報の教えというんであります。隠れた徳のある行いは、必ず明らかなる報いがある。これ中国のエッキョウという書物に出ているのであります。陰徳陽報の教え。

日本のロータリーにはね、こういう陰徳陽報という、美しい精神伝統があるのであります。したがってロータリーは非常に地味でありましてね、陰ながら役に立っておるけれども、一切それが表に出てこない。

あしたお見えになります、このライラを最初に提唱された今井先生なんていうのは、すごいことをやっておられるのであります。しかし本人の口からは表へ出ません。だってロータリーとしてやっていますから、今井個人としてやっているからですね、一切、表に出てまいりません。そうい

うこと、みんなやっている。

じゃあ、世のため、人のためにやっておりますながら、世の中の人に認められなければ、つまらんじゃないかというのでありますが、この陰徳陽報論者は、それでいいじゃないかと。世の中に知られなくたって、世の中の役に立てばいいでしょう。それで熱わりであります。ロータリーはそういうところでもありますので、そのことも、ちょっと心にとめておいていただきたい。

ちょっと横道へ入りましたね。とにかく、そういうロータリーが企画した、このライラであります。やはり心の開発といいますか、お互いの心を磨き合う、これが一番大事です。

先ほどの二宮尊徳が、こういうことも言っております。あの方は農民哲学者でありますね。農民の指導を一生懸命やったんであります。その時にね、田畑を耕す前に、まず心の田畑を耕せと言った。田畑を耕す前に、まず心を磨きなさい。だから世のため、人のために動く前に、まず、いったいどこに奉仕のニーズがあるのか、それから、まず自分自身の心を磨いて人格を高めていきなさいよ。そうでなければ世の中の人に対して影響を与えることができないだろうという意味であります。心をまず磨くということが、大変大事なことであります。

もちろん弱者救済は、理屈とは関係なしに、それは本能的に動けばいい。私たちはこの地域社会に生まれてきて、地域社会のお世話になって、地域社会に育てられて、そして地域社会で生活しておるのでありますから、その恩になった地域社会にやはり恩返しすることは当然のことでありまして、もらいっぱなしというのはいけないのであります。そこから困った人が世の中におれば、涙を流してその人を助ける。ただ自分のやったことをペラペラ自慢しない、それが大事なことじゃないかなと思うのであります。

先ほど、ライラにつきましては、自律の問題も言いました。非常にレベルの高いことを考えております。あす、あさって、しあさってと、過ごしていただければ、大体、分かると思えますが。

皆さん方、青少年のリーダーでありますから、子供たちにいつも何か問いかけなければならない。どのような形でリードしていくかということは、もちろん、これは皆さん方自身が考えなければならないのでありますが、子供たちをリードしていく。その時に、やはり皆さん方自身の心が磨かれていないと子供たちはついてこないだろうと思うし、子供たちに人格的な影響を与えることができない。

ロータリアンの心が磨かれていないと、皆さん方の心に伝わらないのと同じようなことでありまして、やはり心の開発ということが、一番大事なことだろうと思うのであります。

具体的にどんなことか、具体例をまた出しましょう。今から22年前、第1回のライラの時に、今井先生が、このごろの教育のことについて、一つの学説を紹介なさいました。それはポール・テーリヒという神学者であります。このポール・テーリヒという神学者が、教育には3つの分野がある。1つはテクニカルエデュケーション、第2番目がヒューマニティーエデュケーション、第3番目がインダクティブエデュケーション。テクニカルエデュケーションは技術教育、これは皆さん、分かりますね。すべてのことは何かの技術のための教育です。日本の教育は、産学共同、そんな言葉にも出ていますように、産学というのは、産業と会社の技術開発のための勉強、教育。テクニカルエデュケーションは全部できているのであります。

2番目のヒューマニティーエデュケーションと、3番目のインダクティブエデュケーション、この教育の分野が欠落しておるのであります。これを補うのが、大体この辺にロータリーの仕事がある。ヒューマニティーエデュケーションは分かりますね。読んで字の如く人間的な教育をしろ。

インダクティブエデュケーションというのは、皆さん開いたことないだろうと思いますが、これはどういうことかといいますと、今井先生は、人間とは何かという真実に招き入れる教育。インダクティブ、招き入れる。人間とは何かという、その真実に招き入れる教育。

これ、私なりの解釈を出しておきましょう。具体的な例を出してね。ちょっと、それだけじゃ分からない。人間とは何かという真実、それに招き入れるといってもちょっと抽象的ですから、私なりの解説をしておきますが、例えば医学が大変進歩しました。ものすごく長生きであります、皆さん。

私は今年、年末ですね、母が92歳の高齢で他界しましたので、年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます、という喪中の欠礼の挨拶をいただきました。100通以上いただいた。その中で、60歳代で亡くなったというご挨拶が6名であります。それから70歳代で、お父さんなり、お母さんなり、ご主人なりが亡くなった、これが10名おられました。80歳代で亡くなったという人が23名、倍以上に増えるのであります。90歳代で亡くなった人はさらに増えて24名。そして100歳代で亡くなったという人が4名いました。

いかに長寿社会になったかということが分かるんです。医学がものすごく進歩しました。だから皆さん、なかなか死ぬことはできない。どんどんどんどん、長生きしていくんです。それで高齢化になって、子供が少なくなって、まさに高齢化社会で、日本の経済がそれで凋落していきましたね。世界経済からずっこけていくのであります。

その医学の進歩、ありがたいことであります。大抵の病気は治ってしまう。人間の幸せのために医学が進歩した。結構なことなんでしょうが、その裏で何千万、何億というモルモットとか、実験動物の命が犠牲にされておる。このことに思いをいたす人は意外に少ないのであります。

豊かになって、贅沢三昧して、過去のどんな時代の王侯貴族でも享受できないような贅沢な生活を、われわれはしております。しかしその陰でね、自分の命を医学の進歩のために、人間に強制的に抹殺されていく。モルモットや実験動物のことは余り自分たちの意識にはないのであります。この問題をどう考えるのか。

人間の幸せのためならね、モルモットの命なんてどんどん殺したらいい。そういう考え方も一つあるかも知れない。しかし生きとし生けるもの、みな神様からいただいた命を、一生懸命生きていく。それを人間が強制的に奪ってしまうのであります。それは罪ではないのか。

やはりそれは罪だという考え方もあります。じゃあ、罪だとすればね、いったいその罪は、だれが、どこで償うのか。そのことをやっぱり考えなきゃならない。

私たちがよく考えたら、生きとし生けるもの、すべての命をいただいて生きています。魚の命を奪い、動物の命を奪い、米の植物の命、とまと、すべての命をいただいて生きています。このすべての命を奪って生きていく人間とは、いったい何なのか。それから、そもそも命とはいったい何なのか、そういう問題。人間とは、いったい何か。今井先生の言うね。

そういう人間とは何かという真実に招き入れていく教育、これがインダクティブエデュケーション、こういう教育の分野が、今の日本の教育体系に欠落しておるのであります。

これは、どこかが補わなければならない。どこがやるのか。倫理運動でありますロータリー、あるいはロータリーと関連を持つ皆さん方、そういう人たちが、自分の身の周りから、そのことをやっていかなければならない。

だから私たちは皆さん方に、そういうインダクティブなモルモットの命の問題、これどう考えるのか、そういうことを問いかける。そして皆さん方のパーソナリティーが育っていく。一生の課題として、皆さん自身の力でこのことを考え続けて、考えてやっていただきたい。

そして皆さん方も、子供たちにそのことを問いかけていただきたい。そしてその子供たちが大きく育っていく。その一生の課題として子供たちに考えさせる。こういうことが大変大事であろう。

なぜこんなことを言ったかといいますとね、このことを本当に考えないと、福祉社会なんて実現できないのであります。21世紀が福祉の社会だとか、心の社会だとか、共生の社会だとか言ってるけれども、この考え方といいますか、そういう心がなければ、福祉なんてものは、とうてい実現できない。

どうもわれわれは豊かになって、老人ホームができる、立派な母子ホームができる、立派な身体障害者の施設ができる、それで何かいっぱし、福祉の社会になったような考えでいますけれども、とんでもない。それはハードができただけでありまして、そこに住んでおる人、そのぐるりの住民、そこに入っている受益者、そういう人たち一人ひとりの心の中に福祉の心がなければ、これはゴースタウンであります。

だから、福祉社会をつくるというのであれば、一人ひとりの心の中に福祉の心を芽生えさせる、まさに倫理運動、それが。そういうことを、皆さん方が地域社会に帰ったら、ロータリーでこんな話を聞いた。子供たちに、お前たちどう考えるか、それも語りかけてほしい。

ちょっと福祉のほうに話が入っていきましたが、福祉のこともしゃべっておきましょう。また歴史の話になります…今度はずいぶん大昔にさかのぼります。

皆さん、ネアンデルタール人て知ってるでしょう。化石人類の一つであります。あの人たち、もちろん今みたいに鉄砲も文化もありませんから、獣を捕っては、あるいは魚を捕っては、暮らしておった。そして、あの社会構造を見ますと、これ、学者の解説なんでありますよ。狩猟する時には、非常に敏捷で、狩猟してくる。しかし余分には捕らない。

部族の中の生活はどうか。愛情を基本にしましてね、みんな仲良くやって、そして自分たちの食料等に対して、みんなが団結して狩りをしてくる。そういう社会構造があったんであります。その次に出てくるクロマニオン人、この状況になるとね、その社会構造が一変していくわけでありませぬ。

クロマニオン人というのはですね、このクロマニオン人が初めて女の人がお化粧をしだしたというふうに学者は言うんであります。それまでは、お化粧なんてなかった。

これはどういう社会かといいますとね、その部族の中の一番強いのが長になるのであります。そしてそれ以外の弱い人たちを支配していきまして、そこで掟を作りまして、今でいえば法律であり

ます。それに反する者は全部それを処罰していく、こういう社会構造が出来あがります。ここでは福祉とか共生とか、そういうことはほとんど考えられない。

だから、そういう社会では弱者、生活能力の弱い人とか、実際に力の弱い人は、本当に住みにくい社会だったんであります。だからそこからは、福祉社会の概念は出てこない。

ところがね、このクロマニオン人の時代、そういう権力社会ですね、強い者が、一番頂点に立って、弱い者を支配していく。そしてルールを作って、違反者はビシビシ処罰していく。そのことによって社会の秩序を維持していく。この基本的な考え方が現在まで続いているわけでありまして。歴史を見てもらったら分かります。ヨーロッパでも日本でも、ずいぶん残虐な行為があります。これは全部ピラミッド型の権力構造できたわけでありまして。

しかしその中でね、そういう闘争心に明け暮れる彼らの心の、精神の奥底に、やっぱり人間愛とか、そういうものが密かに潜むのであります。その辺のところを、キリスト教とか仏教とか、人類愛を説いて、そしてどんなに権力者が栄えても、この宇宙を支配する絶対者、神様との関係では、弱者も強者も、その神様との関係では、等距離、等間隔だ。ということは、人間相互の間は、平等、対等じゃないか。万人平等という考え方、これが宗教の第一義だと自覚してですね、それを宣言しています。

そういう神様との関係で、万人平等だと、そういう考え方を何千年、何百年の間、宗教家たちが説き続けまして、そして結局、差別の撤廃、そういう制度を作り上げていったわけでありまして。

今は福祉社会の先進国でありますスウェーデンなんてね、ストックホルムに知的障害者の作業所があるのであります。その作業所の所長が言っておるんです。スウェーデンね、いま福祉の先進国だと言われている。しかし19世紀までは、知恵遅れの子、知的障害者が生まれると、森の中へ捨ててしまうんであります。夏は熊の餌食になって死ぬほかない。冬は凍死して凍え死んでおる。そのことについて何らの疑いも持たない、そのころのスウェーデン人は。

しかし、やがて宗教の影響もありまして、人類愛を説く。同じ神様から生まれたこの知恵遅れの子が、同じ神様から生まれた健常者から差別されて、抹殺されていく。神様との関係では、先ほど申し上げましたように、みんな等距離、神様との関係では万人平等である。同じ取り扱いを受けなければならないのにね、知恵遅れとか、身体にハンディがあるばかりに、その命を抹殺されていく。これは許せないことだということで、その親御さんたちが、やがて立ち上がるのであります。

そしていろんな社会的な市民運動を繰り広げながら、無数の法廷闘争、この差別をやめろとか、森に捨ててはならないとか、いろんな法廷闘争を繰り返しながら、ある時は負けるでしょう。それでも勝つ時がある。そういう判例の積み重ね、法廷闘争を繰り返しながら、やっと今では、知恵遅れの子供に対して差別があるということを立証さえすれば、国家が完全な保障を与えて、その差別を取り除く、そういう社会を作り出したというんです。

しかしそこまで行くまでには、法律はできました。制度もできました。しかし現実には、なかなかそうはいかないのであります。

日本に目を移しましょう。日本は封建制度が崩壊して、近代市民社会になった。それが明治維新だと言われておりましたけれども、まだそのとおりになってない。しかし現実には、この戦争で敗

ける1945年までは、日本の民法の中には、封建制度の残影であります家の制度があったのであります。

だから、明治維新で近代市民社会になったよと言いながら、実際は法律の上でも差別がありました。戸主が絶対的な権力を持ちます。女性は参政権もなかった。結婚して妻になりますと、無能力者になるんであります。そういうのが戦争に負ける1945年まで続いていた。

そして新憲法ができました。そして生存権の保障、皆さんご存知ですね。国民はすべて健康で文化的な生活を営む権利を有する。国または地方自治体は、生活の全面において、その社会福祉、社会保障については最大限の努力をする義務を負う、そう宣言しました。生活権の保障であります。

これ新憲法の、今の憲法の、こういう規定をおいている憲法は少ないのであります。戦争放棄の条項、第9条。それと第25条の生活権の保障。これは日本国憲法の最大の特色なんであります。この宣言によって日本国は福祉社会を目指すんだ、福祉社会になるぞということの宣言をしたことになるのであります。

しかし現実はどうでしょうか。日本はまだ福祉社会というには、程遠いのであります。確かに施設はできました、先ほどのようにね。しかしそこに住む人たち、われわれ国民の意識の中には、依然として市民社会的な頭が残っております。

市民社会的な心、その奥底は、さかのぼっていきますと、権力社会のクロマニオン人の時代にさかのぼっていくわけでありまして。そこから一つも進歩してない。だから強いやつが得をして、一般庶民は損ばかりしている。それから、生活的な弱者ね、身体にハンディのある人、知的ハンディのある人、その人たちは、非常に住みにくい社会であることには間違いありません。それからいったん受益者になった人でも、本当の福祉社会とはどうなのかということが分からないばかりに、本当の福祉社会には出て行かない。

例えば、具体的な例を言いましょう。フランスでは65歳で定年になります。そうすると、国が長い間、働いてもらってご苦労さんと言って、それ以後は労働義務を免除する。

これは民間会社に勤めておっても、やっぱりそれも国のためなんであります。公的機関であろうと、民間の一般企業であろうと、それは差別なく、とにかく定年に達したということは、それまで一生懸命働いていただいて、地域社会、国のために働いていただいてご苦労さんと言って、労働義務を免除します。あとはゆっくり休息をしてください。休息権を与える制度、これが定年であります。だからその後の生活は、そんなに豊かではないけれども、完全に国家が保障していきます。それ以後、働かなくていい。

だから問題なんですね。働かなくて、国が完全な保障をする。フランスは子供がだんだん減っていきます。そうすると働く者が減っていく。そうすると、どうしたって経済が下へ落ち込んでいきます。先進国病とか福祉病というのは、そういうことを言うのであります。

しかしフランスの定年退職者は、オレは長い間、国のために尽くしたという堂々たる誇りを持っております。定年退職者ということは、一つの肩書きであります。堂々と生きている。

ところが日本では、定年退職者は、もうお役払いになって、余り役に立たない、何か日陰者みたいな扱いで、静かに余生を送っているというところがあります。定年退職者だといって、堂々と誇

りを持って威張って歩くような人は余り見かけないのでありますが、フランス人が、地域振興券、65歳以上の人に商品券を配りました。あれを見てフランス人の記者が、日本人に聞いたのであります。

日本人は、65歳以上の老人と、15歳未満の未成年者と同列に扱われて、侮辱を感じないのか。商品券をもらわなければならないような弱者、そういう目で見られて、しかもそれは15歳以下の働けない青少年と同じような扱いを受けてね、侮辱と感じないのかというのであります。その辺のところが、福祉とかいうものに対する考え方が、根本的に違う。

その辺のところは、今度はアメリカのほうがおもしろい。アメリカは70歳の、定年ということ自体がキリスト教倫理に反するんだ。なぜかといいますと、定年という形で強制的に解雇をする、会社をクビにするということでしょう。そういうのを定年という言葉でカモフラージュする。これは残酷な制度だ。人間が働きたいのであれば、どんどん働けばいいじゃないか。

それを70歳に達したというだけの理由です、何らの理由もなしに職場から排除してしまう。残酷じゃないか。人間の尊厳を害する。だからキリスト教の倫理に反するというので、ずっと定年に反対しておったのであります。

まずカリフォルニア州とかね、先進的な州ね。州と云って、独立国家と同じなんです。ニューヨーク州というのは日本国と同じ。完全な独立国が集まっている。だから合衆国なんでありませう。州というから、日本の県とか、京都府とか大阪府とか、そんなものとは違う。完全な独立国家。だから州兵とかね、独立した軍隊を持っていますね。そういうたくさんの国が集まっているから、連邦合衆国というわけでありませう。

その中で、先進的なカリフォルニア州とか、そういう先進的な州から、まず定年を廃止していきました。結局、全体の連邦がその動向に耐えかねて、1986年でありませう、連邦法でね、合衆国全体の法についてね、連邦は定年を廃止しました。

ただし例外があります。消防士、警察官、飛行機のパイロット、そういう国民の財産と生命を守る役職に就いておる人たちは、これは65歳で定年を迎える。歳をとって、目が見えないのに飛行機を操縦させたら危ないですからね。だから国民の命に係わりのあるのは定年を認めませう。

それから、20人以下の零細企業、これは、余り長いこと雇っておるということになれば、人件費が高くつきますからね、20人以下の零細企業の場合は、定年を70歳でよろしい。

それから、もう一つ例外がありました。年俸4万4,000ドル以上の企業年金をもらっている高級官僚、それから大学教授、これらは65歳を過ぎて解雇してもそれは違法ではない。

そういう例外を除いて、とにかく連邦の公的機関の職員は全部定年はないんだ、死ぬまで働けるんだよ。そういう形でね、老人の労働力を利用するという形で、このピンチを乗り越えていく。そういう意味では、いいことだろうと思うのであります。

これに対して日本はね、定年というのは最高裁の判例が、これは合理的な制度だといって、キリスト教的な倫理に反するとか、そんなこと言うなよ、これは合理的な制度だと、最高裁が認めております。

だから皆さん方、これから国際化社会、いろんな国の人たちとお付き合いをする時に、物事の判

断というのは、国によって全く違うということ、そのことを頭に入れておいてください。自分たちの社会がこうだから、この国の人も同じだろうと考えたら、とんでもないことになるんです。

国際親善とかいうのは、相手の国をよく理解して、その上でないと本当の理解は得られない。自分たちが親切でやっておることが、逆に恨みをかうことにもなります。だから皆さん方、青少年のリーダーとしても、やはり、いろんな視点から見るとの考え方、そういうものも、このライターでも勉強していただきたいし、そのことを子供たちにも伝えていただきたいと思うわけであります。

このように、福祉のこと一つ考えても、国によってずいぶん考え方が違います。やはり新しい21世紀を迎えるに当たって、どのような過ごし方をするのかということは、皆さん方自身が考えていただいて結構だろうと思いますし、先ほど米谷ガバナーが寛容ということをおっしゃっていました。

これは1910年、ずいぶん昔であります。このロータリーを、初めてつくったポール・ハリスという弁護士、彼が1910年に、いろんな失敗をやりまして、最後に、やっぱりロータリーというものは、寛容の心がなければならぬと悟ったのであります。彼は、ロータリーというものは寛容の中に宿る、という考え方に到達しました。

ある論文を書きましてね、ロータリーというのは、合理的に考えたら、どういう考え方のかということを書きました。その中で、今のロータリーは寛容の中に宿る、ということを発表しております。

これは1911年の1月26日にロータリーの機関誌第1号が出ました。「ザ・ナショナル・ロータリアン」という雑誌なんですけれども、第1号の巻頭論文に、ロータリー寛容論を発表しております。自分の意見を押しつけるのではなくて、世界中いろんな考え方がある。まず相手の考え方をよく理解すること。そして自分の考え方を押しつけるということをやらない。自分が正しいと思っているのと同じように、相手もまた正しいと思っているわけですね。

実は、お釈迦様がまだ生きておった時代に、有名な物語があります。そのころのあるインドの王様が、自他ともに許す最愛の妻と自慢しておった奥様がいる。非常に美しい。ところがその王様が、ある時、奥様に、わしはよく考えてみたら、お前より、おれ自身のほうが可愛いような気がする。奥様もしばらく考えておいてね、私もそういえば、あなたより私のほうが可愛いと思う。

王様は、みんな自分が一番可愛いと考えておいたら、この世の中、うまくいかないね。じゃあいっぺん、お釈迦様のところへ相談にいこうと行ったのであります。お釈迦様は二人の話を聞いておられてね、それでいいですよ、みんな、自分が一番可愛い。ただ一つ忘れてならないことは、自分が一番可愛いと思ってる。それと同じように、相手も自分が一番可愛いと思っている。そのことを忘れては駄目ですよ。だから自分が正しいと思っている。それと同時に、相手の考え方も正しいと思っている。ポール・ハリスのロータリー寛容論というのは、そういうことと同じ境地の言葉なんです。

実はこのことが、1910年に巻頭論文が出ました。そのことによって、ロータリーというのは一つの思想なんです。このロータリー思想、いろんな思想があります。それは全部この寛容論というロータリー的なフレームワークの中での、たくさんの思想なんです。これ外れたら

駄目です。ロータリーの原理から外れた思想は、それは排斥したってよろしい。しかしロータリーの原理の中で、いろんな思想がある。これはお互いに相手の考え方を尊重して、己れの足らざるところを、他の思想から謙虚に学び取る。

最初に言いました。ロータリー親睦論であります。そういう形で、今まで90年の歳月を経過して、たくさんの思想が提唱されてきた。その故に、ポール・ハリスの、ロータリーは寛容の中に宿る、と言ったこのことによって、ロータリー思想の外延、論理学の言葉であります。外堀が出来上がったというふうに使われております。

したがって、心の開発ということが大変大事。それからロータリーは倫理運動、そして、このライラは、まさに心を磨くところでもあります。お酒を飲んでも結構です。しかしいつも、己れの足らざるところを他人から学び取るという気持ちを持ちながら、お酒を飲んでください。

このライラを一言で集約した言葉があります。食堂の前に石碑があります。そこに今井先生の詩があります。あの先生、器用な人で、詩人でもあるのであります。あとで見てください。

人と出会い、神と交わり、愛の灯のもえるところ

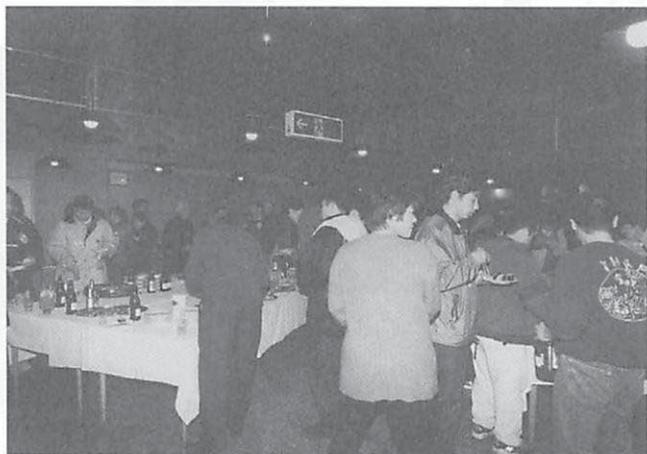
これが、この余島のロータリーが企画したライラを、一言で言い得ているなど。人と出会い、皆さん方、きょう四国の友達、兵庫の友達、みんなが出会った。初めての出会い。この出会いが一生の出会いになるかも知れない。またその出会いによって、自分の一生の道が変わるかも知れない。良いほうに変わるかも知れないし、悪いほうに変わるかも知れない。それは私は責任もたないけれども、とにかく人と出会うということが大事です。

そして人と出会って、みんな仲良くして、悩みを打ち明け、心の友をつくるんですね。そして、あしたから始まるいろんな講義を聞き、そしてバスセッションをし、お互いの議論をしながら、奉仕哲学を追求する。これが神と交わりであります。

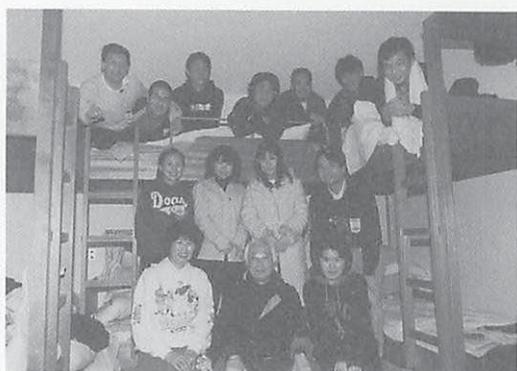
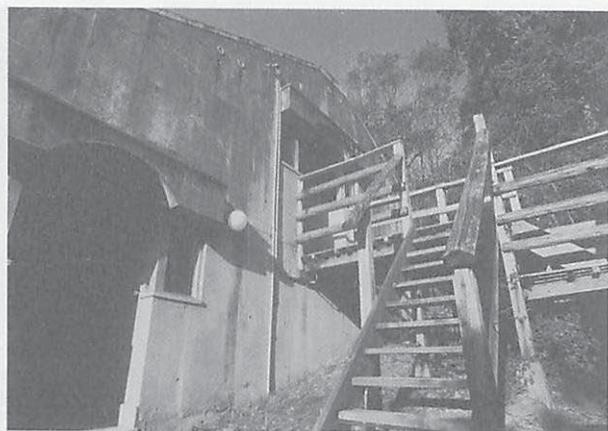
そしてその結果、皆さん方の心にポツと愛の灯がともってくれたら、その灯を持って地域社会に帰ってください。そして地域で人のために、二宮尊徳のように湯水をこっちへ搔かないで、向こうへ搔いてください。そのようにして、世のため人のために動いていただければ、それは全部また皆さんのところにやがて回ってくる。そういうことをこの言葉は示しておるだろうと思うのであります。

ご静聴ありがとうございました。(拍手)

# オープニングパーティー



# オリエンテーション (キャビンタイム)



## 「これからの心と体のいやし」



徳島大学医学部第一内科

板 東 浩 氏

U R L <http://www3.ocn.ne.jp/~biomusic/>

E-mail [pianomed@bronze.ocn.ne.jp](mailto:pianomed@bronze.ocn.ne.jp)

F A X 088-644-3812

徳島の板東でございます。きょうはよろしくお願ひします。(拍手)

タベ来させていただいてね、皆さん方のエネルギッシュな空気に触れて、僕も若返った気がいたします。

きょうは私、医学の話、健康の話、音楽の話、いろいろさせていただきたいと思います。

それでは、私スライドを使ってやりますので、ちょっと暗くさせていただいて、スライド、スタートをお願いいたしたいと思います。

### ①スケートで国体

第九の演奏会が鳴門で行われました。指揮をしたのが、あの有名な小沢征爾さんです。小沢征爾さんが、第九のタクトを振りまして、そのあと小沢征爾は長野オリンピックへ行きました。

「亡き父に捧げた金」ということで、よく頑張りましたね。

清水が優勝し、表彰台では161センチの清水が金です。カナダの大男、190何センチなんですね。この大男に勝ったわけです。この清水選手の活躍に魅せられて、スタートを始めた人がおります。

だれかと申しますと、私であります。(笑い) 長野冬季国体スピードスケート出場、板東医師、特訓中と書いていますね。

なんと日刊スポーツというスポーツ新聞にまで載りました。普通、スポーツ新聞に医者が載るってどんな時か知っていますか。悪いことをした時ですね。(笑い) 誤診をしたとか、訴えられたとか、賄賂をもらったとか、いろいろありますけれども。こういうふうにはワルツで予選突破。僕はピアニストでありますのでね、いつもワルツでやっとなですよ。フィギュアスケートする時はね、イチ、ニ、サン、ニ、ニ、サンと3拍子。男性の場合はホッケーが多くて、イチ、ニ、イチ、ニと2拍子、こういう感じになりますね。

スピードスケートは、その間という感じで、8分の6拍子という感じのワルツになります。

「街角プレス」という徳島のタウン誌にも驚異のメディカルスケーターということで、載ってお

ります。(笑い) 医師団ではなく、スピードスケートの選手として。

通過時刻になりますけれども、500mのレースで清水選手は100m9.7秒で行きますね。岡崎選手は10.6秒。僕は遅くて12秒前半くらいなんです。まあ岡崎選手が僕の前を、10何m前を行ってるとい感じかな。

彼らは、そこからが速くなる。カーブに入ってからが、どんどん速くなるんですよ。清水選手なんかはいつもレースのあとで言よんです。きょうは失敗しました。どうしたんですか。カーブのところでも失敗して、なんと2センチ外側を滑ってしまったと言うんですね。僕なんか、いつも2m外側、走ってますけど。 (笑い) 僕はカーブになると、どんどん遅くなってしまいます。

これは、徳島県選手団の入場行進です。紀子様が来られていまして、私は、ずっと美しさに見とれましてね、ボーッと見ておりました。(笑い)

ボーッと見ていましても、さすが徳島新聞です。次の日の朝の新聞を見ますと、県選手団、堂々と行進、と書いていますね。小さな文字で、県勢5人、予選落ち。(笑い) 見出しつけるの上手です。

これは、わたしが500mで滑っているところです。

## ②生活習慣病

それでは、生活習慣病の話をしたと思います。生活習慣病、かつては成人病と言われていたけれども、大人でなくて、子供にもできてきたから、このごろは生活習慣病。生活習慣が悪いから、病気になっていくんですね。

皆さんのライフスタイル、ちょっとチェックしてみたいと思うんですよ。食べること、生活、運動、精神衛生、嗜好、どうかということですね。

8つあるんですけども、1番は運動は週1回未満かどうか。2番はお酒は2合ぐらい飲んでいるか。3番はタバコですけども1日20本以上のんでいるかどうか。4番は睡眠は6時間以下か。5番は栄養バランスを考えずに食べているか。6番は朝食は食べないか。7番は10時間以上働いたり、いろいろやっているか。8番は自覚的ストレスが多い。どうもストレスがかかって、いらいらしたりしてストレスが多いなと感じているかどうか。

皆さん、8つのうち、幾つ当てはまりますか。

さて、5つ以上の方はね、あなたは生活習慣が不良です。性格が不良ではないが、生活が不良ですね。

不良の方は、血圧は6倍多くなる。糖尿は8倍、コレステロール4.6倍、高尿酸4.6倍。非常に高い確率で、こういう病気になってきます。だから、お気をつけていただきたいと思います。

さて、夜型の生活というのは、健康を害します。やっぱり早寝早起きというのが体には良いんですね。お酒を飲んで楽しいのもいいんですけども、朝早く起きてまたスポーツして、汗をかくとか、お風呂に入るとかね、そういうことで、英語でアーリー・ライザーと言います。早く起きる、アーリー・ライザーになってほしいです。

心身の健康、自己管理ということで、皆さんに配っていますね。

この中を見ますとね、こんな絵があります。真ん中から右側は良いことですね。早寝、早起き、運動、食事をちゃんとすると、頭は活性化する。筋力もついて、頑張りが出てくる。体力もついて、

踏張りも出てくるということですね。

左側は駄目なことを書いています。タバコたくさん吸うのは駄目。アルコールも駄目。食べ過ぎ、運動不足では腹が出てきます。

### ③肥 満

アメリカの研究があります。スマートな人は、高学歴、高収入が多い。太った人はどうしても収入が低くて、社会的地位も低い場合が多いということなんですね。きょう皆さん、若者は非常にスマートな人が多いですね。後ろにおる方の中には、ちょっとね、腹の出ている方もおります。

さて、皇族方はスマートです。スマートという言葉は、体が細い、これ、日本で使うスマートよ。アメリカで使うスマートって、どんな意味か知っていますか。頭が切れるということです。身も心もスマートにということです。

皇族のようなスマートな方が名旅館に来ますと「皇族のお身なり、お姿、お二人様」こういうようなお声がかかります。

でも後ろのほうの、ちょっと太い方が旅館に行った場合は、迷旅館ですね。「盗賊のお身なり、お姿、お太り様」こういうふうなお声がかかるわけです。

世界一のデブという話からします。すごいですね。2人合わせて1,800キロ。人類最大の衝撃だ。これ、ドイツのハンブルクで、28歳の兄と妹なんですけれども、2人とも900キロ、合計1,800キロですが、もっと太りたいと言うんですね。1日にどれぐらい食べるか。ここに書いてあります。1日に1人が食べるものは、2ダースの卵、牛のヒレ肉3キロ、鳥を3から4羽、スパゲッティー大皿で5.6杯、パンを2から3斤、野菜シチューを大鍋一杯、ソーセージ2から3キロ。こういうようにメチャクチャなんです。すごいです。

英語でちゃんと載ってましてね、未熟児で生まれて、大きくせないかんというので、たくさん食べ過ぎさせたそうですね。高校生の時に220キロで、膝が悪くなって、歩けないようになって、いつの間にか900キロになったということです。

太っておる人、こう見たら分かると思うんですけどね、なんで太るか。このように考えるんですよ。太ったお陰で有名になれる。いつしか世界中の映画監督が私たちの伝記を作りたがるわ。そしたらお金持ちにもなれるしね、とにかく、2人合わせて2,300キロにならなくっちゃ。そしたら本当に自慢できるわと、屈託がない。これ、どう思います？この精神構造。

ちょっと精神構造に問題あるから、太るんですよ。太っても恥ずかしいと思わんから、太ったままなんです。皆さんの周りどうですか。太った方見て、ちょっと太っても恥ずかしいと思わん人が太っているような気がしませんか？

さて肥満というのはどういうことか。見かけの体重が多いことではありません。大事なことは、脂肪の量が多いことである。

(板東) 巨人軍の桑田投手と、タレントの山城新吾と、どっちが太いか。どっちだと思いますか。

(答え) 山城新吾だと思います。

ところが、彼らは身長、一緒です。体重も一緒です。何が違うんだろうか。脂肪の量です。

皆さん、皮下脂肪ありますね。これ、役に立たんものではなくて、役に立つのはあるんですよ。

こういうことです。エネルギーの貯蔵庫として働きます。ですからね、太った人はやっぱりエネルギーがあるから、死にませんからね、大丈夫なんですけれども。でも大体、太った人が冬山登山に行けるわけないからね、役に立つことありません。(笑い)

あと、太った人、冬になっても余り寒いと言いませんね。皆さん、周り見て、そう思うでしょう。毛皮を2枚か3枚か着ているような感じでね、毛皮の代金が安くなるから良いかも分らんけれどもね、でも大体、服が合わんから、お金ようけ要ります。

皮下脂肪、体の脂肪の量を計るのは、水の中に体を沈めたらいいんです。この女性は水の中につかっていまして、体重を計って、溢れた水の量を計ったら体積が分かるでしょう。そこから計算したら分かります。

でもいちいち水につかるの面倒いから、このごろはインピダンス法といってね、手と手を握ったらいいかね、足から足にくるとか、そういうのもありますね。

簡単なのは、これなんです。皆さん、自分で背中のごころをつまんでみてください。そしたら厚さが2センチぐらいあるとかね。

次は、肩と肘のちょうど真ん中の後ろ側、自分でつまんでみて。厚さどのぐらいあるか。皮下脂肪つまんでね。2センチあるとかね。ちょっと明るくしてみてくださいか。分かると思うんですけど。これは握ったら筋肉でしょう。筋肉からずとずらしていったら、皮下脂肪になります。後ろが2センチで、ここが2センチだったら、たして4センチですね。

次に、それが合うていかどうか分からん。ちょっと隣りの人の手を触ってみて。合計3.5センチとか、合計4センチぐらいとか、ちょっと隣りの人の、お互いに触ってみてくださいか。大体これぐらいと、これぐらいだから、たし算して、4センチとか、たして3センチとか。

それで暗くしてください。もう一度スライドをいきます。

さてね、合計をしましてね、女性の場合は4.5センチを超えると、あなたは肥満です。男性の場合、たし算して3.5センチを超えていると肥満といえます。

大体のことなんですけれども、数字がたくさん並んでいるけれども、覚えておいてほしいのは、男性は体の20%の重さが脂肪になったら、肥満ということになります。

女性の場合は、もともと神様が与えてくれたね、子供も生まなきゃいけないし、我慢強い性格である。それからホルモンのいろんな関係があって、30%以上を超えると肥満ということが出来ます。

難しいことはさておき、見かけ太った人はね、プロレスの選手か、相撲の選手か陸上のフィールド選手でない限り、太った人は大体、皮下脂肪が多いです。ということで、マッチョマンは見かけは太くても肥満ではない。でも、ここにいらっしゃる女性4人も、ものすごくスマートなんです。ところが、ちょっと触って見ますとね、この4人の中で、2人はだいぶ皮下脂肪がありますね。(笑い)

だれとは申しませんが、見かけは分からない、4人も。でもあんまり運動していない、筋肉もない、重たい荷物を運ぶわけでない。トレーニングしてないから、こういう方は、隠れ肥満と言います。

このごろ、女性の半分ぐらいが隠れ肥満と言われている。ものすごく多いんです。4人のうち、2人が思ってます。私ではないと。(笑い)

でもね、女性というのは、丸っこくて、ちょっと皮下脂肪があるのがいいですよ。もし女性が、

皮下脂肪が全然なかったらどうなると思いますか。困るんです。なぜ困るかといったら、男性と女性がね、夜、仲むつまじくやっとなる時にですね、大事な時に、骨と骨がコツコツと当たって痛いんです。ごめんなさい、ちょっとエッチなことですね。ということでね、皮下脂肪があるほうがいいんです、ある程度ね。

でも、あまり皮下脂肪のある方は駄目ですね。女性で巨乳とか爆乳とか言いますね。お乳が大きいのはいいですね。男はああい胸の間で窒息したいと思っておりますけれども（笑い）あまり太い人は、お腹も脂肪だらけですので、お腹で窒息しそうになってしまいます。

肥満というのは、りんご型、洋なし型とかが、このようにあります。男性型は上半身肥満でありまして、洋なし型は女性に多い。昔の言葉で、下半身デブと言われております。こういうタイプがあります。

太っていたら命にかかわるか。直接はかかわりません。でもこのように、糖尿は5倍、高血圧は3.5倍、胆石は3倍、不妊症は3倍、痛風は2.5倍、心臓の病気2倍、このように合併症が多くなるから、だから太ってるのは駄目なんですよ。

そこで一句できますね。肥満の人。「肥満体、叩けばほこりの出る体」どっか調子の悪いところがあります。

さて、肥満者の食事というのは、こういうふうなスタイルがありますね。皆さん一緒に読んでみますよ。早食い、欠食、まとめ食い、ながら食い、気晴らし食い、どか食い、やけ食い、ということですね。

さて、私さっき言いましたけれども、太っている人というのは、自分の体が太くて恥ずかしいと思わない、そんな感じがありますね。いろいろ研究の結果、分かってきたことですが、どうも太ってる人は、脳が悪いみたいと分かってきました。（笑い）

皆さん、頭の中、こう見ますと、ここに大事なところが2つあります。摂食中枢といいまして、空腹中枢ともいいます。お腹が空いたと感じるところ、食べようかなと思って食べ始めるところ、ここが摂食中枢です。

もう1つ、ここは何か、満腹中枢。ようけ食べてお腹が一杯になったから、食べるの止めようかなと感じるところです。このバランスが悪くなったらね、やっぱり太ってきます。

どういうことかといいますと、皆さん、レストランへ行きますね。夕食を食べたと。隣のテーブル見たらね、おいしそうなケーキがあるんですよ。まあ、ご飯はすんだけど、ケーキは別腹やけん、ケーキはまた注文しようやいういてね。ということで、そういう人は一応、満腹中枢がそろそろ止めようかなと思った時にね、ケーキ見るでしょう。目で食べ物を見た瞬間に、ツバが出てきよんですよ。敏感すぎるんです。ですから満腹中枢が鈍かったら、なんぼでも入ってしまうしね、空腹中枢が敏感すぎたら、なんぼでも欲しくなっちゃう。このバランスが大事ですね。

それで1つアドバイスします。満腹中枢が満足するのはどういう場合か。食べ始めて20分ぐらいたったら、ようやく止めようかなと思います。ですから早食いね、5分、10分だったら、なんぼでも入ります。なぜかといったら、ここにね、ビビビッて信号が20分ぐらいいないと来ない。

皆さん、フランス料理を食べにいったら分かるでしょう。ちょっとしか出てこんのに待ちくたびれて、1時間も待たされて、1時間も待ったら、なんや余り入らんようになったと思うでしょう。あれ、なぜかといったら、待たされ過ぎて、20分以上たったら満腹中枢が、もうそろそろいいかなと

思うから、入らんようになってくる。ですから、ゆっくり食べないと駄目ですね。早食いは駄目で  
す。

標準体重、理想体重ともいわれます。今までは、身長から100引いたて0.9と言われておりました。  
でもこれは、日本人の男性はまあまあ良いけれど、女性の場合はちょっと狂ってきます。

例えば、150cmの人だったら、身長から100引いたら50ですね。50に0.9かけたら45。それちょっ  
と低すぎるんだわ。今後は使えません。

国際的に理想体重の計算法はこうです。身長をmで出して、身長×身長×22。160cmの人だつたら、男も女も、お年寄も若い人も、160cmの人だつたら大体これで求められます。 $1.6 \times 1.6 \times 22 = 56.3$ 。これ皆さんちょっとメモして帰ってもらいましょうか。160cmの人は $1.6 \times 1.6 \times 22$ 。家へ帰つたら、家族の人の身長とか体重をちょっと求めて、大体の理想体重を出してあげてください。

さて、なぜこのようになるかという話をします。身長の二乗に22をかけたら、56.3になります。  
ということで、56.3を1.6の二乗で割ったら22になります。

この計算式は医学で使うボディー・マス・インデックス。body体の、mass容積の、index指標と  
か計算方法と言われるものです。これは22というのが理想というのが分かっています。

でも、この人が太りまして、56.3kgが64kgになったとしましょうか。そしたら25になります。25  
以上になったら肥満という基準ができておりますので、この数字が22が理想であるけど、25は太っ  
て駄目だということになります。

なぜ22が理想かという話をします。

この表なんですね。横軸は何か。今のボディー・マス・インデックスです。

18、19、20って、ごつい痩せた人ですね。22中肉、中背。25、26、27、太った人です。

縦軸は何か。これは疾病率、死亡率。病気がある割合とか、死ぬ割合。細すぎる人はやっぱり病  
気が多くて、死亡することが多い。ちょうど下がってきて22ぐらいが一番低くなる。病気も少なく  
て、死ぬのも一番少ない。太ってくると、ずっと上がっていく。

これは、左右対照でないですよ。Jセーブ。こちらはなだらか。ぐっと高くなります。という  
ことでJ型と言いまして、22の人が一番病気も少なく、死亡する割合も少ない。だから22が理想  
であるということなんですね。ということで、22が理想ということが分かりました。25だと肥満で  
駄目だということですね。だから理想体重というのは、22というのをもってきて、身長×身長×22  
ということになりました。

これは僕の好きな女性のタイプなんですね。ハワイに行った時に絵はがき買ってきまして、1枚  
150円もしたんだ、これ。高かったね。この女性はプロポーションが良いですね。かつレースみたい  
な、網みたいなのがかかっています。男性は、こういうふうなのを見たら欲情がそられるんです  
よ。どうしてか分かりますか。

日活映画にもポリシーがあります。大事なことはチラリズム。どうですか先生。これ見て色っぽ  
いでしょう。これ、なぜ良いかというたらね、レースか網がかかっている、見えるか見えんか、チ  
ラチラと見えるからね、男は欲情させられるんですよ。もしレースが全然なかったら、オッパイが  
出ているという感じですけどね。ですから若い女性なんかも、うまいこと覚えておいてほしいで  
すね。

いま僕が話したのは、肥満の話しましたね。肥満の話でポイントは何かということです。

肥満ということは、'どういうことですか。見かけではなくて、脂肪が多いかどうかということですね。男性の場合は、マッチョマンみたいな、見かけは太くても、筋肉が多くて肥満でない人もおる。でも逆に、今現代の若い女性の半分ぐらいが、隠れ肥満と言われています。見かけは細くても、隠れ肥満といって、筋肉をトレーニングしてないし、筋肉の量が少ない。脂肪が多い。その人は肥満です。見かけでも肥満ですね。

次に大事なことは、太ったらなぜ困るかということですね。太っただけでは命に変わりはない。でも合併症が多くなります。糖尿病とか高血圧とか、合併症が多くなるから駄目なんです。

3つ目のポイントは、身長×身長×22=は。で、大体のことが分かる。

それであと、先ほどの背中と腕のところをちょっとつまんでみて合計して、男性は3.5cm、女性は4.5cmを超えたら、あなたは肥満やなということになります。それが大事なポイントですね。

#### ④高脂血症

さてクイズです。モナリザですが、彼女はね、病気があるんですよ。答えがこの絵にあります。この顔をじっと見たら答えが出てくるんですね。ここなんですけどね、目頭。目のところ、ちょっと黄色いのがあって。これは黄色腫といいまして、コレステロールの固まりなんです。

彼女は161cmで74.5キロだったと言われておりまして、肥満だった。そして高血圧もちょっとあったと言われております。コレステロールも黄色腫があったということで、高コレステロール血症があったわけです。

さて、動物性蛋白の性質の話をしてますね。日本人はどれだけ蛋白質を取るようになったか。昭和12年にはこれだけ。ずっとこんなにたくさん取られてきました。乳製品、卵、肉類、魚介類ということで、これだけです。

卵というのは黄色ですけども、これだけ増えてきております。考えたら、かつて1個10円で、今も10円ぐらいで手に入らって、すごいことです。

増えたのがすごいのは肉。この肉の増え方、見てください。肉を食べたら、大体コレステロール、油がくっついていきますので、どうしてもコレステロールが高くなってきました。

コレステロールが高くなったら、なぜ困るか。それはね、動脈硬化、動脈が硬くなるから困るんですね。高脂血症が一番大事です。

さて、動脈硬化って何だろう。動脈が硬くなるということ。皆さんの家にあるプロパンとかガスのチューブがありますけどね、新しい時は弾力がありますけど、古くなったらどうなりますか。硬くなって、ポロポロ表面がはげてくる、あれが動脈硬化です。

もう1つ大事なことは、硬になると同時に、血管が狭くなる。真ん中より後ろに来られている年配の方々ね、だいぶん年寄ってきたら、こういうように血管がだんだん詰まってきております。コレステロールとか、油がいっぱい詰まってきて、もともとはこれだけあった血管が、いっぱい物が詰まりまして、こんなになっている。

例えば心臓の血管が、このように面積が10分の9詰まって、10分の1になったとします。そしたら狭心症とかが起こって、心筋梗塞でポコッと詰まって死ぬこともあります。

しかしながら大事なことは、9割詰まってもね、私は元気だと言って、張り切って仕事している人

が多いの。狭心症というふうな症状が、出てこない人が多いんです。ですから、私は元気だと考えている年配の方も、見かけ元気だから病気がないと思うのは駄目。これだけ詰まっている可能性は十分あります。

詰まっても、たまたま症状が出てきてないだけなんです。ということで、素人の方は、「私は症状が何もないから病気でない」、と言う人がおります。でもそれは医学の専門家から見たら違うんですよ。症状があるなしというのと、病気があるなしとは違う。

動脈硬化が進むというのは、こういうふうな絵になりますね。正常な血管はこんな感じで、詰まっても。脂肪がちょっと詰まってくると、こうなりますね。そのあとカチカチに硬くなってきます。狭くなってきた。最後カルシウムが沈着したら、見てください、こんなに狭くなっています。これが動脈硬化が進むということになります。コレステロールが高い人は、どうしてもこういうことが進んでいきます。

動脈硬化というのは、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、心臓の血管が詰まりかけとか詰まったとか、脳の血管が詰まりかけたとか詰まったということで、病気が出てきます。

日本人の女性は、高コレステロール結晶が多くなってきておりまして、50歳、60歳の女性の半分ぐらいは、コレステロールが高いという時代になりました。

困ったことは、子供のコレステロール、若者の中にも、コレステロールが高くなってきとんです。何と10年間で、中学生、見ましたら、10も上がっている。食生活の欧米化ですね。

皆さん、どんなもの食べよるか、聞いてみようかな。ファーストフードでどんなものを食べていますか。ちょっと寄って立ち食いするとか。

(答え) マクドナルド。

(答え) モスバーガーです。

(答え) ミスタードーナツです。

(板東) 店の名前でも、食品の名前でもいいです。

(答え) ガストのハンバーグ。

(答え) ケンタッキー。

(答え) 牛丼。

(板東) 牛丼ね、いいですね。牛丼は日本人ですね。でも牛丼は外国から入ってきたんかな。

(答え) フライドポテトとか、ハンバーガーです。

(答え) アイスクリーム。

(答え) クレープ。

(答え) チョコレート。

(答え) マック。

びっくりしますね、こんなものばかり食べているでしょう。皆さんの将来、あぶないなあ。(笑い)

ここで皆さん、分かりますか。おいしいものがたくさんあるね。共通していることは何ですか。油が多いということ。だれも和菓子なんて1人もおらんでしょう。和菓子とかまんじゅう、皆さん食べない。お年を召した方は食べます。あのほうが落ち着くし、いいんだ。

考えてみてよ。今、皆さん聞いたらね、油っこいものが多い。油っこいものが、おいしいんですよ。おいしいというのは必ず油が入っているの。思い浮かべてみてくださいか、皆さんの食生活。

おいしいものには油がある。油があるものはおいしい。こういうふうな味に馴れてしまったら、なかなか昔の和菓子とか、せんべいとか、駄菓子とか、出てこないよね、若者はね。ほとんど油が入っています。

マックの3種類あるよね。ハンバーガー食べて、フライドポテト食べて、シェークというのかな、あの3つ食べてごらん。合計したらもうメチャクチャなカロリーなんです。

ということで、若者は本当に将来がちょっと危惧されますね。食生活の欧米化というのが進んでおりますので、本当に怖いんです。それで一句できます。

「小学生、成人病、僕も大人の仲間入り」ということでね、小学生にもこのごろ肥満、糖尿病が増えてきております。困ったことに、なんとアメリカの子供たちよりも、日本の子供たちのほうがコレステロールが高くなってしまいました。怖いんです。

コレステロールはいろいろありまして、善玉と悪玉というのがあります。散らかしコレステロールって、こんな顔しとんですね。名前がLDLといいます。片付けコレステロールという、にこにこしたHDLというのがあります。HDLが多い人はいいんですけども、大体、散らかしLDLが多くなってきます。

皆さん、血の検査して、コレステロールHDL、中性脂肪とか、いろいろ調べると思います。トリグリセライドというのは中性脂肪のことです。

大事なことはね、朝ご飯食べて、昼ご飯食べて、午後に血を取って、油が多かったやうのは、誤差がほとんどです。間違いなく空腹で血を取ってください。前の日の夜9時以降は何も食べないこと。そして午前中に血を取って、油分を調べてください。それでなかったら狂っちゃいます。午後に血を取って高いと。でも皆さんは思わんだろうけど、何千円もお金を使いよんですよ。税金を何千円も使って、出てきたデータは、役にたたないということになります。

コレステロールの目安ですけれども、普通は220という数字が多いんですけども、いろんな病気のある人は200、狭心症、心筋梗塞のある人は180以下がいいと言われております。でも今は、220という数字が、ものすごく有名になっております。

では、230、240になったら、あわてて何かせないかんかといったら、そうではないですね。230、240の人がおって、お医者さんに聞いたとします。

1人目のお医者さん、230、240、ああ、まあ、いいわ、放っときな。

2人目のお医者さん、ほらいかな、ちょっと食生活を直さないかなあ。

3人目のお医者さん、ほら、すぐに薬のまないかんわ。

3人のお医者さんのいうこと、全然違うんですよ。それはね、間違っているんでない。大事なことは、その人のライフスタイルね。どんな仕事して、どんな運動して、どんなものを食べて、家族構成がどうで、こうなっている。今まで病気はこうで、何十年もその人の体を診ているお医者さんが、一番よく知っているから、そのお医者さんに相談してみてください。若い人の場合も違う。男と女も違う。年齢によっても違う。

## ⑤鰯が良い

さて、ここで話題を一つ提供。泉水式部という有名な歌人が、平安の時にいました。鰯（いわ

し)が大好物だったんです。鰯おいしいですね。でも当時は鰯は下品な魚でありましてね、貴族が食べるようなものでないと言われておったんです。

でも、おいしいものだから、こっそり食べていたら、旦那さんに怒られたんですよ。「そんな下品な魚屋食べたらダメだ」ってね。

好きなものを食べて怒られたら、腹が立ちますね。あなただったら口答えするんですよね。どのように旦那さんに口答えしますか。怒られたらどう言いますか、あなただったら。

(答え) おいしいもの、しょうがない。

そのように文句を言います。この人も文句を言うたんですけども。さすが歌人ですね。

どのように言うたか。和歌を作って言いました。おしゃれな返答ですね。

「日の本み はやらせたもう いはしみず 参らぬ人も あらじとぞ思う」

この日本全国で、はやらせたもう、はやっていて有名で、みんなが知っているところの、いわしみず、いわしみずというのは、鰯という魚と、いわしみずという、お祭りのことと両方かけております。おしゃれなしゃれですね。参らぬひともあらじとおもう。有名なお祭りに行かない人もないでしょう。おいしいような魚、食べない人もないでしょう。このように言いました。

ですから歌人はこのように、文句を言う時も和歌を作ったんですね。だから、きょう私の話を聞いた女性の方、今後、旦那さんに文句を言う時は、和歌を作って文句を言うようにしてほしいですね。(笑)

さて、鰯という漢字ですけども、魚へんに弱いと書きます。どうして弱いと書くか知ってますか。若者は知ってるかな。

(答え) 1匹じゃ弱くて、集団で動くから。

(答え) 鯨にすぐ食べられてしまうから。

(答え) 私も一緒に、ほかの魚の餌になってしまうから。

(答え) あまり日持ちがしないから。

本当の正解は、最後の方の日持ちがしない、弱いということなんですね。でもね、私もすごく新鮮に感じた。若者の発想というかな。魚へんに弱いというのはなぜと思う？つといたら、いろいろな発想が出てきますね。こういうふうな新しい斬新な発想は、やはり若者でなかったら駄目です。それで、いろんな人のアイデアをまとめて、いろんなことをやったらいいですね。

昔ながらの理由はこうです。日持ちしない、弱いからということですね。鰯、頭が良くなるDHAとか、体に良いEPA、ドコサヘキサエンサンなどが、たくさん含まれていますから良いです。

お米は炭水化物と言われてはいますが、そうではない。お米は杯という部分があるでしょう。あそこは蛋白質がたくさん含まれている。ですから玄米が本当はいいんだけど、あまり真っ白なご飯よりは、ちょっと玄米が残っているほうが良いですね。

お米は非常に蛋白質もありまして、アミノ酸のバランスが良い。鰯は海のお米と言われては、非常に大切なアミノ酸が、たくさん含まれております。ですから良い栄養価があるんですよ。

鰯ですけども、若者は、魚は食べるのが面倒だという人が多いと思います。その時に、ちょっと工夫してみてください。カレー焼き、鰯をアルミホイルにくるんでカレー焼きにすると、おいしく食べられます。

ちゃぶ台もなくなりましたね、日本の生活の中で。ちゃぶ台といえば、星飛馬と星一徹がおって、

星一徹がひっくり返していたですね。ちゃぶ台こそが日本の良き家族の姿なんです。

江戸時代になりますけれども、控えろと言ってね、遠山の金さんみたいにですね、ここにおわすお方をどなたと心得る、桜吹雪とか、いろいろ出てきますけど、控えろと。3つの白色の取り過ぎを防いでください。

3つの白色とは何だろうか。1つは食塩です。食塩は多過ぎたら駄目。2つ目は砂糖、駄目ですね。3つ目は、精米され過ぎた真っ白のお米。やっぱり杯の部分を残しましょうということですね。塩は駄目、砂糖は駄目、お米も玄米がちょっと良いかなという感じです。そしたら、これがいろんな病気の予防になってきます。

ここでトピックスは食物繊維ですね。このごろ、食物繊維とというのは、食べると大腸とか小腸を、きれいに掃除してくれる、癌も少なくなると言われていますね。コレステロールの吸収を防ぐと。

女性が好きな、ショートケーキ食べ放題というのがありますね。女性はショートケーキ好きですから、3つも4つも食べてしまいます。食べられるでしょう、ケーキだったら3つも4つも。

ケーキは油がほとんどでしょう。胃に入ってもなかなかエネルギーにならない。血糖も上がりません。だから3つも4つも食べられるの。和菓子とかは糖分が多いでしょう。2つぐらい食べたら、割と早めに血糖がパッと上がるから、もうそろそろ満足したとを感じるんですね。ですから油っこいケーキよりは、和菓子のほうが体にも良いし、早めに満足する。

急ぐ時は和菓子を食べましょう。ケーキでなくて、和菓子のほうが良いですよ。ショートケーキ食べた時に、コンニャクでも食べてもらったら、食物繊維が吸収を邪魔しますからね、油があまり吸収されないということです。

さて、ちょっとここで悟りをひらいたお坊さんの言葉になるかな。人間は竹輪である。人間とは竹輪である。人間とは竹輪である。竹輪、知ってる？中に竹が入っててね、竹抜いたらポコッとあいている。人間は竹輪である。さあ、どんな意味としますか。どう思う？

(答え) 分かりません。

(板東) だれか思いつかんかな。

(答え) ちょっと分からないですね。

人間の構造は、竹輪の構造によく似ている。さあ皆さん考えて。どなたか分かる？人間の構造は、竹輪の構造によく似ている。

(答え) 分かりません。

ほな、もう1つヒント。竹輪の上の口と、下の口とね、入り口と出口があると。人間の体の構造とよく似ている。ここまで言ったら分かる？

(答え) 竹輪の上が口で、下が肛門？そして1本通っている。

人間の体の外側と内側ということ、分かるかしら。どういうことか分かる？説明してみて。

皆さん、胃とか腸とかね、皆さんの胃の中は、皆さんの体の外である。分かりますか。皆さんの体のというのは竹輪なんだわ。口から入って肛門から出ますけどね、必要なものは吸収して、要らんものは出しますね。

例えば、脱水とか下痢とかいう時は、竹輪の身の部分から水分が吸い出されて、水が出ていくか

ら、干からびるから舌が乾きます。下痢している時に水をどんどん飲んだら治りますか。調子悪くなるでしょう。なぜかといったら、また水を吸い出すからね。だから脱水の時は竹輪の身の部分に点滴してね、干からびないようにするとかいうことなんですよ。

ですから、ショートケーキとコンニャクを一緒に食べるということだけど、油が体の中に入ったら、放つといったら吸収されてしまいます。吸収されるということは皆さんの竹輪の身の部分に、たくさん油が吸収されるということだ。それを邪魔するのはコンニャク。コンニャクと一緒にたべたらコンニャクが油をくっつけてしまってね、体の中に吸収されるのを邪魔してくれるから良いんですよ。

## ⑥人間は竹輪である

さて、ちょっとここで悟りをひらいたお坊さんの言葉になるかな。人間は竹輪である。人間とは竹輪である。人間とは竹輪である。竹輪、知ってる？中に竹が入っててね、竹抜いたらポコッとあいている。人間は竹輪である。さあ、どんな意味と意思ですか。どう思う？

(答え) 分かりません。

(板東) だれか思いつかんかな。

(答え) ちょっと分からないですね。

人間の構造は、竹輪の構造によく似ている。さあ皆さん考えて。どなたか分かる？人間の構造は、竹輪の構造によく似ている。

(答え) 分かりません。

ほな、もう1つヒント。竹輪の上の口と、下の口とね、入り口と出口があると。人間の体の構造とよく似ている。ここまで言ったら分かる？

(答え) 竹輪の上が口で、下が肛門？そして1本通っている。

人間の体の外側と内側ということ、分かるかしら。どういうことか分かる？説明してみて。

皆さん、胃とか腸とかね、皆さんの胃の中は、皆さんの体の外である。分かりますか。皆さんの体のというのは竹輪なんだわ。口から入って肛門から出ますけどね、必要なものは吸収して、要らんものは出しますね。

例えば、脱水とか下痢とかいう時は、竹輪の身の部分から水分が吸い出されて、水が出ていくから、干からびるから舌が乾きます。下痢している時に水をどんどん飲んだら治りますか。調子悪くなるでしょう。なぜかといったら、また水を吸い出すからね。だから脱水の時は竹輪の身の部分に点滴してね、干からびないようにするとかいうことなんですよ。

ですから、ショートケーキとコンニャクを一緒に食べるということだけど、油が体の中に入ったら、放つといったら吸収されてしまいます。吸収されるということは皆さんの竹輪の身の部分に、たくさん油が吸収されるということだ。それを邪魔するのはコンニャク。コンニャクと一緒にたべたらコンニャクが油をくっつけてしまってね、体の中に吸収されるのを邪魔してくれるから良いんですよ。

食物繊維の多い食品は、こんなのがあります。皆さん、一緒に読んでみます。ひじき、わかめ、

こんぶ、きくらげ、しいたけ、納豆、さつまいも、ごぼう、とうもろこし。こんな感じが良いんですね。

大事なことは、1日30品目を食べましょうということですね。脂肪を減らしましょう。大豆が良いですよ。主食はご飯が良いですよ。食塩は減らしましょう。

なお6つ切りのパン1枚というのは160カロリーなんです。ご飯一杯も160カロリー。ご飯一杯のカロリーと、パン1枚と、一緒なんですよ。びっくりでしょう。パンで意外とカロリーがあるんだ。お薦めはやっぱりご飯ですね。腹もちが良いし、ご飯にはちょっと蛋白質もあるし、腹の満腹感もあるから、パンよりもご飯のほうが良いと思います。

朝食はしっかりということですね。ゆっくりとよく噛んで。もし太りたい人があったら、夜10時から11時に食べて寝てください。喰うて寝ると、一発にコレステロールが上がって、一発に健康を害します。夜遅く食べて寝ると、すぐに体の調子が悪くなります。太ります。

朝早く起きて、朝食をしっかり食べている人は、なかなか太れないの。僕はスポーツ選手で、1年中、鍛えておりますね。僕の友達なんか、ボディビルダーみたいなのがおりましてね、どんな生活をしているかと思ったら、朝早く起きて、ちょっとトレーニングして、焼肉やら、油を燃やしてしまった焼肉ね。蛋白質をたらふく食べるんですよ。それで昼ちょっと食べて、夕方トレーニングして、夜はどんなんですかと聞いたら、蛋白質とって、あとは牛乳とサラダと、それぐらいですと。夕方の6時か7時に、サラダと牛乳と、ちょっと蛋白質とって、早く寝るとか。そして朝起きて、午前中にトレーニングして、焼肉を朝から食べる。そういうようなことをすると。筋肉はもりもりになります。そして皮下脂肪が燃えてきます。ということで、朝ご飯をしっかり食べるのが大事なんですね。

僕自身は、皆さんに偉そうにね、朝食べなさいと言ってるが、僕、忙しい人間で、朝方人間で、朝の5時か6時に起きて、すぐに家を飛び出して行って、コンピューターで文字を打ったり、いろいろな医学の仕事をしております。ですから家内が心配してくれるんですね。女房の心配、妻の愛情なんですけどね、「朝抜きは体に毒よと 布団から」(笑い)このように心配してくれております。

ちょっと明るくしてみてください。何がポイントか。

コレステロールというのは油分ですけれども、体に増えたらなぜ困るか。動脈硬化が硬くなって、詰ってくる。頭の血管が詰りかけて、ボンと詰ったら脳卒中ですね。心臓の血管が詰りかけて、痛いというのは狭心症。心臓の血管がポコッと詰まったら心筋梗塞で、命にかかります。ということで、油はなぜ困るかと思ったら、動脈硬化が進んで、病気が多くなるからですね。

もう1つは、皆さんに食生活を聞きましたけどね、皆さん考えてみましょう、自分の食べている食生活ね。本当においしいものは油が多い。油が多いものがおいしい。どうしても、そういう食生活に馴れてしまったら、なかなか元へ戻れないということで、だんだんこれはひどくなりますよ。食べるのは仕方ないし、その分は運動で燃やしてください。燃やすしかありません、運動してね。

僕は本当に若者たちの健康を案じているんです。この何十年か見てね。いかにも見た目はスマートでいいんですけども、筋肉があまりない。あまり運動してないんじゃない？

(答え) してないです。

(答え) してないです。

(答え) あまりしてない。

(答え) してない。

4人とも、運動してないというからね。でもこれ、子供の時からの生活習慣で、仕方がない。野山を駆け回って、あまりしてないだろう。ファミコンで遊んでいたんだろう。そんなことない？ コンピュータゲームがこれだけ普及して、子供たちは走り回らないし、小学生の子が5、6人で遊びに行き、だれそれ君の家へ遊びに行き、何しよったん？ て聞いたら、みんなでコンピュータゲームしよった。1人がしよる時は？ 皆で見よった、や言うてね、それが子供の遊びらしいですけど、このままでいったら、どうなるかなという気がいたしますね。

## ⑦食生活のヒント

食物繊維の多い食品は、こんなのがあります。皆さん、一緒に読んでみます。ひじき、わかめ、こんぶ、きくらげ、しいたけ、納豆、さつまいも、ごぼう、とうもろこし。こんな感じが良いんですね。

大事なことは、1日30品目を食べましょうということですね。脂肪を減らしましょう。大豆が良いですよ。主食はご飯が良いですよ。食塩は減らしましょう。

なお6つ切りのパン1枚というのは160カロリーなんです。ご飯一杯も160カロリー。ご飯一杯のカロリーと、パン1枚と、一緒なんです。びっくりでしょう。パンで意外とカロリーがあるんだ。お薦めはやっぱりご飯ですね。腹もちが良いし、ご飯にはちょっと蛋白質もあるし、腹の満腹感もあるから、パンよりもご飯のほうが良いと思います。

朝食はしっかりということですね。ゆっくりとよく噛んで。もし太りたい人があったら、夜10時か11時に食べて寝てください。喰うて寝ると、一発にコレステロールが上がって、一発に健康を害します。夜遅く食べて寝ると、すぐに体の調子が悪くなります。太ります。

朝早く起きて、朝食をしっかり食べている人は、なかなか太れないの。僕はスポーツ選手で、1年中、鍛えておりますね。僕の友達なんか、ボディビルダーみたいなのがおましてね、どんな生活をしているかといったら、朝早く起きて、ちょっとトレーニングして、焼肉やら、油を燃やしてしまった焼肉ね。蛋白質をたらふく食べるんですよ。それで昼ちょっと食べて、夕方トレーニングして、夜はどんなんですかと聞いたら、蛋白質とって、あとは牛乳とサラダと、それぐらいですと。夕方の6時か7時に、サラダと牛乳と、ちょっと蛋白質とって、早く寝るとか。そして朝起きて、午前中にトレーニングして、焼肉を朝から食べる。そういうようなことをすると、筋肉はもりもりになります。そして皮下脂肪が燃えてきます。ということで、朝ご飯をしっかり食べるのが大事なんですね。

僕自身は、皆さんに偉そうにね、朝食べなさいと言ってるが、僕、忙しい人間で、朝方人間で、朝の5時か6時に起きて、すぐに家を飛び出して行って、コンピューターで文字を打ったり、いろいろな医学の仕事をしております。ですから家内が心配してくれるんですね。女房の心配、妻の愛情なんですけどね、「朝抜きは体に毒よと 布団から」(笑い) このように心配してくれております。

ちょっと明るくしてみてください。何がポイントか。

コレステロールというのは油分ですけれども、体に増えたらなぜ困るか。動脈硬化が硬くなって、詰ってくる。頭の血管が詰りかけて、ボンと詰ったら脳卒中ですね。心臓の血管が詰りかけて、痛

いというのは狭心症。心臓の血管がポコッと詰まったら心筋梗塞で、命にかかります。ということで、油はなぜ困るかといったら、動脈硬化が進んで、病気が多くなるからです。

もう1つは、皆さんに食生活を聞きましたけどね、皆さん考えてみましょう、自分の食べている食生活ね。本当においしいものは油が多い。油が多いものがおいしい。どうしても、そういう食生活に馴れてしまったら、なかなか元へ戻れないということで、だんだんこれはひどくなりますよ。食べるのは仕方ないし、その分は運動で燃やしてください。燃やすしかないです、運動してね。

僕は本当に若者たちの健康を案じているんです。この何十年か見てね。いかにも見た目はスマートでいいんですけども、筋肉があまりない。あまり運動してないんじゃない？

(答え) してないです。

(答え) してないです。

(答え) あまりしてない。

(答え) してない。

4人とも、運動してないというからね。でもこれ、子供の時から生活習慣で、仕方がない。野山を駆け回るって、あまりしてないだろう。ファミコンで遊んでいただろう。そんなことない？ コンピュータゲームがこれだけ普及して、子供たちは走り回らないし、小学生の子が5、6人で遊びに行くと、だれそれ君の家へ遊びに行くと、何しよったん？ て聞いたら、みんなでコンピュータゲームしよった。1人がしよる時は？ 皆で見よった、や言うてね、それが子供の遊びらしいですけど、このままでいったら、どうなるかなという気がいたしますね。

## ⑧阿波尾鶏の薦め

さて、牛と豚と鶏の肉には100g中に油がどれくらい入っているのでしょうか。なんと、おいしい肉と言われるロース、牛のロースは100gの中に油が30g入っていますよ。油ばかり。豚は25。鶏の場合は胸肉に相当しますけど12.3ですね。ヒレの部分で比べたら、それぞれ15.7、4.5、0.5、これ見てください。鶏のささみというのは100gの中に油がたった0.5gしかない。

ということでね、私のお薦め、鶏のささみを食べましょう。たった0.5gと油が少ないですよ。蛋白質があります。もしも牛のロースとか人にいただいた時に、食べたら病気になります。僕に送ってください。(笑い) 私が代わりに食べてあげますのでね。(笑い) 牛のロースなんか食べないようにしてくださいね。

もも肉は、確かに多いような気がするけど、もも肉って、油があっておいしいよな。油があっておいしいのは、これぐらいだわ。鳥のもも肉で、油がぎとぎとしととってもこれぐらい。牛のロースはこれだけです。ということで、お薦めはささみ。

鳥はいろいろありますけれども、こういう鳥がおるんですね。これ、どこの鳥か知ってますか。どなたか知ってる？ 特別な鳥です。

これは阿波尾鶏です。徳島の地鳥・阿波尾鶏なんですけれども、地鳥とホワイトロックを掛け合わせでつくったのが阿波尾鶏と、こうなっておりますこれが阿波尾鶏ですね。名前が良いでしょう。阿波でできた、尾がピンと立ってね、阿波尾鶏なんです。これ非常においしくて、油が少なく、栄養価が高いと言われております。

私が阿波尾鶏です。徳島新聞の1面広告に出ましたね。すっぴん徳島ですけれども、これ阿波尾鶏です。

阿波尾鶏というのはね、なんと頭がいいんですよ。これ本四架橋の橋ですけれどもね、橋をバックに写真撮るからじっとおれ、と言うたら、じっとおるんですね。(笑い) ごつう頭いいんです。

いろいろ分析しますと、地鳥A、名古屋コーチンとかに比べて、いろんなアスパラギン酸、グルタミン酸、アミノ酸が多いということで、栄養価は高いんです。

そして油は少ない。阿波尾鶏の肉、胸肉は、から揚げ、かつ。もも肉は、照り焼きとローストチキン、ささみは、サラダ、和え物などに使うことができます。なんと出ましたね、阿波尾鶏、とうとう全国一になりました、ということですね。名古屋コーチンを抜きました。

全国ブランドの地鳥ベスト3。名古屋コーチンは大体こんな感じですね。さつまはこんな感じ。なんと阿波尾鶏、県の畜産試験場が頑張ってるね、ずっと増やして、ここから爆発的に増えてきましたね。

阿波尾鶏のセットがあるんですよ。そぼろと足と何やらとでセットになってて、4,000~5,000円のセットがあります。ファックスで送ってよといって、東京の知り合いの人に送ったら、ものすごく喜んでくれました。

料理ですけれども、いろんなアラカルトを作ることができまして、そのうちの1つを示します。

このように、とりわさ、こういうふうな料理もできます。

阿波尾鶏のプロバンス風、こんな料理ができます。

阿波尾鶏のけんちんですね、できます。

いろんな料理に使えますのでね、今後は牛とか豚でなくて鳥を食べてください。

阿波尾鶏、徳島には同じ呼び名の阿波踊りもありますので、徳島に来た時は阿波踊りを踊って楽しむ、阿波尾鶏を食べて楽しむ、ということですのでしてください。

結論はこうですねく地鳥を超えた阿波尾鶏 えらいやっちゃ えらいやっちゃ 食べなきゃ損々>(笑い)これが結論であります。提供は徳島県阿波尾鶏ブランド確立対策協議会ですね。県庁の中にあります。電話が621-2417でございますので、一度ご用命いただけたらと思いますね。

## ⑨音楽療法

それでは引き続いて、音楽関係の話をしたいと思います。それでは暗くしていただけますか。スタートしてください。

音楽というのはね、神様からいただいた最大の贈り物であります。

さて皆さん、ドレミ知ってるけどね、ドレミだれが作ったかといったら、なんと直角三角形の定理を見つけたピタゴラスなんですよ。糸をピンと張りまして、糸の長さを1対2にするとね、ドとド。糸の長さを2対3はドとソ。3対4はドとファ。4対5はドとミ、となったんですね。不思議ですね。

ピタゴラスはね、音楽家でありました。彼いわく、「天空の宇宙には妙なる音楽が絶えず流れている。普通の人には聞こえない。でもその人の心がきれいで浄化されていればね、宇宙の音楽が聞こえる」と言うんですね。

皆さん宇宙の音楽、聞こえますか。ちょっと聞いてみましょうか。どうですか。

(答え) 聞こえます。

(板東) 聞こえる？ やはりお坊さまですね。聞こえるんだそうです。

どうですか。

(答え) いや、聞こえないです。

(板東) 聞こえないですか。ということは、心があまりきれいでないんかも分らんね。どうですか。

(答え) ちょっと高血圧気味で、耳鳴りが聞こえるぐらいです。(笑い)

(板東) 時々聞こえるんですね。

さあ、若者に聞いてみましょうか。皆さんの中で、宇宙の音楽、時々聞こえる方いますか。だれもないの？ 心がきれいでないんですね。もっと世の中のため、人のために尽さないといかんですよ。

ですからね、聞こえない人は、ちょっと反省してみてください。心がきれいでないんだと。

先ほどのお坊さんみたいにね、聞こえる人、あれは悟りの開けている方なんですけれどもね、皆さんの中で、聞こえる方は、是非とも精神科に診てもらってください。(笑い)

さて、哲学者のアリストテレス、有名なソクラテス、プラトンの流れをくむ人ですね。彼いわく心の浄化ということなんです。鬱積した感情や葛藤、皆さんあります、心の中に。

たとえば、悲劇なかわいそうな映画を見に行ったらとします。泣いて泣いてします。でも、泣いて泣いてして映画館から出てきたら、どんな気分ですか。

(答え) ちょっと、すぐだと、余韻が残っています。

(答え) ちょっと入り込んでいますね。

(答え) すぐ元に戻る。

(答え) お茶でも飲みながら、ちょっと考えています。

いろいろ反応があります。悲しい時は思い切り泣いて、そのあと映画館を出てきたら、すっきりしたりね、する感じがすると思うんですよ。ということでね、泣きたい時は泣きなさい、嬉しい時ははしゃぎなさいということね、アリストテレスは言いました。そうすれば心が軽くなって、心の健康に良いですよと言ったんですね。

この2つを比べてみます。ピタゴラスというのは、どちらかといえば仏教的ですね。お坊さま的。心頭滅却すれば火もまた涼し、という感じで、そしたら心の調和がとれますと言うたんです。

一方、アリストテレスは、心と同じように振る舞いなさい。悲しい時は泣きなさい。嬉しい時ははしゃぎなさい。これがあとの音楽に言われる同質の原理、同じ質の原理というのに繋がってきます。

ルネッサンスのころ、ダビデという像があるんですけどもね、英語でデイビッドといいますね。このような素晴らしい像も残っておりまして、ダビデはどういう人であったか。

ダビデは音楽家でありまして、このように琴を演奏しました。義理のお父さんが鬱病で、ふさぎこんでいたのを、琴の音色で治しました。

また勇敢な戦士で、3mの大男を相手に戦ったわけですね。これ、手塚治虫先生の漫画です。

このように、石にヒモを付けて、ブルンブルンとして、眉間に命中させて、やっつけたわけです。

さて次、話は中国に移ります。巫女をお母さんとして生まれた孔子様は、幼いころから礼楽を非常に好みました。ママゴトをする時にも、ちゃんと礼節をわきまえてしたということなんです。

聞いてみましょうか、ここの女性にね。ママゴトをする時、どうしていましたか。このように礼式をととのえて行いましたか、どうですか。

(答え) したことないです。

(板東) したことなかったから、今ようになってしまったんですね。(笑い)

どうですか。こちらはママゴトの時。

(答え) ママゴトをする時ですか。礼節。それはなかったと思いますね。両親の真似をしていたんでしょうかね。

(板東) よく分かりました。

孔子様はね、琴の名手だったんですよ。それでこういうことがありました。招かざる客が孔子様の家に訪ねてきて、孔子様いらっしゃいますかと。そしたら、お弟子さんに、ちょっと居留守つかってこいと。それで、いま孔子様いらっしゃいません。そうですか。それではまた、と言ってね、帰りしなにね、孔子様、奥の部屋で、ポロンポロンとものすごく上手な琴を弾いたんですね。そしたらお客さんに分かる。あ、居留守をつかわれたんだと。ここに来たらダメなのだと、そういうようなエピソードがあったそうです。

日本で、次は。日本の音楽療法の古事記なんです。天の岩戸伝説って、天照大神様が、須佐之男命の乱暴狼籍に心を痛めて身を隠したら、世界は闇になりました。

皆さん、この闇という字、見えますか。門がまえの中に何と書いてる？ 音と書いてあるね。光と書いてないでしょう。闇というのはね、光もないし音もない。人間は、ほら穴で生活させたらね、真っ暗でも生きていけるんです。ところが音を吸収する、音がない無音の部屋に入れられると、しばらくすると人間、発狂してくるんですよ。

ですから、サウンド、きれいな音もあるし、ノイズ、邪魔な音もあります。でもサウンドもノイズも、人間にとっては要るんです。

音楽療法の効果っていろいろありましてね、まずよく使うのが、不安とか怒りの解消に使われまして、「主よ人の望みと喜びを」(ピアノ演奏) また、沈痛効果で「乙女の祈り」(ピアノ演奏) また、ストレス解消にはシューマンの「トロイメライ」というのが有名であります。(ピアノ演奏)

このようにいろんな効果があって、音楽というのは、体と心に影響して、病気を癒して健康を増進すると言われております。

音楽療法の対象にはね、医療現場、高齢者、健常人、医療福祉、いろいろあります。健常人の場合はですね、医療現場、高齢者、健常人、医療福祉、いろいろあります。健常人の場合はですね、メンタルケア、ヘルスケアとして、最近いろいろ使われております。皆さん、好きな音楽聞いたら気持ちいいですね。それでいいんですよ。人に応じて好きな音楽を使ってください。

医療現場では、神経科とか、不眠症にも使われます。手術前後の不安解消にも使われたり、いろいろしますね。

よくあるのがこれ。皆さん、歯医者に行ったら、絶対BGMがかかっているはずなんです。なぜか分かりますか。ギーギーガーガーという、聞きたくない音がありますね。あの音を隠すためにマスクする。マスク効果のためにBGMが必ず流れております。ということで、邪魔な音を消すために、音を使うわけですね。

皆さん、家へ帰ったらね、家の人が夜うるさい人がおりますね。奥さんがうるさい。黙ってお

てほしいけど、うるさい。そんな時、仕方ないから音楽をかけたらどうですかね。

(板東) 家へ帰ったらどうですか。

(答え) 私は一人だから。(笑い)

(板東) うるさい人、おりませんか。

(答え) そういえば、主人が毎日、私が起きるとクラシックが鳴っているので、分かりました。(笑い)

(板東) そうですね。よく分かりました。もう実践されているところがあるんですね。

さて、音楽を聞くというのは、このように気分合った曲から始めましょうということです。

さて、皆さんね、思い出してくださいね。音楽を聞くと、これはあの時、学生の時に、あそこの喫茶店で聞いた曲だとかね、彼がおった時の曲だと思ひ出すでしょう。音楽の記憶は、情景と記憶と、くっついているの。

それで思い出してくださいね。彼氏とか彼女にね、振られてしまって非常に悲しい時に、元気になろうと思って、元気な曲を聞く気がするかですね。彼氏、彼女に振られて、ふさぎこんでいる時に、水前寺清子の365歩のマーチ、聞く気しますか。しないでしょ。(笑い)

その時はね、やっぱり美空ひばりが歌っていた「悲しい酒」ですか。あれでも聞きながら、日本酒をちびりちびりと飲むと。それが日本人に合っています。

ワンショットバーへ行ってね、カクテルを飲むのもいいけども、ちょっと日本人に合わんかなという気もしますね。

ということで、同じ質の原理、悲しい時には美しい、心を癒すような音楽を聞きましょう。楽しい時には行進曲でもいいわ。聞きましょう。

パチンコ屋へ行ったら、行進曲かかっているでしょう。パチンコ屋へ行って、葬送行進曲かかっていたら、何か余り気分、盛りあがってこないかも知れませんね。

小学校の運動会の時は、ちゃんと、クシクシポスト、ちょっと言えないけどね、あれ難しいですね。クシクシポストでね。ピアノ挫折した人、たくさんいるんですね。(ピアノ演奏) これですね。この曲、難しくて、小学生に弾けない。これで、よく挫折する人おりますので、お気をつけてください。

さて、私は、音楽の友社から、こういうふうな楽譜集を出しております。12ヵ月で12曲、入っております、そのうちで「背くらべ」というのがありまして、中山晋平作曲、板東浩編曲と書いていますね、この旋律は(ピアノ演奏)最初の8小節、僕が作ったんですよ、前奏ね。

(ピアノ演奏) これ、どないして作ったと思います? 実はね、楽譜を逆さまにしますとね、(ピアノ演奏) このようになってんんですね。このような、楽譜を逆さまにしてするという、いろんなものもあります。

これ、ベートーベンとかバッハとか、いろいろやっております。ベートーベンはおもしろくない相手がおった時に、くそくらえと言ってね、相手が持ってきた楽譜を逆さまにして、バツと即興演奏を弾いたそうなんです。相手、びっくりしたということですからけれども。

## ⑩感情とは?

さて、ここでちょっと難しい話します。人間の感情です。皆さんの心の中には3つのレベルがあります。根底にあるのは情動。本能的な心の動きで、獣にもありまして、恐れとか、憎しみ、喜びを感じます。これは、犬と一緒にですからね、犬に餌をやったら喜びますね。自分より強い犬が横にきたら、怯えて恐れます。これは情動です。

この情動をうまいこと自分でコントロールできるのが情緒です。情緒がある人とか、情緒がない人とか言われますね。うまいことコントロールできるか。これは、幼児期に発達する。

次にある人間にしかないものは感性です。心が動かされる。素晴らしいな、美しいなと感じる心、これが感性。英語でいえばmove、動かす。I am moved. 私は動かされた。それが、私は感動したと。え？ ムーブって、何で感動って言葉があるんだろうと、僕も不思議に思ったことがあるんですけど、ムーブというのは心が動かされるということがあります。

その感性豊かな心はね、いつ育つか。これは子供の時なんです。きょう後ろに来られている年配の方々ね、もうこの方には、ちょっと今から感性豊かな心になれといっても、ちょっと無理かも分らないですね。もう時すでに遅い。(笑い) 皆さん無理だから、皆さんの子供とお孫さんに期待したいと思います。感性豊かな心は子供、小学校1年、2年、3年ぐらいの時に、お母さんから伝わるものなの。

具体例、上げましょうか。お母さんが花子ちゃん、子供さんを公園に連れていきます。公園の隅に小っちゃな花があるのね。お母さんが、「花子ちゃん、この花ってきれいね」って言えば、子供に伝わるの。「花子ちゃん、この花はきれいと感じなさい」と言うて、覚えるものでないでしょう。

あの雲って、お羊さんみたいねってお母さんが言えば、子供に伝わるんですよ。その時にお母さんが、例えば商売している。ロータリー関係ね、商売している方が多いですけれども、お母さんが子供さんに、「花子ちゃん、この花、花屋だったら100円やな」と言ったら、いつまでたっても子供の感性は育ちません。

ちょっとロータリーの方々に聞いてみようかな。感性豊かに育ったかどうか、聞いてみましょうか。どうですか。

(答え) どうでしょうね。分からないですね。

(板東) 悟っていますね。どうですか。

(答え) 自分では、何も分からないですね。

(答え) 商売的な感性は、良いと思いますけど。(笑い)

(答え) 感性だらけ。(笑い)

そのようなね、感性豊かに育った子供はね、音楽を聞いても、素敵だなと感じられるし、絵を見ても素晴らしいと感じられる。

小学校の同級生にね、ハンディキャップのある子がおったりするでしょう。そしたら、おかわいそうにね、お気の毒にねって言うふう感じてね、絶対いじめてやろうとか、悪さをしてやろうとかね、そんなことは子供、感じません。

ということで、やはり子供の時に感性をいかに育てるかということで、やっぱりその子の将来が決まってきます。とういうことで、皆さん感性ということをね、大切に感じてください。

若者たち、みんな考えてよ。皆さんの心はね、情動、恐れ、憎しみ、喜び、ご飯食べたら嬉しいやいうて思うのはね、獣でも一緒ですから、その嬉しい、悲しみ、憎しみ、それをうまいことコン

トロールできるのが、皆さんの情緒ですよ。うまいこと心を自分でコントロールするわけだ。ここで怒ってはいけない、ここは気持を押さえようとか。

その上に、人間は感性がありますから、これは芸術の域。真、善、美を感じる心はその上にあります。ということでね、皆さんも本を読んだり、いろいろな経験、体験をしていく上で、これをちょっと分かっておっていただけたらありがたいね。

さて、音楽療法というのはね、心と似た音楽を聞きましょうということです。それでね、心が和んだら、音楽を変えていったらいいと思います。

ここでお勧めなのはカラオケなんです。カラオケは日本人がつくった最高の音楽の文化ですね。ストレス解消にもってこい。

ここで歌の順番のお勧めがあります。恨みの演歌、艶っぽい演歌、演劇の演歌、この順番にいつてほしいですよ。

理由はなぜかといいましたらね、常に皆さん方、心にね、恨み、つらみがあります。だからまず恨みの演歌から入るわけですね。何かもう全然給料が上がらんとかね、うちの母ちゃん、いつまでたってもきれいなえへんとかね。どうですか、どういう恨み、つらみが、いつもありますか。

(答え) やっぱり商売のことですかね。

(答え) 同じですね。

(答え) 商売ですね。

(答え) あまり恨みありません。

まあ、いろいろ悩むことがあると思います。まず恨みの演歌から入って、気分が盛り上がったら、艶っぽい演歌。最後は演劇の演歌ということで、使っていただけたらと思います。最初から終わりまで、課長さんが「昭和枯れすすき」を歌っておる人おりますけどね、気分、盛り上がりませんのでね、変えていってください。

## ⑪ピアノで長生き

ピアノを演奏する人は、長生きすると言われております。なぜか。その理由が医学的に分かっているんですね。脳のジョギングのためである。指を動かして、楽譜を目で読んで、指を動かして、口を動かして歌うとかね、脳の60%の面積が動いているということです。

これは、皆さんの頭の大脳なんですけれども、支配している部分が決まっております。脳をこのように輪切りにすると、皆さんの大きな足は、脳ではこんな小さな面積。女性の大きなお尻でも、面積こんなですよ。小さいでしょう。手のひらは実際こんなに小さいけれども、脳ではこれぐらい面積が広がっていますね。顔がこれだけある。広い。これが唇があって、舌がある。

さて人間は、動物とどこが違うか。覚えていますか、人間が動物と違うところ。道具が使える。手を使うということです。手を使うから、手の領域がこれだけの面積を占めている。

もう1つは、手を使う、火を使うね。それと言葉を話すから、唇がこれだけあって、舌がこれだけありますね。広いですね。

人間、もう1つあるんです。実はね、顔の表情。顔の表情って、先ほどの感性とか、心の動きを微妙に表現するのが人間の顔ですよ。なかなか、恥ずかしい顔したり、嬉しそう顔したり、はにか

んだり、いろいろあるでしょう。人間しかできんよね。

皆さんの家のペットで、犬、猫で、恥ずかしそうな顔をする犬とかおられますか。おらんでしょう。人間の顔はね、何十も筋肉があって細かい表情ができるんです。これだけ面積が広い。

人間は、だから手を使うために面積が広い。顔の表情で面積が広い。しゃべるために面積が広い。こうなっています。

脳の指令と、支配される筋肉の間の広さの割合を絵で書くと、このようになりますね。手が大きいということです。大きいお尻は小さいですね。お尻って、あまり必要じゃないからね。

## ⑩ショパンのエピソード

ショパンの生涯。ショパンの生まれた家は、こういうところなんですね。

お父さん、お母さん、ショパンが有名になったから、お父さん、お母さんも本に載ることができました。皆さんの子供さんも有名になったら載るんですよ。

子供の時のショパンですけれども、頭が良いのは当たり前です。それで普通の学校へ行かせたけれども、14歳で既に有名になってしまった。

長女と次女、女性に囲まれて、女性っぽい、エレガントな、感性豊かな家庭で育ったわけです。

結核で妹が死んでしまったんですけれども、ショパンはいつも死の影、命があるかどうか、不安の中で生きましたね。妹は、結核で咯血した。ショパンも結局のところは、結核で命を落とします。

その時の音楽学校は、宮殿なんですね。こういうところでショパンは勉強いたしました。

ここで皆さんに言いたい。ショパンは頭が良いのは当たり前、音楽できるの当たり前です。新聞を作って発行するんですが、文学の才能がすごかった。また漫画を書くのも上手であった。また即興の劇で笑わすのも上手であって、もし俳優になっていたら、必ず名優になったと言われています。このようにショパンというのは、感性が優れていたから、絵も、文学も、音楽も、何もかもできたわけです。



ショパンが書いた漫画です。学校の先生を、おもしろおかしく皮肉って書いた漫画です。

青春の時に恋をしました。オペラ座の歌手のコンスタンチアです。

それで友達が、愛しているのかいって言うと、「そう、愛しているんだ。しかし、半年、一言も口をきくことができないんだ。」

その時に作ったワルツがこれです。(ピアノ演奏)

青春時代ですけれども、ポーランドは戦争で攻め込まれて大変な時代でした。それでショパンは、その国のトップの芸術家だったので、トップのいろんな革命家とか文化人と交際しておったんですね。それで、ショパンは絶対、革命で殺してはならないとのことで、いろいろクーデターが起こる前に、国外に逃がしたわけです。絶対、助けようということですね。

助けたのはこの指導者。この指導者のお陰で、ショパンは死ぬことなくフランスにおりました。

それで、この話は「虹のプレリュード」という手塚治虫先生の漫画に載っております。「虹のプレリュード」これショパンですね。時は19世紀。ロシアはポーランド侵略をねらっていた。激動の時代を背景に、恋に、芸術に、そして祖国への愛に命を燃やす若き芸術家たち。手塚治虫漫画全集、講談社、580円になっておりますので、「虹のプレリュード」ね、良かったら買ってあげてください。

この中を見ますと、ポーランドの首都のワルシャワが陥落したというニュースです。ロシア軍がワルシャワを占領した。

ポーランドが降伏したというニュースを聞いてショパンがね、僕の国はどうなったんだろうかと言って、嘆き悲しんでおります。

その時に作ったのが、この「革命」という曲なんです。これは「柔道一直線」で近藤正臣が弾いていました。なんとこの曲をね、近藤正臣が足の指で弾くんです。 (ピアノ演奏)

このようにしてできたのが、ショパンのエチュード「革命」です。

## ⑩ ストレスとは

ストレスというのはどんなことか。ストレスというのはこのようにね、心にストレスがかかる。金網を使った拘束で、先ほど出た情動、嬉しいとか、苦しいとか、怒るとか、情動と体のストレス、これがストレスなんです。

ネズミがこのように金網に閉じ込められますと、泣き声、もがき、脱糞、排尿、体重減少、動けない、身体が痛い、息がしにくい、こういうのが出てきますね。これがストレスになります。

さて、ストレスというのは、体にとって必要です。多過ぎても駄目だし、少な過ぎても駄目。

私、前にオーストラリアに行ったことがあるんですよ。医学会で行って、向こうのお医者さんと話して、オーストラリアの人は、皆さんのんびりしているんですよ。シドニー湾にヨットを浮かべて、バカンスを楽しむというんですね。

話を聞いた。ヨットでどない楽しむんですか。シドニー湾に自分のヨットに乗って、朝乗るんです。そしてどないするんですか。1日中ずっとおるんですというんですね。聞いたら1週間ずっとおるというんですね。1週間中ヨットの上でプカプカとシドニー湾に浮かんでおると言うのね。

話を聞いて、私びっくりしてね、もし僕だったら、1時間もおったら、もうじっとおれんと思うんですけど、皆さんどうですか。人によって違うと思うんです。釣りが好きな人ね、ゆっくり待っている人もおるし待てない人もおります。

ストレスがないという状況は、いろんな状況があるけども、皆さんが休みもらって、ボートと船の上で、1日おれるか、おれないか。あまりストレスがなくなったら、人間ちょっと退屈で、それもストレスですね。適度なストレスがあるからいいんです、人間は。

ストレスですね、「愚痴を聞く 家の愛犬 胃潰瘍」このように、皆さんが愚痴を言ったら、家におる犬まで胃潰瘍になってくるかも分かりません。胃潰瘍は、大体ストレスです、ほとんどね。イライラしたり、腹立つことで、胃潰瘍になります。

ストレス、この前、新聞を読んでみますと、お嫁ゴリラ、激やせ、夫が浮気、くやしくて、さびしくて、体重が103kgあったのが、60kgまで落ちてしまいました。ストレスによって自分の左の手

の小指を噛み切ってしまったりしましたね。結局、このゴリラ、助からなかったんですけども、こういうストレスがかかってきます。

僕はエッセーも書いたりしておりますね、「ドクターBの魔法の箱」ということで、いろいろ書きますけども、病む胃ですね。

病む胃ということで、大体、胃が病んだら、ストレスで病気になることが多いですよ、最近ね。

「街の灯がゆらぐ夜景を見ながら、美女とカクテルグラスを傾ける。どんな辛口でも、蜜のような甘い味がして、ついつい度を越してしまう。私などは精神の働きが弱いということだろうか。」お酒も上手に使ってほしいと思います。

さて、ストレスといえばこれですね。アメリカの大統領クリントンですけどもモニカ・ルインスキーさんの事件で、えらい目にありましたね。この事件で使った税金、知っていますか。日本円にして50億円ぐらいですよ。50億円。

もったいないと思うな。そんなお金をね、本当のことを言うたとか、言わんとかどうでもいいと思うんだけど、もっと大事なことにお金を使ってほしいと思いますけども、50億円、使ってしまった。

モニカ・ルインスキーさんは、チャイルド・ウーマンと書いています。チャイルド・ウーマンで何だろうか。

チャイルド・ウーマン、告白本の中で、モニカはチャイルド・ウーマンと表現される。性的に大人でも、問題がこじれると一人で解決できない、未熟な女性の意味である、ということなんですね。チャイルド・ウーマン。

皆さん、どうですかね。若者ね。精神的に未熟であったらチャイルド・ウーマンですよ。年齢とともに、いろいろな本も読んで、いろんな体験もして、成長して行ってほしいと思います。

さて、ルインスキーさんいわく、大統領に申しわけないと思っていると言っております。皆さん、実は、これは真っ赤な嘘です。絶対、申しわけないと思っていないですよ。モニカ・ルインスキーさん、絶対、気になんかしてない。

どうして分かりますか。モニカ・ルインスキーの名前を見たら分かるんですよ。名前を見たら、絶対、気にしてないということが分かります。

モニカ・ルインスキーさんの名前を並べ変えますと、キニスルモンカイ。気にするもんかい。(笑い) このようになるんですね。やはり名は体を表わすといえますので、こういうことなんですね。

アメリカはモニカ・ルインスキーさんがおるでしょう。日本で有名な人と思ったら松田聖子がおりますね。郷ひろみとあって、神田正輝といろいろあったんだけど、なかなか良い妻となれません。なぜか分かりますか。マツダセイコ、セコイツマダ。(笑い) せこい妻だ。こうなるんですね。

それでね、松田聖子とお付き合いした郷ひろみも、やっぱり駄目なんです。なかなか良い相手が見つからん。ちょっとライトつけてください。皆さん、郷ひろみを並べ変えて考えてみよう。郷ひろみも名前が悪い。だから、良い彼女が見つからんのは、名前が悪いせいなんですね。ゴミヒロウとか、ヒロウゴミとかになります。やっぱり名前が悪いからね、仕方がない。

もう1回暗くして、次のスライドにいきます。

大事なことはリラックスなんですけれども、ストレスに対するリラックス。心も体も力を抜いて、自然に任せて生きる。これが大事ですね。我を張る、頑張る、ガンが張ってきますのでね、あまり

我を張ったら駄目なんですよ。

自己主張も大事だけど、ちゃんと協調性も大事です。

ここで心構えというのが出てきてますね。皆さん一緒に読んでみます。「気は長く、心は丸く、腹立てず、口つつしめば、命長かれ」ということですね。

ここで私、申し上げたい。今までは、口をつつしんでおっいたらいいけど、今後は違います。口は大きく、というのはね、不平不満を言うて、口が大きくではないのよ。今の政治はなっとらんと言うて、文句ばかり言うのでなくてね、今の政治なっとらんのは分かったと。私が総理大臣だったら、今のお金、何千億を、こっちになんば配分して、こっちになんば配分して、このようにして、外交はあかんや言うけど、私が総理大臣だったら、このように折衝してね、こうやると。単に文句を言うんでなくて、自分の意見をちゃんと述べるように、口を大きくしてほしいです。

そのために、ちゃんと勉強せないかんし、もの分かってなかったら、物事しゃべれん。今後は、ただボーッとしているのは駄目。

沈黙は金なりというのは、今までの古い日本です。今後は勉強して、自分の意見をちゃんと人を納得させ、説得させて、自分がこうしたい、ロータリーをこのように動かしたい、自分の会社をこうしたい、この理由はこうです。このようなstrategyでいったら、こうなります。お金、これだけかかります。3ヵ月でこれだけ、6ヵ月でこうなると思いますと、ちゃんと人に言えるぐらいの、口を大きくしてください。

徳島には、瀬戸内寂聴さんがおりますけども、「さようなら世紀末」という本が出ております。去年の8月に出たんです。

これを見ますと、中に出てきます。天戒という天台宗のお坊さまがおります。なんと108歳まで生きたんですね、江戸時代。家康に言葉を贈ったり、家康の葬儀も行った、素晴らしい天戒というお坊さまです。その人が言うております。一緒に読みましょう。

「気は長く、勤めは堅く、色薄く、食細うして、心広かれ」

良い言葉ですね。このように勤めは堅くしましょう。色薄く、これは色気ということでね、男女関係のことですけれども、薄いほうが良いでしょうということを言うております。

さて、日本人の幸せとは何か。どんな時に幸せを感じるかですね。皆さん考えてみましょう。小さなことで幸せを感じられるかどうかだ。不平不満を言わず、たまたま、こんな良い日本に生まれとね、この時代で良かったと思いますけれどもね、大事なことは、比較しないことですね。

自分と他人を見て、1番、容姿を比較しないこと。2番、仕事を比較しないこと。3番、収入を比較しないこと。この3つの原則が大事なんです。この原則に名前が付いているんですよ。知っていますか。「比較3原則」というんです。(笑い)

#### ⑭ロータリアンへメッセージ

良いところに来させていただきましてね、非常に有り難かったんですけども、そのパーティーの終わったあとね、諸先輩方からいろんな教えをいただきました。諸先輩方、準備するのに大変なんです。

若者たちが来てくれるということで、いろいろ準備しております。それで夜は、そのストレスの

解消に酒を飲むんですけれども、酒を飲んだら、人間が変わりますね。あれは仮の姿なんですかね。でも本性が出ているんでしょうか。どっちか分かりませんが、私、いろんなご指導をいただいたわけですね。

それで、若者たちのメッセージもあるけど、ちょっと今から、お世話になっているロータリーの諸先輩方に、ちょっと言葉を贈りたいと思います。

40歳から、どのような人生が良いか。集団的な呪縛から逃れる。時間と、テーマと、見栄と、大きな差、いろいろ出てきますね。建前とかあるんですけどもいかに考えるかになってきます。仕事と家庭なんですけども、仕事もし、家庭も大事。

大事な言葉は、5つの言葉なんです。キーワード。これ、一緒に読んでみましょう。「逃げる、避ける、断る、減らす、止める」

このネガティブな、消去的な、否定的な感じ。自分がチャレンジをしてきた若者の時代もあるし、40代からは落ち着いた。その時に、ここがキーワードなんですけれどもね、どのパーセントまで、これを入れるか。どこまでチャレンジするか、どこまで逃げるか。人それぞれによって違うと思うんですね。そこをうまく、バランスよく考えておいていただけたらと思います。

7つの習慣がありますけれども、コビという人が作った本なんです。どんな7つの習慣か。なんと、ビル・クリントンが推薦しております。クリントンが推薦しているぐらいだから、男女間のことに関しては、ダメかもしれませんが、すべての従業員がこの本を読めば、劇的に生産性が上がるだろう、そういうことなんです。

7つの習慣、ちょっと難しいことで、ごめんなさいね。自分の主体性を発揮しながら、目的をもって始める。(テープ切れ)

皆様の仕事で大切なこと。ウイン、ウインを考える。これが大事なんです。ウイン、ウイン。自分がこうしてほしい。相手との交渉、相手も満足する。自分だけ満足して、相手がルーズだったら駄目なんです。自分はウインで、相手ルーズ駄目。私もウイン、相手もウイン。

私は100勝つ、私は100%満足するんじゃない駄目なんです。私は8割で満足する。向こうの人とも交渉して、すり合わせして、あなたも80%ぐらいの満足でまあまあ妥協してくださいよ。そういう話し合いをする。

私も満足、私の会社も利潤が上がるし、お宅の会社も儲けると。その接点を、どこに置いたらいいか。自分だけ良かったらいいんでない。相手も得をさせて、相手も利益、自分も利益、うまいこと、そのすり合わせをするというのが、皆さんの仕事、これからね。

自分も8割満足、周りも8割満足。みんなのために尽すんですけども、いろんな事情が全部違うから、まあ自分も満足、相手も満足。自分もウイン相手もウイン。こういうふうに皆さん仕事をやってほしいですね。

相手に理解してもらってから、やっと自分の言いたいことが理解されるわけであってね、私はこうしたいんだ、あしたいんだいと言うてね、自分の意見ばかり言ったって、相手は受け入れてくれない。もう聞きたくない、もうやめてくれという感じになるからね、相手に理解されてから、詳しい、細かいところは言うのが大事です。

第6、第7の習慣、いろいろありますね。相乗効果を発揮する。第3の案を考える。

この相違点。日本人は没個性。個性があったら駄目やいう人種ですけど、これからのインターナ

ショナルな時代では駄目ですね。みんながいろんな個性があるからこそね、4、5人のグループで、こんな能力もってる人、こんな能力もってる人、一緒に素晴らしい仕事ができるわけでしょう。ということで、相違点があるからこそ尊重し、一緒に参考として良いものが作っていただけるわけですね。

人それぞれ役割も違う、姿、形も、能力も、体の大きさも、全部違う。みんな、それで一緒にやっていくことができますね。

常に自分の刃を磨く。感性を鋭くして、勉強して、知識、技能を身につける。それが自分の勝負できることになりますね。

ポーッとしていたんでは駄目。楽しくできますよ、日本はね、豊かな楽な国ですから、ポーッとしていても生きていける。一生懸命しても生きていける。1年や2年は見たところ全然変われへんのだ、どっちも。努力しても、しなくても、1、2年は全然変わりません。見た目、変わらない。

でも5年、10年たったら、ごつい大きな差が出てきます。全然違ってきます。ということで、自己をちゃんと刃を磨きながら研鑽してほしいと思います。

最後に、ちょっと難しい話しましょうかね。ちょっと笑って終わってほしいですね。

ベニスとベニシリン。きのうね、諸先輩方から、ベニスの話をいろいろ聞きましてですね、早速このスライドを出してきたんですね。

ベニスとは何か。これ動物でいえば尾っぽのことなんですよ。ベニスと日本語で言うけども、英語ではピーナスといいますね。

さて、英語、ラテン語を見ますとですね、ペンというのはペンデレ、垂れ下る。ペンダント、垂れ下るでしょう。ベニシリンの青カビ。ベニシリンは青カビから作ったんだけど、青カビを顕微鏡で見るとね、馬の尾っぽみたいな、ハケみたいな、筆みたいな感じになってる。だからベニシリンというんですよ。ペンシルも、こうでしょう。このように、ピーナスも、ペンダントも、ベニシリンも、ペンシルも、みんな一緒、垂れ下っている。ブランブランしている。

それから、どこかの会社から書類がきた。決定しなさい。いや決定できんなあ。ほなペンディングにしといてくれ。ペンディングという言葉、使いますか。宙ぶらりんにしとってくれ。ペンディングにして、決定を遅らせてください。ペンディング、引き伸ばしにする。ペンディングにしとってくれ。みな同じですね。

さて、20歳からの男性は、60歳までどうなるか。一緒に読んでみましょう。20歳・凜然、30歳・当然、40歳・悄然、50歳・呆然、60歳全然。これが男性なんですね。ちょっと心にグサツときましたかね。(笑い)

さて、この診断と治療はどうか。医学的に難しいですけども、診断は突然になってしまう。突然になると愕然とする。治療はどうするか。相手の女性が良ければ猛然とふるい立つ。依然続ける。断然頑張る。こちらですね。これが医学的な診断と治療になります。

さて、恍惚感について話をしたいと思います。皆さん、エクスタシーを感じたことあると思いますね。エクスタシーという言葉、どういうことか。エックスというのは外に、スタシーというのは置くという意味なんですね。外に置く。自分自身が自分の外に置かれる。ということは、我を忘れるということになりまして、忘我になりますね。これがエクスタシーなんですね。

ちょっとお坊さんに聞いてみましょうかね。どうでしょうか。自分の経験と照らし合わせまして、

どうでしょうか、エクスタシーは。

(答え) どうと言いますと? エクスタシーですか。

(板東) はい。

(答え) 相手も自分も一緒に昇華するということでございます。

素晴らしいお言葉でございました。昇華という、素晴らしい言葉でございましたね。やっぱり真、善、美の芸術論、昇華でございました。

さて、最後に、男と女しか、この世にはおりません。仲むつまじく、楽しくってほしいですね。

さて男女の仲で、大和民族は、あの大事な時にですね、エクスタシーと感じる時は「いく、いく」といいますね。英語では「ゴー、ゴー」となります。

ところがね、欧米人の時は、エクスタシーの時に「イク、イク」と言わないんですね。「カム、カム」と言うんですね。アメリカでは「カミング・ナウ」です。

ですから皆さん将来ね、アメリカの女性と事に及ぶ時はね、「カミング・ナウ」と言うんですよ。「イク、イク」と日本語で言ったら駄目ですよ。(笑い)「カミング・ナウ」「カミング・ナウ」分かりましたか。

ドイツに行った時は、カムはコムトですから「コムト、コムト」と言うんです。ですから、アメリカ人の女性とする時と、ドイツ人の女性とする時はね、言葉、違いますから。覚えてくださいよ。(笑い)

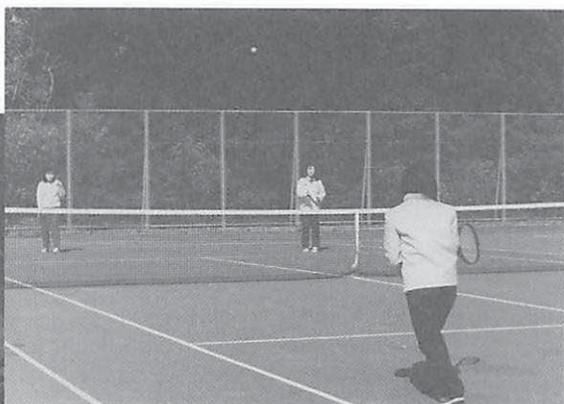
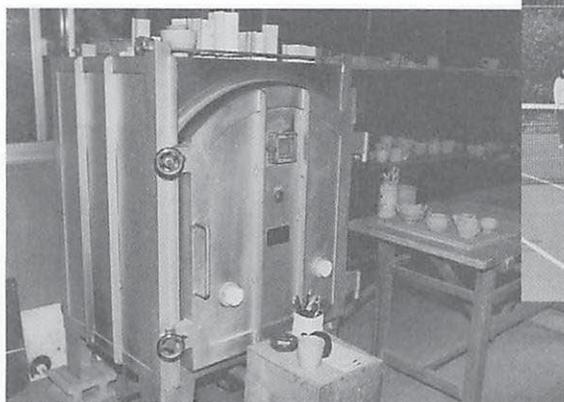
さて、ゴーとカムと、どちらが学問的に正しいのか。イクとカムね。英語で電話してね、はい、私、今からそっちへ行きます。アイルゴーと言いませんね。アイウイルカムと言いますね。どちらが正しいか。

語源的に解析をいたしますとね、コイストなるラテン語というのは、コ、ともにイトス、行くという過去分詞形なんですね。ですから、一緒にいっちゃったというのがコイストというラテン語でありますのでカムというのは間違っております。大和民族の、「イク、イク」というのが正しいのでありますね。

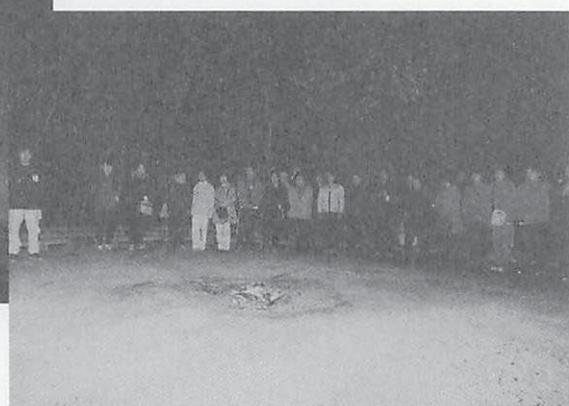
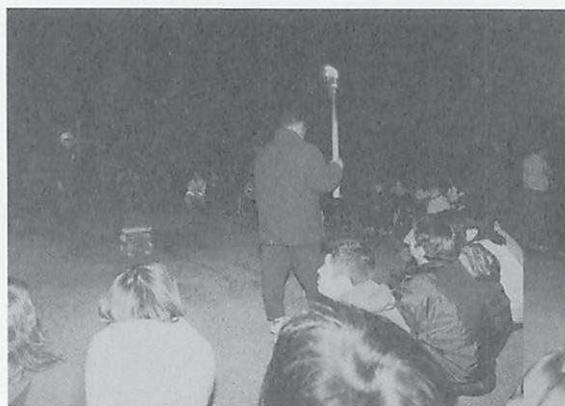
大和民族の優秀性が立証されたところで、きょうの私のお話は、ちょうど12時で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。お世話になりました。(拍手)

ライトつけてください。なお、きょうは、12曲入った楽譜ですけども、このようにCDまで付いております、わずか1,000円です。あと、私、3冊、本を出しております、全部1,000円で、後ろに置いておりますので、1,000円、置いていただいて、持って帰っていただいてもいいし、僕、サインもさせていただきますので、今からよろしく願いいたします。どうも2時間半、お付き合いいただきまして、ありがとうございました。お世話になりました。(拍手)

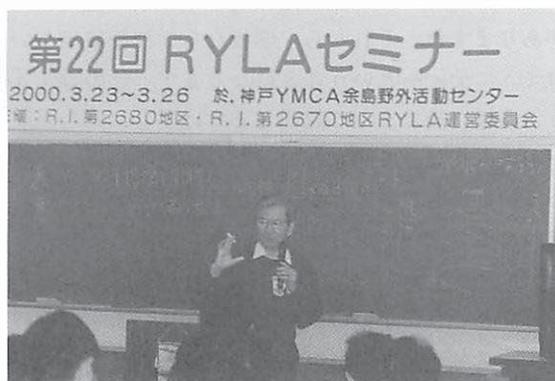
# レクリエーションタイム



# キャンプファイヤー



# 「相手を理解すること コミュニケーションとは何か」



新潟国際情報大学教授

高瀬 昭 治 氏

ご紹介いただきました高瀬です。この美しい自然と海に囲まれた環境のもとで、若い皆さん方や先輩であるロータリアンのすばらしい方々の前でお話をする機会を与您いただき光栄に思っております。

きょうは「相手を理解すること」というテーマでお話しますが、全体のテーマが「つくすこと」と「いやすこと」で、逆に受け身でいえば、つくされること、いやされること、ということですので、そのつくすとか、いやすということの基礎にある人間と人間の関係という問題が、「相手を理解すること」とどう関連しているかについて触れてみたいと思います。

例えば、たった一人で無人島に漂流したロビンソン・クルーソーの場合を考えてみましょう。彼は、その島でいわば自然と自分との対話を繰り返します。と同時に、聖書を読むという形で自分と自分の中にあるものとの対話も繰り返すわけです。

そこにある日、ご承知のように殺されそうになったフライデーという黒人が彼の元に来るわけですね。そこでロビンソン・クルーソーとフライデーという初めて人と人との社会ができてきます。ロビンソン・クルーソーは、そこでフライデーに聖書をもとに神の教えを説くわけです。

この物語は、経済学者によるとイギリスを中心に、いわゆる資本主義社会が生まれようとする時の良質の資本家のモラルというか、生き方というものを体現しているといわれます。すべてセルフ・ヘルプというか、自分で全て自分の生活を築いていく。まさに初期の資本主義を構築していった若いイギリスの資本家魂といえますか、そういうプロテスタントの精神が生きてたというふうに理解されております。

ところで、私たちが人と人との関係でいやしたり、いやされたりするという場合の人と人との関係をもっと一般的な言葉でいうと、私たちは広い意味でのコミュニケーションというふうに呼びます。このコミュニケーションという言葉は、幸か不幸か日本語にまだ翻訳されていないんですね。そのままコミュニケーションというかたかな文字で今、使われています。ということは、コミュニケーションという学問が日本ではまだ新しい研究分野だ、ということの意味します。

それで人と人とのコミュニケーション、ここにAさんがいて、こちらにBさんがいるとします。

AさんとBさんの間に、一番シンプルな形の二人の間のコミュニケーションが成立します。さっきのロビンソン・クルーソーが一人で、自分の中で自分に向けて問い掛けたりする、そういうコミュニケーションもありますけども、普通は最低二人以上の人間がコミュニケーションする。

このAとBの小さい単位を一つのグループだとすれば、このグループ、集団というのはだんだん大きくなっていきます。最小単位は家族というのがありますね。それから、学校なら学校や職場という単位、それがさらに大きくなると地域社会、コミュニティーということになります。このコミュニティーという言葉とコミュニケーションという言葉は、後でまたご説明しますが、同じ語源をもってるんですね。さらにそのコミュニティーが大きくなって国家といたり、あるいは広い意味での地域ということですね。東アジアとか、あるいは東南アジアとか、アフリカとかいう、そういう広い意味での地域もあれば、さらに国家を連ねたインターナショナルという、国際というふうな懸念にまで発展してきます。

人間が社会を作っている以上、さまざまなグループというのがこの地球上には存在します。そのグループが存在するということが、われわれがコミュニケーションということが必要とされるといって、そういう条件を作ってる、というように考えられます。

そのグループの中でのコミュニケーションには、いろんな方法、いろんな道具が使われます。AさんとBさんの間では、普通は「言葉」が道具として使われる。ところが、赤ん坊は言葉を知らない。というと、やはり幼児語、アーとかウーとか、泣くとか、そういう形の道具を使います。この道具だけ考えても、いろんな種類が考えられるわけですね。

われわれ日本人は、日本語を使う。四国の人は四国の言葉を使うし、神戸の人は神戸の言葉を使う。東北の人は東北弁を使うというように、その言葉もかなりバラエティーがあります。

一方、言葉という道具を使えない人もいます。耳が不自由で音が聞こえない人、あるいは、口が不自由で言葉が出ない人、そういう人は手話や点字という道具を使う。

そういうコミュニケーションの道具の中に、19世紀の後半からいろんな機械が入ってきます。電話がそうですが、その電話もご承知のように現在は、携帯電話まで発展してきます。その携帯電話も今では文字通信の道具にもなってますね。言葉と思っていたのが同じ道具を使って文字も使えるというふうになってきます。技術的な道具の面では、大変な進歩があります。技術の進歩によって道具の種類もどんどん発展します。今ではインターネットとか、電子メールといえば、外国の人と簡単に共通の言葉で話せる。共通の言葉というのは、英語ということになりますけども、そういう形式になってきます。

今度は動物と動物の間のコミュニケーションを考えてみましょう。鳴き声とか、あるいは体を動かす、鳥がよく交尾の前のディスプレイというのがありますね。羽を大きく広げたりする。人間でいえば手話みたいな方法で意思をお互いに通じ合う。人間と動物の間でも、われわれは犬に名前を付けて呼んだり、日本語で命令したり、それぞれ言葉を使うわけです。

きのうの夜の講話を聞いていて考えましたが、人間と自然とのコミュニケーション、特にこういう美しい自然の中で生活していれば人間と自然とのコミュニケーションというのも考えられるわけです。自然は、ある種の目的、合理的な成長をしています。自然は主観的な判断をしないといわれます。そこにある木が自分であの人間を脅してあげようとか、あの人間にいたずらをしようとか、あの人間に話し掛けようとかいうことは、木はそういう意思は持ってないと思います。

しかし、自然もあるときには台風となり、あるときには雪を降らせて人間に働きかけてきます。自然が雪を降らせて人間に働きかけてくる。その時人間は、寒ければ暖かい服を着るとか、室内を暖めるというような、その自然の働きに対して、応えるわけです。

雨が降ってくれば、人間は屋根を造って雨宿りの場所にする。オランウータンも雨が降るときには、よくテレビなんかで見ますように、いろんな葉っぱを頭に乗っけて雨を防いでいます。それは雨、自然の力という「作用」に対する人間や動物の側の反応、「反作用」ということになります。これも、広い意味でいえば一つのコミュニケーションというわけですね。AとBとの関係性を保つという意味においてはコミュニケーションになります。

一応、今そういう形で人間と人間とか、動物と動物とか、人間と自然とか、そういう間のコミュニケーションの中で、いくつかの要素が出てきたと思います。

そこで、お手元にお配りしてます資料に目を通していただきたいと思います。

日本語にすればよかったんですけども、外国のいろんな教科書に載ってる資料をそのままコピーしましたけども、そんなに難しいことを書いているわけではありません。これは、コミュニケーションの一番シンプルなフォーミュラー形式を図にしたものです。

先ほど言いましたように、コミュニケーションの基礎には、AからBへの何かの働き、働きというか作用というものがあります。きのうの晩のお話の中で、いわゆるアクション、行動をしなさい、実践しなさいという時のアクションというのがあります。作用というのはまさにアクトです。AからBへ向かってアクトが働く。それに対して、BがAに反応するというのは、リアクトといいますね。

アクトとリアクトのこの相互関係が、それぞれのいろんな形でのコミュニケーションの一番シンプルな形のものだというふうに考えていただければいいかと思います。人につくす、つくされた人がつくされたことに対する何かのリアクトがありますね。嬉しいとか、本当にそうしていただいて良かった、というようなリアクションがあります。コミュニケーションというのは、ですからこういう一種の円環作用で働いていくものですね。AとBの間では、円環作用で動いています。一方通行ではありません。ずーっとぐるぐる回っていく。そういう形になります。

ここで、お手元の資料を見て下さい。一番上に図2.1.1というのがありますが、これはアメリカの政治・コミュニケーション学者ラスウェルが1948年に発表したコミュニケーションのモデル図で、コミュニケーションのいわば過程を構成している各要素を図示したものにほかなりません。図の左のほうから見たら分かりますが、誰が、何を、どんな方法で、どのチャンネルを使って、誰に、何を伝えようとしているか。一番最後のところは何のために、どんな目的、どんな効果を期待してコミュニケーションするのか、ということです。

この5つの要素というのが、普通のコミュニケーション、AからBへあるメッセージが流れていく時の5つの段階を示しています。

AさんがBさんに、私はあした余島のライラに参加しますよということを伝える。これがメッセージの「何を」に当たり、「誰が」はAさんです。それを伝えるチャンネルとしては、口で面と向かって伝えることもできるし、あるいは電話で伝えることもできるし、あるいはパソコンや携帯電話のメールで伝えることもできるし、チャンネル、伝える方法、手段はいろいろあるわけです。

いずれにしても、ここにあげた5つの要素というのがわれわれのコミュニケーションのそれぞれ

の過程を構成する一つひとつの要素になっております。

誰が、何を言おうとしているか、その「誰が」はいわゆる電気通信的にいうと、発信者、信号を送る人です。ここに運ばれるメッセージを受信者といいますね。発信者と受信者との間で、何らかのメッセージが、あるチャンネル、回路を通して往き来します。このチャンネルのことを、メディアとも呼びます。

メディアというのは、日本語ではもっぱらマスメディアのメディアというふうに使われますけども、マスメディアの場合は受信者、受ける人たちがマス、不特定の一般大衆だという形ですね。そこでマスという言葉が付くわけです。

いずれにしても、この5つの条件、要素を考えていただければ、コミュニケーションの基本構造というのが分かるかと思います。人につくす、人をいやすという時も、誰がBさんをいやすのか、いやす時に使うのは何なのか、言葉なのか、遠く離れているから手紙なのか、あるいはそばにいて悲しんでるBさんをじっと肩を抱いてあげるという、そういう一種のボディータッチングのいやす方法もありますね。それは全て道具、メディアの違いだというふうに考えています。

いやす「目的」は、悲しんでる人を、その悲しみを少しでも軽くしてあげたい、悲しみの状態から少しでもBさんに元気になってもらいたい。それが目的です。悩んでいるBさんに対して、Aさんがいやすという行為をすることによって、先のモデルでいえば一番最後のところでどんな「結果」が現れたか。Bさんが悲しみから立ち直って元気になった。そういうことが、成果として出てくるわけです。

普通、コミュニケーションというと何かAさんからBさんへ情報、メッセージがただ流れるというふうに理解し、発信者の目的や意図、また受信者に与えた効果、影響のことが忘れられがちですけども、目的と最後の効果、Bさんが本当にいやされたかどうかという、この効果との相互関係がコミュニケーションにとっては重要です。ただAさんはBさんに、単なる行為を行うのじゃなくて、目的は悲しんでるBさんを慰めてあげたいというか、Bさんに早く立ち直ってほしいという、そういう狙いを持った行為をわれわれやっているわけです。場合によっては、自分を慰めようとしてくれるその人のその気持はありがたい。けども、自分の悲しみはもっと深んだという、そういう効果が残る場合だってあるかもしれません。

次に、一番下の2.1.3図のブラドックのモデルを見てみましょう。

これは、どこが違うかという、ラスウェルのモデルの右にあった目的、効果という要素がコミュニケーションの過程全体にまで及んでいることです。その大きな四角の中に、どんな環境のもとで、何のために、どういう効果を期待して、という要素が並んでいますね。

いずれにせよ、発信者から受信者に向けてメッセージを送る過程というのは、全体がある目的とか、ある効果を期待して行われているということです。そういうふうに考えたほうが、このコミュニケーションの過程はもっと分かりやすいと思います。

私たち人間は置かれている環境とか、さまざまな状況のもとで、さまざまなコミュニケーションを行うわけですね。お腹が空いている時とか、あるいはお金がない時とか、あるいは大変うれしい時とか、あるいは酔っ払って少し気分が高揚している時とか、いろんな環境においてわれわれは、さまざまな違ったコミュニケーションを行うわけです。ですから一般のコミュニケーションの形式としては、この一番下のブラドックのモデルを頭に浮かべておけば、さまざまな状況に対応できる

のではないかと思います。

次に資料を裏返してみてください。その一番下の図は、左右の円の二人がお互いにメッセージを出し合っていて会話している場合の循環型のコミュニケーション・モデルです。

先ほど発信者、受信者と言ったんですけども、AさんがBさんにメッセージを送る。Bさんがそれに対してAさんに応える。そのBさんの応えに対してまたAさんはBさんに質問をする。現実のコミュニケーションというのは、こういう一種の円環ができるわけですね。

いずれにしても、こういうAさんとBさんとの間の相互作用の中でコミュニケーションは成立するんだということです。この相互作用という概念の基礎には、後で触れますけど、人間と人間の共同性という考え方が存在します。共同性という前提のもとで、AさんとBさんの会話も可能になるし、私も皆さん方とコミュニケーションをすることができるという、そういう形が成立してくるんだと思います。

そこで、この図の中で最後にもうちょっと面倒臭いことを一つ付け加えて次のコード、記号という話題に進みたいと思います。それは、この図にあるエンコードとリコードという概念です。これは記号を使って符号にする過程と、それを解読という二つの過程になります。暗号を作るのと解読の過程です。

先ほどのコミュニケーションの過程の中で、チャンネルとか道具とか、回路とかメディアという言葉を使いましたね。われわれはいろんな道具を使うわけです。

一番普通にコミュニケーションする場合に使う道具は、言葉ですね。この言葉の他には、文字を使う場合もありますね。それから耳の不自由な人には手話を使います。インターネットとか電子メールというのは、何か最新式の技術のように聞こえますけども、あれも基本的には文字を基準にしているわけです。

文字は英語であったり、日本語であったり、フランス語であったり、ドイツ語であったりするわけですけども、文字を運ぶ手段が電子的な手段という形になりますけども、普通、コミュニケーションで使う道具というのは言葉が一番大きいと思います。

また人類の歴史の中でわれわれが文字を持つのはごく新しく、せいぜい2000年ぐらい前からしか文字を持ちません。その前の人類の200万年ぐらいの歴史の中で、人類は文字を持たずに、もっぱら言葉を通して相互にコミュニケーションしていたわけですね。で、2000年ぐらい前から絵文字を使ったりしてたのがだんだん文字になってきて、それが漢字になったり、ローマ字になったりしていくわけですね。いずれにしても、使う道具が変化、多様化してきます。

その道具とわれわれが伝えたい意味、内容との関係をはっきりさせたのが、資料の図2.2.1です。この図は、今いってるコード、符号化するとか解読ということを説明した最初のモデルになります。

これは、シャノンとウイーバーという2人の科学者が作った電気通信の数学的なモデルです。数学的モデルということから分かりますようにシャノンとウイーバーは、アメリカのベル電話会社の技術者です。

もともと電気通信の工学者ですから、政治学者のラスウェルの作ったモデルとは違ったモデルになっています。

左のほうに情報の発信者、発信源がありますね。それから、メッセージが流されてくる。そのメッセージがトランスミッターというところで交換されるわけです。

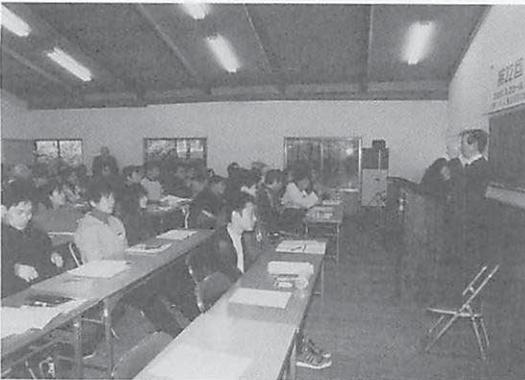
具体的に言うと、Aの発信者があるメッセージを流します。電話の仕組みを考えたら、一番分かりやすいと思います。声でしゃべるわけです。このトランスミッター、変換機の中に入ると、声が電気信号に変わるわけですね。

この電気信号が電話局を通過して相手のレシーバー、受話器、一般的には受信器でしょうか、受話器を通る。ここまでは電気信号、電流が進むわけですが、これがここで声になって、われわれの耳に入るわけです。

この人間の声、話し言葉を電気信号に替える、それを符号に替えると呼ぶわけです。これがエンコード、符号化です。

次に符号化された電気信号が、Bさんの受話器で解読される。この解読というのは、暗号解読という言葉からきているのだと思いますが、符号が読み解かれる、デコード、電気信号が声に、元に戻されるということです。

ところで、文字といえば簡単のようにみえますけども、これも一種の符号で、符号化と解読の2つの過程があります。Aさんはロシア人で、ロシア語の手紙をBさんに送った。Aさんは自分の気



持ちをロシア語でエンコード、符号化したわけですね。ところが、そのロシア語の手紙は、日本人のBさんは解読不能というか、読めない。こういうことが起こるわけです、現実には。

そうすると、符号化というのは単に声を電気信号に変えるだけじゃなくて、われわれが使っている文字も実は最大の符号だったわけですね。言葉とか文字そのものが、実は符号だったわけです。

こうやってみると、われわれが日本という地域の中で、共有の日本語でしゃべってるからこうやって自由にコミュニケーションできるわけですけども、東北のかなり年配の方で、純粹の東北弁をしゃべる方が沖縄に行くと、沖縄弁をしゃべる人とコミュニケーション可能かといえ、これは言葉ではおよそコミュニケーションはできません。

ですから、使ってる言葉というのは、属している国家とは直接関係がありません。国によっては、いくつかの言葉が公用語として採用されている国がありますね。カナダに行けば、どこにでも英語とフランス語が表示がある。ベルギーに行けば、ドイツ語をしゃべる人もあれば、ベルギー独自の言葉をしゃべる人もあれば、あるいはフランス語をしゃべる人がいる。言葉というのは、国単位でできてるものではありません。

国という概念は、もともとは17世紀のヨーロッパで作られた概念ですね。現在、ヨーロッパでは欧州連合という形で、その国の概念さえも変えようとしていますね。全体を一つの統合体にしようとしている。そこで、それぞれの国の学校では、最低3ヶ国語をしゃべるような教育が行われますね。自分の国の言葉と英、仏、独、それにプラスもう1つというような形ですね。使う符号を学ぶことによって、いろんなコミュニケーションを可能にしようとしているわけです。

いずれにしても、われわれは言語という符号を使う動物だということですね。

この複雑な言語を、われわれは符号として使うことによって、細かい部分まで相手と正確にコミュニケーションをすることができるようになったわけです。

以上で、シャノンが言った符号化と解読というシステムのことは、お分かりになったと思います。電気信号の処理の仕方でも技術の発展とともに次々と変わってくる。これがラジオになったり、テレビになったり、あるいはインターネットになったり、電子メールになったりするわけです。いずれにせよシャノンのころのメッセージの交換は、非常にシンプルな電気信号の往復だったわけですが、そこにもっと一般的な符号という概念を入れることによって、文字や声という言語を符号としてとらえる学問が発達してきます。

言語学の中で、最近そういう意味では記号論とか意味論という言葉が広く理解されています。記号論というのは、符号の構造や機能を研究する学問ですね。

符号というのは、物理的なものです。文字であったり、声として発せられる空気の振動です。文字は黒板に書かれた白い線の集積です。手紙だと、白い紙の上に書かれた黒いインクの集積。電子メールだと電子メールの画面に出た数字とか文字です。

符号というものはあくまで、物質的なものです。目に見えたり聞こえたり、点字の場合は触ることができるものです。われわれの知覚の対象になりうるものです。

その記号は、それぞれ「意味」を持っています。例えば、この字、日本語では「イ」という音だと分かりますね。ものと意味との関係には、いろんな使い方があります。例えば、手に持てるくらいの大きな石があるとします。その石が持っている意味は、さまざまです。

例えば、地質学者は、その石を見て、あっ、これは何紀層の何ていう石だと分かる。地質学の知識を持っている人は、その石を見たら地質学的な意味、内容を彼は発見するわけですね。

料理をする主婦の場合はその石を見て、あっ、あの石は漬け物の上に乗っける石としては最適だと。そういうふうを考える人もいるわけです。あるいは、ある殺人犯がその石を見た場合に、こいつであいつを殺しちゃう、と瞬間的にそう思うかもしれませんが。同じ石という記号が、物体が指し示す意味は、それを見る人によってさまざまに違います。今までわれわれは同じ日本人という立場から簡単に日本語の符号化と解読はできるという話をしたわけですけども、この字を見て「イ」と分かるのはおおよそ日本人だけです。最近、カーナビを持っている人は分かると思うんですけど、「イ」の字の形の交差点という言い方がありますね。「イ」の字の角と言われても、カタカナを知らない人には、その意味、内容は理解できない。

そういう意味と意味の関連を議論する学問が記号論とか意味論とかいう学問です。単に文字だけじゃなくて、デパートの記号論っていうものもあります。これはどういうことかという、普通、デパートの地下1階、これは食料品売り場ですね。最上階のフロアはレストラン街なんです。最屋上にレストラン街ができたというのは、あそこでは火を使いますから、火事の際は下が燃えないように、という火災予防上の配慮でそうなったらしいんですけども。それから1階は、主として一番購買力の多い女性用の売り場になります。最近、女性の購買力がだんだん増えてくると、男性の服とか男性の衣類のフロアは、どんどんどんどん小さくなっていきます。

そういうふう、デパートの各階とそこで扱っている商品との関係は、各階の記号と意味の対応になっていて、どのデパートでもこの関係はほぼ同一です。

買う目的・商品によってどの階を選ぶかというのは大体、皆さん分かっているわけです。食料品を探

すのに、上の階かなあ、なんて行く人はまずいません。婦人ものの衣服は、大体この辺と。男性衣料はこの辺と。おもちゃはこの辺。お腹が空いたから食べようかって時は、一番上に行けばいい。こうした各階の商品の配置が、デパートの記号論という意味に使われています。

それからファッション、服装の記号論というのがあります。ぼろを着て、汚れた靴をはいて、きたない袋を背負ってるという、この服装が持つてゐる意味というのは、ルンペンとか浮浪者のイメージですね。

制服を着て帽子をかぶって、ピストルを腰につけている。その服装の記号論の意味は、警察官です。これは、どこの国でも大体同じ服装からその職業を類推することができます。

先ほど、物にはそれを見る人によってさまざまな意味がある、と言いましたけども、コミュニケーションにとって大事なものは、この物つまり符号が一義的というか、必ず同じ一つの対象を指し示すということです。一つの物、イという文字は、アでもウでもないイという一つの音の意味を指し示すということが重要です。

この符号と意味の一対一の関係を知ってるということが、コミュニケーションを可能にする一つの非常に重要な要素になってきます。われわれが日本語を知ってるっていうことは、日本語の表現、漢字はこの意味だとか、こう読むんだということ、つまり符号の表現とその意味との一対一の対応をわれわれは知ってるわけです。

われわれは、ロシア語表現を見た時に、その文字・符号が何を意味するのか分からない。われわれがロシア語の符号体系を理解してない、ということです。ですから、われわれはロシア語を使ったコミュニケーションはできないわけです。

われわれは、日本語で議論することができ、日本語の新聞とかを読むことができるのは、日本語の表現の符号が何を意味しているか、というのを知っているというか、実は子どもの時から教えられてきて知っているわけなんですね。ですから、日本生まれの赤ん坊をそのままスウェーデンに連れて行って育てて、お母さんがスウェーデン語を使えば、その子どもはスウェーデン語しかしゃべれないわけです。

日本に生まれたから日本語を覚えたんじゃないわけですね。言葉を覚える環境が日本語を使う環境であったから、われわれは日本語を覚えた。その環境の延長線上で小学校1年に行って、最初にスウェーデン語のアルファベット教えてくれません。必ず日本語を教えるように制度的になっています。

これは日本では国語、最近では日本語と言いますが、国語という概念は、近代国家ができてくる過程で、一生懸命作られた概念なんですね。

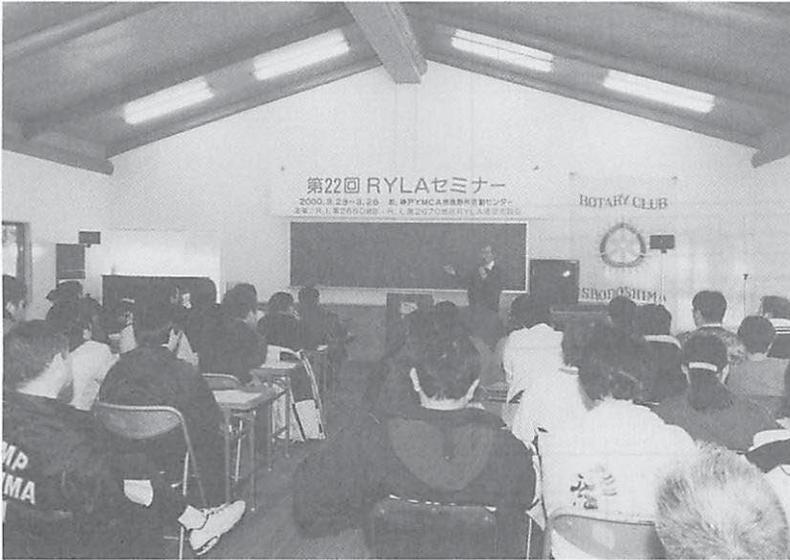
日本では明治政府が一生懸命に統一国家を作って、各地にいろんな方言があるわけですね。その方言をつぶすために、東京の下町の言葉を標準語として決めて、義務教育という名で強制したわけです、学校で。

沖縄の小学生は、ウチナグチという沖縄弁を使うと先生から怒られて私は二度と沖縄弁は使いません、といって廊下に立たされたんです。それで沖縄師範出身の若手の先生が、何でわれわれの言葉をつぶすのかと言って、日本政府とぶつかる。そういうのが明治時代に何度かあります。

いずれにしても、言葉というのはある意味では作られてくるものです。表現としての符号と、それが指し示す意味との関係を学ぶことによって、言葉はコミュニケーションの道具となるのです。

われわれがスウェーデン語を見ても、ロシア語を見ても、その意味が分からないというのは、この符号と意味の1対1の対応関係を学んでいないから知らないということによるわけです。

以上、長々と話しましたが、コミュニケーションを構成する5つの要素から始めて、符号と意味との対応関係がわれわれのコミュニケーションを可能にする基礎になっている、ということを申しあげました。



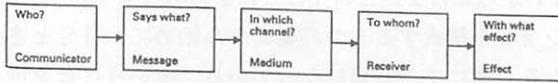


Fig. 2.1.1 The Lasswell Formula with corresponding elements of the communication process (Lasswell 1948).

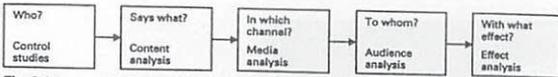


Fig. 2.1.2 The Lasswell Formula with corresponding fields of communication research.

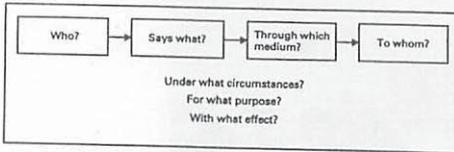


Fig. 2.1.3 Braddock's extension of the Lasswell Formula.

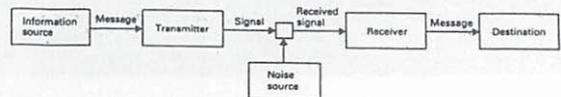


Fig. 2.2.1 Shannon and Weaver's 'mathematical model' describes communication as a linear, one-way process (Shannon and Weaver 1949).

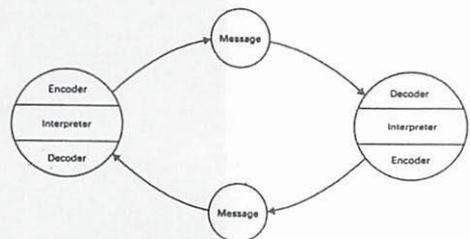
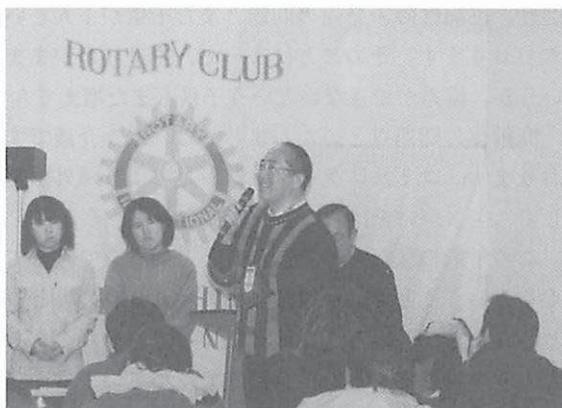


Fig. 2.2.3 In Osgood and Schramm's model both parties in, for example, a conversation fulfil the same functions (Schramm 1954).

## ● バズセッションの発表

テーマ

少子化・高齢化社会の生き方



(司 会)

それでは発表いたします。順番を申し上げておきますと、最初がB、2番目がA、3番目がC、4番目がD、こういう順番でまいりますので、ご協力のほど、よろしく申し上げます。

なお発表時間は10分程度と申し上げておりますけれども、これは目安でございますので、時間を気にして私たちの発表が十分伝えられないということでも困りますので、10分程度を目安にしますけれども、前後して結構でございます。

ではいきましょう。B班どうぞ。

2000.3.23~3.26 於.神戸YMCA余島野  
主催：R.I.第2680地区・R.I.第2670地区R



### B 班

(B班発表・女の方)

皆さん今晚は。きょうは、テーマが「少子化・高齢化社会の生き方」ということで、癒す心・尽くす心を副題で、みんなで考えたんですけど、今、社会はご存知のとおり少子化・高齢化が進んでいます。

今65歳以上の人口が25%以上で、平均寿命が、女性が86歳、男性が78歳だと言われています。

また、子供の出生率は逆に減ってきておりまして、1家族につき1.2人だと言われております。その原因として上げられるのが、まず核家族化で、女性の社会進出、または女性の自立ということで、女性の自立による価値観の変化、あと土地が狭いなど住宅事情、経済的な負担の増大などが上げられています。

また高齢化に関しましては、医療技術の進歩について、一番語られていると思うんですけど。

まあメリットもデメリットも、少子化・高齢化につきましては、両方上げられると思うんですけど、今回、考えていくに際しまして、デメリットのほうだけ上げさせていただきました。

少子化の問題点として、コミュニケーション不足になりがちになる。そういうことから、また社会性、協調性の未発達の問題、また子供が1人ということで、親の過保護、過干渉が問題となってきました。そのことによって、やはりわがままな子供ができましたり、社会に順応できないとか、協力ができないという子供もまた増えてきております。

高齢化の問題点といたしましては、老々介護ですとか、あと何人か、寂しいことに孤独死されております。コミュニケーション不足により疎外感を感じる方がおられましたり、また1人になりまして、生きがいをもちにくい方ですとか、そういう方が増えてきております。

この年齢の私たちにできることという点で考えていったんですけども、まずコミュニティーづくりということで、地域社会との触れ合いの場というもの、あと、世代を超えた交流をしていこうということで、いろんな地域によって、それぞれあると思うんですけど、町内会、児童館、また老人大学の設置ですとか、公民館で、小さい子供からご老人の方までの交流の場として施設があるので、その使用を強化していきたいと。

またボランティアへの参加というので、ボランティアに参加しにくいというのが現状としてありますので、もっともっと参加しやすい雰囲気や環境づくりに努めていきたいと思っております。

いろんなボランティア団体がありまして、ネットワークの不足ですとか、情報の不足ですとか、ございますので、情報の発信、ネットワークの確立など、力を入れていったら、もっともっと良くなるんじゃないかなと思っております。

それで、ボランティア団体として代表的なもので、ボーイスカウトですとか、今回お世話になる方もたくさんいるんですけど、ローターアクトクラブですとか、そういったものの自発的な参加、積極的な参加をしていきたいと思っております。

そういったことで、どんどん私たちの意識改革ができたらな、と思っております、結論は皆さんと一緒に考えたんですけども、年齢、地域を超えたバリアフリーは心からということで、まとめさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。(拍手)

#### (司 会)

B班は「少子化・高齢化社会の生き方」癒す心・尽くす心、ということをテーマに、まず今、少子化・高齢化社会が進んでいる。その原因はどこにあるのだろうかということで、幾つか上げていただきました。

そして、具体的にそれぞれを、少子化と高齢化の問題点を分けられまして、今、発表があったように、そこにありますように問題点を上げられました。

じゃあ、私たちにできることは何だろうか、ということで、3つでしたかね、コミュニティーづくり、それからボランティアへの参加、それから私たち自身の意識改革をしていこうということの発表でありました。

ここでどうぞ、意見とか質問。

#### (質問・男の方)

価値観の変化と書いてあるんですけども、具体的に言っていいただければ、ありがたいんですけど。

#### (答え・女の方)

女性の社会進出に伴いまして、女性が仕事を持つようになりまして、女性が自立するようになりました。子供を産みたくないですとか、あと子供に手がかかりますので、育てることへの不安ですとか、そういったことがこの際、価値観の変化ということで上げられると思っています。

(質問・男の方)

僕たちのグループも、同じようなことが出てきました。どうもありがとうございました。

(司 会)

いかがですか、ほかに。

今、産みたくないとか、育てる不安とかいうのは、一般的にそうでしょうか。地域でしょうか。例えば都市部とか、地域とか、一般的にそうなっているのでしょうか。というようなことを、どんどん聞いてもらったらいいですよ。

そしたら、例えば産みたくないと言うけど、本当は産みたい人もいる。だけど、いま言うように不安がある。だったら、どうしたらいいの？ という質問があったら。とかね、質問してくださいよ・僕がしたらいかんから。

ほかの方で補足説明でも何でもいいですよ。ちょっと最初のグループだから緊張しているかも知れないね。

(質問・女の方)

コミュニティーづくりで、世代を超えた交流ということなんですけれども、交流も幅があって、大変いいと思いました。皆さん何か、地元でこんなふうに世代を超えた交流しましたとか、実践例があったら、ぜひ聞かせてもらいたいんですけど、活動されている方いらっしゃったら、お願いします。

(答え・女の方)

私個人に関して言わせていただきますと、図書館で人形劇をやらせていただきましたり、あと、いろんな大人からご老人の方まで招いて、研修会という形で参加させていただきましたりとか、そういう世代を超えた交流になるんですかね。私としては自分の勉強というつもりなんですけれども、そういったことで参加はさせていただいております。

(司 会)

今、彼女が言ったことで大事だと思うのは、もうちょっと具体性というか、コミュニティーづくり。地域社会との触れ合いの場。どないするということですか。どないしたらよろしいんですか。言葉としては、ものすごくきれいよ。地域社会との触れ合いの場、世代を超えた交流とかね、あるけど、どないしたらいいの？ バスセッションで余りなかった？

(答え・女の方)

ありまして、地域社会との触れ合う場としまして、まず身近なところから始めたら一番いいなということですね。それで地域社会ということになったんですけれども、取りあえず近所の子供、近所のおじいさん、おばあさんと話をする。それだけでも地域社会と触れ合うことになると思うんです。

また一人ひとりがそうやって心がけていけば、それこそおじいさんの孤独死ですとか、そういった問題を事前に防ぐ手助けになると思います。ほか何か質問。

(質問・女の方)

私が思うには、いま私はそんなに自分が積極的に参加しているということないんですけど、できたらボランティアとかに入ったりして、みんなと、さっき言ったように、地域の人とか、近所の人とかと触れ合っていけば、コミュニティづくりになるんじゃないかなと思います。

(質問・女の方)

今すぐ地域の人というふうに、たぶん言われているのは、近所の方と言われていると思うんですけど、私が今、自分の家の周りで、お年寄りとか子供とかと接したことは1回もないんですよ。たぶん、それって、すごく難しいことだと思うんですね。

でも私はあえて、私も核家族なんで、自分の下のほうもないし、おじいさん、おばあさんも一緒に住んでないので、私も全然お年寄りと接したことがなかったんですけど、私は明石から来ているんですけど、やっぱり、震災というのがあって、仮設訪問に行っていたんですね、ずっと。

その仮設訪問というのは、やっぱりお年寄りの方が大半以上で、私はそこでお年寄りの人と接する機会ができたんですけど、ちょっと自分の家の周りのお年寄りと接するのって、どういうふうにされるのかなと思って。私はそういう機会がなかったの、そういうふうにならなくて、どうしようもないので、どうしようもないのかなと思って。

(司 会)

答えてもらってもいいし、もし駄目だったらフロアで答えてもらってもいいですよ。どうぞ。

(答え・男の方)

家の近くのお年寄りや接するといいますけど、そんな、とってつけたように、おじいさん、元気、元気と、そんなこと別にせえと言ってるわけじゃないんですよ。その人が、ただそこにおるか、毎日、日なたぼっこに玄関口に出てきているんだとしたら、顔を見て会釈でもいいんじゃないでしょうか。

別にそんな、とってつけて家の中まで入り込んで、お茶飲めとか、そういうのだけが別に触れ合いや、係わりじゃないんでね、もっと広い意味でとらえてもらったらいいと思います。

(司 会)

みんな、お年寄りとか老人とか言うけど、どの人が老人か分かる？ 何かそんな決めつけはないかな。

いま言っているのは、ものすごく良いと思うのね。私、マンションに住んでいますけどね、私こういう性格ですから、だれでも挨拶するんですけどね、ものすごく嫌がる人もおられますね。何でやる、と思いますけど。

上の階段から降りてきているので、降りてくるのを待って挨拶しようと思ったら、私がおるの見えたら、もういっぺん上がりなおすとかね。(笑い) そんな人いるもの、現実に。本当に。僕はへっちゃらだし、同じマンションだから、みんな挨拶したらと思うんだけど、いま彼、言ったけど、みんなの生活、地域社会、どうですか。別に、お年寄りとか、決めつけなくていいん違う？ どんな社会やるね今。

今井のおじいちゃん、お早よう、言うたら、おじいちゃん、失礼やなど言うかも知れんし。今井先生、何歳ぐらいと思う？ 例えば。

ちょっと今井先生、立ってください。森先生、立ってください。今井先生は何歳ぐらいだと思いますか。感覚でいいのよ。大体。

(答え・男の方)

78歳。

(司 会)

森先生は？

(答え・女の方)

84歳。

(司 会)

正解をどうぞ。

(今井氏)

79歳です。

(森氏)

正解、84歳。

(司 会)

小出さん、立ってください。

秋山さん、立ってください。

奥山さん、立ってください。

何歳と思う？　そこで、ものすごく気を使うでしょう。90歳といたら、ものすごく傷つけるのと違うかとかね、あんまり若すぎてもバカ扱いしとん違うかと、みんな気を使わない？　正直どう思う？　でも気を使いながら言って。

(答え・女の方)

40、50、60ぐらい。

(司 会)

どうぞ。

(小出氏) 44歳。

(秋山氏) 58歳。

(奥山氏) 73歳。

(司 会)

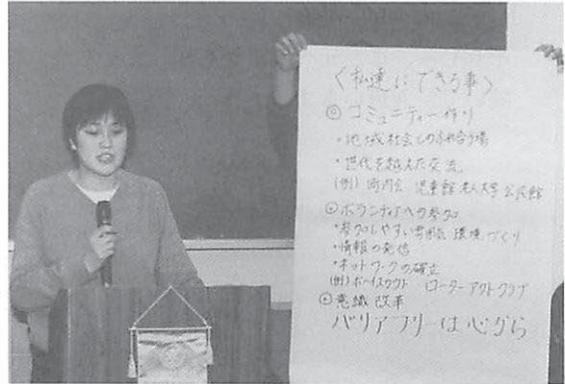
はい、ありがとうございます。

私が言いたかったのは、答えでも何でもないんだけど、どこか私たちの毎日の生活の中で、こういうことは理想的に書いているけれども、実際には、ものすごく自分の中に抵抗というか、変に葛藤してない？　そんな社会と違う？

まだありますか、補足。どうぞ。

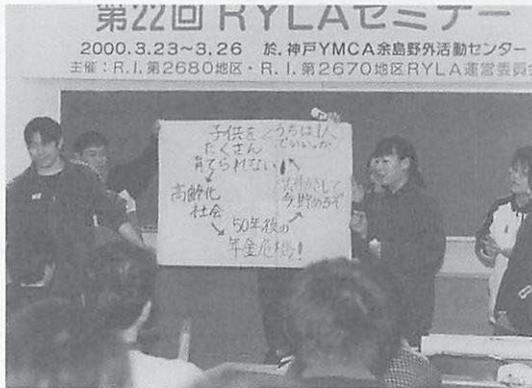
(B班の女の方)

世代を超えた交流と書いているんですけど、世代を超えるということは、別に、おじいさんだけでなく、老人の方だけでなく、小さい子から、本当にお年寄りまでずっと、さっき先生おっしゃったように、顔を合わせる機会もあるじゃないですか。年を超えて、おはようございます、こんにちわ、その挨拶だけでも、すごく良くなると思うので、それだけでも交流になるとと思いますので、おじいさんですから、おばあさんですからという心構えなしで、していきたいと思います。(拍手)



(司 会)

それじゃ、また元へ戻るかも知れませんが、取りあえず1回目、ありがとうございました。  
続いて、A班いきましよう



## A 班

(A班・女の方)

A班の発表を始めます。よろしくお願いた  
します。

当たるも八卦、当たらずも八卦。これより平  
成極論劇場の始まり、始まり。

[第一幕]

(男) よう働いた。おい、母さん、晩めしにして

くれろ。

(女) いややわ、あんた、もうおひつの中に、ご飯あらへんで。子供らが全部、食  
べてしまう  
たに。

(男) おうおう、1合から3合、あしたも野良仕事、頑張るべあ。

(女) 子供が多うて助かるわ。

[第二幕・カギっ子の食卓の巻]

(子供) あーあー、きょうも塾、あしたは英会話で、その次が劇団。僕って、忙しいんだよね。

あっ、チンして食べてくださいってよ。おいおい、このメモ用紙、使い回しするの、やめてくれよ  
な、おふくろ。

[第三幕・より良い未来への提唱]

(男) お母さんや、晩ご飯にしてくれや。

(女) はいはい、じいさん、食べてください。

(男) ばあさん、またメザシ1匹なのかい。

(女) じいさんや、もう、ご飯はありません。お金もありません。

(男) そうか、年金ももらえんようになったし、バイトでも始めるか、ばあさん。

(女) そうですね。いらっしゃい。

(A班の女の方)

はい、ありがとうございました。平成極論劇場、ありがとうございました。

当たるも八卦、当たらずも八卦、まあこんなものでしょう。次いきましようか。

さっきの劇は、昔、今、未来という三部作だったんですけど、まず私たちの班は少子化問題とい  
うのから入って行って、さっきのB班の発表にもありましたけど、いろんな原因が出ました。

養育費の増加、核家族化、女性の社会進出による共働きなどの、いろんな原因が上げられました。

子供を産みたくても、育てやすい環境が十分じゃないので産めない。

また昔は、さっきもありましたけど、家の仕事を手伝ったりするのに子供がたくさん必要だったから、どんどん産めって感じでしたけど、今はお金、考えたら、とてもとてもという感じですね。

いろんな機械化されてきて、技術が進歩しているということも、いろんな要因に上げられると。その技術とかが発展するということで、ちょっとここで出てくるんですけど、さっきのB班も言われていたように、医療の技術というのは、すごく今、進歩していて、寿命が本当に長くなってきていますよね。

で、子供は一人っ子でいいかというふうに、1人しか産まなかったら、両親2人を1人の子供だけで見ないといけないんですよ。

そういうふうになって、2015年ごろには老年人口が25%を超えて、4人に1人がお年寄りになるかも知れないと言われているということは、国の財政は、子供がお金をつくらないと、まかなってもらえないわけですよ。そしたら年金の支給額はどんどん低くなって、生活は苦しくなっていくます。

だからどうしても、言いたくはないけど、お金はやっぱり必要。で共働きをするという、家庭としてはちょっとつらい結果に至ってしまうんですね。

で、少子化の問題が高齢化、でまた回ってきて結局また少子化と、ぐるぐる悪循環が続くというのが今の現状だというのが、初めに出だしとして私たちの中で出た意見です。

(A班の男の方)

それ意外にもたくさん意見があったわけなんですけど、紙にたくさん書いても分かりづらいということで、今、僕たちなりの考えでまとめてみました。

まず流れですね。人。人といっても、その辺にいる人たちじゃないんですね。きょうここにいる、われわれも含めて皆さん、人ですね。

その人が、まず出会います。この出会いも一つですね。素晴らしいセミナーでの出会い。これを大切に、初めて集団というものが形成されます。その集団という中で、お互いいろんな理解を深めて、ある目的を持って活動を行います。

この活動は、いろんな活動があると思うんですが、これはこのグループ全員で活動するわけでもなくて、各地元に帰ってからやることなので、具体的には言いませんが、流れとしましては、人。その人が出会って集団。で目的を持って活動。活動する中で、また人と人が出会って集団を形成して活動。これが少しずつでもいいんですが、良い方向に向かっていけば、より良い社会になるんじゃないかと。そのバックには当然、情報交換、あと環境の整備というものが必要となってきます。

先ほど言いました人なんですけれども、図に書いたら、こんな感じですね。人がいまして、集団ができます。また違う集団も当然あります。そちらも、やはり人で形成されているものです。

それと地域と書いてありますが、当然、各団体、サークルだけでは何にもできません。やはり地域と一体となってやっていく必要がありますので、こういうふうな図を作っておりまして、重なる部分、共有する部分、これがあることによって、よりお互いの理解を深め合って、世のため、人のため、自分のため。

世のためといいまして、いろいろあると思うんですが、このようになりまして、すべては全部、助け合いで成り立っているものじゃないかなという話になりました。

それでこのメンバー、たまたま集まった11名、折角ですので、各1人ずつ、具体的な今後の、

今、自分たちができることを簡単に発表したいと思います。

(タケダ ソウイチ氏)

愛媛県の伊予市から来ましたタケダ ソウイチです。いろいろな活動に参加して頑張っていきたいと思います。(拍手)

(高橋 ヒデアキ氏)

兵庫県の高砂市から来ました高橋ヒデアキです。地元に戻りましたら、青少年育成活動、そういういろいろなボランティアもそうですけど、リーダーになれる若手を教育して、育てていけるような立場の人間になれるように、頑張っていきたいと思います。(拍手)

(鎌田ミホさん)

徳島ローターアクトクラブの鎌田です。徳島から来ました。帰ったら、ライラの素晴らしさをみんなに伝えて、リーダーシップを自分も取れるし、下の子も育てられるようになりたいと思います。あと、ローターアクトを全国に広めるとというのが課題です。(拍手)

(ミョウジンさん)

高知県から来ましたミョウジンといいます。私の住んでいるところの周りには、大きな団体とか、活動しているという主なものはないので、自分から始めるというのは、ちょっと大きいことを言い過ぎるかも知れませんが、私がきっかけになるように、さっきB班の方も言ったように、地域で何か始めていけたらいいなと思っています。(拍手)

(藪中さん)

明石から来た藪中です。私は4月から医療従事者として働こうとしているんですけど、さっきも言われていたように、病院でも、病院だけじゃなくて、地域でも、自分から声をかけたり、人と接していこうと思います。(拍手)

(田中氏)

兵庫県笹山市から来ました田中です。地域活動、ここにも書いてあるんですけど、地域活動のほうに力を入れて頑張りたいと思います。(拍手)

(安浦氏)

兵庫県神崎町からまいりました安浦です。帰りましたら、近所での付き合い、近所での行事とかに、積極的に参加していきたいと思います。(拍手)

(児玉氏)

私は、先ほどの鎌田ミホと同じように、徳島ローターアクトクラブの幹事をしております児玉と申します。今回ちょっと少子化・高齢化社会の生き方ということについての、僕の目標ではないんですけど、地域との触れ合いという意味で、徳島大学なんですけど、徳島大学に、モザンビークというアフリカにある国の方が、米山奨学金で来られているんです。それで、その人が今、台風とか水害によって、ものすごく困っているんですけど、そのことで依頼をされまして、そこから皆さんにもできたらご協力をいただきたいという意味で、今回、ひそかに来ました。できたらまた詳しい話をしたいと思いますので、その時はよろしくお願いします。(拍手)

(北川氏)

兵庫県姫路市から来ました北川といいます。普段は仕事ばかりで、こういった機会がないんですけども、今回いろいろみんなの話を聞いて、やっぱり人間には、こういう時間が必要かなという

ふうに、しみじみ思ひまして、具体的な活動は、たぶんすぐにはできないと思うんですけれども、機会があれば、何かをやっていききたいなと思っております。(拍手)

(渡辺氏)

香川県高松市から来ました渡辺です。今回の出会いの素晴らしさを、後輩に知ってもらって、また来年、僕の後輩がここに来てもらえれば、それで嬉しいと思います。(拍手)

(A班の女性)

私、話をさせてもらおうかと思うんですけれども、私、兵庫県の三田市のほうから、きょう来させてもらいました。帰ったら、兵庫県三田市でローターアクトクラブをつくらせてもらいたいと思います。(拍手)

というのもね、初めローターアクトクラブのことを聞いたんですが、ピンとこずにおりましたが、この3日、4日で大変、共鳴いたしました、ローターアクトクラブにね。

もちろん、自分の活動の基盤をもとに、何もなくて1人でできませんのでね、地元へ帰って、まちづくり仲間40人、引きつけて、ちょっと活動の芽でも生えさせたいと思います。

たぶん皆さんの中にも、活動の種を持って帰ってはと思うので、地元でパッと咲かせてもらえたら、芽でも出させてもらえたらいいかなと思っております。

ということでね、あっちこっちでローターアクトの芽が出ること、そして花が咲くこと、そして実がなることを、常に願っております。きょうは本当にありがとうございました。(拍手)

これでA班の発表を終わりたいと思います。

B班のほうから、何でこうなるんやと、すごい意見が出ていましたので、小南君ちょっと意見が、何でこうなるねんというところがありましたので、ちょっと熱い討議をしてみたいと思います。

皆さん、ちょっと背伸びでもしてもらって、緊張していると思うので。

寸劇ね、もっとおもしろいんですけれども、皆さんの緊張が、良くなかったですね。トリでもよかったですね。これ一発目だったら、クスツともこなかったもので、よかった。なんせ5分で仕込んだので、ちょっと無理がありましたけれども、あれは、こっちの手前の紙のほうをちょっとコメディ化したので、まあまあ意味のあることでなかったかと思っています。

小南君、張りましたけれども、どこが、どういけませんでしたかね。

(小南氏)

良かったんじゃないですか。

(A班の女性)

今さっき、何でこうなるんですかねと言っていましたね。

(小南氏)

共有部分は、どういうことを考えていらっしゃるのかなど。

(A班の女性)

共有部分を言ったのは、チイチですね。

(チイチ氏)

これはちょっと話にもありましたように、別に具体的なアレがないんですね。このチームの中で、



班の中で。

活動していく中で、人と人の集まりと、あと集団と集団の集まり、どんな集団かわかりません。その集団、集団で持っている特徴、特に良い部分を出し合って、何かをやっていけば、より良いものができる。違う見方もできるということの共有なんで、具体的に何だというわけではないという話でしたよね、みんな。

(A班の女性)

そうでしたね。答えが出てない、ハッキリ言って、まだ。きょう、夜で何か1つでも答えが出せたら、石碑でもつくって帰れたら、余島にね。言うてましたんですけども、何か質問ありませんか。

ちょっと強引なところもあります、A班ちょっとね、この図。無理やり、寸劇が先か、これが先かという話なんで、寸劇が先だったんですけども。何かありませんか。

(森田さん)

加古川から来ました森田ですけども、先ほど最後に皆さん、これからの活動について、すごく良い意見があったんですけど、本当に皆さん、活動しようと張り切っておられるのは、すごく伝わってきたんですけども、今回のテーマ、少子化・高齢化社会の生き方ですね、そちらのほうについての意見を、もう少し聞かせていただきたいなと思ひまして。すみません。

(日和田さん)

それは一杯あるんですよ。私が言ったら長くなります。マキを入れていただいて。

まず少子化の話からいきましょうか。まずA班は少子化・高齢化社会の問題点、まず少子化なんですけれども、少子化の原因、B班の見てください。同じですわ。これ見てやりましょう。

(司 会)

もし、だぶることであればね、さっき理解できたつもりだと思いますから、あなたたちの中で、別の視点とかあれば、そこへいってください。

(日和田さん)

A班らしい視点ね。寸劇にすべて出してしまったので。実践例、A班、何かありますか。私ありますよ。

私、三田市からまいりました日和田です。私が住んでいるところは、大変小さな村でして、90軒、300人の村です。子供たちも小学校23名しかいません。今度、6年生が7人出ていまして、入学式がない。15人です。そういうところで育ってきました。私の時はまだ30人おったんですけどもね。

高齢者の方は、どこからどこまでが高齢者ということは、私もよくわかりませんが、老人会の方ですわ。老人会の方と小学生が、年末にシメナワづくりをします。ワラジも作ります。

年末にワラジを作りまして、どこで履くか。5月にある三田ワラジウォークという大きな大会があります。2,000人來ます、いろんなところからね。遠くは、香川とか岡山のほうからも来てくださいますよ。それで履こうというふうにするんですね。

ワラジを作ってそういう伝統を味わえる、かつ三田市のイベントも紹介できる。老人会の方とも交流ができる。三田市の母子と書いて、モウシと読むんです。ということで、私の実践例はそんなんですけども、何か実践例ありますよね。

(徳島県の女性)

徳島では、ローターアクトで3年目なんですけど、1年目から阿波踊りをやっています。阿波踊りといったら宴会芸って感じですけど、どこに行っても使えます。老人ホームへ訪問に行くと、幼稚園の子と一緒に踊って、老人の方には、子供とか孫ぐらいますから、すごく喜んでくださいます。一緒に阿波踊り踊ってくれます。足が悪くて動けなくても、手だけでやってくれます。

幼稚園へ行って子供と一緒に、阿波踊りを教えてあげる。小さい子供たちと一緒に阿波踊りを踊るとか、阿波踊り一つでも、いろんなところへ行って使えて、県外に行っても、どこに行っても、体一つあったら踊れるし、灰皿と箸一つあったら音楽がつかれるし。徳島の宣伝、地域社会に根ざして頑張らせてもらっています。

(日和田さん)

皆さん、ほかの方もありませんか、実践例。

(司 会)

ほかの方、君に圧倒されているけれども、ほかに補足とかないかな？ 特になければいいんだけど。

発表の中で、少子化のところですね、あした、また今井先生もお話いただくのかも知れませんが、皆さんは、一人っ子だから、1人で両親を見ないかと言ったよね。それだけでいいんか？ 両親の両親が生きとったら？ 親族で家族問題を考えるんだしたら、それだけでいいかな？ 一人っ子で両親がいるでしょう。その両親も一人っ子だとしたら、その上のおじいさん、おばあさん、両方おるよね。1人で両親だけでないんと違うか。

と僕は思うので、また考えておいて。どうもありがとう。

(日和田さん)

ありがとうございました。(拍手)

(司 会)

続いてC班、お願いします。



## C 班

(C班の男性)

A班のあとで、とってもやりづらいんですけど、僕らがバスセッションで話し合ったこと、いっぱい意見、出たんですけど、それが皆さんと一緒に、まとまらなくて、それをバスセッションでは、子供、親、地域のつながりについて考えてみました。それをこれから、すごく真面目なアレなんですけども、寸劇でやりますので自分たちの立場になって、ちょっと考えてみてください。

目なアレなんですけども、寸劇でやりますので自分たちの立場になって、ちょっと考えてみてください。

(C班の女性)

あなたならどうしますか。相手の望んでいることを考えることができたでしょうか。例えば、あなたは、おじいさんに席を譲りましたか。寝たふりをしたでしょうか。それとも譲ろうと思ったけど、できなかったでしょうか。

(C班の男性)

あなたならどう思いますか。危険なものを強制的に排除するのは、正しいことなんでしょうか。それとも危険だということを教えてあげることが正しいことなんでしょうか。

(寸劇内容、聞き取れず)

(C班の男性)

両親の老後を考えたことがありますか。またそのプレッシャーを感じたことはありませんか。

高齢者も若者も、もっとみんなが問題意識を持つことから始めなければなりません。このライラセミナーで学んだことを、地域へ持って帰ることが私たちの役目です。

取りあえず問題提起ばかりしましたけれども、バスセッションの間、答えを見つけることよりも、まずみんなで問題を出し合って、考えることから始めてみたんですが、とにかくすごく感情のぶつけ合いというか、いろんなみんなの経験とかを話し合うことで、答えが出てくるより、何か取りあえず、皆さんに問題を投げかけることしか、まだその段階までしかいってないんですけども、取りあえずこの4時間でできたことというのを劇にしてみました。C班の発表は以上です。(拍手)

(司 会)

どうもありがとうございました。どうぞ、ご意見、質問、いろいろあるかと思いますが。どうぞ。

(C班の男性)

取りあえず、せっかく書いた紙なんですけど、若干、A班の三角形とだぶる部分があると思うんですが、うちの場合は、子供と親、そして地域、この3つのつながり、これが一番大事なことだなと。

取りあえず、これは問題提起というよりも、僕らの中でこれだけは、しっかり決まったことなんです。やっぱり子供と親が、お互い気持ちを分かち合い、そして尽くし合うことで、逆にお互い癒される。

子供のことを親が思い、これは当然なんですけど、とにかくお互い、いたわる気持ちですね。それを持ち合うことというのが、やっぱり地域を支え合っていくことだし、親が地域にかかわることも大事だし、また地域に親がかかわっていくことでまた地域が子供にいろんなものをしていくと。この三角形が、取りあえず僕らの中で、まとまったことです。付け加えておきます。

(司 会)

ありがとう。いかがでしょう。

(C班の男性)

もう1個、付け足しみたいになるんですけど、あっちの紙では、私たちにできること、というのを書いてあるんですけど、僕らは、私たちがしてほしいことということで、高齢者の方にも、やっぱり意識改革してもらいたいというのがあるんですよ。

さっきの電車の話で、お年寄りが断わる。寸劇のサラリーマン役の方が、疲れているけども、好意をもって、かわってあげるのかとか、そういうのがあったじゃないですか。やっぱり自分が年寄

りとか決めるのは、高齢者の方なんです。若者はそういうのは、どこからどこまでか、さっき話されたように分からないので、だから、そういうところを、もっと広い心で受け止めてもらいたいというのが、

(テープ切れ)

(司 会)

さっきの年齢じゃないけど、年配の人だから、変わりましたよと言った時には、素直にありがとうと座ってほしいということ？

(C班の男性)

断わられても全然、大丈夫なんですけど、その断わり方が、うるさい、おれは全然座りたくない、そう言われるよりも。

(司 会)

年寄りじゃないわと。そういう人、いますか。

(C班の男性)

います。そういうところから、それが世代間を超えるということに、つながるんじゃないかと思っています。

(司 会)

今の逆に言うと、年長者から言うと、きょうびの若いやつは、どこにでも座り込む。電車でも座席も替わってくれへん。何を考えとんやという声をよく聞く。だから僕たちは素直に、替わりましようと言った時に、なんでや、おれを年寄り扱いするな、という答えがあるの、現実に。

(C班の男性)

あります。

(司 会)

ほう。私は年寄り違う、ありがとう、だけどいいよ、ということは僕らも言うけど、そんなことを言う人おるんですか。

(C班の男性)

もちろん若者の伝え方もあると思うんですよ。替わってやるから、じいさん、ここへ座われよというんだったら。高齢者の方に対しての、敬うという心も大切だと思いますし。まあ、そういうことです。

(司 会)

ほかに補足ありますか。

ちょっと余談だけどね、私どもの年で言うとね、コンビニの前に若い兄ちゃんが座り込んでいる。あれ何でんねん。入りにくいんやコンビニに。あれ何？

(男 性)

やっぱり家庭とか、そういうところに自分の居場所がないんですよ。

(司 会)

コンビニの前が居場所か。

(男 性)

あそこにたまれば、自分の居場所なんです、あれは。そう思います。

(司 会)

今の若い人、電車の中でも、どこでも座り込む。やっぱり体力がないのかなと思うんですが。じゃないのか？ ちょっと年配者も若い人を理解するためと思っているんだけど。

(女 性)

体力が低下しているというのは、あると思うんです。最近、運動してないでしょう。立って5分待ち合わせで、待てない人いませんか？ 座っちゃうという人。

(男 性)

香川県という地域で考えると、あんまり座る人は、どうですかね。

(司 会)

そうですね。神戸だけですかね。

(男 性)

東京とかで、座るというのが一時、話題になって、東京者は地下鉄でもJRでもそこにただ座るのが東京人の証しだみたいな、そういうのがあったので。

(女 性)

地ベタリアンとかいう言葉も、はやる要因になるんですね。

(男 性)

ルーズソックスとか。

(司 会)

流行を発信する、あるいはファッションということ？

(男 性)

一つの流行だと思います。

(女 性)

価値観の変化ということ。価値の意識の低下というのが上げられると思うんです。他人が自分のことをどう見るか、そういった意識が低下してって、座っても平気、痰を吐いても平気、ゴミを捨てても平気、そういうことの影響だと私は思います。

(司 会)

なるほど。おっちゃん、言いたいこと一杯あるけど、余り言うたらいかんから、言わんけど、どうぞ。

(男 性)

先ほどの寸劇を見せてもらってね、今、最初の分が出ていると思うんだけど、2つ目のジャングルジムの問題、あれについて、たぶんいろんな意見が出たと思うんですね。あれは、ああいうふうな形で問題提起をされたということだろうと思うんだけど、いろんな議論が出たと思うので、こんな意見も出たよ、あんな意見も出たよというふうなことを、できたら紹介してほしい。

それから、最後の少子化・高齢化というか、少子化で老後の心配という寸劇もやってもらったんだけど、それについてもいろんな意見が出たと思うので、それを皆さん方で、こんな意見も出た、あんな意見も出た、皆さんどうですか、というような形で、もう少し寸劇だけじゃなしに、出た意見を紹介してくれないか。

(C班の男性)

ジャングルジムの話は、僕が教育実習に行ってきた時の話だったんですけども、実際にそういう体験があって、何でも排除すれば、子供にとって良い環境なのか。その間違っていることを教えてあげない。

例えばナイフとか振り回す子供って、まだいるんですよ、教育の場所で。そこで学校側ができることというのは、ナイフを持ってこないようにさせることぐらいで、なぜナイフを持ってきちゃいけないのかというのを、強くは教えてあげないんですよ。だから痛みとか、そういうので伝えられない。

本当に親がしなければいけないんじゃないかという意見とか、やっぱり教育の場と、親、地域の支え合いが、子供を育てるんじゃないかということです。

(C班の女性)

3番目のやつは、私の話なんですけれども、核家族化、共働きで、一人っ子で、地域との交流も、そこまでしてないという、完璧に現代の環境で私は育ってきて、年々両親は当然のこのように老けていって、定年を迎える中で、私には迷惑をかけないように、気にしなくていいと言うんですけど、やっぱり子供としては、見てあげたいというところもあって、でも両親2人ともというのがあって、まだ地域とか、親戚はいるんですけど、そんなに多いわけでもなく、そこら辺のことを考えて両親を見なければいけないというプレッシャーや、両親が老後になった時、自分がどうしなければいけないのかというのを問題提起したくて、寸劇にしました。

(司 会)

ありがとう。どうぞ。

(神林氏)

私は、新神戸の真ん前にある老人ホームに勤めているんですが、うちの老人ホームは、若い方で63歳、上は101歳まで、在籍58名ぐらいのお年寄りがいるんですけども、58名というのは、皆さん、老人ホームに住んでいらっしゃる方です。

住んでいるということは、まず、お家にこのまま帰ることはない。病院で亡くなるか、老人ホームで亡くなる方なんですけども、そのお年寄りのご家族の方ですね、新神戸の、ど真ん中であって、すごく交通の便の良いうちの老人ホームに、ほとんど来られないです。7割ぐらいのお年寄りは、もう入ったきりです。1年に何回か、家族の方が会いに来るという形で、3割ぐらいの残りの方は、週に1回なり、3日に1回なり、お年寄りに会いに来られるんですけども、なぜか、交通の便の良い、うちの老人ホームに、ほとんど家族の人が来ないのは何でだろうと、僕なりに考えるんですけども。

やっぱり皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃる方は、僕みたいに仕事で老人に係わっている人間が、どれだけ頑張って心を開いてみても、お年寄りからしたら、やっぱり家族の人が一番なんですよ。

僕らがどれだけやさしくしても、逆に、来た家族の人がどれだけ、そのお年寄りと喧嘩しようが、やっぱりずっと家族であることは変わらないし、喧嘩するのも、それなりに良いことなんですよ。

僕がいくらやさしくしても、ただの良い人なんですけど、やっぱり家族の人が、お年寄りに対してできることといたら、良いことをするのが当たり前、やさしくするのが当たり前。でも僕らの言えないことも、もちろん言えるわけで、本当にその関係というのが、どっかにいってしまってい

る現実というのがあって、僕も仕事しながら、それがすごく嫌なんです。

だからといって、僕が家族の人に、来てくださいねと言ったところで、やっぱりその切れた糸というのは、結び直すことは僕の力ではできないし、僕らの働いている仲間が、みんなが言ってもやっぱり通じないと思うんですよ。

だから何でしょう、まだ僕のできることを捜している途中なんですけれども、皆さん何か良いアイデアがあったら教えてください。逆に、何のアイデアがなくてもおじいちゃん、おばあちゃんの方々は、僕の言ってることを、ちょっと考えてみてください。以上です。

(司 会)

神林さんは、特別養護老人ホームで働いて、何年ぐらいですか。

(神林氏)

3年目です。

(司 会)

実践の中からご意見ですよ。何かございますか。彼の呼び掛け、働きかけに関して。極めて経験、現実の中から、そういう訴えをされているんだけど。シーンとしてきた。どうぞ。

(今井氏)

私は、あまり余計なことは言いたくないんですけれども、2つのことだけ、ちょっとコメントしたいと思います。

1つは、先ほど地域と、親と、子供のことで説明があった時に、ナイフの話が出ましたね。学校でナイフを持っている子供たちということについて、学校でできることは、ナイフを持ってきてはいけないんだと、こういうことしかできないんだという話がありました。

そんなことは、いろいろのことであると思いますが、大事なことは、なぜ子供がナイフを持ってくるんだろうかということですね。ある子供たちを集めて、いろいろ話を聞いてみたら、ある子供たちの中には、ナイフを持ってきたら安心ができる。ほかの子供たちと一緒に交わる時に、非常にいつも自分が孤独になって、だれかから被害を受けるんじゃないかと心配がある。それでナイフを持ってたら安心できるので、ナイフを持ってきた。

全く私たちと違った感情をもって、子供たちがナイフを持っているということが一つ気が付きました。このことは私たちにとって大事なことで、癒しということを考えた時に、私たち自身が、子供たちが持っているナイフを、なぜ持ってくるのかという時に、持ってきた理由というものに、そんな意味もあるんだということを考えた時に、人と人との関係というものが、どれほど大事かということが分かる。

同じことですけど、今、神林君ですか、老人ホームの経験がありました。その時のお話の中で、やっぱり親と子の関係というものは、非常に大事なことから、そのことを覚えてほしいと言いましたけれども、私たちの今の社会の一番大きな問題、少子化・高齢化社会と言われる社会の中で、皆さんが今までいろんな例を上げられましたけれども、1つ大事なことは、私たちが、いつか機能化してしまった社会の中に住んでいる。

何でも物を、あるいは品物で、あるいは道具で、ある時にはそれが薬であり、何であったとしても、何か物でもって癒されるということが定着してしまって、心で癒されるということが、なくなってしまった。

きょうの高瀬先生のお話の中の、コミュニケーションの問題が、そこに加わってくるわけですが、私達は今の時代が、少子化・高齢化という言葉で表わされているものの中に、私達はいつの間にか、人間の社会が、非人間化してしまった。機能化したために、人間と人間のコミュニケーションができなくなってきた。このことをつなぐということが、私達にとって大事だということを、午前中に教わりました。

そのことを考えたならば、1人の人と一緒にコミュニケーションしていく、その努力を神林君のようにしてくださる人が、また、そういうふうな気持ちで親を見る人が増えることが、私達のこれからの少子化・高齢化の中での非常に大きな課題。

それは決して少子化・高齢化というんじゃなくて、現代社会が持っている状況の中で、それを人間化していく、人間性を回復するということが（聞き取れず）ということだということを、もう一ぺん、ここで確認しておきたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

（司 会）

どうもありがとうございました。今コメントをしていただきましたけれども。

（男 性）

すみません、私も少しだけ、コメントというか、何というか。

先ほど、ジャングルジムの話をお聞きして、そのあとナイフの話が出たんですけど、おそらくジャングルジムというのは、子供たちの成長にとって、大変重要なというか、必要な遊具だと思うんですよ。しかもそれは通常の使い方というか、遊び方をしておれば、危険性はない。

ところが、たまたまその使い方を誤ったというか、そういうことによってケガをした。ケガをしたので、親が文句を言ったら、大変必要な、必須な遊具が、のけられてしまったと、こういう問題が提起されたんだと僕は思ったんです。

そうすると、そういうことについて皆さん方、どう考え、どういう意見を出したのか。

本当に必要な機械でも、たまたまそれが、そのことによってケガをして、だからのけたんだということになると、日常いろんな危険がありながら、人間は大きくなっていく、育っていくわけだから、その中で、危険だから全部のけてしまうということになると、家の外に出ると車にぶっつけられるよと。それじゃ家の中に閉じこもっていなさいと、こうなってしまって、社会生活ができなくなる。

そんなところの意見がどうなったのかなというふうに思ったので、ちょっと聞きたかったんですが、これはまた後ほど、お考えいただいたり、また意見をいただいたらいいかなというふうに思います。以上です。

（司 会）

今のことに関して、言っておきたいことはありますか。

（小西氏）

兵庫県豊岡の小西ですけども、先ほどありましたけども、やっぱり家族がどのように子供に対して、親が子供に対してどのように接しているか、コミュニケーションができていくかというのが問題だと思うんです。

どうなんでしょう。最近、見ますと、両親共働きでということ、本当に子供たちは言いたいことも言えない状況にあると思うんですけども、その辺で答えになっているかどうか分からないんで

すけど、家族のせいにはしたくないんですけども、と思うんですけど、違うんでしょうかね。家族がちょっとコミュニケーションできてないと思います。

(司 会)

もっと簡単に言うと、そのジャングルジムが実際に無くなったと。皆さん、それについては、どう思っているわけ？ しょうがないと思うのか、親が間違っているというのか、どっち？

(小西氏)

私個人の意見は、やはり無くなること自体がおかしいと思っております。やはり親がちゃんとしないといけないんじゃないかと思っていますけど。

(男 性)

僕の意見なんですけど、ジャングルジムが無くなったというのは、ある一種の暴力だと思うんですよ。子供から奪ったっていう。ちょっと説明しにくいんですけど、やっぱり子供がナイフを握るということも暴力なんですけど、やはり大人が奪っていくということもあると思うんですよ。

正直な話、やっぱり団体によっても暴力があるし、個人によっても暴力があるという、そういう状態なんで、何が正しいとはちょっと判断しにくいんですけど、それは皆さんがこれから頑張ってみつけてください。

(司 会)

そういう意味で、B班の価値観の変化ってあるよね。いま言っていることは、そういうことなのかなあ。B班で価値観の変化って、いろいろ出たでしょう。

(男 性)

価値観の変化というので、僕は思うんですけど、ちょっとだけ長くなるんですけど。

(司 会)

いいですよ。

(男 性)

正直な話、60年代、70年代にも、常に暴力は存在していたと思うんですよ。どちらかといえば、そういうのは学生運動とか、そういうのもたぶん存在していたはずだし、正直90年代、僕たちの世代なんですけど、やはり個人というのが尊重される時代で、そういう世界を見ても、やっぱり世界大戦というレベルじゃなくて、規模も小さい内戦、テロにいつてるわけですよ。

やはり90年代というのは、規模の小さいものになってしまっているから、やっぱりそういう暴力は個人になっちゃったというので、正直、暴力のものは、ナイフを持つてる少年が異常じゃなくて、僕たちの中にある普遍的なものから、きているかも知れない。もしかしたら僕たちも、あした、どっかで踏み外してしまうという恐れもあるかも知れないというので、あっち側と考えるよりも、僕たち側の問題と考えることも必要だと思います。いいですかね。

(男 性)

さっき暴力と言っていましたけども、何が暴力なのか、ちょっと分からないんですけども、もう一度、説明してください。

(男 性)

僕の定義なんですけど、やっぱり暴力というのは、人を傷つけちゃうことだと思うんですよ。それは肉体的でもあるし、精神的なもの。どちらかといえばナイフを持っている子とかは、精神的な

暴力を正直な話、僕たち社会がふるっちゃったというか、ある意味では、そういう子たちも殺されちゃってるんですよね、精神的に。

だと思います。

(男 性)

それですね、ジャングルジムを取ることなんですけど、僕は、別に暴力だとは思わないんですよ。

(男 性)

例えなんですけど、ある意味で奪っちゃってるという、子供の楽しさを奪っちゃてるわけですよ。

(男 性)

それは、子供のことを大事にしてですよ。

(男 性)

というか、親の考えといっても、それはたまたま1人の少年がジャングルジムに行って落ちちゃって、その親が無くしてくれといったことですから、ある種のがままにもなると思うんですよ、それは。ある種のがままから、人が傷つくこともあると思うんですよ。

(男 性)

さっきから、ナイフを持って、ナイフを持ってと言っておりますが、小学校の時に持ってませんでしたか、皆さん。ただ使い方を間違えているだけであって、最近の子。別に持っていることが悪いとは思わないんですけども、鉛筆削ったりするのにも使うし、図工の時間も使います。それが、さっきから聞いていると、何かナイフを持った子供が、というふうに、悪いようにしか聞こえないんです。

(男 性)

たぶんナイフは、僕らの時は道具だったんですけど、今は武器として子供の中にあると思うんですよ。僕らの時は、武器という感覚はなかったんですよ。決してこれは人を傷つけるものじゃなくて、間違えて人を傷つけることはあっても、人を傷つけるために持っているものではなかったと思うんです。

今は武器とか、自衛手段として、何かに追いかけているみたいに持っていると思うんですよ。たぶん、それがみんなの言いたいことかな。

(男 性)

さっきのジャングルジムの話なんですけれども、いろいろ親の気持ちというのも分かるんですけども、親としては、たぶん子供がケガをした。その責任はだれにあるのか。実際、例えば公園なら公園、学校なら学校でもそうですけれども、みんな責任を取りたがらない。結局、最後、ジャングルジムという物に責任を取らせて、そのジャングルジムというものが無くなれば、それで責任はなくなるというふうな考え方をしていると思うんです。

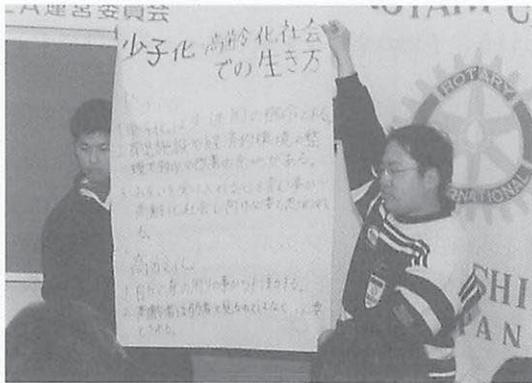
だから、その責任の所在が本当はどこにあるのか、そういうのをしっかりと詰めていかないといけないと思います。

僕の意見としては、ジャングルジムを無くするということは、責任の逃避ではないのかなと思います。以上です。

(司 会)

この班は、具体的に、席を譲る、公園の問題、それから、一人っ子の人が老後の不安としていろいろいただいたんですけど、ここで一ぺん切ってよろしいでしょうか。どうもありがとうございます。(拍手)

それでは、お持たせをいたしました。D班どうぞ。



## D 班

(D班の男性)

意見もいろいろ出たんですけども、一応ざっくばらんに近いところから集めて、いろんな例を入れて話そうと思います。

初めに書きましたけども、少子化というのは先進国の宿命であると、何か決めつけているみたいな言い方しますけども、実際、社会構造、

人口ピラミッドの移り方というのは、たぶん最終的には、ここに落ち着くものだと思います。

例えば、高齢化社会を支えるに当たって、子供がたくさん必要だと思われる方、たくさんいると思います。でも、じゃあ増えたあと、それを支える世代というのはまたその人数が生まれるわけですよ。

そうなった時に、やっぱり今の日本で、人口がそれだけ増えて、やっていけるのかということを考えて時に、どうしても社会構造的に、今、僕ら、あるいは僕らの次の世代というのは、苦勞しなければいけない世代なんじゃないかなと思います。

と言いながらも、少子化が良いというわけでもないんで、少しは改善する余地というのはあって、それは、ほかの班もたくさん言われたけども、経済的なことであったり、育児施設の整備とか、そういうことで、たぶんある程度の改善はできると思います。

現実に、たぶん女性の皆さんで、子供を産む時に、私は一人の子供でいいわと言う方、そうたくさんはおられないと思いますし、理想があるなら、たぶん複数のに産みたい方はたくさんおられると思いますので、そういったことは可能であると思います。

それで、少子化によって一人っ子がたぶん増えたと思うんですよ、最近。僕なんかも、クラブの部長をやった時に、新入生とか見ていて、だんだん人との付き合いというのを面倒くさがる子が増えてきたと思うんですよ。

やっぱりそういう子って、僕の世代、僕はもう30を超えておりますけども、10歳ぐらい下の世代というのは、ファミコンとかが増えてきて、人と人との付き合いとかいうのを、小さいころから、ゼロではないでしょうけど、非常に疎遠になってきたと思います。

それとあと、親とか家庭環境とかで、叱られるとかいうことが、ちょっと少ないんじゃないかなという気がしています。それで相手の気持ちとか、そういうことを考えることが、少々希薄になっ

ている部分があるのじゃないかなと、これは僕の、個人的な感情ですけども、思います。

それで、お互いの性格とか、世代とか、状況とかの違いを考えながら、相手を思いやる心というのを育むということが、これから高齢化社会に向けて、世代の違った人たちと付き合いがなければならない僕たちに、必要なことじゃないかなと思います。

これも個人の話になるんですけども、僕の知り合いの方の娘さんが、農村留学というのが最近あるそうですね。1年間だけ学校の籍を移して、農村に留学する。その子は、今まで神戸の灘区の街中だったから、そういう自然に触れることもなくて、自然がどういうものか、あるいは農村の生活、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんとの触れ合いとか、そういうものを全く知らなかったわけですよ。全くじゃないかも知れません。でも希薄だったと思うんですよ。

それが帰ってきて、すごくそういう意味で勉強になったという話を聞いた時に、非常に僕は、それは良いシステムだなと思います。そういったものは、これから、一人っ子、少子化世代の子供たちが世の中に触れていくのに、非常に良いシステムなんじゃないかなと僕は思いました。

高齢化についてなんですけども、これは僕じゃないんですけど、シンキグローバル、アクトローカルという意見が出まして、自分の身近なことから行動して、大きな目標に向かって頑張ろうという話だったと、僕は理解しているんですけども、先ほど施設の方が言われましたように、自分の父親、おじいちゃん、おばあちゃんを訪問することが、非常に心を和ませるといって、そこからでいいと思うんですよ。僕ら自身がそれを考えなければいけないと思います。

僕は早くに、おじいちゃん、おばあちゃん亡くしちゃってるんで、小さい頃は、遊びに行ってたんですけども、そういうこと余りできなかったんですけども、これからそれを自分の肉親だけではなくて、自分の知り合いとかで、そういう縁のある方に対して、そういうことができればと、自分自身では思っております。

それから高齢者なんですけど、皆さん全員じゃないと思うんですけど、非常に弱者として見られる方が結構おられると思うんですよ。でも老人というのは、言い換えれば、それまでの社会経験をたくさん持たれて、経験を経たエキスパートだと思うんですね。

体力的な衰えというのは非常にあると思うんですけども、ただ頭の働きだとか経験というのは、非常に世の中に貢献できると思うんですよ。現在、老人というのは、たぶん65歳ぐらいから、マル老というのが健康保険証につきますよね。そういった世代をたぶん老人と見られがちだと思うんですけども、それは定年とかで決められているだけであって、たぶん本人はまだまだ働けると思っている方、たくさんいると思います。

これも僕がアルバイトした先で、坂出だったと思うんですけど、シルバーサービスみたいなものがあるんですね。登録制になって、おじいさんが、植木の技術を持ってる人がいたら、登録して、お願いしますよと言われてたら、幾らかのお金をもらいながら、そうやってできる。これは非常に素晴らしいことだと思うんですよ。

だから働く意思のある方を、どんどん社会に活かすというか、需要させていくという、そういう考え方が、これから高齢化社会に向かって必要なんじゃないかと思います。

それで、寝たきりになる原因の一番というのは、病院にしばらくつけることだと思うんですよ。もし医療関係の方がおられたら、申しわけないと思うんですけども葉づけにして、ベッドに寝かされることによって、自分の足が動けなくなり、手も動けなくなり、だんだん体が動かなくなって、

寝たきりになると思うんですよ。それを防ぐためには、僕らは老人の自立心というのを努力するか、陰ながら支えるという形のサポートが必要じゃないかと思います。以上です。

(司 会)

ほかに補足がありますか。

(男 性)

僕は、関西福祉大学という大学にいてるんですけど、今年の学園祭で高齢者の人と交流するとかいうので、うちの大学も、やっぱり地域とか、高齢者の人は高齢者の人としか付き合いがないとか、そういうことなので、いろんな人と係われたほうがいいなということ、学部長とかも持って、それでうちの学園祭で、去年の学園祭、10月、11月ぐらいにあったんですけど、それでおじいちゃん、すごいなあという、おじいちゃんが昔、遊んだ遊び、竹トンボ作ったりとか、あと空き缶で動くやつとか、本当に工作して作る遊びを赤穂の地域の子供に教えるという、そういうプログラムを大学でやったりとかして、頑張っていましたし、それも一つの試みで、やっぱり今の子供というのは、僕も週に1回、小学校1年生の女の子とか、その辺の6歳とか7歳ぐらいの子供と一緒に遊ぶ機会があって、遊ぶんやけど、いつも鬼ごっことか、たか鬼とか、あれぐらいしか知らないんですね。すごく遊びが少ない。僕らだったら、まだケイドロとか、それにちょっと変化を加えたみたいなのとか、あとグラウンドへ行って野球やったりとか、モロしんどいやつとか、やってたけど、何か今の子供って余り走らんと、高いところにおったら大丈夫とか、運動量も、ちょっと休めるようなやつとか、バリエーションも少ないし、そういう意味で、高齢者の人の子供の時の遊んだ遊びとか、それを教えてあげることで交流になっていくし、高齢者の人も、そこで自分の役割、子供らが遊びに飢えている。でも遊び方が分からない。じゃあ、おれらの遊びの知識を教えてあげようというふうに、必要とされているという気持ちも味わえて、やっぱりそれは必要だと思うんですよ。地域の中で自分の役割があって、必要とされているということは。だからそういう試みも、うちの大学ではしました。宣伝になっちゃうんですけど。

(女 性)

私も昔の遊びの話、すごく楽しく聞かせてもらいました。今の子供って、すぐにゲームして遊ぶというふうに聞くんですね。私は余りゲームで遊んだことはないんですけどね、昔の遊びって、すごく楽しいんですよ。ゲームも楽しい。

なんでみんなゲームをするかというね、昔の遊びの楽しさを知らないんですよ。それにほかならないと、私は思うんです。何でもね、やっぱり魅力が伝わってないんですよ、知らないから。竹トンボ作ったり、竹をといてみたり、飛ばしてみたり、それこそペタンで遊んでみたりね。そういう楽しさを伝えていかないといけないと思うんですよ。

あの子らは知らないだけで、何もゲームが好きでやっているんでなくて、分かってないと思うので、私も帰って、いろんな昔の遊びするんですけど、子供らと。なかなかそういう機会もないので、老人は老人会の人と集まって、子供たちとやっていく、そういうパイプ役ができたらと、今、感じました。

(司 会)

ほかに補足はありませんか。D班、よろしいですか。言い尽くした？

じゃあ、どうもありがとうございます。(拍手)

\* \* \* \* \*

B、A、C、Dとご報告をいただきました。少子化・高齢化社会の原因、課題、具体的な取り組み、いろいろ発表していただきましたが、副題にありました、尽くす心癒す心、余り触れられてないね。

ここでちょっとトイレ休憩をいたしまして、このあと、もっともっとざっくばらんに、コメントも少し入れながら、深めていきたいと思います。10分、休憩します。9時25分から、次、続けます。

(体 息)

\* \* \* \* \*

(司 会)

1、2点、ご協力をお願いいたします。

私、うっかりしていましたが、質問その他がある時は、手を上げていただいて、お立ちください。どこでしゃべっているか分からないので、立っていただいて、記録のために録音しておりますので、マイクを必ず持ってください。お願いいたします。

それから、ロータリーの皆さんにお願いですが、ロータリアンの皆さんは、この受講生に対して、問題の投げかけとか、こういう点は君らどない考えるのか、そういう投げかけはしてください。意見は余り言われますと、彼らも話しにくいですので、ロータリアンの皆さんは、若い人たちに、この点はどうなの？ どんな考え持ってる？ というような投げかけはしていただいて結構ですので、そういうつもりでお願いをいたします。

〇〇先生と私のほうで、どうやっていこうかなと、私自身もハッキリまだ先が見えない部分もあるんですが、最初に皆さん方に、私なりにちょっと思うところを述べますと、今現在まで皆さんがお育ちになった教育環境、どんなだったかということの中で、こんなことはないのかなということ、短くお話をいたします。

まず学校教育、あるいは家庭教育、社会教育、いろいろあると思いますが、まず学校教育という現場で、皆さんがどのようにお育ちになったのかということになりますが、まず文部省は、指導要領というのは、大体10年おきぐらいに書き換えています。ですよ。

最近では何かというと、小学校で、2003年の予定が、2002年から週5日制、完全週5日制になりますよね。そこで「ゆとり」というようなことがありますよね。

それから、もっと総合的な学習をさせようじゃないかということを行っていますよね。それから今までは、塾なんかけしからんと言ったけど、塾も大に行ったらいいというようなことを言いかけていますよね。

だから文部省自身も、今までずっと日本の戦後教育というようなことをやってくる中にも、10年ごとに書き換えてきましたけど、やっぱり今井さんがさっきおっしゃったように、本当に人間として生きているという、最近では生きる力みたいなものを感じることがないままに、何か詰め込みとか、管理とか、そういう中できている。

だから、より早く、何でも早くこなす。それからより多くのことをこなす。そしてより巧みに何でもこなすことを、ある限られた年数の中で、どんどん知識を注入するし、できるだけ早くしないと、大学入試、入れへんわけだからね。そういうような、より多く、より巧みに、より早くというようなことですね。だから親も、何でも早うしな早うしな、ぐずぐずしてということを行いますよね。そういう中で、皆さんが、ある程度しばられてきたのかな？ そんな感じを持ってないかな？

そんな中で、例えば今、中学校、高校、小学校もそうですけれども、抑圧が多い中で、息苦しい。もっと言えば、生きることも苦しい、生き苦しいみたいなどころがあるのかな。そこでいろいろ悩んでいる周辺の皆さんの仲間はいませんか？ いたよね、きっと。そういう人たちに対して、私たちは何ができたのかなあ？

いじめの問題も、いじめているとは思ってないのよね。いじめられたほうは、絶対いじめられたと思っているの。

というようなことの中で、やっぱり学校教育、もっといえば、学校の先生も、できない子供、頑張りたけれど、どうしていいかわからない子供に対して、どのような手を差し伸べることができるかというような思いの中で、先生が係わってくれたかな？ 僕よくわからないから、問いかけだけしませんが。と、思うんですね。

それから家庭なんていうことで考えると、ずっと核家族の問題が出てきましたよね。そこで何が問題かという、お父ちゃん、お母ちゃん、子供2人としますね。そしたら、オギャーと生まれて、さっきも申し上げた、生まれて初めて経験する人間関係、集団というのは、家庭ですよ。そうすると、人間関係というのは、1、2、3、4、5、6ですよ。6つの人間関係。

ところが、あるところで、お父ちゃん忙しいから、お母ちゃんと子供の関係が、ものすごく強いということの中で、あるいは子供の数も少ないし、家庭のいろんな役割分担なんかしなくても、あなたは勉強さえしておればいいですよという中で、人間関係を作るとか、もまれるとかいうことはないですよ。ですから、例えば、篠原さん、何人兄弟ですか。

(篠原氏)

4人です。

(司 会)

何人で育ちました？ 家族。お父ちゃん、お母ちゃんの6人ですか。

(篠原氏)

8人です。

(司 会)

8人家族にいくと、この線、何本引けるといいます？  $8 \times 8 - 8 \div 2$  これ、人間関係数です。これが構成数なんです。28の人間関係を篠原さんという人はもう既にオギャーと生まれて、家庭の中で体験してきているわけです。兄弟4人。

もっといえば、今井先生とか森先生の時代だと、兄弟1ダースぐらい、おったからね。例えば6人としても、年子としても1年生から6年生まで、家におるわけですよ。

ケンカもするよ、いじめられもするよ、やさしくもされるよ、いたわりもある。そんなことを、いろんなことを経験できたわけですよ。

これができなくなっている。だったら、この子供たちの人間関係を創造するために、どういう集

団が必要なのかということなんかも意図的に考えていかないと、実際には、学校集団、地域の集団、職場集団、どこへいっても人間関係は必要なんですよ。

そのことを、私が申し上げたコミュニケーション能力というようなことが、体験としてできてないのと違うかな。ということが分かると思いますね、8人も家族がおったらね。お母ちゃんにしろ、おじいちゃん、おばあちゃん、弟か妹か分からないけど、今、相手の気持ちはどんな気持ちかというようなことは、やっぱり考えて行動しなかったら、みんな勝手な行動しとったら、この8人家族、ムチャクチャよね。

それぞれ、やっぱり相手がどんな気持ちか。だったらそのために自分はどういう行動を起こそうか、というようなことを考えて行動に移すということが、体験としてできてきている。皆さんどうですか。問いかけもしてみたいと思うんですね。

それから社会でいうと、社会というのは、なんだかんだ言っても、車社会になってきたとか、情報化社会になってきたとか、あるいは私ら小さい時は、テレビなかったんよ。今はテレビあるし、うちはファミコンはないし、コンピューターもない家庭だけどね、でも実際には社会というのは、いろんな形で変化しているじゃないですか。そういうことの中で、なんだかんだ言っても管理されている、今の子供たち。ということが余りにも多くないですか。

そういうことの中で、本当に人間として認めるというか、ことはあるかな。車社会がどんどん進む中で、いろんなことが起こって、いろんなことが要素として社会の中でもあると思うんですね。

そういうことの中で、先ほど、私の思いですけど、皆さん、ごつい優等生の答えがいっぱい出とんですよ。ほんまやってくれるの？ できるの？ ほんまにこういうことをせんといかんと思うてくれているの？ と思うんです。僕は。

だったら、まず身近なところから、何ができるかなというようなところを考えてほしいと思うの。

先ほど、幾つか具体的に出てきたんですけど、三浦さんだったっけ、彼女が、私、一人っ子で、お父さん、お母さんのことを、大事にせんといかんと思うけど、ほんまに私、1人でやれるだろうか。ほんまに心配している。

この中にはね、いや何とかなるやろ、と思ってる人もおるかも知れんし、もう既に、失礼ですけど、おいくつですか。21歳。そういう具体的に本当にそのことを将来を見越しながら考えている人もいないじゃないですか。

そういう、いろんな人たちとの皆さんは、価値観の変化、逆に価値観と価値観のぶつかり合い、ぶつけ合い、その中で支え合う、そんなことって具体的に、日常的に感じながら生活できているかな。

こういうところでは、優等生みたいなことを言ってるけど、本当にそんなつもりで、肌を感じながら、毎日を送れているかな？ と僕なんか思うんです。

そんなことをいろいろ、私は聞きながら思っ、まだ言いたいんですけど、これからロータリアンの皆さんも、若い人たちにいろいろ問いかけをしてくださると思います。それに遠慮なしに、お答えをいただきたいと思っています。

さっきのDの終わりの時に、何か補足ありませんかと、フロアに質問、聞くのを忘れていまして、私、質問したかったと言ったから、どうぞ。

(男 性)

どうもすみません。別に大きなことではないんですけど、細かいことで、D班の育児施設について、僕が思ったことを、ちょっと言います。それは答えではないんですけど、僕が小さい時というのは、近くに岩山とか空き地という広場があって、その中に子供が集まるという状態で、その中で、いろんな知らない子供たちが集まって、いろんな遊びをしました。

そしてそれが、大きく小学校とか中学校になるにつれて、駐車場になったり、新しい家が建つということによって、遊ぶ場所がなくなったんですよ。それで実際に何をして遊ぶかということについて、もう外で遊べないから、今度は家で遊ぶということで、その時とちょうど似かよって、その時にゲームが出てきて、もう外で遊ぶ場所を捜すよりも、近くのゲームのほうがおもしろいんじゃないかということで、ゲームをして遊ぶことになりました。

それで僕が言いたかったのは、土地関係でやっぱり人口が増えるから、遊ぶ場所もなくなるんだけど、その遊ぶ場所をつくる意味で、何か考えれることもありますかねという意味で、言いたかっただけです。

(司 会)

ありがとう。先ほどのジャングルジムとか、いろいろありました。

私、もうちょっと付け加えたいのは、今、学校教育とか、家庭教育とか、先ほどあったよね。僕、感じるんだけど、学校がやるべきこと、家庭でやるべきこと、社会がやるべきこと、これはやっぱり領域区分てあると思うんよね。

ところが何かね、親は無責任に任せ思想、学校へさえ預けておいたらいい。学校に何を期待するの？ 学校から一歩出たら、地域の問題、家庭の問題じゃないですか。と僕は思うんです。そういうことが、どっかでごっちゃになってませんか。と僕は思うの。

親が本当に子供に対する責任を、どう負うのか。学校の先生が負う責任と、親の責任とが、どっかで食い違ってませんかね。僕はそんな感じするんですよ。

だから、学校から一歩出たら、繰り返しになるけど、社会とか家庭の責任であって、それをなぜ。ここのリーダー卒業したので、学校の先生いっぱいいるけどね、夏休み、お前らいいなあと言ったら、何いってはるの、毎日夜8時までは、中学校なんか、おらないかん、当番で。補導とかね。何でもそんなこと、学校の先生の責任ですか。何でも学校じゃないですか。

夜7時、神戸の街で何か事件があった。学校の先生を呼び出す。何で？ 呼び出すんだったら親じゃないの？ 学校内での問題だったらいいいけど、外で起こったことじゃないですか。と思いませんか。

逆に先生に話を聞いてみると、親がなってませんわ、全然。何でも学校へ言うてくる。親の責任は何やと言いたい。しかし社会がおかしいというようなことを言いますよ。

そういう矛盾も、いろいろ皆さんも感じながら成長されてきたと思うし、私が申し上げたコミュニケーション能力は、絶対、皆さんは不足しとると僕は思う。

それからナイフじゃないけど、ナイフを持つということは、皆さん、さっき言うたように、私も持っていました。昔。ただ持つとって、何かあったら自分の身を守るために持つてるという感覚は、もちろんなかった。

そういうことの中で、今の子供たちは、何か人間関係の不安がある。そういうことの中で、最後

には何かあったら、感情表現の方法の未熟さみたいなものを、具体的にナイフで表わしてしまっているみたいなこと。その背景はいったい何かなということだと思うんですね。

そんなことを思いつつ、皆さん方、そんなこと言われたって、私たちは私たちが意見もあると思うし、それからずっと一連の話の中で、またさらに突っ込みたいとか、質問とか、いろいろあると思いますけれど、どなたから始めていただきますでしょうか。はい、加藤さん、どうぞ。

(加藤氏)

伊丹市からまいりました加藤ヒラクと申します。これは時間、3分ぐらいでいいと思います。

いろいろ議論が出ておるわけなんですけど、ちょっと私自身、こういうふう整理しておいたらいいなと思うことがあるんです。

先ほど、教育の問題、出ましたね。皆さん、これ教育って読めますね。これを分かりやすく、この概念を少し整理してみますとね、この教というのはね、こういうふうに老カンムリで、ここに子供がおる姿。これは漢字でいえば老カンムリでしょう。老カンムリというのは老。これ日なたぼっこしているところなんです。

老というのは、シルバーと言われる言葉の中に、あるいは高齢と言われる中と、もう一つ老という言葉の中には、尊敬されるという、老練なという言葉があるでしょう。

それと、家庭の中にお年寄りがおると、やさしさを感じるのも、これ老なんです。若い?刺とした中に、まあまあいいじゃないかというふうな、老婆心とかいう言葉があるでしょう。老というのは、そういう言葉なんです。

そこに子供が入るわけですね。これ何かというと、孝行の孝なんです。それで、僕には、これはどういう意味を表わすかということ、大人がムチを持って、もともとムチ打ち促すということなんです。だから、ここに正しいと書くと、正しさをムチ打ち促す。牛を書くと、牧場の牧童の牧になるでしょう。牛を寄せていくから、牧童というのは、そういうふうなムチをね、棒切れを持ってる姿なんです。これが教。だから整理をすると、孝行というものをムチ打ち促していくのが教。

育というのは、育むというのは、こういうふうな母親のお腹から出てくる姿が育ということなんです。だから、教は父親の役割、そして育むというのは母親の役割なんです。やさしさ、生まれるというのはね。だから、女性の一番大きな力というのは、生み出すというのが、育の大きな意味なんです。

これが、だから今、言ったように、年寄りからずっと、きょうも山口さんが、朝おっしやっていましたけど、われわれは何万年、200万年の中で、きょう皆さんが生きているということは、その生命がずっと連綿と1回も切れてないんです。切れてない姿が皆さんなんです。皆さんのお父さんのお父さん、お父さんといってずっとさかのぼっていけば、一度も切れたことないんです。

それが切れると不幸ということになるんですね。不幸せ。日本語って非常におもしろいですね。同じ意味が、同じ表現の中に、非常に大きな意味があるんです。同音異語という言葉のようにね。

それで教育の意味合いは、そういうことを教え、育てるということと、もう一つ整理する意味でね、もう一つ。これ、私も最近、教えてもらったことなんです。

社会というのは、大きなコミュニケーションで結ばれているのは5倫。きょうは小池さんもおられますので、あまり偉そうなことも言えませんが、五倫五常ということがあって、倫というのは人間関係で、この中に5つの常、これは真理があるということ。その関係の中に、必ず皆さんおら

れますから。

その1つは、まず父子、こういう人間関係。母親と子でもいいですね。

次が必ず兄弟姉妹といわれる、こういうふうな関係ですね。こういう必ず関係の中にある。

そして次が、必ず会社へ行けば上司と部下の関係、これは君臣というんですね。

そして、必ず人間関係の中に、切っても切れない夫婦、こういう関係があるでしょう。

そしてもう一つ、友達の関係というのがあるでしょう。

こういう関係の中に必ず皆さんある。これが5つの原理であって、この中に、どうしても欠くことのできない常があるんですね。

これは、親愛というんですね。親愛の情。

兄弟の序というのがあるんですね。

君臣には必ず、どうしても持たなければいけない義というのがあるんですね。

そして夫婦には、ある一定の間隔があるんですね。あまり詰め寄り過ぎると、夫婦ってね、お互いに触われたくない領域があって、夫婦の間には、ある種の距離が必要なんですね。離別、別れということではなくて、距離が必要なんです。

皆さん、友人関係の中で、どうしても忘れてはいけないのは、朋友の中の信、お互いに信じ合うということ、これがなかったら、不信を持たば友達関係というのはいらないんです。

こういう人間関係があって、一つの社会、これはかつての儒教の中にある基本の理念なんですけれどもね、こういうことも一つ、古いからということで捨てるということでもなしに、もう1回、考えてみる必要があるんじゃないだろうか。

必ず、寝ても醒めても、親というものは子供をそっと見守るという目があるんですね。これは皆さん、親になった時に分かります。

兄弟には、どうしても侵してはならない序というのがある。弟が兄を超す、そういうことはないわけで、兄弟姉妹の中には序というものがある。

君臣の中には正義がなかったら、人は付いていきません。親方が破廉恥なことをしよるとね。

そういうことです。これ一つ、あまり世間で聞いたことがないんで。

(司 会)

大変ありがとうございます。ただロータリアンの皆さんにお願いしたいのは、こういう結論めいたことを、おっしゃっていただくというんじゃないしに、若い方にこんなことはどう考えているの？ こんな問題どうなの？ とか、こういう問題については、君らは、こんな大事な点が抜けているんじゃないですか、というような問題提起を、できたらやっていただきたい。意見じゃなしに、そういう質問とか、問題提起をやっていただきたいということでございますので、よろしく、ご協力をいただきたいと思います。どうぞ。

(深見氏)

松山ロータリーの深見と申します。これ智さん、女性の方に聞きたいんですけど、答えたくない、そんなの答えないよというんだったら結構です。

私ね、仲人を10何組やったんですけども、1組も離婚してないんです。ただね、子供はみんな、多くて2人、たいてい1人なんです。その夫婦に聞きましたらね、たいてい女性のほうが、もういらないと、産みたくないと言うんです。

そこから先は聞いたことはないんですけども、皆さん女性の方、少子化の問題でちょっと気になるのは、いったい女性の方が、何人ぐらい子供さんを産むつもりでいらっしゃるのか。なんで1人しか産みたくないのか、その辺り、もし答えしていただけるんだったら、して下さいますか。セクハラだというんだったら、もう結構ですから。

(司 会)

さっきね、ここでこういう図があるじゃないですか。子供さんをたくさん育てられないということは、たくさん育てたいと思っているけど、育てられない現実。それが高齢化社会をうみ、50年後の年金危機で、共働きして、今、貯めておこなあかんと。やっぱり1人でいいかと出ているけど、今の質問に対しては？ やっぱりみんなこうなの？ ちょっと私は違うんだけどという方いい？ 男性でも女性でもいいよ。今の深見さんの質問にも合わせて。今の若い人、みんなこれか。みんなこの考え？

(森田さん)

違います。

(司 会)

彼女は、90軒の、300人の村に住んでいるから、たくさん子供が欲しいんだよね。知ってる。何人ぐらいですかと聞いているけど。

(森田さん)

3人です。

(司 会)

今、なんでこのことが問題になってるの？ 日本の社会は、どうなっていくんだろう、一人っ子ということは。人口減っていくということやね。減っていったら、日本の経済力とか、国はどうなっていく？ 今の合わせて、みんなこれですか。なんとかならんかね。はい、どうぞ。

(森田さん)

何度も申しわけありません、森田です。私は、中国に去年、この2月まで留学しておりまして、私のクラスメートがみんな一人っ子。中国で一人っ子政策が始まったのが1978年、ちょうど私が生まれた年になるんです。だから、今年大学へ入る人たちと一緒に勉強させていただいたんですけど、クラスメートが、みんな一人っ子政策、真ただ中の生徒だったんです。

そしたら、一人っ子であることの問題点につきまして、欲しいのに産めないという状況の違いはあるんですけども、やっぱりどうしても甘やかしてしまう。どうしても見てもらえない。何でも欲しいものは買う。

だから、先生の話も聞けない。先生が話しているのに動いたり、しゃべったり、そういう状況がものすごく目のあたりにしてきたので、私としましては、先ほどの質問にお答えしまして、1人ではなく、やっぱり兄弟でもまれながら育っていくという状況がほしいと思いますので、まあ1人ではなくという、そういうことは私は思っております。

(司 会)

今、中国の話が出たけど、私もあまり行ったことはありませんけど、一人っ子政策すると、また別の問題があって、それこそ後継ぎが男でないといかんと、女の子が生まれたら、あるいは障害の子ができれば、捨て子にするとかね、いろんな問題がまた別にあるんですよ。現実にね。あなた何

年、行ってたんですか。

(森田さん)

1年です。

(司 会)

ほかにはないですか。彼女はああいう意見。ほかの男性も含めてどうですか。男性も結婚したらこういう考えで、無理やで、1人やというんですか。どうぞ。

(男 性)

僕の意見は、兄弟が2人なんで、2人欲しいというのがあるんです。そして3月12日に徳島のほうで、育児のことについて会があったんです。それに僕も、たまたま河合我聞が来るというので参加したんですけど、その時にアンケートを取ったんですけど、既婚の男性、未婚の男性、既婚の女性、未婚の女性というようなグループ分けで、一応、子供が何人欲しいかというアンケートに答えたら、徳島のほうでの一部なんですけど、一部では、1人というよりも2人、そしてもし欲しかったら3人という声がありました。

その理由というのは、やっぱり僕がさっき述べたように、自分が兄弟が2人おって、2人で結構楽しくいけたから、やっぱり自分の子供も2人欲しいというので、自分の兄弟とフィードバックというんでないんですけど、そのようにもって行ってほしいという子がいました。

それで、既婚の男性の方は、理想と現実というんですか、実際は3人欲しかったけど、実際、無理だったという男性のほうが多かったんですけどね。男性は、やっぱり欲しいという気持ちはあるんですけど、やっぱり、産むほうは女性であって、奥さんと話した結果、やっぱりお金の問題、家の部屋の大きさの問題。そして、女性方の体の問題ということで、あきらめたという意見がありました。

(司 会)

どうもありがとうございました。いろいろまだあると思いますが。質問？

(男 性)

今、一人っ子というような話が出ましたけど、例えば子供が一人っ子ということは、取りあえず欲しいということだと思うんです。

その中で、例えば子供が10歳になった時に、何らかの事故とか病気とかで亡くなってしまった場合に、その場合はもう子供いないわけですよ。その辺のことについて、一人っ子でいいんじゃないかというような意見と、ちょっとその中でそういうこと、事実について、どういうふうに見えるか、ちょっとお聞かせ願いたいなと思います。

(司 会)

このあと、またグループに戻って、あした、鎌田さん？ また教えてあげて。

(男 性)

今の問題は、一度この程度にして、次の問題提起とか質問とか、そういうことに移りたいと思うんですけど、何かありませんか。

1つジャングルジムの問題で、それぞれの自分の行為の自己責任の原則というのかな、自分がやったことは、自分が責任を持たないと駄目よという部分が当然あるわけで、それを何でもかんでも人に転嫁してしまう、そういう問題があるのかなというふうに思うので、そういう問題についての

もし意見があれば、それを中心に、意見交換をやっていただいてもいいかなというふうに思いますし、もう1つは、きょう高瀬先生の話の中で、自分の行為の意味は、相手の反応を見て、初めて意義づけがきてるんだというか、意味が分かるんだと、こういう話がありましたね。

自分は相手を癒そうというふうに思って、癒しの行為をやったつもりでも、相手は何も癒しと受け取ってくれなかったというふうなことがある。そうすると、本当の癒しの行為をするためには、どうすればいいんだというふうな、そういう問題もあるかなと。

今、簡単に2つ、ちょっと言いましたけれども、どちらかの問題なんかで、少し意見があったら、一度言っていて、その問題を中心に、もう少し意見交換をしてもらったらどうかと思うんですが、これは僕の意見ですが、どうでしょうか。皆さん方、何かありませんでしょうか。

(森田さん)

本当に何度もすみません。きょうバスセッションのほうでB班の皆さんと話し合いました分と、あとこちらのほうで皆さんの意見を聞かせていただいた分と合わせて、私の考えたことという部分で意見を述べさせていただきたいんですけど、少し長くなるかも知れないんですけど、よろしいでしょうか。

(司 会)

どうぞ。

(森田さん)

私の好きな言葉で「タイム・イズ・ラブ」というのがあるんですね。この意味になるんですけど、相手のために、どれだけ自分の時間をさくことができるか。相手のことを、どれだけ時間、考えることができるか。それが愛情につながるという意味になるんですけど、人間、親子であっても、同じ人間同士。でも人間同士なので、違う個人の人間同士なので、話し合わないと、分からないことばかりですよ。親だから分かってくれるわ、子供だし分かってるやろ。そういうのじゃないですよ。同じ人間関係なんですから。

その上で、教育過程で、教育というのは、子供になにも別に親だけが教育しないといけないわけじゃないと思うんです。親に子供の教育の義務はあるし、絶対教育はしないといけない。それは大前提であって、こちらのB班の発表でも言わせてもらいましたが、地域社会との触れ合いという点でも、パッと顔を見て話しかけることによって、あっ、きょうはいい天気やな、きょうは元気が、それだけでも、すごく意識の改革になるし、あっ、自分は興味を持たれてる、あっ、自分はこの人に愛されているかも知れないという、そういう気持ちが生まれてきますよね。

それで、自分はすごくこの社会にとって必要な人間だと感じる事ができたら、命の大切さも分かってくると思うんです、自然に。そういうのって、別に親が教えることでも、先生が教えることでもなく、ただの挨拶、ただの触れ合いですね、そういう中で生まれてくることだと思うんです。

また、その「タイム・イズ・ラブ」子供のためにどれだけ時間を使えるかって親の問題にしたとしても、それは決して甘やかすという意味でとってほしくないんです。子供が初めて包丁を握った時って、見ていて、ものすごく怖いじゃないですか。手を切るかも知れない。でも手を切ったら、この包丁、危ないものだと分かるので、どこまで親が見守ってられるか。子供のために、どれだけ待ってられるか。そういうのも、そのタイムの意味になると思うんです。

だから、少子化・高齢化が進む社会だからこそ、特にそういう気持ちを持って、全然、無理なん

かしくなくていいじゃないですか。ボランティアで行くでと、そういう気負いなしに、自然に、いっぱい、いっぱい対話をしていって、いっぱい会話をしていって、お互いに価値観の違う世代同士でも分かりあえるように、話さないと分からないんですから、いっぱい話していけたらなと、私はきょうのフォーラムを聞きまして、そのように思いましたので意見を言わせてもらいました。(拍手)

(司 会)

えらい、みな拍手しているけど、すごいなと思った？ 思っただけ？ 私はこう思うんだ。今、教育の話、出ましたけどね、教育というのは、社会というのは、いつも変化するじゃないですか。

しかし社会に適應させようとする方法を教えるのではなくて、やっぱりここで語っていることは、これからの社会を、どのような社会をつくっていくかということを人間に考えさせる。そのほうが教育だと思うんよね。

彼女なんかの今の意見というのは、ものすごくいいと思うね。これからの社会をどうしていこうか。そのためには身近なところということで。先生どうぞ。

(高瀬先生)

時間が余らないと思いますので、皆さん方が、4つの班が発表されたことで、僕はたくさん質問があるんですけども、1つずつ伺っていきます。

A班からいきます。Aの左のパターンを見てですね、共働きして貯めるぞと。子供をたくさん育てられないという間に共通しているのは、B班が言ってる経済的負担ということなんですかね。

(司 会)

でしょうね。

(高瀬先生)

ところが、昔の日本人は、もっと貧しかったのに、5人とか6人の子供を産んでいた。1つはB班が上げた、言ってみれば子供が生まれるのを抑制するテクニックが十分でなかったという問題も、もちろんあります。ありますけども、おそらくそういう時代には兄弟の間の関係、コミュニケーションというか、長男とか長女は、一番下の妹とか弟の面倒を見るわけですね。

農家の場合だったら、両親とも働いているわけです。農閑期は子供の面倒を見るにしても。ものすごく今みたいな、いろんな耕耘機がない中で、5人、6人の子供を育てる。お米の値段が下がってくると、子供を身売りするという、そういう時代でも子供は産んでいったわけですね。

ですから、この経済的負担ということと、たくさん育てられないというのは、今の自分たちの経済状況というか、収入とか生活水準を落としたりたくない、あるいは、もっと悪い言葉で言うと、ぜいたくしたいという、それだけのことなんだろうかとということです。

だから、Aのあれを見ていると、50年後の年金危機は来る。今、貯めてもね、50年後の年金危機は救えないわけですね、あの図だと。そうすると、堂々巡りをぐるつと回っていると、だんだん年金危機は無限に続き、少子化みたいなのも無限に続き、高齢化社会も無限に続くような、そういうパターンのように受け取りますけども、それでいいんでしょうかということです。

(司 会)

それじゃ先生、幾つかご質問があるの、ちょっと待ってくださいね。そこからいきましょうか、忘れちゃうので。

今、AとBの、先生のご質問に対しては、どなたか、お答えというか、私たちはこのように話し

合いましたと。

(男 性)

まず、質問に対する答えになるかどうか分からないんですが、こちらの表はですね、悪循環の考えられる図なんですね。それで先ほど言われました、自分がぜいたくしたいとか、そういう意味での、経済的な負担が原因となるところかという質問なんですけれども、実際そのように受け止めております。

先ほど、たくさん子供を産んでいた時代があるとおっしゃいましたけども、それは本当なんですが、子供を産んで、子供にも一応、一労働力として使わせていた部分もあると思いますし、そこは社会の仕組みが変わってきておりますので、子供が少ないから駄目だとか、多いからいいとかっていう問題にはならないんじゃないかと思います。

(司 会)

D班は？

(男 性)

A班の、さっき言われた方と一緒になんですけど、今の人たちは、今の経済状況を落としたいくないというのが、たぶん第一にくると思うんですね。

それと、子供を幸せにしたいという考えが、やっぱりあるんですよ。たくさん産んでそれを均等に幸せにできるかといったら、まず無理な話で、さっき言われたように身売りしないといけないという状況が、またあるんですね。

今、捨て子とか、コインロッカーベビーとか、よくいますけど、それは経済状況のせいであって、だから、そこまでして子供を産んでも、その子供が不幸になるのであれば、一人っ子でいいんじゃないかということだと思うんですけれども。どうですかね。

(高瀬先生)

一人っ子であることの、その子供の不幸と、4人ぐらいいて経済レベルは低い、大学へ行こうと思っても、ちょっと4人は行かせられない。しかし兄弟の間での人間関係は非常に稠密なというか、そういう兄弟と、一人っ子だけで、政策的に一人っ子というのを作ったのは中国ですけれどもね、これは、人口が増えるのが怖いというので作ったんですけれども、今、彼女が説明した中国の一人っ子というのは、すさまじいですよ。日本の一人っ子じゃなくて、まさに王様みたいなんです。子供の王様なんです。それを親は憎らしく思いながらも、政府が禁止するからといって禁止しているわけです。一人っ子しているわけですから。

だから僕の質問に、今さっき言った一人っ子の子供の寂しさと、経済的には貧しいけれども、4人なら4人の子供がいて、お互いに助け合って生きている兄弟の、経済的には貧しいけども楽しさ、どちらがいいかということです。

(男 性)

一人っ子と大家族なんですけど、そこで僕たちが考え出したのが、このコミュニティーづくりなんですよね。ボランティアへの参加とか。

一人っ子が、言われるように人間関係が希薄になるというのは分かっていることなんです、僕たちにとっても。それはすごく感じていることであって、それを改善しようと思って、僕たちはこのコミュニティーづくりという、私たちができることを掲げて、やろうと考えています。

(女 性)

そうしましたら、兵庫県の一人っ子代表で、ちょっと私、言いたいと思います。皆さん、誤解していただきたくないのが、一人っ子にしようと思って一人っ子になっている過程ばかりじゃないんです。私なんか特にそうで、病気であったり、経済とかだけでもない。それは最初に言うておきます。

それでA班で出た意見が、親が子供に感じる意味が変わってきているんじゃないか。昔は貧乏子たくさんみたいな、農家で人手がたくさんいるから子がたくさん。今は逆に、経済状況がよかったら何人でも育てられる。

それは、その子を幸せにするために、自分の家だったら何人の子が幸せにできるかという問題でもあると思うんですよ、経済面でね。私らは3人ぐらいいけるでとか、いや私らは1人の子を幸せにするのに精一杯だと。

そういう意味でね、子供を幸せにするために、どこまでできるのかみたいな話になってきているんじゃないかと思うんですよ。結果的にうちは1人と決めているんです。1人しか無理という家もあります。私みたいに。

ちょっとね、一人っ子という言葉がなかなか難しいですけども、皆さんちょっと考えていただきたいなと思います。

(高瀬先生)

このD班のほうで、少子化は先進国の宿命であるを書いてありますね。これは宿命というのは言い過ぎじゃないかと、さっき言われましたけれども、そういうふうに断定できないというふうに言われましたけれども、何か非常に絶望的な表現のような気がするんですけども。

先進国でも、今、日本よりもはるかに高い出生率を誇るように、政策的にやっている国が、かなり出てきておりますね。フランスなんかでも、かなり増えています。

かつて僕は子供の時に、年齢別人口のあれを見て、日本国は末広がりだから、将来強いんだと。軍国日本は断固、勝つんだ、なんて言ってたんですけども、そのころフランスなんかは、だんだん尻すぼみになって、こういう国は将来、駄目なんだというふうに、戦争中の学校で教えられたんですけども、それと逆のような、宿命というか、先進国が必ず少子化かどうかというのは、まだこれから21世紀が始まっていく中でですね、決め付けることは、ちょっと僕は無理じゃないかと思えます。

政策論的にこれを増やすことはできるし、むしろ中国のように、人口を増やすと中国の経済的な、あるいは食糧とか、エネルギーとかの供給できない国というところは、意識的に政策的にやっているんで、少子化というのは、ある程度その国の政策によって決まるというふうに言えば、かなり言えると思います。

ご承知のように、発展途上国はたぶんこれは労働力として、という概念は、まだあると思えますけども、しかし出生率が高いけども、幼児死亡率もべらぼうに高いですから、5歳以下にポロポロ死んでいきます。

そういうことがあるんですけども、そういう意味で、宿命という概念は問題じゃないかと思えます。

それから、ここでもやはり経済的環境というのが出てきますね。どうも僕は皆さん方の話を聞いて

て、A班の方も言うておられたけども、経済的条件が許されないという、そういう強い信念を持っていらっしゃるというか。で、生活水準を下げてでも子供を増やそうとは思わないと言われます。

そうすると、日本人の生活条件は、どこまで上げれば増やすという気持ちになるのかという、21世紀の20年後、30年後を考えた場合に、そろそろ生活水準が豊かになったから、増やそうかというふうな段階になった時に、それもまた新しい価値観の変化という形で、そういう形で、変化、変化という形で現状を追認する形で、経済的なレベルを維持するという、それが唯一の価値になっているというふうな形で理解していいんでしょうか。その辺が僕は心配になります。

さっき、ちょっと結論じみるから僕は言いませんけれども、経済的問題を、非常に関心を持ち過ぎていると。それほど今、貧しいのかということ、僕は聞きたいんです。携帯とか、ああいうものを持って、高い電話を持ってね、それから車も、もっと小さい車でいいと思うのに、何か大きい車に乗るね。

それから住宅問題はですね、これは少子化が進むと親の住宅がどんどん残るんですよ。親の土地は残るんです。住宅問題はね、土地問題は、かなり解消しますよ。子供が増えないんだから、分家ができないんです。2人の間で1人産んだ場合、マイナス1なんです。そうすると、だんだん考えたら、ガラ空きの家が増えるんですよ。今ある家で。ガラ空きの土地が増えるんです。それはもう計算すれば分かるでしょう。今の土地が高いとか何とか言ってもね、このままずっと進んだら、住宅状況は緩和されます、絶対に。

そういうことも考えて、経済的条件で云々という時の経済的条件の中身と、自分はどのような人生の生き方を選ぶか。どういう家庭を選ぶか。どういう子供たちに環境を与えるか。

貧しいから子供たちを少なくすると、1人当たりの単価が増えるんじゃないかという、子供に金をかけることが幸福なのかどうかという、そこまで考えて、こういう議論をしていただければ、僕はうれしいと思います。以上です。

(司 会)

今の先生のご質問に対して、どうぞ。

(男 性)

まずA班としては、この形が別に良いとかいうわけでなくて、こういう危険性があるぞということ、皆さんに言いたかっただけで、別に僕たちが一人っ子がいいとか、そういうわけでないということ、皆さんに分かっていただきたいと思います。

あと、今、子供がたくさん育てられないというより、今の年金とかがあって、僕たちが生活できなくなってしまうことも考えられると思うんですね。極端な話、北欧とかだったら、半分ぐらいが税金に取られたりして、それで僕たちの生活もできるかという不安も、僕は持っています、今から、40代、50代になって。その時に、だからまず親も見なくちゃいけない、自分も養わなくちゃいけない。そうやって、じゃあ子供も見れるのかという。自分も生きなくては意味がないですね。子供を育てたいけど。

そういう意味で、やっぱり子供が育てられないというか、1人しか育てられないという考え方が生まれてくるというものもあると思うんですけど、どうでしょうか。

(司 会)

という彼の意見。ほか、いかがですか。

(男 性)

私は4人兄弟で育ちました。さっき一人っ子で幸せだというんですけど、私4人兄弟で育って、私が一番上なんです。僕が大学卒業したのが昭和31年です。親父は普通のサラリーマンです。

それで僕は公立高校から私立大学を出ました。妹は私立の中学から高校を出て、短大を出ました。僕と3つ違いです。だから同じ時に学校へ行っていました。

もう3つ違いに弟がいますね、これは公立から、僕と同じ私立大学へ行きました。一番下の弟は、6つ下にいたんですけども、これは私立の中学から、私立の高校へ行って、私立の大学、僕よりもちょっと良い大学、今だったら一番良い私立の大学を出たんですけども。

それで、われわれ4人とも、全然アルバイトしてません。それから僕なんか週に1ぺんぐらい映画に行きました。食べるものも、そんなに変なものを食べた覚えもありません。普通の生活しました。ただ自家用車はなかったです。

だからね、4人そうやって本当に幸せに育ちました。だから、経済的なことで、一人っ子じゃないと困るなという感じは、全然しないんですけども。まあ、そういうことです。

(男 性)

裕福な家庭ですか。

(司 会)

裕福な家庭ですかと、言ってますよ。

(男 性)

いや、裕福な家庭じゃないです。普通のサラリーマン家庭です。私なんか部屋がなかったです。僕は廊下の端っこのところを区切りました。廊下の端っこのところを仕切って、そこへ机を置いて勉強しました。

(テープ、裏側へ)

(司 会)

今の高瀬先生のご質問に対しては、ほかにないですか。もしあれば。

(赤穂氏)

D班の人、教えてください。先生の質問に対して。

(男 性)

これはちょっと書き過ぎたとは思うんですけども、宿命といっても、たぶん、維持をできる程度の数までは、上げる必要はあると思うんです。別にこれは減れといっている意味じゃなくて、やっぱり何十年前の単位から比べて、少子化というのは、やっぱりしょうがないと思うんですね。ですから、それが多少の改善の余地の部分だと、僕は思っています。

ですから、決して日本が減びるようなとか、そういった意味での宿命ではなく、今まで僕ら、僕は3人兄弟ですけども、3人兄弟というのはだんだん減ってきて、2人兄弟が多くなってきて、一人っ子もいるというような状況が、たぶん現状なんじゃないかなと思います。

(高瀬先生)

先進国の中でも、増やしているところはある。

(男 性)

僕の理解の足りないところなんかも知れないんですけども。

(司 会)

どうぞ。

(男 性)

これはだから、そういう傾向があると。そういうふうを増やしていく国もあるんですけど、ちょっとこういう傾向がある。

(高瀬先生)

傾向があったのを、今、改善されつあります。

(男 性)

それは書き方が、ちょっと表現が足りなかったところがあったと思います。すみません。

(司 会)

今井さん、手を上げられましたけれども、あしたいろいろ。今、言われますか、ご質問のほうですか。どうぞ。

(今井先生)

2つ質問です。1つは、先ほどのことで、子供たちのために経済的に水準を落としたいくない、私たちが生活ができなくなるかも知れないんだから、子供をたくさんおくことはできないということでしたけれども、一つひとつのケースだとそうですね。

皆さん1人、1人のケースだとそうですけど、しかし全体的に日本の社会を考えて、このまま少子・高齢化が続いたら、日本の中の労働力がなくなって、私たち全体の社会が、年金危機に陥ると同じような社会になるだろうと。そういう社会的な観点からの、この問題については、何かお考えになったかということが1つ。

もう1つは、国際的な視野からいうと、実は今、人口爆発です。今60億の人口がいますけども、これがどんどん増えて、やがて80億になるだろうと。そしたら食糧がなくなって、どうにもならないために、世界全体としては人口を押さえていこうじゃないか。

教育の結果、ここに書いてあるように、先進工業国は少しずつ出産の率を下げています。ただし開発途上国は教育が行き届かないので、子供の数が多くなって、全体の人口のバランスが取れてない。

こういう全体の人口が増えていく中で、日本が特別に少子化をしていくというようなことが、ある意味では中国と同じように、一人っ子政策することによって、日本は小さいですから、全体的にこのバランスが崩れてしまって、既に新聞に出ているように、やれ外国から単純労働者を入れよう。介護も単純労働者を入れようというふうなことになるようなことを考えた時に、そういう国際的な視野では、この問題をどう考えられたか。2つ。

少し長いスタンスで私たちの少子・高齢化を考えられたのか、どう考えられたのか。横の広い地球的な視野で少子・高齢化の問題どう考えられたのか。その辺の答えがもしあれば、お聞きしたい。

(司 会)

ということですが、どなたか。グループで出ました？ この話は。どうぞ。

(赤穂氏)

赤穂です。一度、B班のバスセッションの際、その話、出たんですけども、外国からという。少子の解決策という案を話し合っている時にですね、中国、インドが一人っ子政策というか、そうい

った規制をしているということで、日本、養子縁組をしてはどうかという話が出たんです。

でも、そんなこと言ってたら、きりがなくなってくるんですよ、この話、実際。ですから、もうそんな、あまり広く考えてませんでした。

(司 会)

今、逆に今井先生にこう言われて、気づいたみたいなどころがあるということやな。ほか、いかがですか。

高橋先生は、幾つか質問おっしゃっていましたが、これでいいですか。ほかにございますか。

(高瀬先生)

介護保険の制度が実際、実行されていく中で、介護のいわば担当者で、それで果たして日本人のこれから若い人が、その仕事をするだろうかという中で、日本政府は発展途上国の人を日本に呼んで、技術指導して、彼らにやらせるという計画、現在、立てているわけです。

ですから、労働力不足というのは、そういう面にも出てくるし、いろんな生産の局面でも出てくるだろうし、それを覚悟して外国人を入れた場合、われわれはその外国人に、ある意味じゃ居住権とか永住権とか、あるいは国籍を与えて、仲良く、われわれと一緒に社会の中に住んでいくという、それだけの、そういう判断力はあって言われているのかどうか。今井先生のおっしゃられたことを、ただそのまま繰り返しただけです。

(司 会)

ありがとうございます。質問どうぞ。

(男 性)

先ほどから、一人っ子ということで、お話が出ております。結婚された方の中には、子供が欲しくてもできない方もいらっしゃるのではないだろうかと思います。

それから、例えばそういう方が不妊治療をされるということになりますと、これはお医者さんに聞いたら分かると思うんですが、非常に高い医療費がかかってくるのではないかなと思うんです。そういう意味で、皆さん方が1人だけということになりますと、できないご夫婦もある。そういうことを考えますと、ますます人口が減ってくるんじゃないかなと思うんです。

それから、最近、若い女性を見ますと、ファッションとかスタイルということか知りませんが、ダイエット等々で、非常に子供のできにくい女性が増えているということも聞いております。そのらのことも考え合わせていただいたら、一人っ子というのは、ちょっと考え直していただけないものかなということで、ちょっとご意見をいただきたいんですが、いかがなものでしょうか。

(司 会)

この質問に対して。三木さん、どうぞ。

(三木氏)

失礼します。実際にあったことなんですが、お家が何軒かこの辺にありまして、ここのお宅のご主人が、日曜日に日曜左官をやっておられたんです。庭の中に門まで、建物からコンクリートを打たれたんですね、自分で。

やっと終わったところに、実は近所の若い奥さんたちが何人か、この辺で見ながらご主人の仕事を、立ち話をされていたらしいんです。この中の奥さんに、1歳過ぎぐらいの子供が、2人ほどおられました、やっにご主人が日曜左官を終えられて、ホッとしたところへ、1人の子供がその上をタッ

タッタッと走って、足形を入れてしまったわけです。

その子供のお母さんなんですけども、もし女性受講者の方がこのお母さんだったら、どういう処置をされたかということをお聞きしたいんです。実際にあったことなんです。どうされますか。もし女性の方が、このお母さんの立場だったら。これは現実に、こういうことが起こり得る可能性もあるんです。これ実際にあったんです。どうでしょうね、どなたか。ご主人はここで仕事を終えて、やっとホッとしておられるんですね。

(女 性)

謝ります。

(女 性)

その足跡を、どうにか活かして、モニュメントか何かに造りかえてもらえませんかね。

(男 性)

子供を叱ります。

(三木氏)

実はね、このお母さんはどうされたか。大きな声で「これ、クツが汚れるじゃないですか」と言われたんです。

だから私、思うんですけれども、こういうお母さんだけには、なってほしくないですね。これが現実にあったんです。実は、このおじさんというのが、私の義理の兄貴なんです。姫路市内でこういうことがありました。だから、受講生の皆さんには、本当にこの中の子供のお母さんのようなお母さんにだけは、なってほしくないですね。わかりますね。ご静聴ありがとうございました。

(司 会)

そういうような人にならないでくださいというお願いですよ、皆さんね。

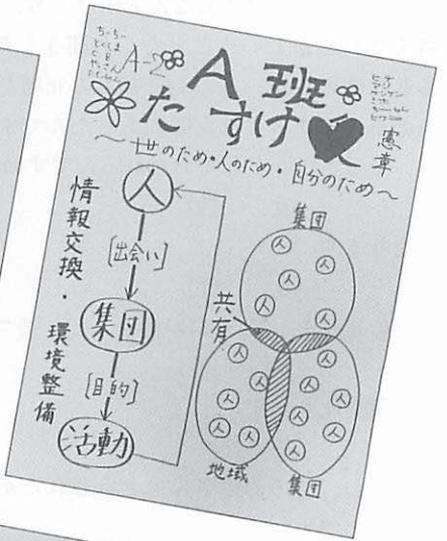
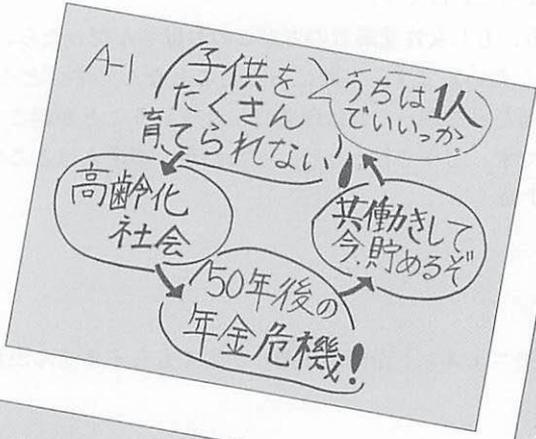
時間がちょっと過ぎておりますが、いかがいたしましょうかということもナニなんです、この際、もうちょっと、この点をお互いに話をしておきたいということがありましたら、おっしゃっていただいて、一番最初に申し上げたように、結論は特にあるわけでありませんが、すべて、あした今井さんが、まとめるということになっておりまして、いつも逃げておるんですけれど、ぜひこのあとですね、グループでさらに深めていただいて、ということをご期待しております。

そして、それぞれのところで、どなたかおっしゃったように、身近なところからできることから実践をしていくということが大切だということも思っております。

よろしいでしょうか。

ロータリアン、もう質問よろしいね。ロータリアンはロータリアンで、きょうの話を聞いて、話を深めましょう。

それでは、これでフォーラムを終わらせていただきまして、あしたの朝のことはディーンにお願いいたします。



「少子・高齡化社会の生き方」

<少子化・高齡化の原因>

- ・核家族化
- ・女性の社会進出
- ・住宅事情
- ・経済的負担
- ・価値観の変化
- ・医療技術の進歩

<少子化の問題点>

- ・コミュニケーション不足
- ・社会性・協調性の発達
- ・過保護化・過干渉

<高齡化の問題点>

- ・老々介護
- ・孤独死
- ・コミュニケーション不足
- ・疎外感
- ・生き方の転換がにくい

A-2 <私達にできる事>

◎ コミュニティ作り

- ・地域社会とのふれ合い場として
- ・世代を越えた交流 (例) 曲内会・児童館老人学公民館

◎ ボランティアへの参加

- ・参加しやすい雰囲気環境づくり
- ・情報の発信
- ・ネットワークの確立 (例) ボーイアウト・ローターアクトクラブ

◎ 意識改革

バリアフリーは心から

少子化・高齡化社会での生き方

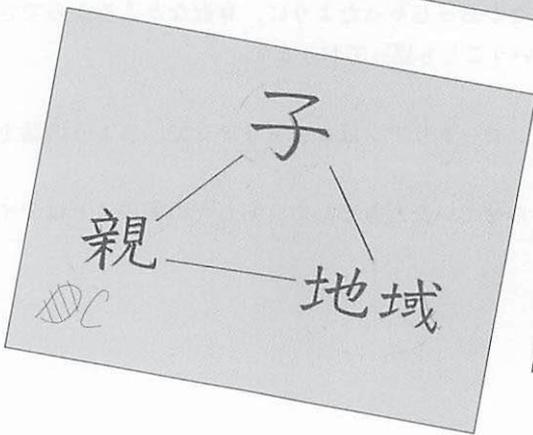
少子化

1. 少子化は先進国の宿命である。
2. 育児施設や経済的環境の整理で多少の改善の余地がある。
3. お互いを受け入れる心と育む事が高齡化社会に向き必要と思われる。

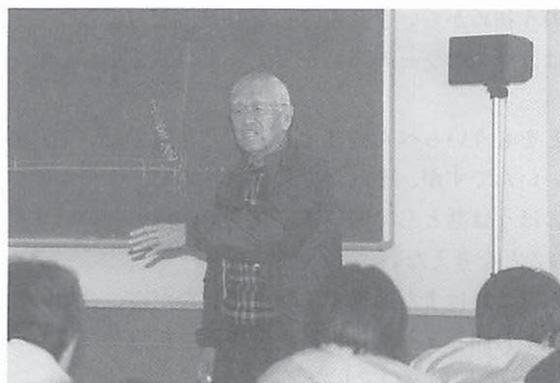
高齡化

1. 自分の身の周りの事から行動する。
2. 高齡者は弱者と見るのではなく、必要とされる。

D



## 「世界の未来に私達は、そして皆さんは…。」



元 R I 理事 パストガバナー

## 今 井 鎮 雄 氏

私の紹介文とかで、間違っているのがあります。関西学院大学院で学ぶ、と書いておりますけども、私は旧制でありまして、軍隊から帰ってきて、もう少し頭を整理しようと思って関西学院の大学で、大学の講義を聞いたのではなくて、研究室に入ってしばらく施設を利用させてもらう、あるいは本を利用させてもらう、教授諸君たちと一緒に話をする、というので利用料を払って1年、2年ほどただけでありまして、今のような大学院という組織じゃありませんから、授業を受けるとか、あるいは論文を出すとかいうことじゃありません。

ただ、そういうことをしましたので、そのあと関西学院でちょうど45年ぐらい講義をさせられました。

身分は非常勤講師ということでしたけれども、先生方と一緒に研究をしていたものですから、論文の指導であるとか、あるいは就職の世話であるとか、あるいは試験の監督であるとか、ゼミのお手伝いであるとかいうことを、ずっとしながら初めのうちはやっていました。

先生が揃うようになってからは、非常勤ですからめったに行きませんけれども、ちょうど45年ほどいました。

だけど、大学院卒業というのは間違いですから、そんなに偉くありません。卒業してしばらく、私たちは人生の中で、戦争のためにもまれましたから、大学時代も必ずしもよく勉強できなかったし、帰ってきてからアメリカに留学した時も、そう長くは留学できません。経済的な問題。それこそ経済的な問題もあって、勉強できませんでした。

ある科目だけを、私の専門の科目だけを取るのに、アメリカという大学は面白いんで、夏休みにいきますとね、朝の9時から晩の6時までびっしりと6時間ほど講義を2週間するんです。6時間の講義を1週間、1週間6日ですから $6 \times 6 = 36$ 、2週間で72、これでもって1単位の試験をちゃんとして、あんたはこれはパスしました。これをずっと集めてきますと、修士課程がもらえるというふうな制度もあります。

主に軍隊に行った青年たちが、そういうので取ってます。それと一緒に自分の専門のものだけ、アメリカで勉強したっていう経験があります。

きょう私のやつは、題がついてないんですね。これが実に、あなた方の世話をする委員の人は、無責任でね。「今井さん、最後がきたら、何か最後、全部やってな」と。私は、ここにゴミ袋を持ってきて、皆さんの話の中で抜けたものがあるのかないのか。あるいは、何か質問があるのかどうか。これに応えたら私の話になるんですけども、きのう初めからいませんでしたので、どのようなことなのか、皆さんがキャビンで話したようなことはカウンセラーの諸君から少しずつ聞きながら話をしました。

きょうも本当はね、30分か1時間こんなことをもういっぺん確認するよ、と言っておいて、あとみんなワークショップみたいに話し合ったらいいんですが、それができませんので、3つか4つの問題だけ、枝葉をたくさん出しますから、枝のほうは話として聞いてください。眠いといけませんから、話を枝葉でします。ただし、4つほどのことを考えたい。

1番最初は、きのうの話、夜の話聞きながら、これはまだ前提ですわ。聞きながら、今の時代の皆さん方が、きのう考えられた時に、最後に私が質問しましたように、歴史的な視野というものをどんなふうに持ってますか、ということがきのうの質問の一つでした。

例えば、少子・高齢化という時に、あなた方の子供がいたら、私はこら困るから、経済的にも詰まるかもしれないから、だから私たちは子供をみんな少なくしてるんです、というような言い方もありました。

おそらく、ディスカッションの中にもっとたくさん、いろんなものが出たと思います。

というのは、質問した時に、私のところではこんな話があった、あんな話があった、というのを聞きましたから、あったと思います。

けども、ポイントとして歴史的な視野というものをどのように考えながら今の時代をつかもうとしているか、これは若者の大変大きな責任でありますので、このことについてもういっぺん考えてほしいということがありました。

もう1つは、国際的な視野ということを行いました。私の質問では、例えば、世界の人口からいうと、60億の人たちがやがて80億、90億になる。

もしも80億、90億になったならば、今の状況では食糧が不足する。そして、飢餓が今までのように続いていけよう。こういうようなことが予測されてる。

これは不思議なことに、日本とかあるいはアメリカとか、ヨーロッパ諸国のように先進工業国のほうの一部のところは裕福に残るかもしれませんが、世界全体としては大変大きな問題を持ってくるに違いない。

こういう視野の中で、少子・高齢化という状況を持ってる。これは、きのうも皆さんの中で先進工業国は大体、子どもの数は少ないんだ、そのとおりです。少ないんですけども、それでもそういう問題を私たちはどう考えるのか、という視野が必要なんだろう。これが2つ目の問題点です。

要するに、歴史的な視野と、それから世界的な視野と、この2つのことについてもう少し考えてもらいたいな、ということが1つです。

もう1つは、結局は皆さんの人生ですから、私たちにとって一番大事なことは、皆さんが豊かに生きていってもらおう。私たちの時代が、皆さんに負の遺産を残したくない。もう既に多くの負の遺産を皆さんに押し付けています。

少子・高齢化というのは、まさにそのことですね。年金がなくなるかもしれん。これはしかし、

私たちというか、今、生きている人たちだけの問題ではなくて、ある意味においては社会の組織が、もっと具体的にいうと、資本主義工業社会という社会が、あるいは科学技術社会という社会が、いろんな形でこういう負の遺産をたくさん持つようになった。

そういうものについて、どのように責任を持って次の世代の者につなぐかということについては、私たちはいろんな責任を持っている。そのことをぜひ考えて一緒に持って行ってよ、と。そして、私たちも多少若い、多少若いんですよ、私とあなた方とは、多少しか変わらない。長い歴史の流れからいうと、多少しか変わらない。

この人たちが、どのようにして次のことを考えてもらえるか、きのう話しているうちに、なんでそんなに理想的なことを考えなければならんのか。今を生きたらいいじゃないか、という考え方もあるかもしれないけれども、そのことについても少し話したい。これらのことが前提であります。

それからもう1つ。最後に前提として考えたいと思うことは、なぜロータリーはこんなことをしてるんだろうか。ロータリーの話をお聞き、たくさん聞きました。中にはローター・アクターに入っている人もおられます。プログラムとして、いろんなことをやってる。だけど一体、ロータリーというのは何をしようとしているのか。何のためにライラということをしてるんだろうか。いうようなことを一つ考えてみたい。

これは、私たちの、こんなに大勢の、後ろにおる人たちみんな暇だから集まっているのと違うんです。

もう心の中では、篠原さんなんか3月で締めがあるのに、ワシはもう後、どうなってるか、と心配してるんでしょう、本当は、本音を言ってごらんささい、ね。

それなのに、その大事な仕事をやめて、そしてこの皆さん方と一緒にしてるという気持ちは何なんだろうか。そして、ライラって何なんだろうか、ということについても、後で説明をしておきたいと思うんですね。

こういうようなことを話すために、きょうはここに上がってきました。で、今いいましたように、個人からの視野の拡大を、ということを行いました。ものすごく大きな変化がある、ということについて、皆さんどれくらい感じておられるでしょうか。

今、私がこうして生きています。多少ここでは年上のほうであります。ここに、1938年と書いてあるのは、1938年に私が昔の中学校を出ました。今の高等学校です。

この中学校を出てから昔の高等学校、あるいは大学の予科、あるいは専門学校に入れる。それからその次、大学に入るわけですが、今の高等学校を1938年に出て大学に入った時、18歳ですから、これ18引くと、1920年に私は生まれました。君は1920年より後やなあ、生まれたのは。(笑い)。

僕のほうが少し先輩なんですけど、それにしても時代の流れからいうと、大変短い時間でありませう。にもかかわらず世界は、今までの長い人類の歴史の中で、一番大きな変化を今しているということが1つですね。

もう時間がね、みんなは2時間半もらったんですけど、私は2時間といいながら、本当は1時間50分ほどしかないんです。

ですから、本の名前をあげておきますから、ちょっと孫引きしたんだな、というふうに覚えてください。

例えば、随分昔の本でありますけれども、1980年だったかな、アルビン・トフラーという人が「第三の波」という本を書きました。これ読んだことある人、手を挙げて。要するに、若い人たちは1930年の「第三の波」というのは、既に皆さんの中では過去のもので、読む必要がないものです。

「第三の波」というのは、アルビン・トフラーという人が書いたんですけども、読んだことがない人がいますから、ちょっと言っておきますけれども、彼は、人類という歴史が始まって、人間が動物として生まれてから約500万年というのを言ったのは、お猿さんの研究をしているカワヤハヤオキーンという人ですが、500万年前に人間は間違いなくアフリカで生まれたっていうんです。

その500何万年前に生まれた人類という動物が、自分たちのエサを求めて少しずつ移動し始めた。そのある者はアフリカに留まったし、ある者はアフリカから北にのぼって行った。

そして、今のトルコのあたりからあるグループは東にどんどんどんどん移動して、あるグループは、そのまま少しずつ上のほうに行った。東のほうにずーつと行ったのは、それから何万年も経っているうちに、だんだんだんだん、その時の風土と、その時の食べ物と、その時の生活によってモンゴロイドというグループになった。

このモンゴロイドというのが、アジア人たちですね。中国人も何もかも含めて、アジア人たちがみんなモンゴロイドです。

これは、ずーつと凍っているアリューシャン列島を通してアメリカへ行って、アメリカ・インディアンになり、それから南米のインディオの人たちは、みんなモンゴロイドです。人類の歴史からいうと、みんなその人たちがつながっています。

私、アメリカへ行った時にね、アメリカ人が「ユウ・アー、ジャスト・ライク・アメリカン」とこう言う。「ああ、オレ、アメリカ人と似てるんだ」と言ったら、「おまえはアメリカ・インディアンに似てる」ということだったと後で気がつきました。そういうふうに、みんな仲間がいます。

もう1つは、アフリカにいる人たちは、アフリカの暑い太陽に照らされてメラニン色素が増えて、あの真っ黒いアフリカ人たち、ニグロ、ニグロイドと言いますね。モンゴロイドと同じようにニグロイド。

それから、上にずーつと上がって行ったのが、北欧のほうまで上がって行って、そこに定着したのがコウカロイドと言いますが、これが白人の元になった。

言い換えたら、白人だろうと黄色人種だろうと、あるいは黒人だろうと、人間はみんな一つ。500万年ぐらい前から。

それが文明を持つようになった。文化を持つようになった。初めは食べるものを探してきますけれども、力が弱い人間という動物は、みんなが知恵を出しながら、ここが大事なんですね。知恵を出しながら、みんなで生きることを求めた時に、グループになってきた。

こうしてグループになってきた人たちが定着しますと、グループになって集まると、そこで「おい、もらった時にいっぺんに食べないで、お腹が一杯になった時には残そうや」と言って残して、そして「次の時にそれを置いておこうや」というような知恵が出てきますと、そこで一つのグループができて、「じゃあ、これは残しておきましょう」。残しておきましょう、ということは、みんなで守らなければならないから、ルールができる。

こういうふうにして、人間のグループが少しずついろんな知恵を出し合って生活を変えてまいり

ます。

文明ということが生まれてきますけれども、こういう文明が生まれてきたのは大体、今から1万年ぐらい前だというふうに考えられます。紀元前6000年ぐらい前から始まっただろうというふうにいわれています。

けれども、動物としての人間はもっと前からですから、いろんなことが遺跡としてはありますけれども、大体、文化が始まった。

殊に、一番古いのはチグリス・ユーフラテスの文化であるとか、あるいはガンジス川のあたりの文化であるとか、これがインドの文化ですね。

あるいは、黄河文明社会といわれるように、中国の文明ですね。中国の歴史の一番最初を見ると、大体今から6000年ぐらい前に黄河文明といわれる文化、これは街の名前をつけてヤンシャオ文化というんですね。仰韻文化。これが中国の最初の文化だといわれていますね。

その時には、部落には女の人と子どもだけが住んで、男の人は通っていくわけですけどもね、そういう文化。

で、動物に食われると男はみんな外に捨てられて、女だけ子どもと一緒にカメの中に入れて葬られる。いいねえ、女性優位の社会ですねえ。まあ、そんなことはどうでもいいんですけども。

実は、そういう歴史を考えました時に、私たちがずっと支えてきたものは、手工業ですね、手があります。農耕文明社会ですわ。

私たちのことは、今でもそれはあっちこちの社会にあります。アフリカに行ってもどこに行っても農耕文明社会というのが、人類の中で続いている。

これがずーつと1万年前から続いてきた。そして、みんなが自分で農耕をして、そして食べてきたものが、今から250年ほど前から急激に機械を作るということを覚えました。

機械を作るということによって、物をいろんなことに利用するということを感じるによって、私たちの生活は飛躍的に向上しました。

言い換えたら、私たちの生活が、今までずーつと続いてきて、私たちの活動も生活の範囲も、歩く範囲だったものが馬に乗って少し広がってきたんですけども、そういうふうにして広がってきて、ほとんど変わらなかったものが、今から250年ぐらい前からぼつぼつ機械を使うようになった。

これが機械文明と同時に工業社会、あるいは経済的には資本主義社会というものが生まれてきますが、こうしてくると生産は飛躍的に上がってきます。

それが戦後、今からたった30年か40年ほど前。

私は、軍隊に行きました。そして、最後には上海で戦争が終わりました。上海で戦争が終わった時に、私の仲間はフィリピンやなんか玉砕をしまして、ほんのわずかしか生きて帰れませんでした。

でも、その時に私たちの軍隊が負けたな、と思ったのは何かというと、アメリカの飛行機が飛んできた時に、私たちの飛行機は、あのアメリカの飛行機まで高く上がることができませんでした。

だから、上からボトボト落とされたらみんな爆弾は下に落ちこちてきてまして、そこらへんみんな火の海になりました。

私たちの飛行機は、私が乗ってた飛行機は、その頃ですから、1945年が戦争が終わった年で

すから、1943年ぐらい、今から60年ほど前は、私の乗っている飛行機は、今のような電子工学の機械が付いてませんから、どうしたかというと、コンパスを持って、コンパスを見ながら何度の方向に何分間飛んだら、この飛行機は時速何キロだからどこへ行く、と地図の上へ線を引いて、そしてスピードをまわしてみても、ああ今ここにいるんだな、と思っていた。

だから、上海を飛び立って1時間10分したら大村の飛行場が見えるから降りて「ここは大村にありますか」と言ったら「ばか、ここは米子じゃ」と言われました。風が吹いていると、それぐらい移動します。それくらい狂ってくるような飛行機に、私たちはついこの前まで乗ってきた。

それが、1969年に初めて月の世界に人間が行くというロケットが打ち上げられたのは、わずか1969年でしょう。その時になって私たちは、新しいいろんなことを経験しました。スピードだけ考えてみたら、大変なものです。

人類という長い歴史の中で、農耕文明社会というのが長く続きました。そして、ここで工業社会という社会が生まれました。

皆さんたちは、この工業社会の一番最後のところに今います。だから、皆さん、昔のことを考えることはほとんどできない。感覚的にはできない。歴史的に、知として知ることはできても、感覚的にはこれができない。

ところが、この工業社会が今、1980年代から90年代、激しく動きます。

1990年代を考えてみてくださいでもいいんです。1990年代というのは何かというと、1989年にソビエトとアメリカの冷戦が終わりました。そして、新しい社会の世界の構造が生まれました。皆さんが生きている時代は、まさに冷戦後の時代です。

ところが、こういう世界に生きたために、なるほどスピードは、宇宙に行く宇宙船のスピードなんていうのは、私たちが乗っていた飛行機では思いつかないし、私たちが歩いて世界を旅した時代とは、まったく違います。

私が初めてアメリカへ行った1950年には、飛行機なんかに乗せてもらえませんでした。戦争に負けましたし。だけれども「おまえも、少し新しく教育をするからアメリカに來い」、とアメリカに行かしてもらいました。1日10ドルのお金。今でいうと1000円のお金を小遣いにもらって、そしてアメリカへ行くことになりました。

船はコマーシャルライン、商船には乗れませんでしたから、アーミー・トランスポーテーションといって軍隊の輸送船に乗せてもらって、アリューシャン列島のあたりをずーっと回って、そしてサンフランシスコまで降りてくる。

幾日かかったと思いますか。今は、アメリカまで行くのに12時間。その時、幾日かかったか。12日かかったんですよ。12日かかって行ったんです。

12日間を今の人たちは12時間で行けるし、もしもそれが最近の衛星で行けばあっという間に行けますね。コンコルドで飛べば4時間か5時間で行けるんですけども、そんなふうにはスピードが違って来た。

スピードが違ったということは、スピードだけが違ったんじゃない。あらゆるものが違って来た。

それだけのエネルギーを作るためのいろんなもののために、長い間あった私たちのエネルギーというものの化石燃料は、ほとんどなくなってしまふ。こういうふうな資源の問題が大きくなりました。

私たちは、こうしてね、今、私たちが言いたいことの一つは、皆さんが生きている時代というものは、長い人類の歴史の中で、特殊な時代。ここから先はこの特殊な時代が続いていくとするならば、そういう新しい特殊な時代をどのようにして世界がつながっていくのか、ということについて考える必要があるよ。

「第三の波」というのは、1つ目に農耕文明という波があって、第2の波というのは工業社会という社会ができて、そして今、皆さんは第3の波、情報化社会という新しいインターネットの時代といわれる時代になってきましたよと。

インターネットの時代というものは、今までの先輩たちがそれを予測することができない社会だったから、その社会の中におけるいろんなことで、あらゆるものが人間が生きていくのに大きな問題を持つようになったよ。

このことをどうしようか、ということを考えなきゃならない。これは、あなた方の責任ですよ、ということが1つです。

例えば、勉強のことを考えてみましょう。日本の学校、皆さんたちは私たちの学生の時よりも、それはそれはたくさんのことを知らなければならなくなりました。知識として、多くのものを知らなきゃならないですね。

で、知識として多くのものを知らなきゃなりませんでしたが、もう知らなくていいようなものはみんな忘江てしまうし、あるいは習ってないから気がつかないこともたくさんあります。

この前、面白いんです。子どもの話ができました。そしたら、子どもがご飯をこぼした。そしたらそれを捨てた。お母さんが「もったいないよ」と言ったら子どもが「もったいないって何や」。もったいない、という感覚は今の子どもたちにはもうないんです。

で、お母さんが「そんなことをしたら、バチが当たりますよ」。バチが当たるといったらね、神様が作ってくれたお米をそんなふうにして捨てたらバチが当たるよ、私たちはバチが当たる、というのは感覚の問題です。

ところが、子どもが何というか。「バチって何?」。こういう体験的にあるようなものが変化をしているために、コミュニケーションができないわけです。意思の疎通ができない。そういう今、子どもたちがたくさんいるわけでしょう。

もう皆さんと子どもたちの間でも、そういう意味でコミュニケーションできない。私たちとあなた方との間でも、そういう意味においては感覚的なずれがたくさんあって、きのうからそのことについて言ってる話を聞くと少しずつ分かれている。

分かれているっていうことの大事なことは、私たちの時代がどういう時代の中に生きているか、という認識を持って、その認識の中でお互い同士が話をしないとうまくいかないよ。

そういう意味においては、知恵をもう一度整理をする必要がありますねと、こういうことでありました。

私たちは、このような変化の時代というようなことを言いますと、今、スピードのことだけを言っても、今までとまったく違ったスピードの中で、私たちの生活があります。

同じように、いろんなことがありますけれども、このことのために問題がたくさんできてきました。

私たち人間は動物ですから、物を食べなければ生きていけない。おいしいか、まずいかは別です。

早い話が1950年に私が初めてアメリカへ行ってね、アイスクリームを食べたらものすごくおいしい、世の中にこんなうまいものがあるかしらと思いました。

そして、向こうに行って西洋料理、アメリカ料理を食べた時に、もうそれまでは麦のご飯か何か食べていましたから、うわー、すごくうまいな、アメリカというのはうまいな。

ところが最近、ロータリーの偉い人になって向こうの理事会に行ったり何かします。日本でいやほどあなた方と同じものを食べてる。うまいステーキも食べるし、神戸ステーキも食べますし、いろんなものを食べている。

アメリカへ行ったら、なんだこのまずさ。こんなものをようアメリカ人は食っとるなあ。サラダといったら馬に食わせるほどたくさんキャベツか何か切ったものがどんと出てきてね。それで、大きいには違いない。ティーボーンステーキといって大きいけれども、神戸のお肉に比べたら硬くてまずくて臭くてね。ようこんなものを食っとるわ、と思いましたね。感覚の問題です。

こんなふうにして、私たちはいつの間にかまったく違ったものに、食べ物一つにしても違うわけです。

私たちは、その違いというものの変化をどのように理解をしながらやるか、ということでないとお互い同士の間の理解というものがだんだんできなくなるということですね。ここでは考えておかななくちゃならないわけなんです。

私たちは、このような変化の激しい時代の中で少子・高齢化に直面しています。女の人が一生の間に生む出生率は1.38です。

2人で生むんですから、2人生んでちょうど一緒ですよ。亡くなる人もいますから大体2.08ぐらいでないと私たち、今までの人数を維持することができないわけです。

ところが、日本は少子・高齢化で1.38といわれています。この1.38を計算上でやるとどうなるか、ということね。今、約1億3000万切れましたが1億3000万としておきましょうか。

これがこれからどんどん減ってきます。大体2007年ぐらいが日本の人口のピークになるはず。今、少しですけれどもまだ増えています。2007年ぐらいがピークになって、それから先、ずっと下がってきます。

下がってくるということは高齢化が進むことですけども、さあこの時に1.38で進んでくると、500年経ったらどうなるか。500年経つと大体、人口が半分になります。だから、7000万ぐらいになるであろうと計算上はなります。

それを、もっと1000年経ったらどうなるか。1000年経ったら、と言ったら平安朝時代、紫式部の時代。皆さんたちが逆算すると、紫式部の時代。これから1000年後。こうなった時に計算上は日本の人口、どのくらいになると思いますか。

クイズ。「森田さんいくら」「どうせ当たらんって。いくらぐらいになる?」「700万」。「あなたは?」「100万」。「あなたは?」「300万」。「あなたは?」「50万」。みんなはずれ。僕の歳はきのう割と当たったけども、これははずれ。

いいですか、計算だけだよ。これ130人。130人というと、佐渡のトキと一緒に。笑。絶滅危惧種です。要するに人類は減る。人類じゃない、日本は滅びてしまう、とこういうことになります。

だから少子・高齢化社会ということを考える時に、私、考えるのは、このことのために日本という国が自分の国としての、あるいはわれわれのグループとしての将来に対する計画ができるかできないか、ということを考える。こんなようなことになるということですね。これが一つ大きな問題です。

私たちは今、こういうふうにして日本の社会では、こんなふうになりますよ、というんですけども、逆に世界は必ずしもそうじゃない。

きのうもちょっと言いました。世界の人口は今60億ですけども、その60億という人口は、いまだにどんどん増えています。

国連では、この60億、増えてるのはアフリカの人たちのような教育のレベルが低い時に、自分の人口を自分でコントロールすることができませんので、そうすると、たくさん子どもが生まれますから、これからは開発途上国の、要するに教育を受けてないレベルの方々の数がうんと増えてきて、そして、知的な、言い換えたら西欧社会、あるいは先進工業国といわれるのは教育のレベルをもって大体、この2.08を目指して2.13ぐらいのところまでコントロールをしながらやっています。

だから、きのうの話のように先進工業国は大体、出産率が低いというのは教育の結果、自分の出生率をコントロールしながらやっている。

日本の場合には、そのコントロールができなくて、個人に任されているものだから、どんどんどんどん下がってしまいました。

これに対して、日本の国でも同じように何とかして2.13ぐらいになるようにということで、保育園も長い間預かるようにしましょうとか、何とか夜中でも預かる保育所を開きましょうとか、あるいは子どもを産んだら手当を出しましょうとか、あるいは女性が働けるようにするためには、そういうために休業手当を1年間出しましょうとか、いろんな方法を講じて考えています。

教育の結果、このぐらいで止まるかもしれない。こんなふうにならないかもしれないけれども、しかし、現実にはそういうことができるか、できないか、ということが問題です。

じゃあ、なぜ60億が80億になったら困るんだろうか、ということです。今、非常に世界が心配しているのは、そのことです。60億の人口が80億になったら困る。なぜかという、食糧が足りなくなるということです。

中国の話がきのう出ました。中国から留学してきた人がおりますが、この人が生まれた頃に一人っ子政策がとられたと言いましたね。大体そうなんです。

それまでは毛沢東は、どんどん子どもを生んでも、その数が増えて労働力として農耕をやれば、農耕文明の時代、農耕をやれば食糧がどんどんとどんでできるから、そして人間の数が増えればそれは戦力になるんだから、社会の力になるんだから、子ども生んだらいいじゃないかと、どんどん生んできました。

ところが、どんどん子どもを生んできたために、今、おおむね中国の人口は13億なんです。止まっておりますけど、約13億。本当はちょっと切れます。

ところが、気がついたら子どもを生産するけども、子どもが生まれて子どもを食べる。殊に君らのように食べる子どもがたくさんおるとね、ますます食糧が足りなくなる。

これは、子どもがたくさんできて人口が増えても、それだけ農業生産したらうまくいくんだと言

っていたけども、農業の生産は人間が生まれる以上に上がらないということになって、これはいかん、一人っ子政策をしましよと、一人っ子政策をしました。

ところが、一人っ子政策をしたのが失敗だったのは、今まで農耕の生活をしている人は、きのうもみんなが話しているうちに何人かの人たちが、人の数が増えれば増えるほど力になるというふうに思っていたものですから、生みたい、という人がたくさんおって、それを政府が制限している、これが共産主義社会、要するに共産党の社会ではそういうことができたんです。

産みたい、けど産んだらいけない。罰金があるんです。子どもがたくさん生まれると、年金はあげませんよとか、税金を高く取りますよ、とかいろいろな罰金を作って、そして子どもを産まないようにした。

だけど、それでも産んだ子どもはどうするかというと、戸籍に載せると罰金取られますから戸籍に載せない。戸籍に載せない子どもが1500万人ぐらいになりました。この人たちの時代は、もうちょっと先ですけれども、この人たちより5、6年後になると、その数が千何百万人。

これが小学校へ行くようになりますと、さあ、戸籍がないから学校に行くことができないということになって、社会問題になりまして、新しい江沢民の時代になって、これはいかんと。もうちょっと子どもは一人っ子政策を緩めよう、といろんな形になりました。

少ない人口の民族のところでは、子どもを産んでもいいとか、女の子だったら男の子をもう一人産んでもいいとか、いろんな条件を付けながら少しずつそれを今、改善をしながら、バースのコントロールを中国はしています。

ところが、面白いんですけれども、ですから13億からあまり上がる率はだんだんだんだん上がらなくなってくるだろうけど、それでもいくらかずつ増えます。

いくらかずつ増えるというのは、数からいったらものすごい数です。率は下がってきますけれども、13億と1億とで競争すれば、向こうは率は下がっても数だけいうならば、日本なんかよりもうんとたくさん増えてきますから、やっぱり人間がたくさんおるんですね。

さあ、この13億の中では、まだ中国は長い文明社会をつないできましたけれども、なおかつ貧乏な人たちがたくさんおる。きょう食うに困るような人たちが、たくさんおる。

中国の北京、昆明、大連、ハルピンがある。ここのところをすーっと線を引くとね、左がウイグル自治区だとか、チベットとかね、いろんなところがたくさんある。

土地からいうと半分ずつだけどね、臨海部に人口の95%が集まって、反対側は5%なんです。農村と都会との間の差が、こんなに広くなりました。

今、上海に行ってください。もう日本なんかよりもっと大きな立派な高層ビルがたくさんできておりますし、そしていろんなことが近代化されています。

デパートも何もきれい。北京でもきれい。殊に北京は、この前、オリンピックを招致しようということまで街を全部整理しましたから、空港から真ん中までの高速道路がずばーっと通って、うわーすごいなあ、すばらしい国だと思いました。

ホテルも一杯、立派なシャングリアホテルだの一流のホテルが一杯建ってるんですね。

ところが、人口の少ないほうに行ってみたら、その格差が非常に大きいということですね。まあ、それはいいです。

それで、江沢民は何と言ったかというとな、この13億の多くの人たちが生活が今、非常に難し

いから、この人たちに一人当たり平均ですよ、これも、卵1つ分の栄養をつけるような政治をしたい、とこう言ったんです。

分かるねえ。みんなが1日に卵1個も食べることができないような貧しい生活をしてるその人たちに、卵の1個分ぐらいの栄養分を与えるような政治をしたい。人口の多いほうは、毎日毎日ご馳走を食べているんです。でも反対側のほうは食べてない。

でも、中国の人たちを平均すると、先進工業国、日本などと比べると一人当たりの収入も少ないし、そしていろんなことができないから、卵1つ分ぐらいの栄養を与えるような、そういう豊かな国にしたい、と江沢民が言いました。

もちろん、それは一つの州ですから卵でないかもしれませんが。ところがそれをレスター・ブラウンというアメリカにワールド・ウォッチ・インスティテュートというのがあります。世界がどうなるだろうか、という研究しているんですね。環境研究所があります。

ワールド・ウォッチ。世界をいつも見ていて、そしてどんなふうなことが人類に影響を及ぼすか、ということ进行研究しているところのレスター・ブラウンという所長さんがいまして、面白いことを言いました。

「皆さん、江沢民が13億の中国の人たちに卵1個分の栄養を今後つけるようにしたい。要するに毎日、卵1個分の栄養を与えるということにしたい、とこう言いました。その結果、どうなると思いますか。卵1個分を13億の人に毎日与えようと思ったら、卵は1日にいくつありますか」。

小学校の1年生でもできますね。言っておきますけどね、日本の大学生は数学が弱くなりました。君らは別だけでも、工学部は別だけでもね。実は文科系の大学生に、今まであまり勉強してこなかった数学のごく単純な高等学校で当たり前習ったような数学の問題を出しました。

世界中で出したんですけども、そうしたらね、中国の北京大学の文科の学生は、95%の人がその簡単な数学ができたんです。優秀なんです。

日本の東大の文科系の学生にそれを与えました。何パーセントができたと思いますか。実は44%しかできなかった。東大ですよ。少なくとも一番エリートが行って、一番勉強しているといわれる東大の文科の学生が、北京大学の学生に比べて、北京大学の学生が95%できたのに、東大の連中は44%しかできなかった。

京大へ持ってきました。京大は、少なくとも第二番目の大学だと思われてます。22%です。そして、それを慶応に持ってきましたら13%。何と早稲田に持ってきましたら0.4%。まして言わんや、それよりも数学の勉強してない我が関西学院へ持っていくと、どのくらいになるか。「いやいや90%ぐらいできますよ」と山口さん、よう言わんやろな。〈笑い〉。

言い換えたら、私たちの知的な標準というのは、世界的なものをいっているんですが、だから変なことをいうけれども、中曽根さんという総理大臣が私たちの国より劣っているアジアの青年たちを日本に留学させて、勉強させて帰してあげます。10万人の学生を日本に連れてきなさい、私たちが全部授業料出して勉強させてあげます。

毎年、来た学生たちに国は1ヶ月15万円払って、そして彼らを日本の大学に入れました。

どんどんどんどん増えるだろうと。旅費も出します、何も出しますから、どうぞ寄越してください、と言いました。

今、何万人いると思いますか。この2000年までに10万人の学生を日本に留学に送って、日

本を理解してもらって、そしてアジア諸国に帰ってもらおうとしましたところが、何と5万6000人の人しかまだ来てないんです。

それで小淵さんは、もっと留学生を寄越してもらうために条件を緩めてやりますから、日本に来て勉強してくださいと言っている。

そしたら、中国の人たちは喜びました。ええなあ、日本へ行ってご飯もようけ食べさせてもらって、映画も見せてもらえるから行こうか、という人もいるんですけども、本当に勉強したい人は、44点の学校へ行っても仕様がねえと。北京の95点の学校にいるほうが、よっぽど勉強になる。だから、日本なんかに留学するなんてアホが行くとこやで、と思ってるかどうか知らんけども、ちっとも留学生が来ない。

なぜ、留学生が来ないのか。日本に来たら勉強しないで、日本に来たら学校というのは遊ぶところだって。レジャー大学だ。そんなところに行くのはもったいないから、行くんだったらヨーロッパか、ドイツか、あるいはフランスか、あるいはもうちょっと遊べる場所ならアメリカか、日本は選ばないというふうになってるんですね。

これみんな枝葉です。現実はそのいうふうになって、日本というものは今までやっていた、日本が一番トップだったというけども、中国がそんなになってきた。

にもかかわらず、その中国、13億、1日に13億の卵を産もうと思ったら、鶏の数は何羽？。13億羽が1つ産んだら13億。13億羽の鶏がおらんといかん。

さあ、そこからです。13億羽の鶏に食べさせるためにエサはどれくらいいるか、ということですよ。

13億羽の鶏にエサを与えようとしたらどれくらいいるかという、レスター・ブラウンがいうことには、オーストラリアの1年間の穀物の生産量と同じだけいるんですって。

ここで面白いのは、中国がたった卵1個分、自分たちが経済的に豊かになるようなやりかたをしたら、穀物はオーストラリアの穀物の1年分をそっちに入れなければいけない。

13億人の中の半分か3分の1かしれませんけれども、男の人、女の人も入れるから半分でいい、半分の人がビールを飲んだ。1日に1本、中国の人たちが飲むようになった。北京や上海は毎日飲んでます。チンタオビール、おいしいんだ、あれがねえ。飲んでるんです。

ところが、それがこの田舎の人を含め13億人の人がビールを一杯ずつ1日に飲めるような生活水準になったら、そのビールのための麦はどのくらいいるか、といったらスカンジナビアの3つの国が1年間に生産する麦と同じ量だけありますよと。

つい去年ぐらいから中国は、穀物の輸入国になりました。生産ができなくなりました。

江沢民は、いろんな省があります。広東省だとか、山西省だとか、いろんな省があります。この省、日本でいえば県ですが、省に命令して「あなたのところは15%ずつ自分のところで農地を広げてください」と言いました。

そうすると、人口の少ないほうは農地を広げることができるんですけど、反対側は込んでいて、農地を広げることにはできない。

広東省は、どうしたか。「私は、農地を15%も広げることにはできない。ほとんどもうビルが建ってしまって、都市化していますから広げることにはできない。しょうがない。ここで農地を広げることにはできませんから」と言って、アルゼンチンに行って、アルゼンチンで「広げる15%分の農地

を売ってください」。アルゼンチンは「いやだ。国にうちの土地を売るわけにはいきません。貸してあげましょう。そこの農産物ができたら、ここに送ってあげます」。

カーギルというアメリカの食物輸入会社があります。一時は日本に来て、日本の九州に会社が支店を出しまして、麦とかお米もそうですけども輸入して、アメリカは世界一の農業国ですからね、それが日本はあまり買わない。ところが、中国に持っていったら買える、というのでカーギルの支店は、全部日本から中国に代りました。というのは、それだけ必要があるからです。

こうして考えた時に、今言ったように13億、こういうような状況からいった時に、私たちが世界の食糧問題を考え、世界の人口問題を考えた時に、世界中の人がどういうふうに動くのか、ということ計算に入れておかないと、日本が将来どうなるか、ということについてのいろんな問題が影響してくるということを考えなければいけない。

日本というものは、自給ができません。私たちが食べているもののほとんどは、実は自給ができません。あるいは、皆さんの着ているものの大部分のものが、このごろは輸入ということになります。

ましていわんや、インターネットの時代になりますと、今までは舶来でブランド物が得意だったんですけども、ブランド物なんて、僕がひょっと見たらこれダンヒルなんだよ、僕の靴下。すごいなあ、と思ったけど、こんなダンヒルは何もイギリスで作っているわけじゃなくて、パテントだけ払って日本で作っているのに決まっているんですね。

けども、そういうふうなように変わってきた時に、世界と私たちの国がいつもリンケージしながら回っているという世界が今あることを考えてみなければならなくなってくると。

特に隣の中国のことなんかを考えますと、私たちは少子・高齢化といった時に、私たちの国のことだけ考えるのではなくて、そのような国、少子・高齢化になった時には、世界的な視野で私たちの経済はどうなるのか、私たちの生活はどんなような影響を受けるのか、あるいは私たちの将来は、それがどのようにリンケージしているのか、ということを考える。

きのう私は、コメントの中、あるいは質問の中に介護の問題についても、あるいは簡単な単純労働の中に第三世界の人たちがみんなこれから来ててもよろしいと、法務省は許しました、ということになってるけども、そうなった時に具体的には私たちは、文化が進んでいくということは、世界が雑草的になってくる、ということであって、日本は日本だけで自分たちをキープするということは、なかなかできなくなってくる、という時代になってきている。

こういう変化をどうつかまえておいてくれますか。私たちは、その変化をひしひしと感じてきました。あなた方の時代には、もっとそれが激しくなりますよ。その変化をどこまで読み取りながら今の私たちの社会のことを考えてくれますか。これが私たちの一つの大きな問題でありました。

時間がないものですから、だんだんだんだん雑談的になって申し訳ないんですけども、そういうふうなことを考えてまいりますと、世界の中ではいろんな動きがあります。

もう2つだけ本を紹介しておきます。

1つは、1992年に書かれたものでした。アーサー・シュレジンジャーという人が「アメリカの分裂」という本を書きました。岩波から出ました。アーサー・シュレジンジャーという人は、ケネディ大統領というアメリカで有名な大統領、暗殺された大統領ですが、大統領になった時に、国民に言った有名な言葉がありますねえ。

それは、「私が何をしてくるかを期待をするのではなく、あなた方が国家に何をしてくるか、ということに期待する」。大統領になった時に、大統領にみんなが期待するのではなくて、みんなが国家のために何をしてくれるか、ということに私は期待する、という演説をしたことで有名であります。

クリントン大統領は、その時に子どもであって、その話を聞いて感激をしたということでありませうけども、そういうケネディ大統領という有名な大統領がおりました。

これの大統領補佐官をした歴史学者であります、アーサー・シュレジンジャーという学者がいます。これが「アメリカの分裂」という本を書いたんです。

なぜこの本を取り上げるかといいますと、もういっぺん言いますが、私の話は基本的には一番最初に4つのことを言いたい、と思うんだけど、枝葉を説明のために言っていますから、枝葉だけ聞いてそこで何か言わないで置いてよ、全体のことを。もう1つ。一番最初に言ったのは、「第三の波」という中で、私たちの時代は非常に大きな変化の時代がきていますよ。あなた方はその中で、今までの質とまったく違った役割を取らなければならないんですよ、というのが一つでしたね。

その次に私が言いましたのは、中国の食糧の問題なんかを今、言いながら私たちの世界は、人工的にも食糧の問題としても地球社会としては一つの危機になっています。これは、ほかのこともあります。環境問題もありますから。

そういう意味で、私たちは一つの曲がり角の中において、日本だけを考える時代ではなくなってきましたよ、というのが2つめのことで言いました。これは、枝葉の一つとして言いました。

もう1つ、枝葉の一つとして言うためにこの「アメリカの分裂」という本を紹介しておきます。この「アメリカの分裂」という本は面白いんだけどねえ、これ皆さん聞いたことありますか。

今から4、5年前、もっと前になるのかなあ、ロサンゼルスでメキシコから来た人たちが警察官に警棒で殴られて死んだという事件がありました。これは、ある意味で人種差別だというので尾を引いて、今度は朝鮮、韓国系のアメリカ人がそれに対してプロテストして、反対をする運動が起きて、このロサンゼルスの近郊でいろんな問題が起きました。

それを一つのきっかけにして、このアーサー・シュレジンジャーという人は「アメリカの分裂」という本を書いたんですが、昔、アメリカに来た人というのは、アメリカ人というのは始めからいたか、というといないんですね。

私がアメリカにいた時に、ユウ・アー、ジャスト・ライク・アメリカンと言われたのは、アメリカ・インディアンですね。アジアから大昔に入植した先住民族のことですね。

だけど、アメリカをつくったのは、そうではありません。メイフラワー号に乗って、主にイギリスの、アイルランドあたりの貧民、農民たちが自分の自由を求めて、殊に信仰的な自由を求めてアメリカに行きました。そして、アメリカを設立しました。

それと同時に、主にヨーロッパ諸国の人たちが移民をしてきました。移民してきた人は、自分の名前を付けました。ニューヨーク。みんなニューがつくんです。ニューハンプシャー。ニュー何とかというのは、みんな自分の故郷を思い出してアメリカにつくった街です。ロンドンなんて街は、あっちこっちにあります。それから、サウザンプトンなんていうトンをつけるのは、ダウンの名前ですけども、そういうような名前がたくさん付いてる街が一杯できましたね。

ところが、こうしてアメリカへ移住してきた人によってアメリカができました。

ちょっと統計を見るとおもしろいんですけど、その頃、1910年ごろの移民の人の90%はヨー

ロッパの人でした。だから、ヨーロッパの街でした。

このヨーロッパ人だけでは、手が足りませんからそのヨーロッパの人たちがかつてやっていたように工業社会、資本主義社会、あるいはその前の封建資本主義社会の時にやっていたように、安い労働力をアフリカから奴隷として買う。売買をして、その人たちをお金で契約を結んで買ってくる。このアフリカ系の人たちが連れられてきたのが、最初でありますね。これは、皆さんご存知のとおりでありますけど、90%はアメリカでありました。

しかし アメリカの中の80%以上は白人系、西欧文明の人たちでありました。西欧文明の人たちが入ってきますと、そこでは自分たちが同じような文化の背景を持っています。少しずつ違うけども、簡単にいえばみんなナイフとフォークでご飯を食べる人たちが来た、ということです。そういったほうが簡単かもしれません。ナイフ・アンド・フォークのカルチャーを持った人たちが来て、アメリカをつくった。

だから、西欧というものとアメリカというものは、その意味においては、非常に同質性が高かった。

だから、彼らは「あんたは何国人ですか」と言ったら「私たちはアイルランド系のアメリカ人です」「私はデンマークから来ました」とか「私はノルウェーから来たアメリカ人です」「私はイタリアから来たアメリカ人です」。だから、アメリカへ行くの平気ですよ。「あんた、ご先祖どこから来たの?」「うん、僕はね、イタリアなんだ。あんたどこ?」「僕、ドイツなんだ」。こうってみんな話をします。

アイルランドなんていったら、私は正統派みたいな顔してるんです。ワズプという言葉があります。ホワイトでアングロサクソンで、そしてプロテスタント。これがアメリカをつくる時の一つの基準みたいになってました。

ところが、1980年代になりますと、移民の80%以上がアジアとかラテンアメリカ。プエルトリコ迄かね、メキシコとか、そういうところから、あるいは香港とか、いろんなところから来て、アメリカに移住する人の数が80%になった。

かつては、同じような文化背景の人たちがたくさん来たんですけども、それから後に来た人たちは、アメリカの中で違った文化の背景を持った人が80年代に増えてまいりました。

80年度以後に増えてきた人たちは日系アメリカ人、あるいは中国系アメリカ人、韓国系アメリカ人というような人たちが、アメリカの中でだんだんだんだん増えて、移民の80%がそういうところから来るようになった。その時に、それまでどういていたかという「アフリカから来たアメリカ人、アフリカ系のアメリカ人も、要するにブラックアメリカ、黒いアメリカ人も同じように私たちは市民権を得るべきだ」。

これは、人権の問題からいったら当たり前で、同じような教育を受けるべきだ、だから、州立の高等学校にも、みんなアフリカ系の黒いアメリカ人も、みんなアメリカ人として同じ教育を受けるべきで、同じ権利を持つべきだ。だから、そういう風潮がずっと高まって、少なくともヒューマンライト、人権の問題から考えると、これが当たり前だというふう考えられてまいりました。

ちょうどマヨネーズを作るのに、卵と油を入れてかき混ぜます。そうすると、油でもない、卵でもないマヨネーズというものができる。アメリカというのは、それと同じでメルティング・ポットの中に入れられた製品のように、私はアメリカ人、という新しい人種ができた。新しい人類

ができた、とこういうふうにはアメリカ人たちは言っていました。

ところが、シュレジンジャーが「アメリカの分裂」ではどうかというと、「よその人たちが来た時に、そんなことは言えない。私は、アフリカ人なんだ。アフリカの先祖のことも私たちは大事にすべきだ」。

アルキメデスの原理や何かは、あれは誰かといったら、一番最初にアフリカの人が発見したにもかかわらず、エジプト人が誰かがそれを盗んだんだと。アフリカの人たちは、このごろ言っているんですね。

こうして人類の最初のアフリカ人というものは、長い間、暗黒の時代があって、知的な刺激が少なかったけども、実はアフリカの文明、文化、知恵とかいうものは随分高いものがあるんだ、と言ってアメリカでアメリカ人と同じ、要するに白人と同じ教育を受けるといことはおかしい。私たちは、アフリカ人としての誇りを持って教育を受けたい。アジアの人は、アジア人としての誇りを持って受けたい、と言ってばらばらになってきた。要するに、民族とか部族とかいうものが、もう一度自分たちの祖先を考えて、メルティング・ポットじゃなくて、サラダ・ボウルにするんだと。

サラダ・ボウルということは、何が入っているのかなあ。きゅうりもあるし、アスパラガスも入っているし、卵も入っているし、トマトも入っている。トマトは赤い、きゅうりは緑色だ。そして、あとレタスや菜っ葉。でもそれはそのまま残しながら、それはサラダとしておいしいじゃないか。アメリカは、そういう国になるべきだ、ということを使い始めました。

言い換えたら、アメリカというメルティング・ボウルにしようとする努力というものの長い歴史と伝統の中から、まったく違ったアメリカ、みんなルーツを別々に持った人たちが、ここへ集まってくるのがアメリカだと。

アメリカは新しい人種をつくるんだ、というのではなくて、そういうふうにして、いろんな人たちが集まった場所なんだ、という認識をし直そうというのが1980年代にできました。

アメリカの大学に留学した人が、例えばパークレーとかそういう有名な外国人の留学生の多い大学で最近、気がつくことはどういうことかということ、寄宿舎が分かれちゃった。昔は同じ寄宿舎の中に日本系の留学生も、あるいはラテン系の留学生も一緒に住んで、「私の寮はおもしろいです。10いくつかの国の人が集まって、そして同じアメリカ・イングリッシュを使いながらコミュニケートして、みんなが友人になってます」というのがアメリカの大学の風景でした。

ところが、最近はどうでもない。アジア会館を造り、アフリカ会館を造り、ラテンアメリカグループをつくって、ラテンアメリカのスペイン語の人たちが集まって、その習慣に従ってアルゼンチン・タンゴを弾きながら遊んでる。アジアの人たちも同じ。

そういうふうになっていいたら、アメリカの大学だけど、そこはいろんな寮にいろんな違った人が住んでるという状況が、最近のアメリカの大学の傾向だということで、びっくりした人がいます。

一般的ではありません。でもそれは、一つはそういうことを意図的にやっていこうというグループがだんだん増えてきてるといことは、ここで大きな問題になっている。私の言っているもう一つの材料です。「アメリカの分裂」という本が1992年に書かれて岩波から出ておりますから、そういうことに興味のある人は、また読んでください。そういうふうなことが一つありました。

言い換えたら、私たちが考えている文明社会というものは、一つの形でもって進んでるのではな

なかなかありませんよ。そういうものを総合的に考えながら、私たちは判断をしなけりゃならんのですよ、ということが一つです。材料として、そういうことを言っておきました。

もう一つ本を紹介しておきましょう。サミュエル・ハンチントンという人が「文明の衝突」という本を書きました。これは、ごく新しい本です。読んだ人？。厚い本です。本はどこから出たかな。集英社かな、ちょっと忘れまして。

この人は1994年にフォーリン・エア・ という有名な雑誌があります。世界的な状況をいろいろ報告してくれる雑誌で、大変おもしろいものです。

これに「文明の衝突か」という一文を寄せた。「か」というのは「だろうか」という意味なんですね。小さな論文を出したら、世界中の人たちが大変大きな刺激を受けて、いろんなコメントがつけましたために、彼はもう一度改めて「文明の衝突」という本を出しました。これが今、世界的に売られています。

日本では、そのダイジェスト版が出ました。ダイジェスト版の中で「文明の衝突と21世紀の日本の選択」とかいう本なんです。薄い本です。

これは、去年か一昨年出た本ですから、一番薄い、安い本を買って読む人は読んでください。そこで「文明の衝突」の大体のことが書いてありますから、そういう本の一つ見てください。

この「文明の衝突」というのは大変おもしろいんですけども、今まで私たちは長い間、戦争というものは食糧を得るためでありました。そして大体、15世紀ぐらいになった時に一番進んでいた国がイギリスとか、あるいはフランスであるとか、あるいはヨーロッパ諸国が一番進んでおりまして、そういうヨーロッパ諸国は、それぞれにいろんなものが共通しておりましたけれども、国を造りました。

国民国家という国家が、そこで生まれてまいります。そして、このヨーロッパの国民国家ということに基づいて、自分たちの食糧を確保するために植民地をアフリカとかその他の地に求めてまいりました。

こうして自分たちの国民国家が一つの経済サイクルとしてできて、あっちこっちで経済サイクルとして、そしてこの国々は、それぞれのハーモニーを持ちながら生活をしてくる、というタイトを15世紀から以後ずっと続けてまいります。

これが大きくなりましたのが、19世紀になって急激に発展したのは、機械ができてきたからです。

そして、機械ができてくると、これはどういう名前になってくるかというと、資本主義社会という社会が生まれてきます。資本主義社会の中で、こういう制度はますます発展してきました。

この資本主義社会の中で発展してきたものが、いろいろあって、1つは大きな戦争がありました。日本とドイツとイタリアが、そのような世界の中の国民国家の中で少し出遅れて植民地を持ってない国々が、反乱を起こしまして、第二次世界大戦のようなものを起こしました。

そして、第二次大戦を起こしました結果、植民地を持っているのはいかんと。みんなの国を守るために、植民地をみんな独立してくれ、とあって、1947年から49年ぐらいの間にインドであるとか、あるいはマレーシアであるとか、あるいはインドネシアであるとか、ラオス、ベトナム、カンボジアとかいうのが仏領インドシナから、フランスから離れて独立をし、蘭領インドネシア、オランダから独立してインドネシアになり、インドはイギリスから独立してインドという国になる、

というふうにしてみんな独立しましたよね。

こんなふうにして、世界の構図が変わってくるにしたがって、この構造は、次の構造、冷戦構造になります。世界の中の一番大きな国同士、力がある国のアメリカとソビエトが二極に分かれて対立することになった。

バック・ド・アメリカナ。アメリカの自由主義を中心として世界が一緒にやっ払いこうというグループと、バック・ド・コミュニナー。共産主義社会、平等主義を中心としたイデオロギーの戦争になってきました。

しかし、このイデオロギーの戦争が終わったのが大体、1989年。というのは、少しずつ変わってきたけれども、それを象徴的に表すのがベルリンの壁ですよね。ベルリンの壁が象徴的にこれを表す。

同時に中国においては、天安門事件というのが1989年の春に起こりました。

こうして起こって、中国の今のような先進工業国と同じような資本主義社会の洗礼を受けてた学生たち、あるいは新しい人たちが反乱を起こした。中国では、まだ全体主義、全体が平等でいかなきゃならんという共産主義社会のほうが大勢の人たちを支えるのには必要だということで、天安門の事件が起こった。

しかし、いずれにせよそのことによって世界が大きく変わってきました。さあ、世界がこういうふうにして戦争が終わって変わってきたら、世界中の人たちが幸福になったろうか。核の恐怖から逃れて幸福になったろうか。という、実はそうではなくなってきたということが言われる。

どうなってきたんだらうか。これが、新しい問題になりました。世界の次に出てくる。

この問題を取り上げたのが、先ほど言った「文明の衝突」という本であります。

みんな、きのう夜、寝なかったのだな。(笑い)。引っくり返ってる。気をつけなさいよ。君らはその場だけよく頑張って「大丈夫です」というけども、後までもたんということがある。あとまでもつようなトレーニングが必要です。僕は、まだ80だけど、これぐらいの声の大ききでしゃべれるということ。

さあこうしてね、それじゃ今度はどうなったんだらうか。私たちの世界は、うまくいくようになったんだらうか。

いや、そうじゃないと。それはいろんな意味で自分たちの主張をお互い同士がするようになった。世界が分裂していくよ、ということを行ったのが今のサミュエル・ハンチントンという人です。

サミュエル・ハンチントンは、その世界が今度は2つの冷戦、バック・ド・アメリカナとバック・ド・コミュニナーという冷戦時代が終わった時に、新しくできてきたのは何かと。コソボじゃないか、チェチェンじゃないか、イランの戦争ではないか、あるいは東チモールではないか。ちっとも終わらんじゃないか。

それは何でだ。それにはいろいろ訳があるけれども、1つは、大きな意味では、世界は文明間の衝突だ、とこういうんです。文明ということを考える時に、これも時間がありませんから読んでください。

その文明間の衝突だ、という時に、世界の文明で基本的に大事な文明は、7つあるいは8つあるというんです。

1つは何かというと、西欧文明といわれるものです。きのう価値観という言葉が使われました。

価値観が違うということ。これは大変難しい。私とロータリアンの人たちは、価値観が違いますというのは、価値観が違うといたら、後は何にも言いようがない。

そうじゃなくて、意見が違えば、それは話し合っ解決をするということで、なくてはいけませんが、文明という場合には、一つの価値観がはっきりしてますから、その価値観の中で、それぞれの西欧文明というのは、ご存知のようにキリスト教の精神というのが、一つの文明の精神的支柱として生まれてきた文明社会ですね。

これに対して、古い文明というのを持っているのは、初めハンチントンは何と言ったかという、儒教文明といましたけど、儒教文明というよりも儒教以外に中国の影響、それを持って一つの価値観、これは西欧文明より古いんです。

キリストが生まれたのは、約2100年ほど前。孔子はその少し前の2600年ほど前に生まれているんです。それから釈迦が2300年ほど前に生まれている。孔子が生まれて、それから釈迦が生まれて、それからキリストが生まれた、こういう順序で生まれてます。

そういう長い文明を持っていますから、彼は中国文明というふうにな付けております。

中国文明というのは、かつてこの文明社会が世界を占領して、あるいは中華文明ということ言ってますけど、ベトナムであるとか、あるいはタイであるとか、そういうものにもずっと影響を与えた大きな文明であると。

もう1つは何か。ロシア文明。ロシア文明は、西欧文明と違ってギリシャ正教会、東方正教会というキリスト教の影響を受けてできたビザンチン文明と連なって新しくできた文明です。すなわちロシア文明、これが一つの大きな文明圏をなしています。

それから、もう1つはイスラム文明ですね。それからハンチントンは、日本文明というのを挙げています。それから、ラテンアメリカを挙げている、南米。それから、アフリカを挙げているんです。それから、インド文明。古い文明社会。これはヒンズー文明です。

こういう大きな文明が残ってきて、この文明と文明の間の価値の違いの中で、いくつかの新しい問題が起こるかもしれないと、こういうことを書いて、ずーっとその文明についての説明をしています。

これは、大変厚い本ですけど、興味のある人は読んでみてください。これから新しいものを占うものとして、ごく最近に出た本であります。

ところがね、私が今、いたいのは、どういうことかという、この本でハンチントンというアメリカの学者ですよ、その学者が日本文明というのは特殊の文明だということです。

中国の文明が6000年前から、それがずーっと一つの文明社会をつくったけど、日本の場合はそうではなくて、今から1700年前、大化改新あたりからと考えればいいと思います。大化改新あたりから大きく中国の文明の影響を受けながら、その1000何百年の間に日本は日本独自の文明をつくってきた。

それが今から100何年前の鎖国を解いた明治の時代になって、またヨーロッパの文明も影響を受けながらも、ずーっと日本は日本固有の文明を貫いてきている。そこにおける価値観であるとか、道徳観であるとかいうものがずーっと続いております。日本の文明というものは、その意味においてはよそと違う。

ところがね、西欧文明といった時に、これは同じ同質性を持っていながら、その中にはドイツも

入っておりますし、フランスも入っております。フランスとドイツは戦争ばかりしてたんですけども隣り人。お互い同士の文明の基底は同じだから、同じ同士が話し合うことができます。

あるいは、イギリスとは離れているだけの違いです。アメリカは、ずっと離れているけども、この西欧文明がそのまますーっと移っていったから、ここでも話し合うことができます。

だからイエスカノーかという時に、アメリカが何かしようといった時に「オー・イエス」というのはイギリスが一番強いんです。「あんたのいうことなら、何でもイエスや」というようなところもあるんですけども、そういう返事をしてできてきます。

西欧文明というのは、そういう意味においては、これはこれでもって仲良くしております。

この時に、日本は一体アメリカと仲良くしとるけども、本当はアメリカと仲良くできるのか。彼はね、「アメリカはそんな慈悲深い国ではないよ」と。自分の都合のいい時には日本を大事にするけども、自分の都合が悪くなった時には、日本を理解するということが、おそらくできないかもしれないよ、ということ言ってるんです。君たち、心の底で覚えておかなければいけません。

アメリカと仲良く付き合うことは大事なことなんだけども、そういう意味においては文明の基底、価値観の問題からいうとアメリカは必ずしも日本をそんなに大事に思っていないよ、と書いてあるんです。ハンチントンというアメリカの学者がね。

長い間の中国の文明があります。この中国の文明の中には、ハンチントンの言い方をしますと、朝鮮、韓国も入ります。あるいは、ベトナムも入ります。こういう言い方をしています。あるいはカンボジア、ラオス、みんな同じ文明のカテゴリーの中に入ります。だから、これは大きな文明であります。

もう一つ、イスラム。イスラムというのは、イスラムの価値観を持っていますから、これはトルコから下の国々ですね。それはたくさんあります。

こういうような国々が、それぞれ力を持ってるんですけども、このイスラム、あるいはアジアにおいてはインドです。インドと中国と日本をくくめてアジア文明社会というかもしれないけども、中の質は随分みんな、それぞれ違うんですよ、ということ言ってます。

これが、衝突することがあるんです。今、冷戦が終わったあとで衝突してるのはどこか。コソボであり、チエチェンであり、カシミールであるということは、イスラムとロシア、この文明が衝突してるんです。

東チモール。あの小さいところでやっっているのは、イスラムと今までのオランダ系、西欧系の文明が衝突してるんです。こうして自分たちの文明の問題を扱うというふうにして、衝突しあっているんです。

これは、小さな部族の衝突ですから大きな戦争にはならないけども、なぜロシアやあるいはコソボの敵に西欧社会が一生懸命に応援し、片一方はイスラム諸国が応援しているのか。得になるから、損になるからじゃない。

血縁の関係にあの人たちは、救おうというので、みんなが応援しているからそう簡単ではない。コソボのような場合には、ますます混乱をし、そこに大きな人類の悲劇が起こっているということ言ってるわけですね。

こうして考えてきた時に、アジアのことだけ考えると中国は非常に大きな国であります。6000年間の歴史を持つる国であります。そして、アメリカも大きな国であります。このアメリカの

大きな国と、中国の大きな国がいつでもぶつかり合って戦争する。

この戦争する間に立っているのは何か。日本でしよう。台湾でしよう。だから、台湾が中国にべったりくっついてしまうと一歩後退ですから、なるべく台湾をアメリカの側からいったら、アメリカのほうと一緒にやれるように何とか支えておきたい。だから、台湾海峡波高しになるわけですね。

何のために沖縄に兵隊置いておくのですかと。私の国、何で守るのですかと。その時にアメリカの側からいうと、沖縄は中国との関係から見ると、その瀬戸際にあるんですよ、だから日本、ここで頑張ってもらわなきゃいけない。

それを言いながら、ハンチントンは何で言っているかという、日本の外交はどうだったか。日本の外交は、いつも大きな国についていた。かつて日露戦争の時には日英同盟。もっとも力が強かったイギリスと同盟をした。その次はどこと同盟をしたかという、今はアメリカと一緒にやってる。かつては中国と一緒にやってた。

だから、このボーダーライン、境というものを考えた時に、日本だけは孤独になるんですよ。その時にアメリカと一緒になるということは、本当は文明が違うから駄目ですよ。中国と一緒にすることも、文頭が違うから駄目ですよ。

日本は独自の文明を持ってるから、それだけ日本は、そういう文明の中における立場というのは難しいんですよ。その難しい立場を日本の人は、ほとんど知っとらんじゃないか。これが一つの大きな問題です。

おそらく、こういう世界的な視野から見ると、日本という立場はい非常に難しい立場にあるということを知ってるか。

アメリカの核の傘の中におれば大丈夫だ、というのか、あるいは、大きな中国とこれまでも長い間やってきたし、中国と一緒にあって、そして新しい世界に飛躍しようとしているのか、あるいは、日本はどうしようとしているのか、いう時に、日本の将来は見えませんよ。

これが「文明の衝突」の中に書いてある日本への一つの指摘です。

さあ、私は、そういう枝葉を言いました。こういう枝葉を言いながら一体、ハンチントンは、だから私たちは世界の平和が、冷戦が終わったら、世界の平和がすぐ来る、なんていうことは本当は夢みたいなことですよ。これからは、大きな戦争はないかもしれない。

なぜかといったら、核という爆弾といった大きなものはいつペン投げたら、これで人類が全部駄目になっちゃうんですから、そういう戦争はないかもしれない。

しかし、部族ごとに戦争し、その部族ごとに戦争したものを同じ文明社会が応援しあっていますから、もっと困難な、もっと長い、ルアンダの問題でも同胞同士が争っている場合はまだいいけども、文明が絡まってきた時には、その戦争は長く続きます、ということはこのハンチントンは言っております。

さて、こうした中で私たちは、じゃあ世界はどうなるんだろうか。片一方においては、私たちは科学技術がどんどん進みます。インターネットが進みます。グローバリゼーションが進んで、経済の交流がもっと盛んになります。

こういうふうにしていろいろある中で、世界のYMC A同盟が世界中の青年たち、皆さんのような若い方を集めてね、これから20年後に世界はどうなると思いますか、と問いました。いろんなグループできのうのようなディスカッションしました。

そしたら、3つのパターンが出てきました。

その3つのパターンというのはね、1つは今、私たちが感じているように、やっぱり何やかやいってもお互い同士、知恵があるからもっともっと物質は豊かになるだろうと。あるいは、インターネットでもっていろんな物が買えるようになるだろう。

そして、ロシアも、中国も、13億の人たちがもう少し、みんなの経済生活が豊かになると、みんなインターネットを持つことができるようになる。貿易は自由化して、WTOに加盟して、豊かになっていくだろう。これが何やかんやいって、あんた、そんな心配することはないよと。結局、うまいこといくよと。第三世界も何とかうまいこといって、自由貿易が進みますよと。

そういうようにして、世界全体の暮らしは、まあ今より良くなっていくだろう、全体的にはですよ。多少のこぼれはあるから、それを訂正しても良くなっていくだろうと。これが1つのパターンでした。みんなの話で。たぶんそれでうまくいくよ、とこういう。

2番目です。そうじゃないんじゃないか。今あるように世界の人口の3分の1、日本とヨーロッパ社会は、今までと同じように生活が豊かである。そして、食べ物もたくさんできる。今のような生活を維持することができる。

でも、残る3分の2は、やっぱりアフリカの国と同じように貧困や失業や飢餓や暴動や紛争が続くだろうと。こういうグループができました。

世界食糧機構は、今、8700万人の人たちがきょう食べられないで困っている、飢餓に苦しんでいる。世界中の人たちが協力をして、2010年までに、僕はたぶん生きとらんけども君ら生きとるはずだ。案外しぶといから生きとるかもしらん。どっこいオレは生きている、ということになるかも分からない。今から10年後です。

その時まで世界食糧機構は、8700万人の世界の飢餓人口を4300万人まで減らしたいといっている。半分に減らしたい。これができるかどうか分からない。

今の中国の問題などいろんなことがあって、あるいはインドが大変なんです。今7億ほどですが、ここはまだ宗教上の理由によって、産児制限をしませんから、どんどん増えてます。一人っ子政策はとってませんから。一人っ子政策をとるような人たち、産児制限を政治課題に掲げた人は、みんな殺されちゃうわけですからね。だからもっとどんどん増えていこうと言われてますね。

こういうふうになっていくと、やっぱり貧しい人たちがあって、貧乏が続いていこうと。これが2番目の実態です。

3番目は、いやそうじゃないと。私たちは、これだけいろんなことを知っていると。だから、物をたくさん作って、物が豊かになることじゃなくて、一緒に分け合って生きていくということのほうが大事なんだ、というふうに変え方を考えた時に、大勢の人たちがきょう食うに困っていたら、私たちの物を少しは分けましよう。

時々ね、私たちはゲームをします。本当は、きょうでもしたらいいんですがねえ。食堂に行く時に、入り口でもって白い紙と赤い紙で「あんたどっち」。「こっち」と言って取って行きますと、こっちへ行った人は水とパンだけ。こっちへ行った人はステーキか何かあるおいしい方に行ける。半分ずつ入るんです。

入って気がつくんです。「あれっ、こっちはきょうは一切れのパンと水だけで、あっちはご馳走」。そうすると、みんな入った人が仲間ですからね。「何や、あの人たちかわいそうやないの」「向こう

何や、ワシらこんな物しか食べられんのに」「だってあんた、赤い紙引いたでしょ」「あんた、白い紙引いたからこっちゃ」。

そうすると、ゲームをする時に、みんなどうするんやろか。「かわいそうや、ちょっとやろうや」と言ってね、肉の端を「はーい」と言って持って行く。

世界は、同じなんです。たまたま日本で生まれたか、たまたまアフリカで生まれたか、たまたまどこで生まれたかによって、食べ物も何も違う。私たちは見えないからだけど、もし見える一つの小さな部屋、地球という小さな部屋の中で、こっちが水とパンで食べていて、こっちがステーキ食べてたら、ステーキを分けようや、片一方は一緒にやろうや、と思うだろうと。

こういうふうにして価値観が変わって、物が豊かであるんじゃなくて、みんなが一緒に分け合っていくんだと。こういうふうになれば、漁業資源もお互い同士がコントロールすることができるだろうし、女性の地位も高まって職業に対する貢献度も高くなるだろうし、世界の人口はお互い同士の教育の中で、あまり増えなくなるだろうし、そして、そういう区別がなくなって、世界の国々は調和を求めて協力をするようになるだろう。

この3つが将来、2020～2030年までを考えた場合、可能性がありますよ。

この3つ、貿易も何もうまくいって、みんなが豊かになるというのか。あるいは現状のように、やっぱり貧困者もたくさんおるとい世界なのか。あるいは、みんなが考え方を変えて、みんなが手をつないで豊かな世界にしようという、どっちなんだろうか。

さあ、聞きますよ。1番、経済的にうまくいって、みんなが何とかやっけていけるだろう、と思う人、手を挙げてごらん。

じゃあ、2番。そんなこと言うけど戦争は今まで続いて、貧困者は今まで通りおるだろう、と思う人、手を挙げてごらん。

みんなが心がけを変えて新しい世界をつくって、ハーモニーの世界ができて、世界中の人が一緒に生きられる社会ができるだろう、と思う人、手を挙げてごらん。

現実にはだよ。今から20年後、あなた方が大人になった時にどういう世界ができるか。この3つの中でどれか。僕の聞いているのは、あなた方の夢じゃないんです。現実はどうなるだろうか。想像したらどうか。

もういっぺん言います。経済的にみんながお互い同士貿易をしながら、みんな何やかや言いながら、うまくいこう。

やっぱりそんなことを言うけども、貧困の人もたくさんおって、今と同じように戦争が続いて暴動があり、人殺しもたくさんあるやろう、と思う人、手を挙げて。

それじゃ、みんなが考え方を変えて、美しい世界ができるだろう、と思う人、手を挙げてごらん。

それじゃ聞きます。実は、世界の若者が集まった時、君らと同じ結果でした。現実には、2番目だろう。戦争は終わらないだろう。貧困者もあるだろう。

じゃあ、3番目。しかし、私たち若者が将来、自分たちが長い地球社会を作ってき、生き残っていけるとするならば、例えば温暖化現象というのがありますよね、排気ガスを出すわけ。仕方がないものですから、高い金を出してトラックに新しく脱硫装置を付けて、それに100何十万かかります、とぼやいておったけれども、二酸化炭素を減らします、地球に貢献します。ささやかな貢献ですけども、好意に謝します。ありがとうございます。 (笑い)

この前、テレビで見た？ ヒマラヤの雪がどんどん解けてるんですよ。氷河湖というのがたくさんできて、それが今に決壊をして、あすこが全部水に流されたら、5万人の人が死ぬと言われてますよね。それも時間の問題だ、といわれている。そういう世界がまだ続くかもしれない。

そのためには、私たちは協力をして、みんながもう一度世界の人たちが一つなんだ、みんなが幸福になれることをしようじゃないか、そういうことを考えようとしたら、この3つが出てきた。それで、青年たちに聞いたら2番目でしょうと。

それじゃ今度は、みんなに聞きます。どのような世界が来るのが一番いいと思いますか。現実じゃない。

2番目。やっぱり貧困と戦争と紛争と人殺しがある世界がいいと思いますか。

3番目といった人がいますが、それをつくるのが君らなんだ。私たちは、理想主義とか何とかということじゃなくて、もういつの間にか先に言ったように時代が変わって、あらゆるエネルギーがものすごい勢いで伸びてきたために、世界中がどうかかなりそうになっている時に、どうするかということが実は今の世界の課題なんです。

ところが、その世界の課題という時に国連というものがあります。国連は、かつては国民国家の間の調整をすることが国連の大事な仕事でありました。

しかしながら、国連は今やそうではないというふうに考えられてきました。そうではない、ということはどういうことかということ、国連は、今後は地球全体の問題を考えるように政府に働きかけることが大事なんです、ということになりました。

日本は、ODAでお金をたくさん使って、私たちの税金というんですか、私たちが出したお金を世界の人たちのために使ってます。ODAへ出しているお金の額においては、世界で一番大きい額を出している。

それほど世界に貢献してるか。視点がちょっと違うんです。これは、後で儲かるかどうかで出してるわけです。そこが違うんです。

私がインドネシアに行った時に、ダムを建設している時に、ダムの周りの人たちが住民運動で反対をしてたんです。それで私ら、それを聞いた時に「こんなところにダムを造っても、何の役にも立ちません」というから、ちょうど環境庁の大臣に会う機会があった時に「あんなところにダムを造ると言っているけど、みんなが反対してます。どうなんですか」って聞いたたら、大臣に笑われました。

何で笑われたか。「あんた何を言ってるんですか。あれは日本の商社の人が来て、あしこにダムを造りなさい。お金は日本が出しますよ。技術は私たちが出しますよ。あなた方のところから労働者を出したら、賃金払いますよ。賃金が入れば、あなた方の国も儲かるでしょう。私の会社も儲かる」とは言わなかったけれども「儲かるんだから、やりなさい」「ああそうですか。お金は全部、日本が出してくれますか。ありがとう」。で、今造っている。「日本が勝手に造ってやっているんでワシらが政策的に決めたんじゃない」と笑われました。

フィリピンに行きました。マニラからすばらしい高速道路が通ってるんです。日本では、高速道路を通ったらいいんです。ところが、自動車でもって高速道路でマニラからダバオのほうまで行くような仕事をする農民はいませんから、その上にはぺんぺん草が生えてるんです。20年経ったら役に立つかもしれない。しかし、その頃にはもういっぺん、全部やり直さなければならない。

それにもかかわらず、そのようになっている。それは、道路を造る人たちが、そのためにもう一度お金が還元してくるからです。

ODAの考え方は、国益ということを中心に考えているために、みんなから感謝されない。

私たちが考えなきゃならないのは、世界の人たちのために同じお金を使うなら感謝される方法だっているじゃないか、ということを考えなきゃならない。

あと5分になりました。15分欲しかったんだが、5分になっちゃった。この時間をどうして取り戻そうかな。失われる時を求めて何ですけどね。

ロータリーって何なんだろう。ロータリーは、今から95年ほど前、1905年にできた小さなグループです。個人たちが集まったグループです。

ただ、その個人たちが集まった時に、ポール・ハリスやみんなが自分たちがやってる時に、自分が一生懸命、金儲けをする人が多くて、人をだますということがあった。

本当は、仕事というのは、自分が儲けるためにするのではなくて、それぞれ左官屋さんは左官をすることによって、煙突屋さんは煙突を直すことによって、仕立て屋さんは洋服を作ってあげることによって、そこの人たちみんなが幸福になるために、そういう仕事をするんだ。

したがって、左官屋さんも煙突屋さんも洋服屋さんも、それはその人の天職であって、その天職を通して社会の人たちを豊かにするためにやってる仕事だ、ってことをもういっぺん考えて、職業倫理を確立しようということですよ。

みんなが「そりゃそうだ。ワシら自分のことばかり考えないで、ほかのことも考えてやるってことが大事だな」と集まったのがロータリーをんです。

そのロータリーが少しずつ大きくなってきて国際的になってきた時に、こんなに国際的になったのなら、よその国のことも考えようじゃないか。

私のところはポリオはありません。日本では、もうポリオは随分前になくなりました。正面に描いてあるバラの絵がありますけども、今から40年ほど前に、まだポリオが日本にあったところに、ポリオの子どもたちを集めてキャンプをした時に、絵描きになりたい、という子どもが大人になって、手は使えませんから足で描いたのがあのバラの絵です。

「私が今こうして体は不自由だけでも一人前の絵描きになれたのは、ここでそういう視野を持つことができたからです」と言ってあれを寄付してくれたんですね。

今は、ポリオはありません。でも世界の人たちの子どもの中にはポリオがいた時に、その人たちのためにポリオをなくす運動をしようじゃないか、と言ってロータリーがしたのがポリオ・プラスの運動ですね。

インドとかアフリカとか、いろんなところで家がない人たちのために、生まれて一生、家がないところで過ごしてきた人たちに、その人たちに小さな家でいいから家をあげよう。小さな家をロータリーが造って、その人たちに住んでもらおう。ロー・コスト・シェルターといいます。お金が低い、安いシェルターを造って、その人たちを住まわそうという運動をしまして、世界中で今、たくさんシェルターが造られていますね。

また、今度は世界の若い学者たちを募集してます。世界の7つの国に、大学に頼んで、平和とか国際協力の問題を考える、研究をしてください。日本、アメリカ、アルゼンチン、カナダ、フランスなどの国々の中で十分な教育機関を持つてるところにお願いして、10人ずつ留学生集めてもら

う。

2年間勉強して、マスターを取ってもらおう。マスターを取ることが問題ではなく、平和を世界中で作るとはどういうことか、紛争を避けるというのはどうしたらいいんだろうか、というようなことを勉強してもらって、1年間に7つでやりますから、70人の人を5年間作ると。

この人たちを世界のあらゆるところの国とか、あるいは、国連の職員になってもらって、世界を平和にする運動の中核になってほしい、ということで、そういう今度は財団のお金を使うようになりました。

こんなふうにしてロータリーは、世界の人間としての今の大事な決断を、何とかして支えていくということのために、178ヶ国のロータリアンが集まって一生懸命そのことを考えようとしています。考えてない人も考えてる人も、たくさんおるけれども、根底にはそういう思想を持ってロータリーは仕事をしています。

ロータリーのそういう考え方に共鳴してほしい。そして新しいミレニアムの時代、1000年紀ということですけども、同時にキリスト教的な言いかたをしたら、神の愛と正義が満ち溢れる1000年という意味なんです。

正義と愛とが、それこそ癒すことと仕えることが満ち溢れる1000年にするために、新しいリーダーになってロータリーの夢をその人たちが一緒に担ってほしい、というのが私たちがライラをしている、お金を出してあなた方にわざわざ来てもらって、忙しい人たちに時間をさいてもらって、いろんな先生を呼んで来てもらうのはね、ただ私たちの行事としてじゃないんです。

そういう人たちが私たちの仲間として増えてほしい、と思うからやってるんです。

そういうことを思う時に、ここに来たことをもういつべん振り返ってみてください。いろんなことを学ばれたと思う。忘れることもたくさんあるだろう。しかし、一つだけ言っておきます。あなた方は、今、危機の時代にあるんですよ。いろんなことの問題がありますよ。勉強のしかたもみんな間違っていたかもしれませんよ。本当は、そういうことがあるんです。

その証拠に、1960年まで日本の学者たちは、ノーベル賞をもらった人がたくさんいます。1960年代以降にノーベル賞をもらった日本人というのはいない。頭が悪いんじゃない。独創性を発揮することができないようなシステムにしてしまったからです。これは社会のシステム、学校のシステム、教育のシステムが悪いのかどうか知りませんが、そういうことです。

そういう時代に跳ね除けて、期待を持つのがあなた方です。僕らの期待に応えられるかどうか。第3のそのような世界を作るために、小さなことのステップ、ステップをやれるかどうか。

来年のロータリーの標語はね、クリエイト・アウェアネス・テイク・アクションということですよ。クリエイト・アウェアネス。自分たちの意識を考えて企業家精神を持って今の時代にもういっぺん新しいものを考え出そう。意識を喚起する、と日本後で訳したけれども、こういう訳よりも、私たちが新しいものをやるという、そういう新しい知恵と技術を持とう。そして、テイク・アクション。行動を起こそう。

皆さんが、そういうふうになってほしい。それをやってもらいたいから、私たちはこれをしてるんです。終わります。(拍手)

## 「感 評」



パストガバナー

森 滋 郎

[司会]

閉校にあたり、パストガバナー・森滋郎先生から一言ごあいさつをお願いします。

[森滋郎・パストガバナー]

3泊4日の研修会、ご苦労さまでした。

ロータリー的なリーダーシップを体に入れて、そして地方に行って、その地方の人をロータリー的な考え方をしてもらおうという、こういうセミナーですね。

で、きのうのいろんな発表があったけど、決して上手だとは思わぬけれど、初めて来て、あれだけのものが、皆さん方ができたということは、こういう会合がいかに大きな力があるかということです。

今、今井先生が怖いことを言うたねえ。将来、日本だけじゃなく人類全部が駄目になっちゃうんじゃないか。で、3番目のみんなが変わったらうまくいくというセッション、一番最後に皆さんがやっと手を挙げるようになりましたけども、将来、地球を救うためには、みんなが変わらんといかんわけですね。

ところがね、変わるためにはねえ、基準があるんですよ。で、宗教で全部やったらええでないか。キリスト教で全部、世界中、キリスト教にしたらいじゃないか。宗教は非常に平和的なものでしょう。でも、駄目でしょう。

イスラム教、あるいは仏教。お互いの宗教ですら戦争するんです、今。同じ仏教の中でも真宗と禅宗とが血を流す戦争をする。また、キリスト教でも旧教と新教がスコットランドで戦争してるでしょう。駄目なんですね。

どうしたらいいですか。ここにね、ロータリーのすばらしいものがあるんです。これを今から書

きましょうね。

イズ・イット・ザ・トルース。真実かどうか。イズ・イット・フェア・ツー・オール・コンサーント。みんなに公平か。イズ・イット・ビルド・グッドウィル・アンド・ベター・フレンドシップス。好意と友情を深めるか。イズ・イット・ビ・ベネエフィシャル・オール・コンサーンド。みんなの役に立つか。

これはね、ハーバード・テラーというロータリアンがね、ある会社が潰れそうになった時に、その会社を盛り起こす時に、こういうことをまず考えてしなさい、と示した言葉です。

本当かどうか。みんなに公平かどうか。フェアというのは公平と訳したのは私、ちょっと気に入らんですけどね。公平というと、左右のバランスがとれるのが公平です。フェアというのは、神様がバランスをとる。本当は、公正というのがいいかもわからんね。公正かどうか。

それから、それをしたら好意と友情を深めるかどうかというのは、これは気働きですね。お互いの人情、人間関係、気働き。それから役に立つかどうか。

これをロータリアンがね、取り上げましてね、そしてその会社は、非常に立ち直ったんです。

これは私はね、人類として絶対に正しい正義の、神様に許された、いわゆる正しいものだと思うんですね。これは、日本人にもアメリカ人にも、ユダヤ人にもドイツ人にも、物事をする時にフェアかなあ。役に立つかどうかかなあ。あるいは、好意と友情を深めるかどうか考えながらするということは、できると思うんです。

ここに世界中の人類の基本ができると思うんです。これを皆さん方がまず自分で行き、そしてまわりの人にそれを伝え、そしてどんどんどんどん伝えていったらね、戦争はなくなると思うんですよ。

今のままで各国が自分の都合のいいことを法律で決めて、そしてこれが善だ、これは悪だと決めてると、その善と悪ですら、例えばアラビアのほうへ行ったら、こういうことをしたら首を切られて殺される。こういうことをしたら、こうなる。それがしょうもない、こちらとしてはそうであっても、そういうふうになる。いわゆるその国の掟があるでしょう。

けど、この4つのテストというものは、どこの国へ持って行って、誰に言っても、月世界の人間にも、これは通じると思うんですね。

これいきましょう。これがロータリアンの基本の世界平和ですね。今はね、本当の、第3番目の人の頭が変わるというのは、皆さんが全部これを叩き込んだら、世界中は、本当の平和になるんでないか。今井先生の話聞いてね、これが私の感じたことです。おしまい。(拍手)

# 参加者感想文

## A 班



### 第22回RYLAセミナー

北川 朋孝

「参加してよかった」これが今の気持ちです。日頃、朝から夜中までの仕事中心の生活では食事でさえゆっくりととれない、時間に追われて心に余裕が出来ないサイクルが続いているが、今回はゆっくりと自分を見つめ直す時間もあり、自分の将来ビジョンも再確認する事が出来た。自分自身、ものごとの『考え方』が重要で、その『考え方』次第で人生が大きく変わると思っていたなか、セミナーで出会ったメンバーの意見を聞いていくうちに間違っていないことを改めて感じた。メンバーの性格・考え方も、異なっているが良い部分を素直に受けとめ、分析すると、大筋での『考え方』の方向が同じである様に思えた。メンバーに出会い、ジャンルを問わず、話が出来て参考になる事が多かった。また、みんなで『テーマ』について意見を出し合い、話をしていくなかで、よりチームがまとまっていくのを肌で感じる事が出来たのも良かったです。

セミナーのテーマ、「つくすこと、いやすこと」いきなり難しい事は分からないが、相手を思いやり相手の立場になって考え→行動することが出来れば結果的につながっていくと思う。その為には、まず自分がよくなり、心にゆとりを持たないと、なかなか出来ないと思う。一人で日本や世界を動かす事は無理。ひとりひとりが、少しでもいいから、相手の立場になって考えて行動し、協力する事で世の中が変わっていくと思う。具体的な答えなどは、今、必要でないと思う。自分にできるレベルで考えたい。

今回のセミナーは貴重な時間であった。メンバー、関係者に感謝します。ありがとうございました。

## RYLAセミナーを終えて

竹田 惣一

セミナーの日が近づくにつれて、余島ってどんな所だろうなと思い、とても緊張していました。列車に乗り、どんなことするんだろう、どんな人が来るんだろうなど、いろいろなことを考えながら高松駅に着き、フェリー乗り場から、船に乗り到着しました。オープニングパーティーから、少しずつ緊張がとれてきました。キャビンタイムで、みんなと出会い、ゆったりした気持ちになりました。講義を聞き、学んだこと、4日間みんなで、夜遅くまで、語り合ったことをこれからの人生にいかしていこうと思います。

## ライラセミナーに参加して

藪中 麻里

今の私は消化不良状態です。3日目のフォーラムでたくさんの質問があり、その質問に対し考えたけれど、まとめられなかったり、勉強不足で難しいなと思ったりした所がありました。もう少し知識や経験があり、頭の回転がはやければ、もっと自分の中で考えがまとめられ深められたのではないかと思います。地元に戻り、自分あるいは、他の友人と話し合いたいと思います。

ライラセミナーに参加できて良かった所は、たくさんの人と出会えたこと、そして3泊4日だけだったけれど、その人の考え方や気持ちが聞けたこと、そしてリーダーというのは、どのような行動を取ればいいのかまた、どんな風に人になげかけていけばいいのか、その人を観て学べたことが多かったです。また、自分の意見や疑問に思っていることを口に出して言うことが、どれだけ大切か、そうすることで、自分の考え方に幅が出て、気付かなかった所に視野を向けることができました。今の自分は視野が狭いこと、一つの方向からしか見れていないことに気付きました。これから医療従事者として多くの人達と接するので、もっと視野を広げ相手の気持ちを多方面から理解できる、そんな人間になりたいと思いました。

できることなら、社会に出て知識、経験を身に付け、自分がプロだと自信が持てた時、もう一度参加し自分の意見をしっかり言いたいです。このライラセミナーに推薦して下さった林さん、大江先生そしてここで出会えた友人に感謝します。ありがとうございました。

渡辺 建一

高松港から船で1時間、小豆島に到着する。たくさんの不安を抱きながらここ余島に来たのだ。折りからの天候が心の思い表現している感じである。これから出会うみんなの事はおろか名前すらも聞かされてはいない。社会人もいるどんな風に話をすればよいのだろうか。思いめぐらせているうちにキャビンに入るのだった。話は続いていく。

価値観とはいかなるものか。世代には越えることができない壁があるのか。今まで他人とは心を

共有することができないのではないかと。思っていた。たくさんの講義の中で何ごとも「すべてを」ではなく、「少しでも」という事でいいのではないかと。やっぱりお互いに少し努力が足りないのではないかと思う。極端な話、理解してもらいたいとは思っていない。ただ人間としてのストッパー役になってもらいたいのだ。ちょっと難しいかも？昔の事を思い出して、大人の人へっていても自分も大人なんだけど。

つくすこと？いやすこと？国語力不足からだと思うけど、とっってもおんきせがましい気がするんですよ。キャビンタイムでみんなと話したけど、相手が喜怒哀楽を示してくれたらそれでいいんじゃないかと思う。今一番の問題は、(無感動)(無表情)(無関心)じゃないのかな。やっぱり何を考えているのか分かんないとあんまり使いたくないけど相手がいやされているのか分からない。相手がうれしいのが分からないし。やっぱりそのため一番いいのは恋愛することかなと思う。

あんまりたいしたこと書いてないけどぜひとも次は「自己表現能力」について講義してほしいと思います。

最後に白石さんいびきはほどほどにお願いします。

## 徳島ローターアクトクラブ幹事 児玉大輔

今回のRYLAセミナーに参加するにあたり、2つの目的があった。1つ目は、新しい自分を発見すること。

私は現在徳島ローターアクトクラブに入っていて、幹事の役職についている。このクラブで私は、1. たくさんの人(県外の人、会社の社長クラスの方々、海外の人)と知りあい、2. 人から自分から新しい知識を吸収する、ことをモットーにしているわけで、このRYLAセミナーは最適な環境だと思う。

米谷ガバナーをはじめ、たくさんの方々と話をすることができ、ロータリーの方々と話をすることができ、ロータリーとローターアクトが良きパートナーとなるために何をすべきか、今の時代を生きてゆくには、歴史を学び、現在を知ったうえで、未来を考えること、相手の立場を考え、自分と相手が共に癒し、つくす心をもつことにより、明るい未来を切り開ける気がする。

2つ目は、ローターアクトという名前を参加者に知ってもらい、ローターアクトに入ってもらおうこと。

今回のRYLAセミナーはローターアクトのメンバー以外にもロータリーの会社からも参加することを知っていた。そこで直にローターアクトの活動を話して、ローターアクトに興味をもってもらうと思った。今回の班わけで、私の班には、3名のローターアクターがいて、この3人のローターアクトの想いにより、神戸の三田に新しいローターアクトクラブが生まれようとしています。今回の目的では、クラブに入ってもらおうというレベルであり、新しいクラブを作るということまで考えていなかっただけに、驚きと興奮でたまらなかつた。

最後に、この4日間は私に大きな一歩となるものをくれたような気がする。ガバナーをはじめ、RYLAセミナーを運営してくださった方々、最高の4日間ありがとうございました。

## ライラと私

鎌田 美帆

私にとってのライラセミナーは、想像以上に有意義で素晴らしいものでした。というもも、私はローターアクトの一員であり、毎年クラブから受講生を出しています。帰って来た子は皆、口をそろえて、

「ライラは良かった。絶対参加すべきだよ。」と言います。ずっと、ライラに参加したい。ライラって一体、どんなことしてるんやろうと思っていました。でも、出来る事なら、クラブのリーダーとしてこれから育てて欲しい会員に参加してもらって、意識を高めてもらえればと思い、参加する権利をゆずってしまっていました。

今回、ライラに参加する事が決まった時から、どんな人が集まってくるのか、何をするのか、期待がどんどん膨らんで、逆に、がっかりしたらどうしようという心配をしていたくらいです。

3泊4日、離島でのセミナー。テーマの「つくすこと、いやすこと」について講義やキャビンタイム、バズセッションを通して、班の皆と話し合い、フォーラムでは「少子・高齢化の生き方」を参加者全員で話し合いました。1日目は皆との出会いに刺激され、2日目は、カウンセルファイヤーに感動し、3日目、思索の時間で一人になって自分を見つめ直す事が出来ました。

今まで遠慮してばかりで、リーダーシップをうまく発揮できない自分に、自分はそういう素質がない、性格上できないと、自分にも、他人にも言い訳してきました。でも、そうじゃない、何事も努力しなければできないし、思い続けなければ変わらないのだと思いました。余島で過ごした時間は、私にとって“気づき”の連続でした。島を離れなければならない時間が近づくごとに、皆との友情は増し、ライラで生まれた熱い心が高ぶって来ているように思います。

島から離れても、今のイメージを失くしたくないし、ずっと持ち続けられるよう、努力してゆきたいです。

最後に、A班の皆をはじめ、受講生の皆さん、カウンセラーの方々、たくさんのロータリアンに心からお礼を言いたいです。そして今回参加する機会を与えて頂いた、徳島プリンスRACの皆様と徳島RACの皆々に感謝しています。

ありがとうございました。

## RYLAセミナーに参加して

高橋 秀明

今回RYLAセミナーに参加させていただいたわけですが、実は、この余島に来て、開講式が終了するまで何を行うのか、どういった集まりなのか謎でした。パンフレットを見ても見なれない言葉がならんでおり、不安な面も正直な話ありました。しかし、余島でみなさんと時間を共にするうち

に、そんな事はみじんも無くなりました。

セミナーを通して学んだことは数えきれない程だと思えます。この3泊4日の内に今までにはなかった体験をし、講師の方、ロータリーの方のお話で考え方の幅を広げ、意見を話し合える仲間とも出会えました。自分自身得たものは計り知れません。

「つくすこと、いやすこと」をテーマとしたプログラムの中で、考えてみると、自分がいやされていた所がこの短期間にもあったと思えます。自然に囲まれた中での生活もいやしであると思えますし、また、初めて出会う皆さんと同じ時間や場所を共有することでかけがえのない経験をしたこともいやしだと思えます。この3泊4日間本当にいやされっぱなしでした。僕なりの「いやすこと、つくすこと」の考え方で最終的に思えたことは、イコール「楽しむこと」ではないかと勝手に考えています。楽しければ笑顔が生まれ、人のうれしそう顔は周りの人を幸せにします。また、人が楽しむ姿を見た人は、もし、最初に「本当におもしろいだろうか」という疑問を抱いたとしても、何か見えない力に吸い込まれるように引き寄せられていくと思うのです。そうすれば、同じ事を楽しむ時間を共有することで互いを思い合う心が生まれるでしょう。思い合いは思いやりとなりやさしさを加えることで「いやす心、つくす心」ができるかと、…。何を書いているかわけがわからなくなりましたが、とにかく、この出会いと経験を神に感謝。

## ライラセミナーに参加して

### 明 神 千 晶

今回余島に行けると決まった時、私は少年少女キャンパーとして、リーダーとして余島で過ごした、キラキラ楽しい思い出を思い出していました。でもセミナーというのがどんなものか、どんな人達が参加するのか、色々と不安もありながら、余島へ来ました。

二十歳以上の様々な経験をした人達の話の聞いたり、何かについて真剣に話し合うなどという事は、最近の私の身の回りではなく、余島という「感じる力」を高めてくれる環境も手伝ってとても新鮮な気持ちになりました。

つくすこと、いやすことというテーマについて、いつも身の回りにあるような事、感じているような事なのですが、どういう事かと口で説明するのは難しいと私は思いました。

菌痛というハプニングに見舞われ、一晚眠れずにいた私は、「いやされる」というのをとても感じたように思います。心配してくれた人や、遅くまで付き合ってくれた人、私の大好きな余島に居るという事も、流れ星を見たりして書きだしたらきりが無い程いやしを感じ、胸がいっぱいです。文章にして人に説明する事ができないのは、私にその力がないからなんだけど、伝える事はできるような気がします。

最後に。私は余島が好きで好きで、3泊4日なんてあっという間すぎて、猛スピードで過ぎて行ったけど、今回のセミナーでまた新しい余島の思い出ができ、更に余島が好きになりました。帰りたくないです。また来たいです。

## 活動の種

檜田理恵子

RYLAセミナーに参加する前に私が抱いていた「期待」をはるかに越える今の充実感に正直驚いています。

このセミナーに限らず、他の諸活動において、その活動の「可能性」を最大限に広げることが重要だと私は考えます。そのために自らの行動力をフルに生かし、活動に幅と深みをもたせなければなりません。

このセミナーの参加者の多くはそのような姿勢を持ち、相手の意見や活動経験談などに熱心に耳を傾けているようでした。私も出来る限り他の参加者と時間を共有し、自分たちが抱える悩みや課題について、多くの意見交換を行いました。そして、この他の参加者との交流は、このセミナーの醍醐味の一つでした。集まったメンバーの職種や活動拠点は様々でそれだけに一層興味深い意見を聞くことができます。今回のテーマでもある「つくすこと、いやすこと」という観点からの物事のとらえ方も各自異なっており、それを聞くことによってこれまでとは違う考えが浮かぶことも多くありました。

参加者やスタッフに恵まれたこのRYLAセミナーで過ごした4日間は自分の心の中に深く刻み込まれています。自分が感じたこの素晴らしさが今、しっかりと心に根付いたことを実感しています。

一人一人の心の中に宿ったであろうこの感動がいつか「活動の種」となり、それぞれの地元で元気な「活動の花」を咲かせるのではないかと思います。

このすばらしい出会いがあることを一人でも多くの人に伝えるべく、大きな大きな「活動の種」を私のまちで大切に育てていきたいと考えています。

## 田中慎児

余島に来るまえは、やはり、仕事の研修という名目で来ているせいかな希望より不安が大きかった。特に僕は人見知りするため何もない所で、見ず知らずの人間との集団生活はつらいと心に思っていました。

しかし、部屋にな何もなく、ただ人間だけということが今になって思うとよかったせいか、すぐになじみ、初日のキャビンタイムで既に安心できる環境ができました。特に努力もせずになじめた影には、セミナー参加者の方々が、初対面の僕に対して、何も気にせず話しかけ、また、聞いてくれたからだと思います。コミュニケーションとは、難しいと今までずっと思っていたのですが、意外と簡単なことだと思いました。

それから、今回のテーマのつくすこと、いやすことについてですが、日頃何気なく感じていることについて考えると本当に難しく、キャビンタイムでは、テーマについてよくずれたことを話していたせいか答えはみつかりませんでした。ただ、言えることは考えて動くことではないという

ことだけです。

それと3/25日のバズセッションでは、最後子供の産む数のことだけが問題になってしまい、何か、「うみなさい」「うみません」となってしまうようで残念でした。

講義については、それぞれ、眠たい時もありましたが、勉強させて頂いたと思います。

4日間、いろいろありましたが、こういった活動に参加して習ったこと、得たものは、僕にはよかったです。

ありがとうございました。

## RYLAセミナーに参加して

安田明彦

今回のRYLAセミナーに参加するまでは正直「ロータリークラブ」という名前は聞いたことはありましたが、実際どんな活動をされているのか分からないままでしたが、ロータリーが国際的にいろいろな活動をされていることを教えていただきました。

このセミナーに参加でき一番よかったと思うことは、普段の生活をしていれば出会えなかったメンバーに出会えたことです。セミナーの話、それ以上のいろんな話をできたこと、またキャビンタイムでは時間のたつのを忘れて語りあうことができました。最高のメンバーに出会うことができたことに感謝しています。

また、講義も非常に高レベルで、このセミナーに参加しなければ、聞くことのできなかつた貴重なもので、大変勉強になり、いろいろ考えることができました。

このセミナーに参加して、学んだこと、考えたことは、人生にとって非常にいい経験だと思いました。これからの生活に忘れることなく生かしていきたいです。

最後に、今回のセミナーでお世話いただいたすべての皆さんに感謝いたします。

## カウンセラー 白石正明

今回のA班は全体にまとまりがよく、全員皆がリーダーシップを取れることが出来ると思われまふ。まず、キャビンタイムでの話し合い、また、リクレーションでのまとまり、バズセッションでの質疑応答との結果、受講生全体がなかよく進んで3泊4日の短い時間をエンジョイしたと思いまふ。私も3回参加してこれが本当のRYLAと！！感動を致しました。また、受講生一人一人とキャビンタイムで話し合うことによって私自身も我がロータリークラブに帰り各ロータリアンに参加出席を、もともとめまいたいと思いまふし、また高松グリーンとして何かこのRYLAに協力できるものはないかと思いまふ。今後も余島の自然で講義が受けられるように受講生参加を積極的に進めてまいたいと思いまふし今後のリーダーシップの取れる子供達をそだてたいと思いまふ。

## カウンセラー 水谷 淑子

2月5日に、カウンセラーミーティングに参加して、テーマが「いやすこと、つくすこと」だと知り、今年のライラは、ストレスの多い私も楽しみにしておりました。D班担当に決まり、初めてキャビンで11人と出会い、3泊4日はきっと楽しくなるなと感じました。講義の時にはまじめに勉強し、リクレーションのでの楽しんでいる姿、少し寒いなかのキャンプファイヤーでは、心から感動し、バズセッションでは、おもいきり元気な発表と、チョッピリハラハラする時もありましたが、毎晩のキャビンタイムでの真面目な話し合い、D班の、魅力的な11人は私達2人のカウンセラーは、忘れられないでしょう。

これからますますインターネット等で時代は変わります。私達もこの豊かな社会を残すよう頑張ります。2000年を生きる貴方達にも期待したいと思っています。

## B 班



### 第22回RYLAセミナーに参加して

森田 順子

今回、RYLAに参加させていただきましてこの4日間、毎日が勉強と発見と思索の連続で中身の濃い日々でした。私たちは日頃、日常生活の中で、あまり物事について深く考えるという時間を持っていないまま、忙しさに追われているように思いますが、この4日間、このような時間を持つことができ、そういった時間の大切さに気付くと同時に、先生方の講義や、ロータリアンの皆様やメンバーのそれぞれの視点から見た色々な意見を聞くことができ、それこそ世代を越えた交流を通じて私自身の成長と広い視野を持った上での価値観の形成の上で大きな手助けをしていただきました。

特に今回「つくすこと、いやすこと」をテーマに色々なお話を聴くことができたのですが、その中でも「つくすことはいやされることだ」というお話、また、「人とのコミュニケーションにおいて、人は相手の反応を見て初めて自分の行為の意味付けができる」というお話は深く私の頭の中に刻まれております。

また、グループフォーラムでは、皆で少子高齢化について私たちにできることということで班で話し合い、現代社会のかかえる問題点としっかり向き合い、地域社会との交流、世代を越えた交流、そして人と人との対話の大切さに改めて気付くことができ、これからの生き方について、指針となるものを決定する良いきっかけになりました。

この余島の美しい自然の中、素晴らしいスタッフの皆様によって、気持ち良く、充実した4日間が過ごせたことに感謝すると共に、何らかの縁で集まった今回の出会いをこれからも大切にしていきたいと思っております。

有難うございました。

## 高野 恵美

“贅沢な3泊4日”これが今現在の素直な心の内である。集団生活が不得手な私は、はっきり言ってこのセミナーに参加するのが億劫だった。初日は胃薬の世話になった程である。だがこれを書いている今となっては、普段では決して体験する事ができないとても充実し中身の濃い日々を過ごせた事をうれしく思っている。

地域・年齢・職種所属の異なったほぼ同世代の人達と短期間ではあるが共に生活し、テーマについて論議する機会はまず私の周囲の生活ではあり得ないものであり、またその様なものだからこそ私の脳の刺激剤となった。様々な立場の人からの色々な物の見方や考え方、これらは全て自分の物の見方や考え方がいかに一方的で狭義的なものであったかという事実を認識させられるものであったのと同時に、自分の認識・見識をさらに広げる為の材料となった、と信じたい。

また班という形で色々な行動を共にした人達との交流は、短期間で形成されたものではあるが思いの他結束力があり、しかも違和感なく行えたことはかなり意外に思えた。キャビンタイム等お互い築き上げた関係がその場限りのものでなく、弱くてもよいが継続性のある新たな人間関係の一つとして後々も残ることを期待しつつ、このセミナーを終えたいと思う。

## ライラセミナーを終えて

### 森 位 耕 三

兵庫県にある、加古川平成ロータリークラブから推薦いただいて、このライラセミナーに参加いたしました。

ロータリーやこのセミナーについての知識と勉強が不足した状態で、このセミナーに参加しましたので、初めは、期待・希望よりは不安感の方が強かった。しかし、終えた今になってみると、何も知らなかった分、驚きや発見が多かった。

まず第一に、余島野外活動センターに驚いた。島全体が、この施設である事、そしてその中に様々な施設がある事です。普段の世界から離れたような気分を味わえる事で、セミナーに集中して取りくむ事ができました。

第二に、このセミナーの内容が、参加者本人にゆだねる部分があり、自由に考え、行動できた事である。午前中の講義は、個性のある先生方によるものでしたので、関心をもって楽しくきく事ができました。そしてその学んだ事を、自分の立場で考えられたのも、午後からの、参加者の自律と自由を尊重したプログラムがあったからこそだと思う。特に、「思索の時間」は新鮮に感じられた。

第三に、セミナーに参加された人と運営されたロータリーの方々に驚きました。業種・職種・身分は様々なのです。人によってこれほど考え方が違うものかと感心し、また自分の新たな一面を発見できました。(何かは、秘密ですが…)

何も考えず、白紙の状態に参加したこのセミナー。そこで感じとった驚きと発見を大切に、これを生かせるとともに、このようなイベントを、私たちにも運営できるよう、私なりに考えたい。

その続きは、職場はもちろん、日頃の生活で。

## 小南俊佑

今回の「第22回RYLAセミナー」に参加するにあたり、私はRYLA卒業生の方々に「自分の考え方が変わる。」「新しい出会いが数多くある。」など、色々とLYLAの面白さの話を聞いたり、写真を見たりしてきました。しかし、やはりというべきか、見聞きするだけではわからない、3日目の講師である高瀬昭治氏が言っていた。共有の場である余島に来て初めてわかる何かがありました。

RYLA1日目から4日目の最終日を通し私は、「何か」という事について色々と考えてみました。キャンタイムやキャンプファイヤー、思索の時間はまさに「何か」という事について考えるには、本当に良い時間でした。

そこで、私がこのRYLAに参加して「何か」という事について出た答え。語り合うことや活動することは、一人では困難だということ。それは、今の現代社会と同じ事でした。人は誰か他人の意見を聞いて初めてコミュニケーションをし、そこで共有部分を持つのだということ。私が余島に来て感じた「何か」は、みんなが自ら進んで他人との共有部分を見つけだそうとすることでした。

## 松岡由美

私は初め、このライラセミナーに参加する時、どんな内容のことをどんな風にするのか、あまりよく分かっていなかった。だから不安も、いっぱいありました。

テーマについて、バズセッションをしたり自分達の知っている事を話合う機会が多くあり、始めは受け身でいて、自分からどんどん話すことはなかったと思いました。けれど慣れていくと、自分から少しずつでも話そう。そして、回りの人達と意見を交換して、自分のものとなるように。と、考え方にも変化が出てきたと思うのです。私の知らない事も多く、プラスになることも多かった。

ここに来て、私は、たくさんの人と出会いその喜びも味わった。その中でも、班が同じであった一人の女の人と、3泊4日でしたが一番深く、かかわりました。その人は、自分の意見・意思を持ち、また多勢の人の前でもはっきり発表のできる人でした。私は、一つしか年も変わらないのに、どうしてこんなにしっかりしているのか。と思った。本人は、「目立ちたいだけ」とは言っていたけど、私はけっこう尊敬できる友達を得ました。

講義・キャンプファイヤーの時など、すごく良い話を先生にもして頂いたりもし、心に残りましたが、私はこの余島に来て自分について見つめ直す時間・友達との話し合いが一番大きく心に残りました。海などの自然を身近に感じることもでき、良かったです。

3泊4日は、あっという間に終わってしまいましたが、得る事は本当に多く充実した日々を送ることが出来、ここに来る前の私と少し違った自分をつくれたのではないかと感じました。

## RYLAセミナーに参加して

### 大寺由佳

私は大学のローターアクトクラブに所属しています。まだ一年しかローターの活動をしていない

ので、活動の意義・目的、理念をよく理解していませんでした。しかし、今回このRYLAセミナーに参加したことで、そういったことについて教えていただけたと同時に、これから生きていく上でとても大切な事をたくさん教わったように思います。

その中でも特に、物事を考えるということの大切さを教えていただいたことは、私の将来に渡って人生の糧となると思います。思索の時間・バズセッション・フォーラムに参加できたことは、このセミナーの中でも特に有意義であったと思います。ただ残念だったのは、ロータリアンの方々や講師の先生方とじっくり議論をかわす機会がなかったことです。キャビンタイムの時のように、くつろいでうち溶けた雰囲気の中で人生の先輩方と意見を論じ合えたら、もっと充実した時間を皆と共有できるのではないかと思います。

今回のセミナーのテーマである「つくすこと、いやすこと」はまさに今の日本の社会が求めてやまやい事だと思います。現状をなげくのではなく、なぜこうなったのか、どうすれば解決できるのかを考え、実行に移すことが我々の世代の人達に求められていると思います。そのためにも我々一人一人が考え分析する能力を養い、他者と協力し合って積極的に行動できる人間にならなければならないと思います。

最後に、今回このようなセミナーに参加する機会と場を与えて下さった方々に感謝を申し上げると共に、このセミナーで教わったことをいかして、今後のローターの活動を行っていきたいと思います。

## 鈴木 高見

昨年と今年、2年連続でRYLAセミナーに参加しました。セミナースケジュールはほとんど変わらないのに今年も参加した理由として「レベルの高い講義」「兵庫・四国からの受講生との出会い」「余島の自然」などたくさん魅力があるからです。また、2670地区のローターアクトクラブではRYLAに参加した人は、実際に素晴らしいリーダーになっていて、地域社会に密着した活動を続けているそうです。

バズセッションでは多くの意見交換をし、フォーラムでもレベルの高い発表が出来たと思います。3泊4日を共に過ごすメンバーだからこそ分担・協力がうまくでき、結論を導こうとする過程も素晴らしいと感じました。

松山に帰り、RYLAで得た知識や経験を松山大学ローターアクトクラブや学校などの後輩・友人などできる限り多くの人に伝えていきたいと思っています。そして来年、ローターアクトの後輩に参加してもらい、同じような経験や知識を得て、素晴らしいリーダーに成長してほしいと願っています。

最後に、準備・運営をしてくださったロータリークラブをはじめ、すべてのスタッフの皆様、本当にありがとうございました。つくす心・いやす心を忘れずにローターアクトクラブの時期地区幹事として一生懸命がんばりたいと思います。

## 赤穂克也

RYLA。色々な物事が凝縮された4日間だったのではないのでしょうか。

過去24年間で一番強烈な4日間の様な気がします。洲本ロータリークラブより推薦されて来てみたわけですが、本当に色々自分自身の為になったのではないのでしょうか。

徳大の板東先生のスポーツ・音楽についての講義では40才を越えてからのスケートへのチャレンジは素晴らしい事だと思いました。

新潟の高瀬先生はコミュニケーションについてでしたがわかりやすく話していた事すべてに納得してしまう自分が恥ずかしかった。

その後のバズセッションでは、班ごとにわかれはしたがお互いに意見を持ち寄り再び討論スタートここでは皆、自分の体験等を元に、素晴らしい意見交換になった。その後のフォーラムにおいても特に他の班からつつかれる事もなく終わりましたが他の班の発表を見ているとなるほどと思う所が多々ありこれも又自分の為になったと思う。

最初は行くのが大変嫌だったが来てみて本当に良かったと思う。色々なら方面からの仲間と共に考え意見を交換し合った4日間は生涯忘れる事はないでしょう。

このライラセミナーで学んだ事を元にこれからの人生を自分なりにパーフェクトにクリアしていきたいです。

「金岡さん」「大通」「森位さん」「松村さん」「小南さん」「鈴木さん」「大寺さん」「森田さん」「高野さん」「松岡さん」色々とメイワクをかけましたが本当にありがとうございました。カウンセラーの「永松様」「猪野様」本当にお世話になりました。ここ余島102号室での事は忘れられない思い出になるでしょう。

## RYLAセミナーに参加して

### 金岡隆行

私は特に話しをする事が好きではありません。誰かと話をしたければ話しかけ、話をしたくなければ一人でブラブラしたり、話しかけられれば話しをするという生活を送ってきました。しかし、この島に来てから、テレビもなく外部から孤立し、今までと違った環境で、時間を与えられ、過ごしていると、最初は景色等見ると所もありましたが後は何もする事がなく、誰かと話しをしたいと思っても誰もいず、時間がすぎていく事もありました。

バズセッション等でも特に話しをする事はなかったですが、近くに誰かがいるだけで、自分自身、いやされたと感じる事もありました。友達だけの付き合いだけでなく、家庭での自分、会社での自分、地域での自分を考え、これからも、自己啓発を行い、小さな事でも社会に貢献したいと思います。

## ライラセミナーに参加して

### 松村真介

このライラセミナーに参加するにあたり、実は、始め行く気があまりありませんでした。なぜな

らこのセミナーの内容を十分に理解していなかったのと、後地元での仕事を少し置いて来てしまったからです。

しかし、この余島に着きまずなつかしい感がしました。それは以前私が小学校の3、4年の頃、2回程余島キャンプに参加させていただいた時の思い出がよみがえってきたからです。けれどもまだ仕事のことが頭の端に少し残っていましたが…

1日目のパーティーが始まり、キャビンタイムというグループごとに集まりこの日初めて会う友達といろいろな話をする時間がありお酒も少し入っていたせいも、すごく明日からのプログラムが楽しみになってきました。

このセミナーのテーマとして「つくすこと、いやすこと」が挙げられて初めてつくすことについて午前中の講義や夜の友達との話し合いでいろいろと勉強になりました。あと3日目の思索の時間、バズセッション、フォーラムなど、「少子・高齢化社会の生き方」について、徹底的に語り合い考えていきました。結果はどうあれ仲間と意見を交わし合い出した答えだったので自分自身自信がありました。いろいろな先生方の意見もございましたが、非常に満足した結果を得ることが出来ました。

最後にこのセミナーで、私自身「友」の大切さ、「出会い」の大切さをすごく学びました。あと初めてのテーマでもあった「つくすこと、いやすこと」も、人の為にやっているけれども、最後には自分自身がいやされると言うこと。非常に大切なことだと思っています。なかなか人の為にとっても大変だと思いますが、まず自分のまわりからつくせることを少しずつやって行きたいと思います。

このセミナーでお世話になった先生方、そして友達いろいろありがとうございました。

## 第22回ライラセミナー報告書

大通 龍 治

今回のテーマである「つくすこと、いやすこと」一見、相対するように見えるこの二つの言葉の真の意味、そしてこれらのことを大事にすることの大切さを今回のライラセミナーで勉強させていただきました。余島の雄大な自然に囲まれて過ごした数日間の経験は私の心に深く刻みこまれ、そして今後も私の生き方に影響を与えてくれることになるでしょう。

「尽すことは、癒されることである」

こうして今私が、生活できているのは今まで自分の親や社会によって育ててもらったおかげであり、また、こうして今生きていけるのは地球の緑のおかげです。

自分の力で生きているのではない。大いなる恵みによって命を与えられ、生かされて生きていると感謝の自覚をしたときから、新しい人生が始まります。そして、感謝の気持ちを持って恩返しをすることによって、今回のテーマである「つくすこと、いやすこと」に近づけるものと信じております。

ライラセミナーにおいて様々な経験を積んだ若者が自分の可能性を認識し、そして自ら未来に向けて道を切り開いていくことは、素晴らしいことではないでしょうか。来るべき21世紀の担い手である新世代に求められるもの、それを目指してライラセミナーが発展することを願います。

## カウンセラー 永松 潔和

22年前、この余島へ受講生と参加して以来、今年もこともあろうにカウンセラーとして3回目となりました。毎回新しい出会いと感動にわくわくしつつも、今年はどんな受講生がくるのかと期待する反面とても不安な初日です。何回カウンセラーをやっても、いつも新鮮で楽しいキャビンタイムを過ごせ不安はすぐなくなります。私も今このロータリアンとして活動できる背景には22年前に受けたRYLAセミナーがとても大きな影響があると思っています。今回受講された方たちの中でも各地の団体へもどってこのすばらしい体験を少しでも多くの方に伝えてこのセミナーへの参加を呼びかけてください。また、ロータリアンになられた方がありましたらこのセミナーの事を思い出して、スタッフとして参加しこのすばらしいセミナーを再び体験されることを望みます。最後に私のBグループの受講生の皆様、私のゆきとどかないカウンセラーでしたが皆様のおかげでこのセミナーを無事終えることができましたことに感謝します。今回の受講生はあと1回再受講ができます。その時もおそらくスタッフとしてこの余島にいると思いますので忘れずにいてくれましたら声をかけてください。3泊4日ありがとうございました。

## カウンセラー 猪野 弘子

諸事情により、心身共に十分な準備の整わないままに、昨年に引き続き2回目のカウンセラーをお引き受けすることとなりました。まず、B班みなさんにその事をお詫びしたいと思います。

テーマが「つくすこと・いやすこと」でしたが参加することで、つくすことができるのならと思いましたが、それは、自分に取って、多くの方にお会いすることで、「心がいやされている」ことに気づきました。

人と人とのコミュニケーションにより、心がいやされるのではありますが、何人かのグループで共有できる話題で話し合い理解するむつかしさ感じました。このような場を多く持つことにより、私自身も、経験を積み相互理解を深めるように努力したいと思います。

最後に、B班の皆さんのおかげで私の子どもと同年代の若者たちが考えていた以上に自立しているのだと知ることが出来ましたことをお礼申しあげます。できたら、もう少し皆さんのことを知る時間がもっと持っていたらなああと、大変残念に思いました。

# 参加者感想文

## C 班



### 「私の得たもの」

大谷 敦美

3泊4日も大丈夫なのかと不安で一杯でしたが、多くの事を学んだ4日間でした。1日目のキャンピングタイムでは不安が的中してなんだか気まずい沈黙の連続。2日目も沈黙はあったけれど1日目のものとは違ういい沈黙でした。3日目のバズセッションでは、自分の言いたい事を上手にまとめられなくて、結論も出ていない本当にとりとめのない話をせかすこともなく、ゆっくり聞いてもらった事私は本当にうれしかったです。本人にはそのつもりがなくても結果的に意見を押し付けてしまうことはよくあると思うけど全くそういったことは感じられなくて、「人と私との間にある越えたくない、境界線は無理に越えなくていいんだよ。」と言われた様な気がしました。優等生の解答は本当に考えなくても出せるけど、本当の意味での自分の考えは、まとまりもなく、結果が出せないものばかりだったけど、結果は例え出すことができなくても本気で心の底から考える事が大切なんだと私はそう思いました。答えを出すことが正しいのかもしれないけど、出さなくてもいい、本気で考える事の方が私は何十倍も私にとって価値があると思いました。私の話を聞いてくれた友達には私は何もできないかもしれないけど本当にありがとと言いたいです。

言葉じゃなくたくさんものをくれたみんなに本当に「ありがとう。」私が今回のセミナーで得ることのできた一番のものはあなたたちです。

## 『無 題』

金 澤 潤

自分が誰かをいやせているかどうか。

自分が誰かにつくせているかどうか。

その答がわかるのは、

その「誰か」です。

自分がその「誰か」になって

はじめてわかること。

例えば雨の日の入院病棟

例えばナイフからしたたる血

例えば両親からの重圧

その「誰か」になって

はじめてわかること。

自分が誰かをいやせているかどうか。

自分が誰かにつくせているかどうか。

自己のために。

## セミナーを終えて

平 田 智 子

私がこのセミナーに参加したきっかけは、学校の担任の先生に「ただで旅行ができるわよ」と強く薦められたことでした。ためになるお話が聞けて、しかも旅費がいらないうことで、こんなにいい話であるのかなあと少々疑いつつも、そんないい話があるならのってみようと思ひ参加しました。

島についたとき、タクシーの中で運転手さんにひどく文句を言われた私達は、あまり良い印象はありませんでした。しかも雨はひどくなるし寒いし、部屋は狭いしお風呂にシャワーさえなく、私の不安な心は大きくなって早く島から逃げたいと心から思いました。やはり世の中にはそんなにいい話は無かったと反省し、あと3日も過ごす自信は全くありませんでした。

しかし、2日目以降は私やまわりの友達に変かがおこり始めました。グループの人達やカウンセラーの方々と打ち解けていくにつれて、セミナーの価値を感じ始めました。くだらない話や悩み事、また課題について意見を言えるようになってから、友情が芽生えるまでにはそう時間はかかりませ

んでした。だから今では、みんなともう過ごせないことがさみしいです。たまたま私達のグループにはいい人が集まりました。みんなのおかげで、セミナーに価値ができたし、私の心もいやされかけがえのない友情を手に入れることができました。

セミナーを通して、人と接することはすばらしいと心から感じました。運よく人材に恵まれたおかげもあると思いますが、自分が変わった気がするし、友達的心も変わったと思います。初めてこの島に着いたときと、180°違う気持ちで私は去ろうとしています。人生には、たまにはいい話が転がっているものだなと思いました。みんなには本当に感謝しています。

## ありがとうね。C班のみんな!!

橋本七月（三木市子ども会リーダーズクラブ）

もう来る事はないだろうと思っていたこの島に再び来る事ができ、本当に良かったと思います。第19会RYLAセミナーに参加し、たくさんの思い出と友だちを得ました。たった4日の間に深く深く知り合った彼、彼女らとは、この余島に外でも、まるで数年来の友人のように今でも付き合っています。

そして今年。地元サークルの委員長をしている私は、忙しい後輩達に断られ、申込期限直前になっても埋まらない参加希望者名に自分の名を書き入れました。本来は、後輩達にこそ、この考え・語り・わかり合うという素晴らしい体験をしてほしかったのですが、「またあんな経験ができる！」との想いも強かったです。

今年のテーマ『つくすこと・いやすこと』は今の私のしている勉強（臨床心理学）にも深く関わり、どのようなセミナーになるかとても楽しみでした。結果はある意味では期待外れでした。ただし専門分野の知識を深めたかっただけの私にとってですが。そしてもう一方では期待以上の収穫を得ることができました。たくさんC班の仲間たちと話し、自分でも考えましたが、その『場』自体が私にとってつくし、つくされ、いやし、いやされた空間だったのです。答を出す事が苦手な私は討論が非常に苦手です。私たちの過ごしたあの場は、沈黙や笑い、議論など様々な要素はありましたが、お互いにわかり合う場で、他者を知り、他者に知られることで自分自身への理解、気づきも多くあり、貴重な体験でした。本当に楽しくて嬉しくて熱い4日間でした。

最後にこの第22回ライラセミナーに関わったローターリアンの方々、先生方、施設の職員さんに感謝します。そして何よりも、空にい、お美佐さん、C班のメンバーにありがとう!! と大声で言いたいです。ありがとう!!

## 2680地区 神林正樹

私が余島に来る時はいつも何らかの選択が迫られている時だ。以前に来たのは大学を退学しようとする時でこれからの自分がどこへ進んで行くのかを見失っていた時だった。その時この島に自分の中の迷いを置いて帰り、神戸に帰ると老人ホームでの仕事をスタートさせることになった。今回

RYLAセミナーで鳥をおとずれることになったが今回は自分の仕事に対する情熱が維持できないことにいらだちを覚え島に入った。

セミナーの中で、「陰徳陽報」という言葉に出会った。意味を聞きながら、自分がいかに固くなって仕事をしているのか気付かされた。老人に対して私は「これだけやっているんだから喜んでくれたらいいのに」と見返りを期待しすぎていた気がした。もっとも肩の力を抜いて奉仕してこそ報われることが沢山あるのだと考え直した。

バズセッションのテーマ「少子化と高齢化社会」私にはとても重く感じられた。介護スタッフとしての立場から他の受講生がどんな考えを持ち、そしてどんなヒントをくれるのか気になったのだが、それよりも仕事の中で高齢化社会の今後に希望を持つことで疲れていたからだ。しかし他の受講者に現場の声を伝えるいいチャンスになったことは本当に前進できたと思う。

今から余島を離れるが、本当に良い仲間、よい先生に出会えた時間が自分への血となり肉となっていく事がうれしい。一緒に流した涙、一緒に考えた事が私をいやしてくれた。今ではこの島に持ってきた悩みはいつでもいい小さい事に思える。

この時間を与えてくれた人達に本当に感謝したいです。

## 瀬戸康敬

このセミナーを終えて、私は、日常の生活の中で体験できないことがらについて、経験できたことにたいへん感謝しています。

セミナーを受講するまでは、どんなことができるのかという気持ちと、反面では、全く知らぬ地、この余島で地域の代表の方々と会って生活していく不安等ありましたが、今では、私と接してくださいました皆さんと自然の多いこの余島で出会えたことを幸せに思っています。

3泊4日というこの期間の中で講義で学んだことは内容的にもたいへん私にとって意味深いものだったし、レクリエーションでは、研修生の方々と共有の時間を一緒に過ごせました。また、深夜までグループの全員と楽しい時間を過ごすことのできたキャビンタイム、一つ議題について自分たちの意見を出し合うことができたバズセッションやフォーラムについても、良かったと思います。

現代は、情報化社会でもあり、パソコンの電源をオンにすれば、世界中の知らない人とも接することのできる世の中です。しかしながら、私が、この研修で学んだ、「人とのコミュニケーション」とは少し違うようにも思います。

私がこれから地域に帰って出来る事、それは、純粹に私がこのセミナーで感じられたことを伝えることが役割ではないのでしょうか。

最後に、第22回RYLAセミナーを受講できたこと、そして、皆さんにお会いできたことに対して、心からありがとうございます。

## 小西 一明

私は、RYLAセミナーに参加することが出来たことに感謝したい。特に感謝したいのはC班の仲間である。色々な地域から参加してきた知らない人たちが同じテーマで話しをしフォーラムで発表したことは一生忘れないと思う。今日で終りであるが、今後も仲間として、1年に1回になるか2年に1回になるかわからないが、またこのメンバーで会い話しをしたい。このセミナーで学んだことを地域に持ち帰り広めたい。

キャンプファイヤーの暗い道を歩きローソクで照してあった愛・希望・奉仕・協力・友情を忘れずこの5つに対して考える時間を持ちたい。

「つくすこと・いやすこと」については、まず自分自身が心身が健康であることが重要だと思う。コミュニケーションも重要である。actreactで一方通行ではいけない。会社生活においても相手の立場や相手の考え方を感じて話し（コミュニケーション）をしたい。家族地域の中でも、reactのしやすいことばを發表したい。

近日中にいただいた資料をじっくり見、考え今後の人生生活を考えたい。

## RYLAセミナーの感想

### 山田 勝平

僕の通う大学の学部長からこのセミナーの話を知った時、「キャンプに行き、アウトドアの感覚を培ってきなさい」という話を聞いていたので、テント張って、山の中で過ごし、色々な話をし、意見の相違を見る、受容するキャンプと思っていましたが、キャンプらしいものではありませんでしたが、色々な人と難しい話をし、意見交換ができるという点は違わなかったもので、楽しみに当日を迎えました。僕はこのセミナーで後に知る事ですが、幸運にも、難しい話ができる友達が2人います。茶化したりせず、真剣に話せる2人です。ですが、もっと他の人と真剣に難しい話をしたい、という思いが、僕を楽しみにさせていました。

C班の皆さんと、話を重ねるうちに、色々な事に気付いたり、学んだり、考えさせられたり、不安になったり、ムッとした事があったり、反省したり、後悔したり、腹から笑ったり、感動したり、共鳴したり、等、3日間で自分の中にある感情が全部（と言ったらオーバーかも知れませんが）出ていたと思います。中でも、集団の団結につくす姿勢、仲間に恵まれている幸せ、自分の思い上がり、コミュニケーション不足による圧力、人間の強さ、等学んだ事がたくさんありました。あり過ぎました。正直、ここまで得るものがあるとは想像していませんでした。社会、世間、大人の厳しさも感じ、やはり、自分は甘ちゃんだと思いましたが、少しずつ厳しさを受け入れていき、日本のソーシャルワーカーを設立、成立させていく、これを宣誓した事をこのセミナーで再確認しました。本当に皆さん、御教授ありがとうございました。終

※文章がおかしくなっていると思いますが、許して下さい。無我夢中で気にせず書いてしまいました。

## 第22回RYLAセミナーに参加して

佐藤力志

今回セミナーに参加するにあたって、参加動機、意図というのは決して自主的、積極的なものではありませんでした。しかしながら私自身、未知のものに触れる機会は大切にしようと思うところもあり、今回参加の話をいただいたとき、内容も知らぬまま、参加しますと答えました。

私自身今までの生活の中では自分のことしか見ていない部分、自分のことで精一杯だと思っている部分があり、他人のために何かをするということは殆どなく、自分のことで一杯だと思うことで自己正当化していたのだと思います。先生方の話を聞くなかで、私なりに思ったことは自分自身のためにも、また周りの人に対しても、自分自身の心の余裕が必要であり、心の余裕とは価値観や考え方を少し変えるだけで大きく変えることができるのではないかと思いました。

またそれらの考えをぶつけ討議できる仲間がいたことで自分なりの考えと仲間の考えを総合しより高いレベルへと思考を引きあげることができたと思います。

私の知識経験の不足もあり、若干気後れするところもありましたが、私と同年代、以下以上様々な人の話をきき討議することは私の中に今までになかった色々な考えや現状、問題点の種を植え付けてくれました。

たった3日間のことでありながら仲間との友情や団結は、過ごした日々の内容の深さに比例して強いものになったと思います。

セミナー全体を通じて我々受講生に投げ掛けられた様々な問題は根が深く、一人の力で解決するのは不可能ですが、別れていった仲間達が、それぞれの環境で努力していく限りいつか解決できるものだと信じます。

与えられた思索の材料を持ちかえりそれをどう話していくのか、それこそが今からの私の課題であると思います。

## 感想文

山下遊

今回のRYLAセミナーでは、大変多くの事を学び今後の多くの問題点を発見することが出来ました。最初に、よく他の班から出た意見の中に奉仕活動団体への積極的参加や、このような団体の創設などが掲げられましたが、僕個人としてはすこし疑問を感じました。これらの意見は、とても素晴らしいのですがやはり人によってはどうしても人前が苦手な人や時間の問題などで関わりにくいと感じられると思います。他にも、最初の内は積極的に参加していても、色々な不都合が的が出て来て参加に対して消極的になる人も少なからずいると思います。僕個人の意見としては、やはりもっと個人なことからやり初めてもよいと思います。昨日、司会者のあいさつの話を聞いた時に思ったことですが、「あいさつ」と言う最小限のことからでも奉仕活動は出来ると思うし、僕がもっとも彼の話で感銘を受けたのはたとえ、誰かにその好意を拒否されてもあまり悲観的に考えずその行動

を続けるということです。やはり、何事もやり続けるということはとてもしんどいことだと思います。僕は、このような最小限の行動から一つ一つ積み重ねていくことが重要だと思います。

## 美 浦 苗 未

私が今一番嬉しいことは、とても素敵な島で、大切な友達が出来たことです。コミュニケーションが下手な私は、今回、リーダー性よりもっと基本的なこと、「友達づくり」を課題にして余島にやってきました。

班に分かれて初対面の人ばかりが集まり、気分は不安絶頂。笑ったりうなずいたりすることは出来ても、いざ自分が喋るとなると緊張と不安でいっぱい結局何を話しているのかわからなくなってしまふ…。そんな自分が恥ずかしく情けない気持ちで、1日目、2日目のキャビンタイムを過ごしました。

3日目、バズセッション、フォーラムの議題、少子化・高齢化・つくすこと、いやすこと。この4つのキーワードについて自分の中にあるものをさらけ出す作業。たった3日しか過ごしていない人とどれだけ本音で語り、考えれることが出来るか。またろくに会話も出来ない自分をどこまで出せるか。そんな不安を抱えつつでした。しかし、言いたい。私も聞いてほしい。いつの間にかそんな気持ちになり、心の底から真剣に仲間の意見に耳を傾け、話す。本当にすばらしい貴重な時間を過ごしました。

RYLAに来なければ絶対に会えない人達と4日間を共にし、その4日間の中で本当にかげがえのない仲間に出会え、私の最初の課題「友達づくり」はもっと意味深いところで、達成できたと思います。いや、達成できました。この達成感、この3日間の緊張をいやすものでした。嬉しくて楽しくってすてきな気分を大切に、学んだことを、得たものを広めていきたいです。本当によかった。ありがとうございました。

## カウンセラー 空地 顕一

今回、カウンセラーとして2度目の参加です。今年も大変すばらしい出会いをいただきました。カウンセラーとしては、昨年よりも少々余裕ができましたが、まだまだ至らない所ばかりでした。パートナーの石川さんには本当にお世話になりました。いっぱい元気と優しさをいただきました。有難うございました。C班のみんなには、新米カウンセラーの僕を引っぱってもらい、心からうちとけた友情をいただきました。本当に有難う。C班のみなさん、石川さん、また会いましょう。(その時には、あんまり飲みすぎないように注意しましょう。)

## カウンセラー 石川美佐子

カウンセラーとして2回目のライラ体験、去年の様な余島へ来る迄の心配は無かったが初めてではない重要な責任感で押しつぶされそうで緊張感で一杯でした。第1日目のキャビンタイム（初顔合わせ）では沈黙の時間が長く続き出発したばかりの班に一抹の不安を覚えました。2日目のレクリエーションで何十年ぶりに一緒にソフトボール等をし、ちょっと先行きが見え始め、夜のキャビンタイムでは、この子達が昨日と同一かと、疑うほどかぶっていた皮を脱ぎ生き生きとした笑顔を見、先の不安が吹き飛びました。バズセッション、フォーラムと進むうちに段々と子供達に情が移り、まるで我が子を見る様な生まれて初めての気持ちを味わいました。最後のキャビンタイムでは、すっかりリラックスした子供達との飾りの無いお互いを出し切れ、お互いに苦楽の気持ちを話し、共感し涙まで流してくれた子供達…。もう明日が来ればお別れかと思うと淋しさと胸が一杯になりました。セミナーの内容については、もう目前に迫った大事な提議にフォーラムでは思い切り語れなかった思いが自然に身から出、気づき始めている子供に、将来の安心と、まかせる期待を感じました。セミナーから帰ってからの子供達の成長を楽しみに、又、私も自分から出来る小さな事を、自分の廻りから徐々に拡げて行きたいと思います。共にカウンセラーと一緒に下さった空地さんと、とっても素直で素晴らしい子供達に恵まれ、一人の人間として、又、カウンセラーとして、人生にとっての良きステップ、良き思い出になった事に感謝し、全ての人の幸福を祈りたいと思います。皆さん、本当に有難う。どこかで逢えたらいいね。

# 参加者感想文

## D 班



### 池田 修一

このライラセミナーに参加して、自分の気づかなかった欠点を他の人に指摘してもらえたことが大きかった。というのは自分の夢を語ったとき社会人として実行することの難しさを知る機会があったからです。

インドのマドラスに4月行ってきます。とても貧しい地域です。そこに行き、そこの人々が何を求め、自分に何ができるかを素直な気持ちで考えたいです。

このセミナーに来て、つくすこといやすことというのは、介護するとかいう直接的なことだけじゃない。特別なことじゃないことなのだなと思いました。マザーテレサも、何をするかではなく、その行いにどれだけの愛をこめそれをしたかが大事なのです。と言いました。身近な自分のできる事を一つ一つしながら理想に近づけていくことが大事なのだとも思いました。

私は、クリスチャンです。神様が、私に望む生き方（使命）を果たすことが人生の中心にあります。生活の不安に経済的な面でおそわれるときもあるでしょうが、その時は、主が私を強め、守ってくださいます。将来、発展途上国の貧困地域で孤児院の子どもと一緒に地域活動をするソーシャルワーカーになります。これがイエス様の私にだけ考えて下さったビジョンだからです。

### RYLAセミナーを終えて

#### 山中 研二

素晴らしい自然環境の中、置かれた立場の違った人生が集まって学べたという事は、社会人の僕

にとっては非常に財産になったと思います。特に仕事に対して理想と現実のギャップで困惑していた自分にとっては将来のことをゆっくり考える事ができたと思います。

また福祉というものに対して一歩距離を置いて考えていましたが、講義や少子化・高齢化社会の問題を考えることにより、またスタッフのみなさんが私たちの為に一生懸命になって準備して下さったということを体で感じて、まず自分の身の回りの小さな事でもいいから、何か人のためになれたらと思います。

そして大きな目標になるかもしれませんが、百貨店に勤務しているので、これからの小売業のあり方を考えたいと思います。例えば、地域社会とのかかわり合い、売上利益の何%かをその地域へ還元し、活性化へつなげるなど、アメリカの百貨店では実際に行なわれている福祉や社会活動をさらによく勉強したいと思います。

D班のカウンセラー高岡さん、山路さん、そしてRYLAセミナー関係者の皆さんどうもありがとうございました。

## 林 亜沙美

RYLAの話聞いた時、参加するかとても迷いました。知らない人たちと4日間も過ごすという事が今まであんまりなかったので不安でした。でも4日間終わってみると、あっという間でした。RYLAは私が想像していたものと全く違うくて、一つの班ごとにキャビンがあったのが一番驚きました。そのおかげでこんなにも班の友だちと仲良くなれたんだと思います。

レクリエーションでキックベースやテニスをしてから筋肉痛にも悩まされました。3日目のフォーラムでは、同じくらいの年の人たちがしっかりと自分の意見を言える事にびっくりしました。私は高齢化社会の現状さえよく分かってないという事が分かって、もっと勉強しなきゃいけないなあと思いました。また、4日間でいろんな先生の講義を受けて私は少し賢くなった気がします。朝だったので眠いのがつらかったけど…

夜のキャビンタイムは日がたつに盛り上がってきて、楽しかったです。私の中では一番の思い出になると思います。

4日間ありがとうございました!!

## 香山聖子

今回この余島でRYLAセミナーに参加して、今までの生活の中で何となく心のすみに感じてたこと、高齢化社会や少子化の問題などについて、考えることができました。私一人の中だけで感じていたことを、グループの皆さんと話し合い、共に学んでいくことで、心の中に思っているだけではだめだということ、そしてそれを身近なことからでいいから実践していくことが、次へ次へと広がっていくんだなと思いました。また、それらを新たな仲間同士でこのセミナーのように話し合い、協力しあい、楽しんでいくことで、さらに新たな仲間の輪が広がっていくんだなと思いました。

私はこの4月から、医療従事者として病院で働くこととなりますが、今回のセミナーで考えた新たな考えや、講演での先生方の話をその場で生かしていけたらと思います。このセミナーに参加することによって、社会人となる前の不安の多かったこの時間をとても有意義に過ごすことのできた4日間だったと思います。

## 長瀬 慶子

私は小豆島に住んでいるけど、この余島に来るのは初めてです。はずかしいけれど余島がどんな所かもよく知りませんでした。今まで、ボランティア活動もした事がなかったし、そういう活動をしている人達と交流する機会もありませんでした。少しとまどいながら参加したセミナーも帰る今では参加できた事に感謝しています。セミナーには本当にいろいろな人が参加していて、なかなか接する事の出来ない人ばかりで、そういう人達の話が聞けた事、話が出来た事が何より自分の財産になったと思います。私には何が出来るかまだわからないけど、自分が出来る事はしようと思いました。もっと注意深く自分の身の周りを見つめ直してみたいと思います。少しずつ多くの人が幸せを感じれる様になったらいいなあと思いました。

## 山口 奈美子

今回、初めてRYLAに参加したんですが、最初は、不安だらけでした。ただ「おもしろいよ。」と去年参加した人に言われ、すごく悩んだ末、山口さんの「行って損はない。」という一言で決めました。

グループの中で、いろいろな人と出会え、いろいろな意見が聞けたこと、講演での先生のお話など、すごくいい経験になりました。今まで研修とかで、3泊4日を皆と共に過ごした事がなかったので、いい刺激になりました。参加してみて、少し要望を言わせてもらおうと、もっと全員での交流がしたかったです。グループの人とは仲良くなれたけど、他の参加者ともっと交流ができればよかったなと思いました。それと、参加者名簿もあればよかったと思いました。どうしても参加人数が多いと、名前がわからなくなったりするので、名簿みたいなものがあれば便利だと思いました。検討して頂ければうれしいです。

4日間、たくさんの人と共にセミナーに参加し、バズセッションやフォーラムなど、今の私達が考えなければならないこと、しなければならないことを考え直すいい機会を頂けて、よかったと思います。今回のセミナーで学んだことを地元を持ち帰り、まわりの皆と考えていけたらなと思っています。そして、それをどれだけ実践できるか、実践したことによって、これからの社会を変えていけるかは未知だけど、本当に身近な事からやっていきたいと思っています。

最後に、このようないい機会を作って頂いて、参加させてもらったことをうれしく思います。また、いつか、もう一度参加したいと思います。1人2回までというのはちょっと残念だけど、できれば来年もここ余島に戻ってきたいと思います。そして、いろんな人と出会い、いろんな講演をきい

て、もっと、今よりも成長していきたいです。来年は、4日とも晴れることを願っています。

## RYLAに参加して

岡田雄紀

私はこのRYLAセミナーで、多くのことを学びました。その中で最も感銘に残ったことについて書きたいと思います。それは、理想と現実、ということです。

確かに、人間は理想を持ち、それを実現しようとします。それは、キャビンタイムでもよく話した内容でした。例えば、世界の空腹で苦しんでいる子供達のために、世界全体に友情、愛情を呼びかける、とか、高齢化社会に対応するために、若者をどんどん老人ホームや施設に送り、老人と親睦を深めるといったものでした。しかし、そのような理想というものはいかに大ききもので、決して全ての人間がその意志に賛同してくれるわけではありません。理想を追いかけても現実という壁にぶつかってしまうのです。世界に、戦争やいじめというのがなくなるというのは、そういう理由があるからではないでしょうか。

私の班のある人が、自分自身は声を大にして、人を救うと言わないが、自分自身の周りにいる人だけでいいから救えるように努力したい、と言っていました。私もその考えに共感しました。昨日のフォーラムのとき、誰もが、大きい理想を言っていました。そんなことより自分に関わる全ての人を救おうとする気持ちが大事なのではないでしょうか。実際、あまり大きな理想をかかげ、それをいざ社会や役所で進めてもらおうとしても上の人がNOと言えば終わってしまうそうです。ならば、人間一人一人が自分の近くの人を救おうとする意識があるだけで世界は変わっていくのではないのでしょうか。それがいつしか、大きな理想をも、実現してくれると思います。

私が本当にこのセミナーで考えさせられたところはこんな点です。

## RYLAセミナーに参加して

藤田耕平

私は今現在、公務員として市内の公民館で働いています。今の仕事に就くようになってから、色々な活動に参加するようになりましたが、学生の頃は全くといっていいほど地域活動などには参加したことがありませんでした。今回のセミナーには多くの学生の方々も参加されていて、その人達と話をする中で、皆さんの積極的に取り組む姿勢に驚かされました。私が学生の時は自分に精一杯で、他人のために時間をさくことなどは出来ていなかったように思います。全く違った環境と価値観の人達と話が出来て本当に良かったと思いました。4日間多くのことを語り合う中で、私なりの姿勢というものも固まっていったように感じました。私はこれからも、今までとは全く違った行動を起こせるとは思いません。それはボランティア活動に参加したりなど。ですが私なりの価値観を守る勇気を持つことから始めようと思います。日常のささいなことから目をそむけずに、向き合ってみようと思えました。“多くの人へ”と欲ばらずに最初は自分に関わる人々から始めよう。自分が幸せに向かって生きていく姿勢が、自然に周りの人々をいやすような生き方を探していくつもりです。みんなが幸せに向かっていくことが自分へのいやしになり、お互いへのいやしになるよう

な気がします。このように幸せに向かって生きていくことの意義を教えてくれたライラセミナーは、私にとっていやしとなりました。本当に参加できたことを心から感謝しています。“ありがとう”

## RYLAセミナーに参加して

田中大輔

今回のセミナー参加は、私にとって非常に有意義な4日間でした。私が同行する以前までは、このセミナーというものは、自分達でグループを作って自炊を行ったり、テントを張って共同生活をするものだと思っておりました。同行したての頃は、勝手に分からずに多少戸惑っていた所もありました。しかし、共同生活をしていくうちに、そうした不安も少しずつなくなり、また新しい友人にも恵まれたので本当に嬉しかったです。メンバーの中には、ほとんどが私と同年とか職場で働いている人達に交じりました。中で女の子や男の子が交じってプロフィールを行ったり、テーマについてディスカッションを行ったりとさらにチームワークを深める事が出来たと思っております。

いろいろな講義においても、非常に有意義でためになる授業をしていただきました。特にメンバー同士による討論は非常に良かったです。やはり私は、積極的にボランティア等に参加してコミュニケーションを図ろうと思います。そして、決して老人扱いをしたり中傷したりせずに電車の中では席を譲ってあげたりして手助けしてあげられたらと思っています。また、高齢化社会と少子化について改めて考えさせられました。私は将来的には量販店の方に進もうと考えておりますが、特に尽す事は大事だと考えております。いかに顧客に対して激安の商品を提供できるかによってがらりと変わるので頑張ろうと思いました。

初めての参加でしたが、このセミナーを機にさらに積極的な姿勢を持って行動できる人間になりました。2回までなので是非いつの日にもう1回セミナーに参加して自己鍛錬したいと思っております。最後に、御指導いただきました高岡様、山路様には心より御礼申し上げます。

## RYLA研修をふりかえって

鈴木淳之

初め研修所について文明から隔離され、自衛隊研修のようだととまどいました。しかしそういう環境の中で違った職業、出身、家庭状況の人とのふれ合いが密にでき、私にとって非常に新鮮に感じました。板東先生の講義では主体性をもち理解し理解され相手を満足させそして自分も成長することの必要性を認識させられました。また高瀬先生から相手に対し、意志を伝えるとき相手の反応を確認する重要性を理解しました。また今井先生は私自身の視野の狭さ、知識や思慮の薄さを確認させていただき、問題提起されたことでより深く“いやし・つくしの心”について考えることに気づかせてくださいました。またバズセッションやキャビンタイムを通じて共通の目標をもちながら違うアプローチ方法を考える人々と話し合いができ、こういった異なる状況の人々と話をまとめていく作業は、これから異なる宗教・国籍の人々と理解することに非常にプラスになったと感じました。これからもこの経験を日常生活にいかし、“つくす心・いやす心”の実践ができるよう、精進したいと思います。

## 第22回RYLAセミナーに参加して

多田 優

3月23日から26日のセミナーに参加して、たいへん楽しかったと思います。最初は、少し乗り気ではなかったが、自分の同年代の方々や自分よりも年令の若い方が自分の主義や主張をしっかり持っていることに大変びっくりしてしまい、自分はこの年代のときにはこんなことは考えられていなかったと反省してしまう一面もありよかったと思う。

また、バズセッションでは、少子化・高齢化社会についてというこれから自分たちが立ち向かうものを取りあげたこともよかったと思う。自分達がこれからの社会に対しどのようなことができ、又、解決すべき問題はいったい何なのか今までは、漠然としか考えていなかったが、今一度見つめ直す機械ができたのでよかった。

最後に、この4日間お世話をしてくださったスタッフの方、アドバイザーの方々、それから施設の方々に感謝したいと思います。

### カウンセラー 高岡 政次

第22回ライラセミナーに、カウンセラーとして参加をさせていただき、ありがとうございました。この4日間、自分自身の「未熟さ」と、若い人達への理解がまだまだ足りない事を痛切に感じました。反省をしながら、又、参加できる機会があればカウンセラーに挑戦したいと思います。

次年度、地区委員として、又、余島に来ますのでよろしくお願い致します。そしてD班の皆さん4日間ありがとうございます。受講生にとって「ライラ」がよい思い出となりますように。最後に、共に、カウンセラーをさせていただいた、山路さんに心から感謝を致します。

### カウンセラー 山路 喜代子

ミレニアムの記念すべき年に、RYLAに参加し、ここ余島での出会いを大切にして、講義で学んだこと、ファイヤーでの感動、バズセッションで意見を交わしたこと、一つ一つをエネルギーとして、時には“つくす心”をもって、時には“いやしの心”をもって地域で、職場で、学校で生かし、深めていって下さい。

21世紀を担う受講生の皆様が、ロータリーの基本を心に、更なる飛躍をされんことを、そして、全世界に平和が訪れ、一つになって調和のとれた地球になるよう、祈っております。

あなたが“いやし”を求めたい時は、“愛の火の燃えるところ”余島に帰って来て下さい。

短い期間でしたが、D班の皆さんと交わらせて頂き、宝物が増えました。

21世紀最後のRYLAにかかわらせて頂きましたこと感謝いたします。有難うございました。

# 参 加 者 名 簿



セミナー終了後 すたっふー同

## 第22回 R Y L A セミナー運営委員会

ガバナー	米谷	収	(第2680地区 神戸南RC)
	原	勝	(第2670地区 徳島東RC)
顧問	今井	鎮雄	(第2680地区 神戸西RC)
	深川	純一	(第2680地区 伊丹RC)
	三宅	俊三	(第2670地区 高松RC)
アドバイザー	松下	克巳	(第2680地区 三田RC)
	三宅	洋三	(第2670地区 高松RC)
ライラセミナーアドバイザー			
	安平	和彦	(第2680地区 姫路RC)
	三木	明	(第2680地区 姫路RC)
ディーン	篠原	成行	(第2670地区 北条RC)
副ディーン	山口	徹	(第2680地区 神戸RC)

### ■R.I. 第2680地区

青少年活動委員長

山口 徹 (神戸RC)

ライラ委員長

赤穂 哲 (姫路南RC)

ライラ委員

井奥 寛泰 (姫路南RC)

三木 且視 (龍野RC)

加藤 拓 (伊丹RC)

小池 弘三 (神戸ハーバーRC)

永松 潔和 (神戸RC)

植村 真次 (姫路中央RC)

### ■R.I. 第2670地区

新世代活動委員長

阿部 啓治 (徳島東RC)

ライラ委員長

中島 萬里 (徳島西RC)

ライラ委員

篠原 成行 (北条RC)

山本 佳生 (小豆島RC)

加藤 敏仁 (高知南RC)

白石 正明 (高松グリーンRC)

猪野 恵一郎 (松山南RC)

松崎 和博 (高松グリーンRC)

M E M O



## 主催

R.I.第2680地区

R.I.第2670地区

RYLA運営委員会

## RYLA運営事務局

**事務所** R.I.第2680地区ガバナー事務所  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番1  
神戸ポートピアホテル南館5F  
TEL : 078-304-2680  
FAX : 078-304-2681

**事務所** R.I.第2670地区ガバナー事務所  
〒770-0906 徳島市東山手町3丁目14-2  
柴田ビル3F  
TEL : 088-657-2527  
FAX : 088-657-2528